小川、吉田、桜庭が集結! 6·20『PRIDE·GP』異常人気爆発!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

880 yen

紙のプロレス RADICAL

75
2004

ハッスル師弟対談実現!
オーちゃんはシルバとどう闘う?
小川直也×藤井軍鶏侍

H·ヒーリングとの名勝負再び!
しかし、その目はすでに小川に!!
A·ホドリゴ·ノゲイラ

今度は7·19『武士道』に出場志願!
ミルコ·クロコップの執念を見よ!!

復帰戦で大奮闘! されど
「ミルコ不調」報道にボヤキ全開!!
金原弘光

DSE·榊原代表が
『PRIDE·GP』『武士道』
そして『ROMANEX』を語る!

ホイラー·グレイシーを失神KO!
打倒·ヒクソンの野望をついに語る!!
須藤元気

言うちゃ悪いけど今月も絶好調!!
"I編集長"が『ROMANEX』と
6·6 K-1GPをブッた斬る!

6·28『ハッスル·ハウス』を前に、
驚愕の一大スクープ!
髙田総統
独占インタビュー!!

最強? 笑わせるな!
我こそが最狂だ!!
タイガー·ジェット·シン

祝·闘龍門JAPAN旗揚げ5周年
CIMAが"プロレス"に決別宣言!?

まさかサスケ、お前もか!
覆面県議が年金未納を陳謝!!
ザ·グレート·サスケ

英雄、奇跡の揃い踏み!

ビビった! たじろいだ!!

紙のプロレス RADICAL NO.75 奇跡の揃い踏み!!
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

携帯サイト「紙のプロレスHand」は過剰なサービスと速報が自慢です!!

過剰なサービスその①

会員限定!!「紙プロHand Tシャツ」販売スタート!!

感謝の気持ちを込めた特別価格
¥2,625(税込)
[サイズ/S・M・L・XL]

※このTシャツは携帯サイト『紙のプロレスHand』上のみの会員限定販売となります。通信販売、ショップでは購入できません。発送は6月20日以降になります。

KAMI-PRO HAND

過剰なサービスその②

7月25日『ハッスル4』横浜アリーナ大会チケット先行予約実施!!

一般予約よりも早く、特典つきチケットが手に入る!!
今回の特典予約は"非売品・ハッスルカンバッチ"!
予約詳細は本誌およびサイトをチェック!!

過剰なサービスその③

ターザン山本コラム「ラブレター・フロム・葛飾」絶賛配信中!!

ターザンの過剰な愛がマット界を空爆中!?
文章だけじゃなく、愛のハガキの表も裏も見せてます!!

アクセス方法

DoCoMo	iMenu ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技/大相撲 ▶	
au/TU-KA	トップメニュー ▶	遊ぶ・楽しむ or インターネット ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶	
vodafone	メインメニュー ▶	ボーダフォン・ライブ ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶

ハッスルする携帯サイト
紙のプロレス Hand

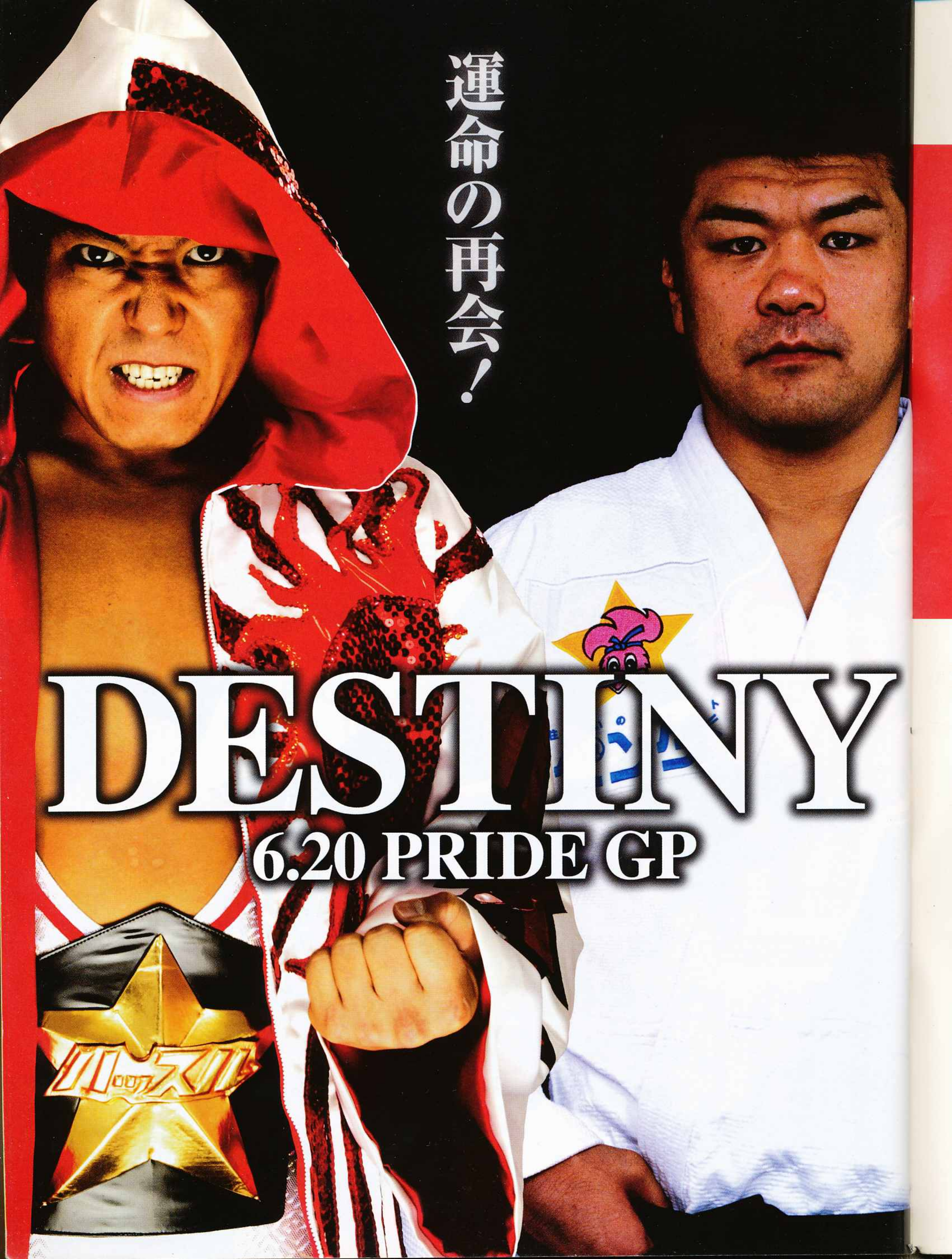
「トップメニューからアクセスするのはめんどくさい……」というアナタ!!
hand@kamipro.com へ空メールを送信すれば『紙のプロレスHand』のアドレスが無料で送られてきます。(Docomo、au、ボーダフォン共通です)
※パケット代金、メール送信料金はお客様負担となります。

"動くハッスル待画"も配信中!! その他の過剰なサービス内容は『RADICAL情報局』をチェック!!
マット界の最新情報を高速で毎日配信!!　菊田早苗コラムも連載スタート!!

[お問い合わせ](株)ダブルクロス 03-3403-5188

運命の再会！

DESTINY

6.20 PRIDE GP

軍鶏侍、5・23『PRIDE武士道』で快勝!
さぁ、次はオーちゃんの出番!!

【ふじい・しゃもじ】本名・藤井克久。183センチ、98キロ。1972年8月15日、広島県出身。高校・大学時代はレスリングで活躍。97年に修斗でプロデビューし、UFC-J、リングス、パンクラスのリングで活躍。02年12月にUFO入り。5・23『武士道・其の三』参戦の際には、プロとして個性を打ち出したいオーちゃんの狙いにより、出身の広島県にちなんだリングネームに改名。広島名物「しゃもじ」が採用された。今後は試合の勝敗、内容、オーちゃんの機嫌次第で、他の広島名物「真珠」「牡蠣」「もみじ」「東洋カープ」などを取り入れていく予定。

6・20 "柔道王揃い踏み" にも気負いなし!

オレは"レギュラー" 向こうは"ゲスト" その違いを見せられれば それでいいんじゃないの?

6・20『PRIE・GP』、6・28『ハッスル・ハウス』を前に

ハッスル師弟対談実現!!

小川直也 × 藤井軍鶏侍

今月は師弟でハッスル、ハッスル!! 6・20『PRIDE・GP』、6・28『ハッスル・ハウス』と、ハッスルロードはどこまでも続くオーちゃん。舎弟分の軍鶏侍（しゃもじ）も5・23『武士道・其の参』で見事勝利を飾り、こちらもハッスル、ハッスル!! そんな絶好調のハッスル師弟に、お話を伺いました!

聞き手／堀江ガンツ　構成／ジャン斉藤　撮影／森モーリー鷹博

designed by hisa (Two Three)

――今日は午前中に練習、昼から夕方まではTV収録。で、この『紙プロ』のインタビューが終わったら、また別の取材があるということですが、最近の小川さんはハッスルしすぎなんじゃないですか？

小川　いや、まだまだだよ。これでハッスルしすぎなんて言ったら、〝ハッスル伝道師〟の名がすたるからね。

――〝ハッスル伝道師〟!!（笑）。今日も朝5時起きで走り込みされたって伺ってますけど。

小川　うん。起きたのは5時近かったよね。今日は取材をまとめて受ける日だったんだけど、やっぱり、ちゃんと練習もしとかないといけないからさ。

――藤井さんも一緒に朝練されたわけですか？

小川　いや、別行動だね。たぶん（朝練は）やってないだろうなぁ。

軍鶏侍　（小声で）ちゃんとやってます……ボクは7時起きですけど。

――時間差ですか（笑）。小川さんのペースで練習するのは、かなりハードなんじゃないですか？

軍鶏侍　最初のころはすごくキツかったですね。

小川　最近は手を抜くことを覚えたからね。手を抜くのはうまくなったから！

軍鶏侍　…………（固まる）。

――でも、4・25『PRIDE・GP』一回戦に向けて練習されてるときは、小川さんの調子がどんどん上がるのと反比例して、藤井さんの身体がボロボロになったという噂を聞いたんですけど（笑）。

軍鶏侍　それで小川さんの試合のときに、自分もピークがきちゃって。

――4月25日がピーク！（笑）。藤井さんが出場された『PRIDE武士道・其の参』まで1ヶ月も早いですよ！

小川　（軍鶏侍のほうを睨みながら）なぁ〜にがピークだよ。ピークって言っても、オマエのピークは、どうせ小さい山の低〜い低〜いピークだろ？

軍鶏侍　…………（再び固まる）。

――大変ですね、小川さんの舎弟分という立場は（笑）。で、藤井さんが見事に勝利を飾った『武士道』では、リングネームを「藤井克久」から「藤井軍鶏侍（ふじい・しゃもじ）」に改名させられました。

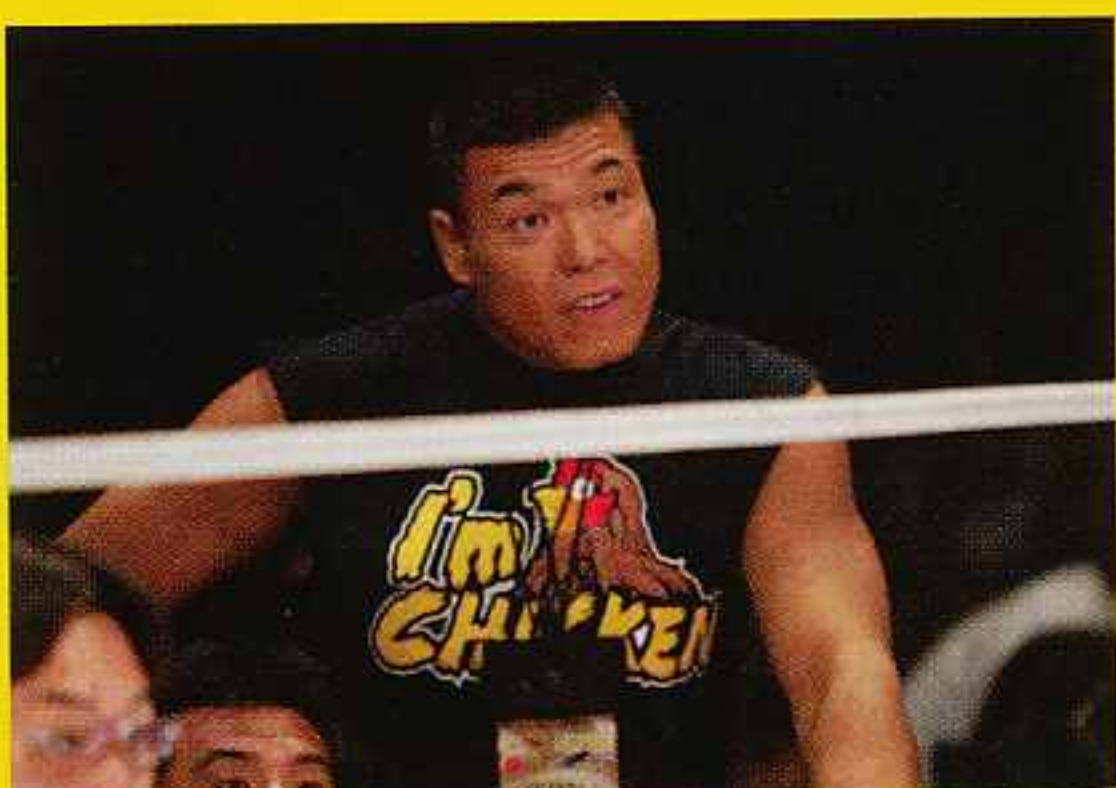
小川　この間の『武士道』で負けたら「モミジ」にする予定だったんだけど、その案はちょっとミステイクだったね。よくよく考えてみたら、モミジは広島県のシンボルマークだし、「しゃもじ」より格上なんだよ。だから、負けたら「モミジ」っていうのはつじつまが合わなかった。

――負けて格が上がるのはおかしな話ではありますね（笑）。

小川　でも、勝ったからこそ、次のリングネームは「モミジ」だね。漢字は「最魅侍」。まだ流動的だけども。

軍鶏侍　…………（三度び固まる）。

試合の途中で小川さんに「殺すぞ!!」って言われて、冷静になれました（軍鶏侍）

直也〉藤井軍鶏侍

アグレシップに打ち合いに臨んだ軍鶏侍に、オーちゃんからステキな激が飛んだ!!　その声の内容は……「殺すぞ」!!　オーちゃんは軍鶏侍の試合運びに不満があったのだ。

『PRIDE』初見参となった軍鶏侍。セコンドには、オーちゃん、そしてオーちゃんの恩師で明大柔道部・元監督、原吉実先生も付いた。軍鶏侍の闘い振りに、2人とも渋い顔!!

ハッスル柔道王を従えて軍鶏侍、『武士道』見参! 血だらけの激勝!!

5・23『PRIDE 武士道』横浜アリーナ

○藤井軍鶏侍［1R 2分58秒／裸絞め］キム・ジン・オー×

――藤井さん、固まってる場合じゃないですよ（笑）。最も魅せる侍!! カッコイイじゃないですか！

小川 だろ？ こっちの願望もこもってるんだよ。負けたら「軍鶏侍」に戻すっていうのはどうだ？

軍鶏侍 い、いや、「軍鶏侍」もカッコイイですよ。もう一回、「軍鶏侍」で『武士道』出て勝って、『PRIDE』本戦に出れることになったら「最魅侍」にするのもいいですね。

――どうも「最魅侍」は嫌みたいですよ（笑）。「軍鶏侍」に変更するときも、藤井さんは渋ってたらしいじゃないですか。

小川 渋るも何も「えーーっ？」って顔してたからね。こっちは藤井のためを思って考えてやったのにさ。まぁ、最初は「広島の有名どこをブチ込んで、〝おしゃもじ・モミジ〟にする」って言ったからだろうけど（笑）。

――第一案は、藤井さんの名前がひとつも入ってなかったわけですか（笑）。

小川 結局「藤井軍鶏侍」になったんだけど、関係者の人に「いい名前つけてもらったじゃん」って言われても、渋々返事してんだよ。それが某S代表に同じこと言われたらさぁ、手の平返したように「頑張ります！」な～んて言ってるからね。「お前、人見て態度変えてんじゃねぇぞ！」って言ってやったんだよ。

――ダハハハ。藤井さんは当初「この名前じゃ親が泣きます」と言ってたらしいですけど、ご家族、ご親戚、友人関係の反響の方は？

軍鶏侍 ……家族には連絡してないんですよ。友人関係には「漢字がカッコいいよ」ってことで反響はいいんですけど……漢字だけか？って疑問はありますけどね。

小川 まあ、あの試合は「藤井克久」だったら注目されなかっただろうね（キッパリ）。

――リングアナに名前を呼ばれたときなんかは、かなり盛り上がりましたよね。

小川 お客さんから「しゃもじーー！」って声援が飛んでたよね。あれ聞いてて「いい声援だなぁ」って思ったよ。

――小川さんも満足でしたか！（笑）。

小川 あれが一番満足したねぇ～。

――「軍鶏侍」に改名したことによって、注目度が全然違いましたからね。プロとして、それだけでランクアップじゃないですか？

軍鶏侍 ホント、当日は「小川さんは凄いな」って思いました。

小川 （即座に）てめぇ、それまではどう思ってたんだよ!!

軍鶏侍 い、いや、その名前を付けられたときから嬉しかったです！

小川 たぶんね、こいつの頭の中は「オレをどこまでイジメるんだ……」とかさ、そんなレベルだったんじゃないの？ 俺は藤井に売れてほしいという気持ちがあるんだ

「毎回あんなことしてたら、選手生命が終わっちゃうぞ」って怒ったんだよ（小川）

テイクダウンに成功した軍鶏侍は、マウントからバックマウントを奪って、最後は裸絞めで一本!! 勝利後はコーナーに上がって、ハッスル、ハッスル!!

オーちゃんに「殺すぞ!!」と檄を飛ばされ、冷静さを取り戻した軍鶏侍は、殺されたくない一心で、ハッスル、ハッスル!! その奮闘振りに観客からは「しゃもじーー!!」と歓声も。

キム・ジン・オーは韓国特殊部隊の秘密兵器という触れ込み。手打ちのパンチで闇雲に突っかかるが、これがよく当たる。藤井は鼻から出血、顔も腫れ上がった。

けどな。
——今回の改名で確実に存在感は増したと思います。小川さんは藤井さんのセコンドに付かれたわけですが、肝心の試合の方はどうでしたか?
小川　いやー、「軍鶏侍」というか、軍鶏になりすぎたかな? あんなに打撃で打ち合ってさ。
——まさに軍鶏の喧嘩みたいにバンバン打ち合ってましたよね。
小川　試合後に「毎回あんなことしてたら、選手生命が終わっちゃうぞ」って怒ったんだよ。一歩間違えば眼窩低骨折だしね。それだけ技術がなかったといえば、それまでなんだけども。あと、試合後のハッスルポーズがいけてなかった!
——藤井さんは勝利後にコーナーポストに上がって、「ハッスル、ハッスル!」とやってましたけど、たしかにちょっと変でした(笑)。
小川　「いくぞー!」も「3、2、1」もないし、それにハッスルの回数が多いんだよ。3回も4回もやってさ。最悪だったよ、もう(吐き捨てるように)。
——「ハッスル、ハッスル、ハッスル、ハッスル」ってやってましたね(笑)。あれ

試合後のハッスルポーズがいけてなかった! 最悪だったよ、もう(小川)

也 vs 藤井軍鶏侍

はやっぱり興奮してたからですか?
軍鶏侍　はい。思わずちょっと……。
小川　甘い!! プロレスラーたるもの、気持ちを高ぶらせながらも、常に冷静であれ! ですよ。
——でも、藤井さんの試合は、両者ともアグレッシブで面白かったですよ。『武士道』はアマチュアっぽい選手が多いなかで、「武士道挑戦試合」なのにプロの試合だと思いました。
小川　そうか? 俺はあんな顔にはなりたくねぇなあ。
——2人とも顔はかなりボッコリ腫れてましたね。
軍鶏侍　いやぁ、最初にカーっとなってしまって。途中で小川さんの声が聞こえたんですよ。
——ほう。どんな声ですか?
軍鶏侍　……「殺すぞ、お前!!」って。
——ガハハハハ! それは素敵だ! 実に心に響きますね(笑)。
軍鶏侍　それで冷静になれましたね。「殺される!」と思って。ありがたかったです。
小川　あの闘い方はよくねえよ。あれでケガして半年休んじゃったら、しょうもないからね。「無事是名馬」って言うじゃない。丈夫じゃないと。
——小川さんも柔道家時代には「殺すぞ!」と言われ続けたんですよね?
小川　言われましたよ、私の恩師(原吉実、明大柔道部の元監督)に毎日毎日。いまでも言われますよ(笑)。
——あ、いまでも(笑)。その影響が藤井さんに及んでるわけですね。
小川　そうそう。
——小川さんという師匠に加えて、さらに原先生という大師匠がいるとなると、藤井さんも試合自体は怖くないんじゃないですか?
軍鶏侍　まったく怖くないですね。本当に勉強になります。
——しかし、よく小川さんと一緒にやろうと思いましたよね。そもそもUFO入りは、どういうキッカケだったんですか?
小川　そういえば、俺も深い事情は知らねえなぁ。
軍鶏侍　小川さんの練習内容は噂で聞いてたんですよ。「とにかくヤバイ」って(笑)。
——「とにかくヤバイ」!(笑)。
軍鶏侍　そのころボクは一応プロの試合には上がってましたけど、アルバイトしながらだから、アマチュアみたいな感じだったんで、本当のプロを体験したかったし、そういう話があってので「やってみよう」と。
——初めて小川さんと練習されたときは面食らったんじゃないですか?
軍鶏侍　もう……ヤバかったです。
——噂以上だった、と。かなりボロボロにされたんですか?
軍鶏侍　そうですね。一番最初は。
小川　いや、全然そんなことはないよ。俺は相手のレベルに合わせて優しくするから。
軍鶏侍　……ははは(苦笑)。
小川　それほど弱かったんだよ。でも、いまは頑張ってますよ、付いてこれる分だけ。付いてこれない人間がほとんどだからさ。もう1年以上、経つからね。
——去年の『OH祭り』では、負傷した橋本さんの代打で小川さんと組んでタッ

グ・リーグ戦に出ましたけど、急な抜擢で大変だったんじゃないですか？

軍鶏侍　大変でしたけど、勉強になりました。やってるときは何も考えられなかったんですけど、終わってみたら名前も少しは上がってましたし。

小川　たしかに大きい経験だったんだろうけども、それをもうちょっと活かしてほしかったね。それと、「カッコ悪いことがカッコいい」ってことをわかってくれてないのが寂しいな。俺が敢えて〝ダサくしようダサくしよう〟という狙いがわかってくれてない。カッコつけて試合に勝ったって、何もないじゃない？『紙プロ』読者はよくわかってくれると思うけど。

――「カッコ悪いということは、なんてカッコイイんだろう」「カッコイイということは、なんてカッコ悪いんだろう」ってことですよね。

小川　プロはある意味で、さらけ出さなければいけないんだよ。こないだもさ、「Tシャツのうしろに〝軍鶏侍〟って入れていいぞ」って言ったんだよ。そのデザインを何個かつくって彼に選ばせたら、またカッコイイのを選ぶんだよ、これが。あれにはガッカリだよ。

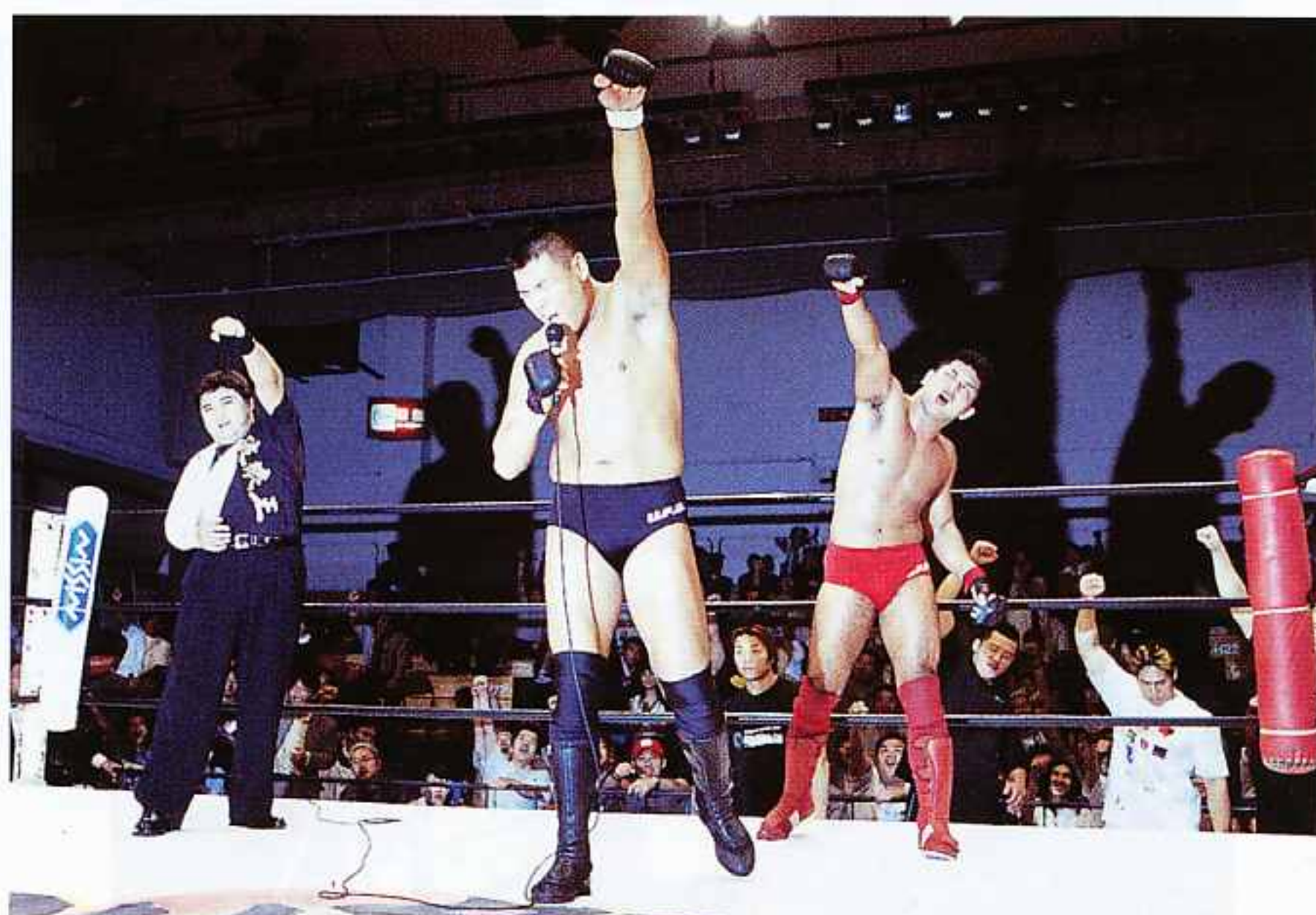
――もしかして、いま藤井さんが着られてるTシャツですか？

小川　そう。若者ウケするような感じの書体でさ、「どうやって読むんだよ？」みたいな。名前を覚えてもらうことが大事だから、ダサくてわかりやすいやつでいいのに。まぁ、次の試合で名前はまた変わっちゃうんだけどね（笑）。

――試合の度にニューTシャツが発売されるわけですか（笑）。

小川　だって本人も「軍鶏侍」を嫌がってるから変えてあげないと。軍鶏侍の名前が欲しい人がいればジャンジャンあげちゃうよ。

軍鶏侍　い、いや、軍鶏侍は気に入ってます！（ムリヤリ力を込めて）誰にも渡したくないです!!

――その藤井さんの次の試合は、7月の

昨年の『OH祭り』では負傷した破壊王に代わって、オーちゃんとタッグを結成した軍鶏侍。トーナメント優勝に貢献した。大舞台の経験が軍鶏侍の血となり肉となっていく。

『武士道』はハッスルの査定試合みたいなもんだったんで（軍鶏侍）

小川直也×

『武士道』になるわけですか？

小川　次に出るのは秋ごろだろうね。しばらく俺の練習に付き合ってもらわなきゃいけないからさ。

――というと、小川さんは、すでに8月のグランプリ（以下、GP）決勝戦を見据えてトレーニングをしてる!?

小川　GPも何も、俺にとっては「ハッスル査定試合」だから。査定試合をクリアしていかなきゃならないから、常に計画には入れておかないとね……こいつは前もって言っとかないとダメだから。

――藤井さんは、計画を立てとかないとダメなタイプなんですか？

軍鶏侍　はい。その方がいいですね。

小川　俺が言いたいのは、「常に準備しておけ！」ってことなんだよ。俺は猪木さんに「いつ何時でも～」って常々言われて、何が降りかかってきても、耐えられる準備をすることをモットーに生きてるから。

――それを普通にこなしているのは凄いですよね。

小川　基本的にそうしないといけないんじゃないの？　誰に何を言われようが、黙々とチビチビとやるしかねぇなって。

――派手に見える小川さんが、黙々とチビチビと積み重ねているところが凄いですよ。

小川　彼もそれを引き継いでくれればいいかなって思ったんだけど、いかんせん計画がないと動けないから。「ボクの次の試合は何月ですか？」ってさ、そんなの若手じゃないよ。若手なんだから、もっと勢いがほしいよね。俺なんかさ、いまだに海で濡れ役やってるんだよ！

――今日も凄かったですね！　波が押し寄せるテトラポッドの上に立ち尽くしてのハッスル・ポーズ（笑）。思えば、小川さんはプロ転向当初から身体を張り続けてますよね。

小川　あのころなんてさ、猪木さんの命令をすべてひとつ返事でやってたよね。足柄山で金太郎の格好させせられたり、毎日毎日、実にいろんなことやらされたよ。

――六本木の路上で正座して、猪木さんに日本刀突きつけられたり（笑）。

小川　藤井なんかさ、さっきのテトラポッドの上での撮影のときに「濡れるから短パンになっていいですか？」とか言うんだよ……ホント情けないね！

軍鶏侍　………（またまた固まる）。

小川　というか、短パン履いてるなんて、やけに用意周到だよねぇ。

――ロケ地が海と聞いて、あらかじめ準備してたんじゃないか、と（笑）。

軍鶏侍　い、いや、そんな……。

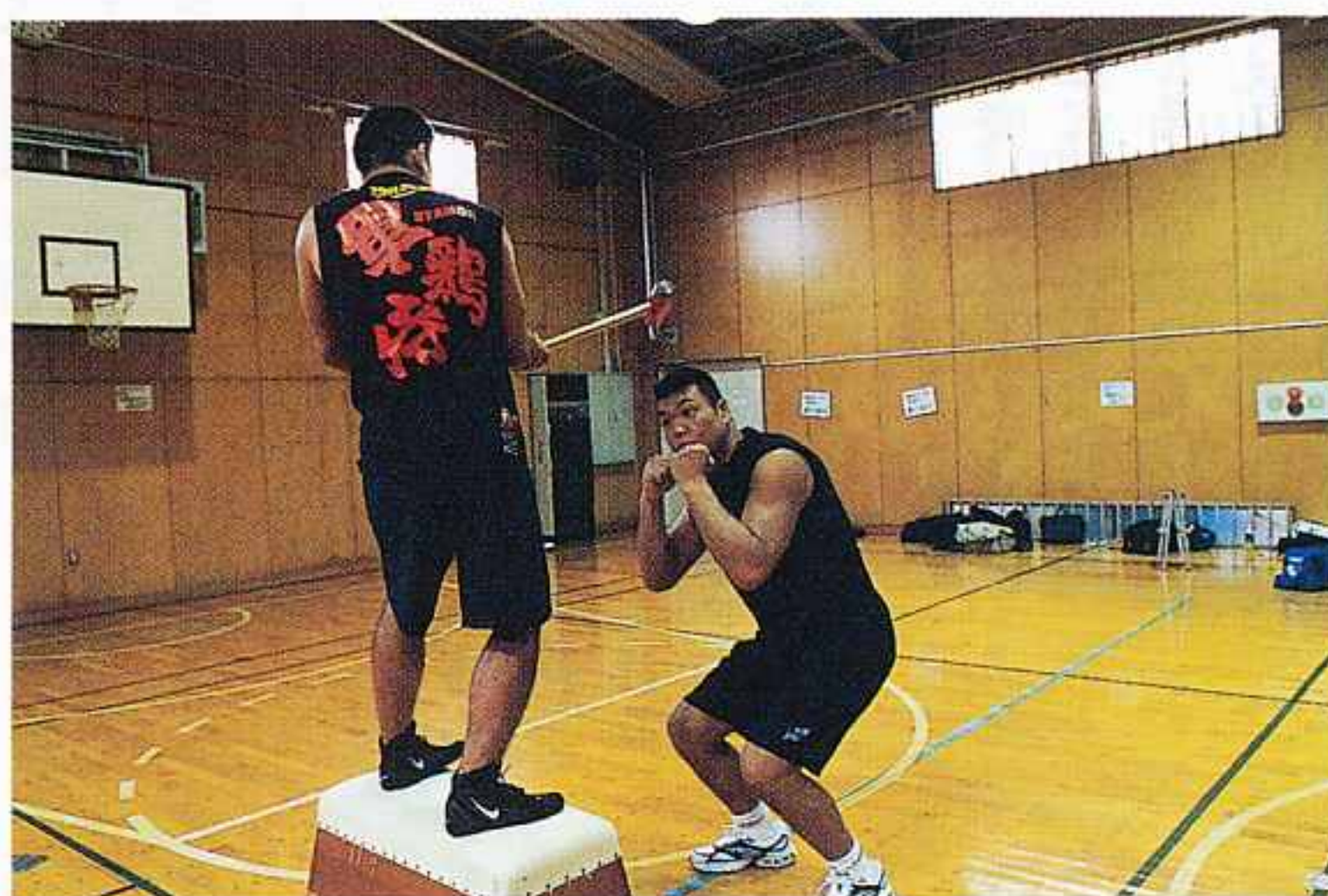
小川　（遮って）ちょっとぐらい濡れたってわけないのにさ。（睨みながら）……これからどっかに遊びにいくんじゃないの、藤井君？　あ？　だからベタベタになるのが困るんだ。「藤井ク～ン、今日ベタベタだよぉ」とか言われたりさ～。

――あ、そういうご関係の方が（笑）。

軍鶏侍　そ、そ、そんなことないですよ。

小川　バスケット特訓のときも、普通のバスケットボールじゃなくて、ボクシングで

このTシャツが「若者ウケするような感じの書体で、わかりにくい」との理由でオーちゃんからダメ出しを受けたものだ。

使うメディシンボールを使ったんだよ。
――腹筋鍛えるのに腹に落とすボールですよね。あれはメチャクチャ重いですよ。
小川　俺が藤井にパスしたら、涼しい顔で受け止めればいいのに「アッ！」とか「ウッ！」って声出すんだよ。アナウンサーの人が来て、ボールを渡したときに「こんなボールでバスケットをやってるの？」っていう驚きを演出したかったのに、お前が驚いてどうするんだって！　俺から何も言わなくても、そういうことをわかってほしいよね。
――プロ同士の阿吽の呼吸ってやつですね（笑）。
小川　そう。俺なんか普通のボールみたいに操ってたんだよ。肩が外れるかと思ったのに。
――ガハハハ！　でも、やっぱりプロというものは、そういう一見無駄に思えるようなことが大事だったりしますよね。
小川　俺の場合、無駄が多いけどね（笑）。無駄が8割なんだけど、まあ、コツコツやっていくしかないでしょ！
――さて、そんな無駄な特訓を経て（笑）、6・20『PRIDE・GP』二回戦の相手はジャイアント・シルバに決まりました。小川さんは常々「相手は誰でもいい」って言ってましたけど、誰でもいいにしても、ひとりだけタイプが違いすぎるほど違う感じではありますよね。
小川　ハッキリ言って、興行的には8月がファイナルだから、それまで俺を延命させてくれてるんじゃないの？　某S代表の温かい延命処置なんじゃない？
――延命処置（笑）。というと、シルバ戦はかなり余裕があるわけですか？
小川　全然！　一試合一試合、何が起こるかわかんないから。予測不可能ですよ。勝負だから、勝つときもあれば負けるときもある。
――シルバはあの身体ですから、ちょっと体重掛けられるだけで危ないですよね。
小川　ヘタするとボキッといくだろうね。うん。
――でも、小川さんは柔道家時代、バケモノみたいな選手と無差別級で闘ってきたわけですよね。
小川　たくさんいたね。210センチぐらいの選手とやったことはあるけど、あそこまでデカイのはいないよ。
――シルバは身体能力はあるし、スタミナもある。一回戦でもその片鱗は見えましたけど、格闘家としても目覚めたらしくて、かなり成長してますよね。
小川　身体能力がなかったら（バスケットボールで）オリンピックに2回も出れるわけないよな。あんなのに目覚めて成長されると困るけど、勝手に目覚めてくれよと。こっちにはいままでやってきた意地があるからね。自分のできることを初心に戻ってやるだけですよ。それとは別に、プロレスラーとして敵でもあるから、そういう意味でいいカードなんじゃないかな。
――『ハッスル』で活躍する同士の対戦ということで、例によって一部マスコミや一部マニアの中には色眼鏡で見る人間もいます。
小川　いいんじゃないの？　言わしておけば。"ワーク"でいいですよ。
――最初に言っておきますか（笑）。
小川　この時代にさ、"ワーク"だとか"シュート"だとか、何年前の話題なんだよ。そんなネタで一般の人は見ねぇよ。マスコミがそう騒ぐんなら「ワークなんですか？」って選手に聞きゃあいいじゃねえか！　だいたいね、プロモーターに対して失礼だよね。そのイベントを記事にして金にして生活してるわけでしょ、マスコミは。なんの確証も得ずにそんなくだらねぇことを言うのはプロモーターに対しての背任行為、裏切りだよ。「だったら取材すんなよ」っていうことだし、そういう次元の話をするんだったら「見なきゃいいじゃん」って。
――最近のマスコミの中にはネットの声に左右される人も多いみたいですからね。
小川　料理屋で「うまそうなんだけど、ホントにこれは天然物？」とか言うようなもんだけど、マスコミはプロの検査員なんだからわかるはずでしょ？　要は「お前の目は腐ってる！」っていうことなんだよ。それを見てわかんないもんだから次元の低い話だよな。
――それと、今回の『PRIDE』には吉田秀彦選手がワンマッチで参戦することで、柔道王の揃い踏みというのも話題になってるんですよ。
小川　そうなの？
――TVのCMも「柔道王、揃い踏み!!」ってことでバンバン流れてますね。
小川　へぇ～。そんな煽りになってるんだ。でも、揃い踏みって言ってもシチュエーションが違うからね。向こうはゲストでしょ？
――ゲ、ゲストですか！　『PRIDE』のエースですよ、吉田選手は。
小川　いや、だって今回は大会名が『PRIDE・GP』なんだから。GPに出てるこっちが本戦で残りの試合はゲストでしょ。まぁ、そういう意味でレギュラーとゲストの違いが見せられればいいんじゃないの。それだけだよ。

早朝5時起きで走り込み、午前中はボクシング練習に励んだオーちゃんは、続いてなんとバスケ特訓、シルバ戦を想定したハンマー特訓も敢行ーっ!!　自ら「俺には無駄が多い（笑）」というがオーちゃんだが、この振り幅の広さには脱帽だ。

俺は何が降りかかってきても、耐えられる準備をすることをモットーに生きてるから（小川）

小川直也×藤井軍鶏侍

――そういうことですか。ところで、先月の『ハッスル3』の直前に腰を痛めたそうですけど、もう大丈夫なんですか？

小川　もう大丈夫。あれは藤井の練習に付き合ってケガしたんだよ！

軍鶏侍　（思い出したように）あ、そうでした。

小川　「そうでした」じゃねぇよ！　ヒドイ話だよ。

――しかも大事な『ハッスル3』の直前に（笑）。

小川　ホントそうだよ！　こいつは自分のスケジュールは綿密に言うんだよ。で、俺のスケジュールは無視だからね。

軍鶏侍　（焦って）む、む、無視してないです！

小川　（無視して）俺は頼まれたらさ、次の日に試合があっても藤井に付き合うのに、藤井の場合は「明日、試合だからちょっとできません」だからね。今日だって、俺が午前中から練習してるのに、「『紙プロ』の取材がありますけど、今日は何時入りがいいですか？」だもんね。俺より早く来とけって！　俺が何も言わなかったら、いま頃来てたかもしれないよ。

軍鶏侍　（再び焦って）そ、そんなことないですよ!!

小川　そうなりゃあ、〝おしゃもじ・モミジ〟に名前は変更だよ。

――ガハハハ！　話は戻りますが、前回のGPでは〝4万人ハッスル〟を成し遂げましたけども、次のテーマは何ですか？

小川　次も「ハッスル」でしょう。「ハッスルするとは何か？」が永遠のテーマですよ。勝負はどうなるかわからないけど、ハッスルできればこれ幸い。ハッスルしないと帰れないっていうぐらいの試合をしたいよね。敢えてハッスル・ポーズしないでリングを降りる手もあるけどさ。

――お客さんが「えーーっ？」って騒いで、「しょうがねえな、やるか」ってリングに戻る、と（笑）。

小川　ハッスル・ポーズまで引っ張るのが大変なんだけどさ。あれってお客さんとの呼吸だから。呼吸が幸いにも合えばいいけど、しょっぱい試合してたら、恐らくハッスルできないだろうなって。

――試合中でハッスルしないとハッスル・ポーズも合わないってことですよね。

小川　ハッスルするにもいろいろ難しいんだよ。

――藤井さんも『武士道』で判定勝ちだったら、コーナーでハッスルできなかったですよね。そんなことしたら、控室で小川さんに大変な目に遭わされそうだし。

小川　いや、リング上でボコボコだよ。控室でボコボコにしたらカッコ悪いじゃん。

――リング上で制裁しますか！

小川　やっぱりオープンにボコボコ。「舞台裏をリングで見せます！」とか言ってさ。

軍鶏侍　あ、危なかったですね、いま考えると（真顔で）。

小川　ボコボコにしてたら対戦相手が止めに入ってね。それで相手のセコンドに運ばれて退場するんだよ（笑）。

――ガハハハ！　それは見たい。

小川　夢が広がるなぁ〜。

――藤井さんからすると悪夢ですよ（笑）。

小川　いや、そこで「軍鶏侍君、かわいそう」ってお客さんを惹きつけることができるんじゃない。ボロボロになって「それでも俺は頑張る！」ってひと言言えば、ファンは感情移入できるんだよ。

――小川さんの設置する、一見フザけたハードルには必ず意味があるわけですね。

「柔道王・揃い踏み」って言ってもシチュエーションが違うから（小川）

小川　何かするにも、お客さんに気分良くなってもらわなきゃいけないからさ。

——前回の『ハッスル3』でも、普通メインが終わったらお客さんはゾロゾロ帰るはずなのに、ハッスル・ポーズをしたくて誰も帰らなかったですからね。

小川　『ハッスル』がどういうイベントなのか、だんだん浸透してきてるね。ただ、高田総統とやらが出たときは、もっとブーイングしてほしいよね。登場したら「おおぉ～!!」って歓声を浴びてたからさ（笑）。総統とやらは「もっとブーイングをくれたまえ！」って言ってたけど、ブーイング求める人も珍しいよ。今度は後楽園ホールで『ハッスル・ハウス』があるからね。

——6月28日ですよね。小川さんも『ハッスル・ハウス』には出向くんですよね？

小川　当たり前だろ！　高田総統とやらが未知のモンスター軍を送り込むとか言ってるけど、俺がハッスル軍を選抜して目にものを見せるから！　でも『ハッスル・ハウス』はどんなことになるんだ？　俺は橋本真也のアフロ姿が見たいなぁ。

——ガハハハ！　いまの一番の関心事はそれですか。小川さんのニューコスチューム&モミアゲは、『ハッスル2』のポスターのイラストからヒントを得たわけですけど、橋本さんにもそのポスターと同じく赤のパンタロン&アフロヘアで行ってほしいわけですね。

小川　俺がアフロをプレゼントすればいいのかなぁ。

——『ハッスル・ハウス』は若手選手を抜擢する場でもあるそうですが、藤井さんの出場予定はないんですか？

小川　まだまだ。藤井はスパッツにもある通り、『ハッスル』の補欠だから。

軍鶏侍　『武士道』はハッスルの査定試合みたいなもんだったんで。『武士道』を越えて『PRIDE』本戦に出てからじゃないと『ハッスル』には出れないかなぁと。

ハッスルvsゲッツ!　まさかの"柔道王・揃い踏み"となった今回の『PRIDE・GP』。シチュエーションは違えども、両雄が同じリングに立つことで、どんな化学反応が起きるのか？　興味は尽きない!!

——それも凄い道のりですよね（笑）。小川さんも査定試合が続きますが。

小川　ねぇ？　『ハッスル』の査定はどこまで続くんだよ。でも、査定試合があるってことは『ハッスル』が続くってことだから、査定は査定で続いてほしいよね。「査定されるの俺だけかい!?」って思うけど（笑）。ま、それはそれでいいでしょ。

——8月のGPでは、査定試合の相手に、ノゲイラ戦を望む声が多いですね。

小川　あいつもハッスル・ポーズやってるんでしょ？　ハッスル・ポーズを知ってる同士がやれば、どっちに転んでもハッスルするでしょう。俺が勝ってもノゲイラが勝っても、お互いハッスルできれば最高だよ。

——ノゲイラは〝柔術マジシャン〟ということで、先ほどのTV収録で小川さんは「マジシャンにはタネがある」と言ってましたけど、そのタネは見破る自信はありますか？

小川　見破れるか見破れないかは、その場にならないとわからないな。試合への入り方もあるからね。

——だいたいどんなタネがあるかは、目星がついてるんですか？

小川　タネを明かしたところでお客さんはつまんねぇと思うよ。観ててわかんないもんね。

——いや～、それは奥深い言葉ですね。

小川　勝った負けただけじゃ夢が広がらないし、俺はもっと面白い夢の広がるような話をしたいんだよね。『ハッスル』がどうやったらうまくいくのか。ホントにそれだけだよ。一番は『ハッスル』に還元しないと意味ないからさ。オセロと一緒ですよ。すべての駒をハッスル、ハッスル、ハッスル、ハッスルってひっくり返していく感じ。

——すべてハッスルの駒で埋め尽くしたい、と。

小川　プロレスに携わってる者からすれば、『ハッスル』という希望がなくなれば、ホントにジャンルが縮小してしまう危機感があるからね。『ハッスル』がメジャーになることを祈りながらやるしかない。ま、楽しくやっていきますよ。

——『PRIDE・GP』と『ハッスル』は、小川さんの力で相乗効果を生んでますよね。

小川　いや、スタッフが一丸となって頑張ってるのが一番だと思うよ。俺ひとりだけの力じゃないし、例えば演出の人たちだって『ハッスル』に願いを込めてやってるし、それぞれ適材適所の中でやっているから。それには『紙プロ』読者の応援も含まれるよね。（思い出したように）あ！　ところでさ、『紙プロ』は隔週にしないの？

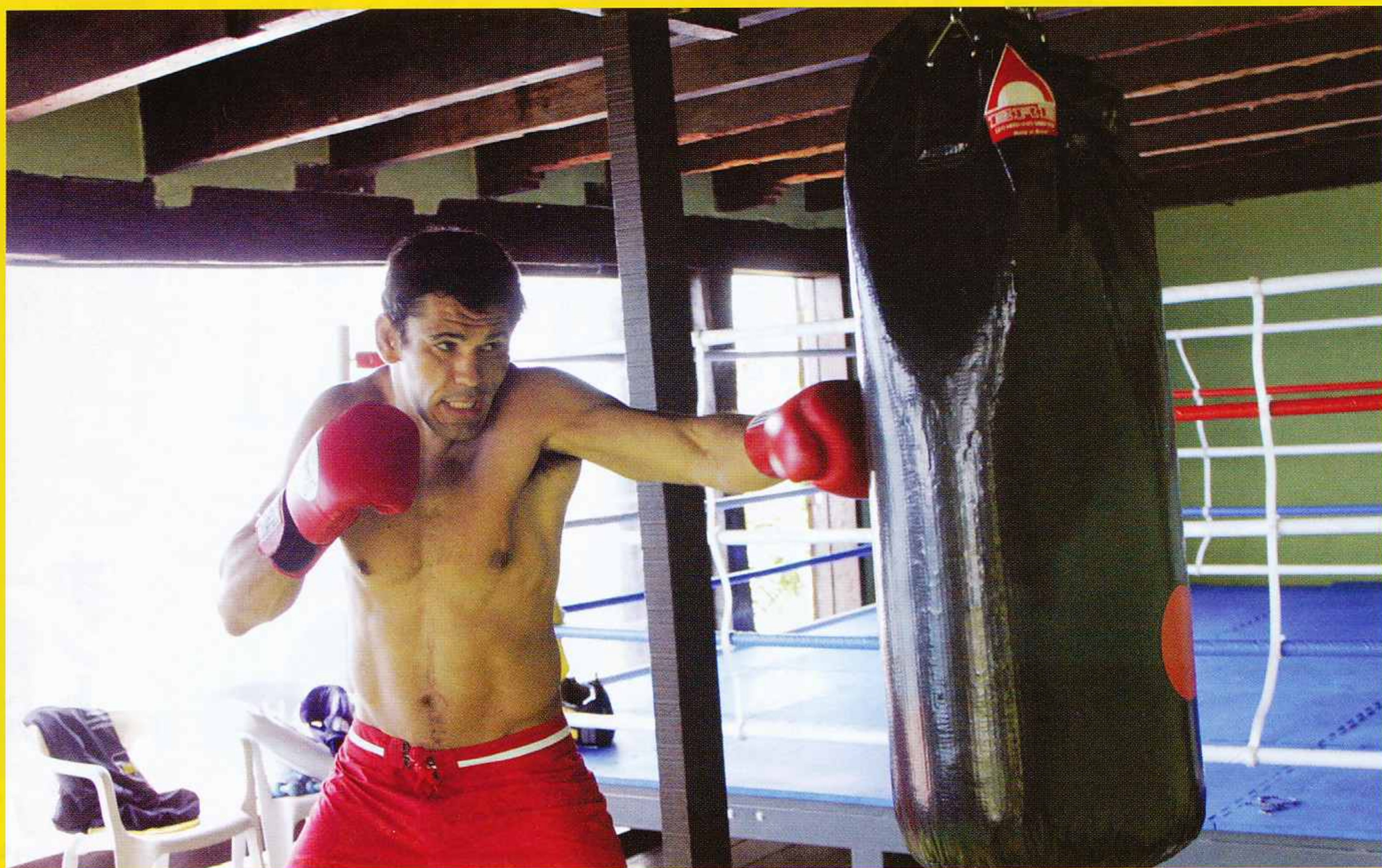
——そ、そういうプランもなくはないですけど……。

小川　プロレスの雑誌が月イチだとキツイよ。月イチでこんなに厚いんだったら、薄くして値段下げればいいじゃない。

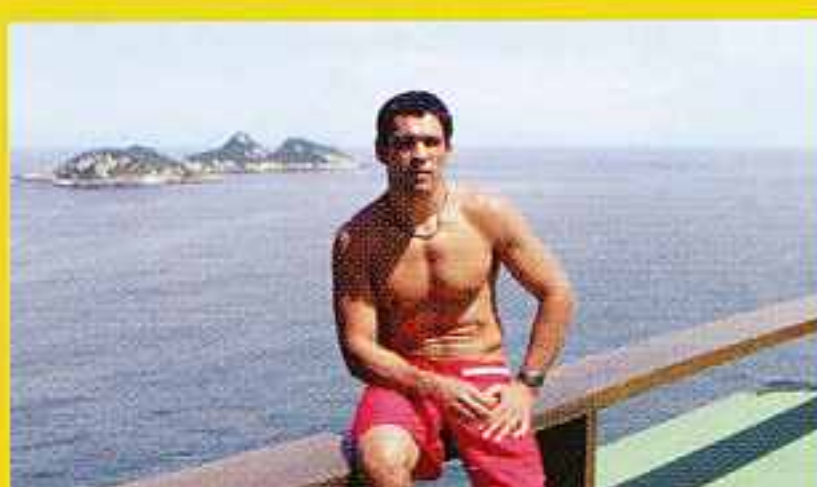
——小川さんのご協力があれば（笑）。

小川　協力って、俺は『紙プロ』しか出てないんだから！　他の専門誌には出てないだろ！　なぜかと言えば、他の専門誌に比べたら『紙プロ』は読者が多いし、効果があるからだよ。先月も先々月も『紙プロ』の表紙になったら「買いました！」ってよく言われるけど、他の雑誌で表紙になっても、あんまり反響ないんだよね（笑）。

——たしかに、おかげさまで最近の売れ行きは好調ではありますね。その代わり、業界から声なきやっかみを受けるんですけど。「小川とつるみやがって」とか（笑）。

小川　愚痴こぼすなよ。俺なんかどれだけやっかまれてるか。『紙プロ』の比じゃな

本紙スクープ!!

ノゲイラ、ブラジルで早くも打倒・小川を宣言! 超豪邸も初公開!!

ビビってたじろぐ緊急レポート!! 日本の裏側ブラジルより、ノゲイラのグランプリに向けての意気込み、そして現地でトレーニングに励む写真が送られてきた。ノゲイラは現在、リゾート地で合宿を張っている……のではない! ここはノゲイラの自宅!! 野外パーティーもできる広大な敷地にくわえて、海が一望できる抜群のロケーションのトレーニングルームを完備。この豪邸には弟のホジェリオが一緒に住んでいるので、スパーリングパートナーには事欠かない。贅沢な空間に身を委ねながら、GP優勝に向けて練習に余念はないのだ。2回戦のヒーリング戦についてノゲイラは、「前回の対戦から2年近く経ってるのでお互い成長しているだろうから、前回以上の試合になるだろう」と、いまでは語りぐさになっている名勝負の再現を約束。「ボクの成長度合いのほうがずっと上だという自信はある。必ず一本勝ちを奪う」と、勝利への自信も覗かせ、その矛先を"ハッスル伝道師"小川に向けた。「シルバみたいな技術がない選手とオガワが闘うのはもったいない。準決勝ではボクが必ずオガワと闘う。オガワを倒して、ボクが代わりにハッスルポーズをしてやる!!(笑)」——。大胆にもノゲイラは逆ハッスル宣言!! 6・20『PRIDE・GP』の行方が、ガ然楽しみになってきた!

見てみ、この素晴らしい景色!! こんなロケーションは絵はがきでしか見たことがないが、ノゲイラにとっては日常的な練習風景に過ぎない!

窓からは島も見えるリゾート地のトレーニングジムで猛練習!!……してるのではない。あくまで自宅での日常的な練習風景に過ぎない!

リゾート地の高級コテージでノゲイラ兄弟が仲良くツーショット写真……ではない。あくまで自宅での日常的な風景に過ぎない!

ブラジリアン・トップチームの面々と、バカンスを絶賛満喫中!!……してるのではない。あくまで自宅での日常的な風景に過ぎない!

海で泳ぐも良し、プールに浸かるのも良し。なんとノゲイラの自宅はプール付き!! 豪邸過ぎてもうグウの音もでない。健介も正直ビックリ! ヴァーッ!!

一番は『ハッスル』に還元すること。ホントにそれだけだよ（小川）

小川直也×藤井軍鶏侍

いよ！

——失礼しました。

小川　山口さん（本誌鬼畜編集長）に隔週にするように言ってよ！　その話をすると、あの人はすぐ逃げるからさ。今日もそのことを言われるから来ないんだよ。

——増刊は出したいんですけどね。

小川　増刊は反動がくるからやめたほうがいい。定期的な方がいいんだよ……って、何で俺がこんなこと言わなきゃいけねぇんだよ。

——すいません。いろいろご心配かけて（笑）。とりあえず、小川さんがハッスルすればするほど、『紙プロ』の発売の間隔はドンドン短くなってるんですよ。

小川　どういうこと？　間隔が短くなるっていうことは、月刊じゃないってこと？

——いまは25日に1回ぐらいのペースなんですよ（笑）。

小川　ガハハハハ！　超変則じゃん！　ちゃんと隔週でお願いしたいなぁ。隔週にしてハッスルネタをやれば、もっと『ハッスル』は大きくなると思うんだけど。

——でも、『紙プロ』が隔週になることよりも、一番の波及効果は小川さんが身体を張って頑張ることだと思いますよ。『PRIDE』に出たことで、浸透度がかなり違ってますからね。

小川　そういえば、どっかの一般週刊誌に「ハッスル大不倫」とか書いてあったそうだね。

——「藤田まこと、ハッスル不倫」とかいう記事ですね（笑）。いまやハッスルがいろんなシチュエーションで使われてますね。

小川　遂に不倫界にまで進出だからなぁ。ぜひ今年の流行語大賞を取るぞ。

——みんなハッスル・ポーズも上手くなってきてますよ。先ほどのTV収録でも、アヤパンとウッチーはいいハッスルぶりでしたよね。

小川　初めはさ、フジテレビ側に「あのポーズは困る」って言われたんだけど、こうも変わると思わなかった。あと残るは三宅アナでしょ。ウッチー、アヤパン、中村アナはやってるんだから。

——そういう感じでどんどんハッスルを広めていくと。

小川　これからもコツコツやって『ハッスル』を広めていきますよ。なぁ、藤井！

軍鶏侍　は、はい。僕もハッスルします！

小川　あと『紙プロ』が隔週になってくれれば、なお嬉しいかな、と。というか、隔週にしないと『ハッスル』出入り禁止！

——編集長の山口によく伝えておきます（笑）。

小川　よぉ～し、それじゃあ最後にシメるか！　行くぞ～っ!!

一同　お、オーッ!!

小川　3、2、1……。

一同　（腰を激しく振りながら）ハッスルハッスル!!

小川　よぉ～し、軍鶏侍、帰るぞ!!

【6月2日／神奈川県・茅ヶ崎海岸近くのカフェにて収録】

日本（ニッポン）は、もっとハッスルできる。

声を出せ。腰を振れ！
そして横浜アリーナに集え!!

ハッスル4

2004年7月25日（日）開場14:00／開始15:00 横浜アリーナ

［チケット料金（全席指定・消費税込］

VIP［特典：専用入場ゲート・グッズ付］30,000円 ／ RRS（ロイヤルリングサイド）15,000円 ／ スタンドS 8,000円 ／ スタンドA 5,000円

またまた一般発売（6月27日）に先駆け
携帯サイト『紙プロHand』でスペシャル先行予約受付実施!!

超太っ腹!! お買いあげの方全員に“『紙プロ』特製ハッスル・カンバッチ（非売品）”をもれなくプレゼント!!

6月18日（金）0:00 〜 6月20日（日）23:00

サイト受付方法

上記の受付時間中に携帯サイト『紙プロHand』にアクセス、フォーマットに従って予約してください。折り返し、予約番号&購入方法を返信します。※アクセスが集中している時間帯は、非常につながりにくくなる場合があります。また、受付時間によっては確認メールが届くのが夜22時以降、深夜になる場合がありますのでご了承願います。

※携帯サイトでの受付は、『紙プロHand』会員限定です!!

購入方法

携帯サイト『紙プロHand』から予約した後、6月25日（金）〈消印有効〉までにチケット代金+送料500円をご入金ください。予約をいただいたご本人の名前と、予約番号（予約完了時に画面とお客様のメールに送信いたします）、電話番号を振り込み時に必ず入力してください。

●三井住友銀行／池袋東口支店 ●普通口座 7483356（株）ダブルクロス

※山岳部・離島は除きます。詳細はお問い合わせください。

【問い合わせ先】（株）ダブルクロス　TEL .03-3403-5188

加入して一緒にハッスルしないか!? 『紙プロHand』アクセス方法

DoCoMo　iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶

au/TU-KA　トップメニュー ▶ 遊ぶ・楽しむ or インターネット ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

vodafone　メインメニュー ▶ ボーダフォン・ライブ ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

ハッスルする携帯サイト

紙のプロレス Hand

し続ける大巨人が
直也を襲う!!

©DSE

いま、シルバが熱い!　そしてデカイ!!（←それは前から）。6･20『PRIDE･GP』での小川戦が発表されると、やれ「シルバだったら小川の楽勝」だの「シルバなんてデカイだけ」といった声をよく耳にする。言うちゃ悪いけど、そんなこと言うヤツは本当のシルバを知らない。今回は至近距離からシルバを見上げ続けているDSE女子部のぽん&なぎさんに知られざるエピソードを語ってもらいました!!

取材／松澤チョロ　写真&情報提供／DSE女子部 ぽん&なぎ

designed by matsu（Two Three）

キミはまだ本当のシルバを知らない

恐怖！ジャイアント・シルバの真実!!

ウガーッ!!

進化し続

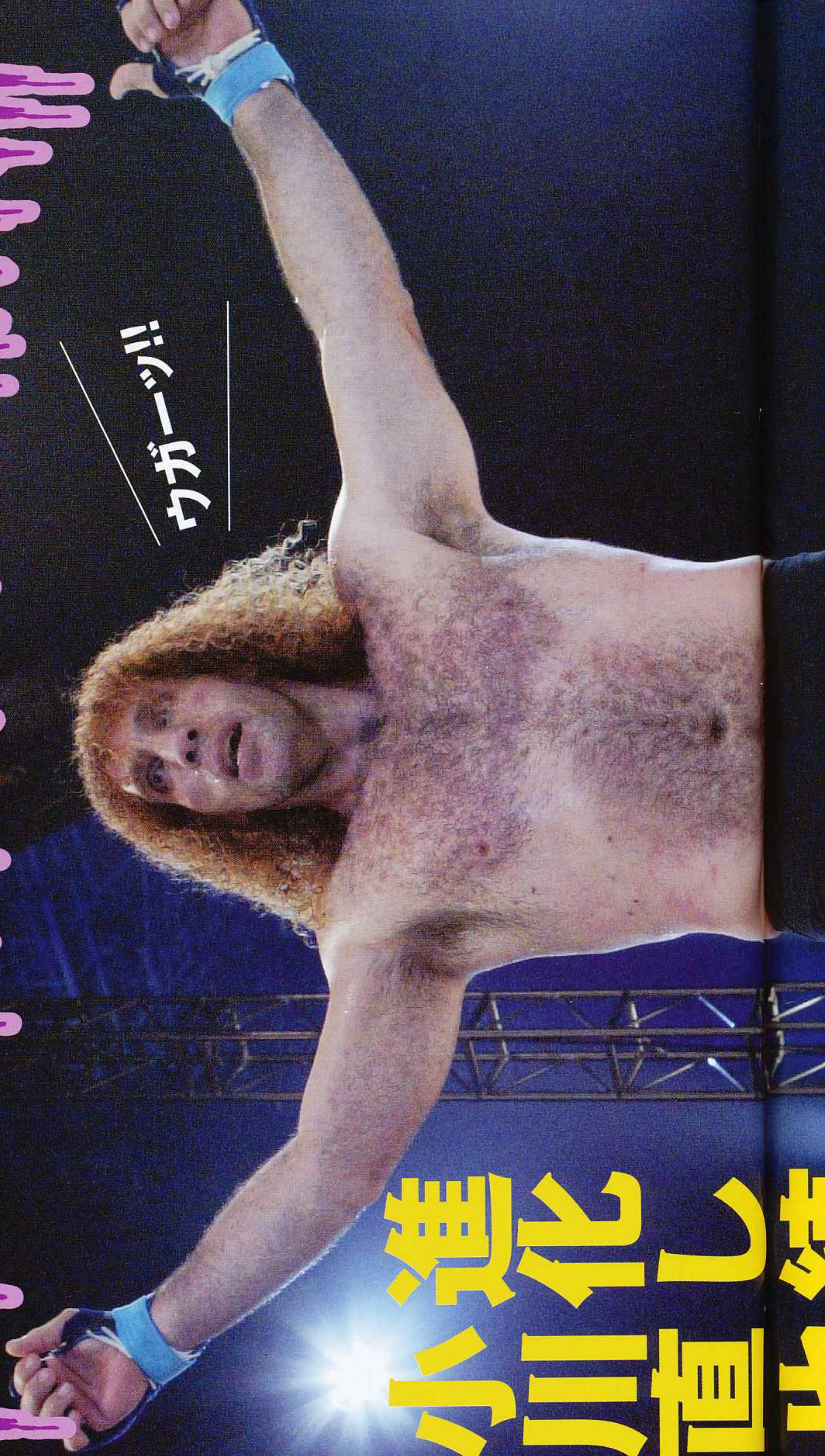
小川直也

「前は大男だよ!!」

みてみ、このッ手!!

お腹がすいたら、かじりたくなるようなフランクフルト並のシルバの指！　ちなみに小さい方は今回話を聞かせてもらったDSE女子部のなぎさんの手です。この大男は実在します!!

©DSE

恐怖！ジャイアント・シルバの真実!!

～SILVA EPISODE 1～ シルバはインテリだった

シルバは、ただデカイだけではない。バスケット・ブラジル代表としてソウル＆バルセロナ五輪に出場経験のあるシルバは、総合初挑戦でヒーリング相手に3Rまで持ち込むほどの大健闘を見せたのだ。単にデカいだけならこうはいかない。並外れた身体能力があってこその結果と言えるだろう。

そんなシルバは実はとってもインテリだったりもするのだ。ブラジル出身で現在ニューヨーク在住のシルバは、**ポルトガル語**、**英語**、さらにはプロレスラーとして長い間滞在したメキシコで**スペイン語**もマスター。バスケットプレイヤー時代はチームメイトにフランス人が多かった関係で**フランス語**も習得。**なんと、4ヶ国語をマスターしているのだ**。現在は来日の機会が多いため日本語を勉強中のシルバ。いま現在は「スイマセ～ン」と「シルバサ～ン」を連発する程度のシルバだが、5ヶ国語をマスターする日も、そう遠くはない!?　ただし、4ヶ国語を操るというのは、あくまでも本人談。DSE女性スタッフによると「ホントに喋れるかどうかは微妙」とのことだ。

～SILVA EPISODE 2～ 忘れっぽいシルバ

シルバは、ただデカイだけではない。

小さなことは気にならないのか、かなり物忘れが激しいのだという。『PRIDE・GP開幕戦』で戦闘龍と闘ったシルバは、数日後、六本木を歩いていると1人の女性から「格闘家なんだぁ。一番最近、闘った選手って誰？」と英語で質問され、固まること30秒。ゆっくりと振り向いたシルバは同行していたDSE女性スタッフに「**私が闘った人は誰だっけ？**」と真顔で聞いてきたという。可哀想な戦闘竜……。

さらにDSE女性スタッフは次のようなエピソードも明かしてくれた。「『明日の夜は仕事がなくて暇だから一緒にご飯を食べに行こう。**いろいろとお世話になったからご馳走してあげるよ**』って言われて、私と、もう1人の女の子を食事に誘ってくれたんですよ。で、当日になって、シルバと一緒にいたスタッフに聞いたら『そんなことシルバは一言も言ってないし、今日は夜中の二時まで仕事が入ってるよ』って。そんなに乗り気じゃなかったけど、自分から誘っておいてなんだよ！　みたいな（笑）。あとで本人に確認したら『全く覚えてない』って言われちゃいました（笑）」。

それだけではない。別の女性スタッフの証言。「シルバが前を歩いてるのを発見したんで、後ろから腰ぐらいの所をトントンって叩いて呼んだんですよ。そしたら、平行に振り向いて、誰もいないと思って、そのまま歩き出したんですよ（笑）。『**アンタと同じ目線には誰もいないよ！**』って思いながら、もう一回、トントンってやっても、また平行に振り向いて本気で気付いてくれないんです。しょうがないから、大声で『シルバーッ！』って叫んだら、『お～、そこにいたのか？』みたいな（笑）。ジョークじゃなくて思いっきり素ですからね」

～SILVA EPISODE 3～ シルバは不思議ちゃん

シルバは、ただデカイだけではない。

今回、話を聞いた2人のDSE女性スタッフは口を揃えてシルバのことを「不思議な人」と言う。シルバは、あの巨体ながら他の外国人選手の誰よりも荷物が少ないらしい。大きなバックを2つ3つ持ってくる選手が当たり前の中で、シルバはどんなに滞在期間が長くても決まってバック1つ。**体はビッグだが荷物はコンパクト**なのだ。

さらにシルバの〝不思議〟っぷりを現すエピソードとして、記者会見や取材等でのフォトセッションの際、他の選手は決まってファイティングポーズを取るのだが、シルバは絶対にファイティングポーズは取らないという。いつも両手を広げ、**岡本太郎ばりの芸術性溢れるポーズを決めるシルバ**。よっぽどリクエストしないとカメラ目線もくれないらしい。『神様にお祈りでもしてるのかなって思うんだけど、正直ちょっと怖い（笑）。ホントに、いろんな意味で不思議な人です』

～SILVA EPISODE 4～ 不正行為は許さないシルバ

シルバは、ただデカイだけではない。

髙田モンスター軍の一員としてリング上では悪の限りを尽くすシルバだが、実は、不正行為は一切許さないマジメな一面を持つという。再びDSE女性スタッフの証言。

「来日すると空港からリムジンバスとかに乗せたりするんですけど、シルバぐらいの身体の大きさだったらシートを2つ取ってあげた方が本人的にも安心するんですよ。でも、比較的すいてるときにカウンターの人に『あの人が乗るんですけど、2つ分のチケット料金が必要ですかね？』って聞くと『いまはすいてるんで一枚だけでいいですよ』って言ってくれるんですよ。で、チケットを一枚渡すと不思議そうな顔をして『なんで一枚なんだ？　二枚必要だろ？』って言うんですよ。『でも、カウンターのお姉さんが一枚で大丈夫って言ってくれてるから問題ないよ』って説明しても、『いや、**それはダメだ。自分で買いに行く**』って言って、自分でお金出してまで買いに行っちゃうんですよ。ホントわけわかんない！（笑）」

～SILVA EPISODE 5～ シルバはアンパンマンがお好き

シルバは、ただデカイだけではない。

あの巨体を持ちながら（↑あまり関係ない）、好きなテレビ番組は、なんと『**アンパンマン**』！『ハッスル3』の大会前、モンスター軍の選手たちが、とある部屋に集まりワイワイガヤガヤ騒いでいたところへ、用事がありDSE女性ス

「シルバ、お前は

みてみ、この足ッ!!

エピソード3で話題に出てくるシルバの芸術性溢れるポーズがこちら。優勝候補筆頭のヒョードルもシルバと並ぶと、この身長差。ミルコのハイキックもシルバには届かないはずだ！

©DSE

説明不要。これがシルバの足! 隣の足の持ち主・なぎさんも執筆している『DSEの給湯室』では『PRIDE』ファイターの裏側が覗けますよ。アドレスはこちら→http://www.so-net.ne.jp/pride/entertainment/diary/index.html

タッフが入って行くと、その部屋には**『アンパンマン』を1人で熱心に見つめるシルバ**の姿があったという。近くにいた選手に聞くと『シルバがいろいろとチャンネルを変えていって、止まったのがあの番組さ』とのこと。

ジャイアント・シルバとアンパンマン。なんだかわからないけど、夢いっぱいだ。

～SILVA EPISODE 6～ シルバは教え上手

シルバは、ただデカイだけではない。

ああ見えて、実はかなりの教え上手らしいのだ。再び、DSE女性スタッフの証言。

「私は英語が出来ないんで、いつも一言英会話みたいな本を持ってるんですけど、シルバと一緒にいるとき、その本を見てたら取り上げられたんですよ。私が『返して!』って言っても**『英語っていうのは本で覚えちゃダメなんだ。頭で考えて覚えるものだからね』**ってことを言われて。ちょっと感動しちゃいましたね（笑）。それで、帰り際に『私はもう会社に帰らなきゃいけない』ってことを伝えたくて、頑張って英語で言ったら、一箇所ちょっと間違ってたところがあったみたいで、『ん？ もう一回言ってごらん』って言うんですよ。そこを直して言ったら**『凄いうまくなったよ。完璧だね』**ってホメてくれて。思わず『お父さん!?』とか思っちゃいました（笑）」

～SILVA EPISODE 7～ どうなる？ シルバvs小川

シルバは、ただデカイだけではない。

6・20『PRIDE・GP』での小川戦へ向け、本腰を入れ練習しているらしい。先日の戦闘竜戦では下からのジャイアント・アームロックを極め、見事な進化ぶりを披露したシルバはニューヨークにあるヘンゾ・グレイシーの道場で特訓を積んでいる。なぜ、シルバはヘンゾの道場を選んだのだろうか？

「嫁に『近くにヘンゾの道場があるから行ってくれば？』って言われて『じゃあ、行ってくるよ』って感じで行き始めたみたいです（笑）。しかも、道場に入ったら『ヘンゾ・グレイシー・アカデミー』って書かれたTシャツを着てた人がいて、ルックスはヘンゾと全然違うらしいんですけど、迷うことなく**『キミがヘンゾか？』**って聞いたらしいです（笑）。いつだって期待を裏切りません」。

GIANT SILVA

「普通はありえないんだけど、シルバだったら言ってるだろうな、みたいな（笑）。でもヘンゾだけじゃなくて、私たちにとっては有名な格闘家でも、シルバはほとんど知らないんだと思う。今度闘う小川さんにしても、プロレスのリングで何回か顔を合わせてるはずだけど、『あ、『ハッスル』に出てたオガワか？』ぐらいの認識なんじゃないかな（笑）。**小川さんに限らず、他の人の試合はあまり興味がない**と思うんですよ。見下してるってわけじゃなくて、**小川さんのことを脅威にも感じてない**と思うんで、プレッシャーみたいなものを感じずに好き勝手に暴れると思うんですよ。だから、ひょっとすると番狂わせもあるんじゃないかなって（笑）。私は凄く楽しみな試合です。逆に、なんでみんなそんなに小川vsシルバ戦を嫌がるんだろうって思う」

たしかに、小川vsシルバ戦が発表されると、「DSEは小川を勝たせるためにシルバを当てた」とか「プロレスラー同士のバーリ・トゥードは観たくない」といった批判的な意見も出ているのも事実である。

「でも実際闘ってるのを想像すると見た目的に普通に面白いんじゃないかなと思うんですけどね。瞬間最高（視聴率）いきそうな気もするし。シルバは『男祭り』の時も視聴率凄く良かったし、相手が小川さんだったら、なおさら凄いんじゃないかって」

『男祭り』でシルバはヒースとやったじゃないですか？ その後の休憩時間に子供たちが「シルバパ～ンチ!」とか言って**シルバごっこをして遊んでましたからね（笑）**。子供たちがマネして遊ぶって凄いなって思って。そんなに子供の心を捉えたかって驚きましたよ。だから今回の試合後も、小川さんが勝って、『ハッスル』ポーズで盛り上がるのか、それともシルバが勝って『シルバパ～ンチ!』が流行るのかも楽しみですね（笑）」

「さっき、シルバは他の選手の試合は興味ないって言ったけど、開幕戦が終わってからシルバは**六本木の『ドンキホーテ』でDVDプレイヤーを買ってたんですよ。**その後で『GPで勝ち上がった選手のDVDを持ってきてくれ』って言われたんで、今回はかなり本気で研究してると思います。向こうでは『シルバだったら小川は楽勝』とか言われてることも知らないだろうし（笑）、まあ知っても気にもしないだろうから、**全然勝つ気で練習してると思いますよ**」

「やっぱり会社的には8月大会のこととか考えると、小川さんに勝ってもらいたいっていうのもあるんだろうけど（笑）、私はシルバと仲良しなんでシルバにも頑張ってもらいたい。ちょっと複雑な気持ちです（笑）」

～SILVA EPISODE 8～ シルバの素顔

シルバは、ただデカイだけではない……ということが、ここまで読んでわかっていただけたんじゃないかと。最後に、改めてシルバの素顔と、今後への期待を語ってもらいました。

「シルバはマジメで家族想いで、忘れっぽいのにインテリなところもある。**奥が深すぎて底が浅いというか（笑）**、ホントにつかみ所のない不思議な人。一言ではとても言い表せない。そんなシルバの人間性をみんなにもっとわかってもらいたいですね。〝シルバを見たいから『PRIDE』や『ハッスル』のチケットを買った〟って言う人がドンドン増えれば嬉しいです」

リアル・ドンキーコングvsロシア最後の皇帝

[ハンマーハウス] ケビン・ランデルマン vs エメリヤーエンコ・ヒョードル [レッドデビル]

一回戦はミルコを一方的に撲殺。あのミルコがランデルマンのスピードに付いていけなかった。

ミルコ戦に続き"大物食い"なるか!?

ランデルマンとってヒョードル戦は、彼の師匠であり、同じチームに属するコールマンの仇討ちの意味合いもある。ヒョードルは完全無欠の王者として、その地位をますます強固なものにしつつあるが、まだ突破口は残されている。ヒョードルはかつて藤田和之のフックでグラつき、あわやの展開に追い込まれた。ミルコをブッ飛ばしたランデルマンのパンチは、スピード、破壊力、テクニック、いずれをとっても藤田のそれを上回る。ミルコ撲殺のサプライズに続き、現役『PRIDE』王者陥落の大番狂わせは、十分に起こりえる。

一回戦のコールマン戦は、テイクダウンを許すもボトムからの腕十字で激勝!

現役王者にして優勝候補の大本命!!

一回戦では、不安視されたグラウンド下からの攻めも、盤石であることを知らしめた皇帝閣下。レスリングの猛者ランデルマンにテイクダウンされても、前号の本誌で「我がハンマーハウスは、レスリングは目を瞑っていてもスイスイできるが、サブミッションの対応能力に欠ける」と、ランデルマンの師・コールマンはそう指摘しているので、師弟ともども下からの極めであっさり葬っても不思議ではない。ランデルマンの強烈無比なコングフックはたしかに脅威だが、天才的な当て勘をもつヒョードルは、打たれる前に打ち砕くことは可能だ。

GP』BEST4の行方

リオの柔術マジシャンvsテキサスの荒馬

[ブラジリアン・トップチーム] アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs ヒース・ヒーリング [ゴールデン・グローリー]

横井宏考戦ではボクシング特訓の成果を見せ、最後は秘技スピニング・チョークで一本勝ちをGET!!

名勝負、再び!! 今度は一本勝ちだ!

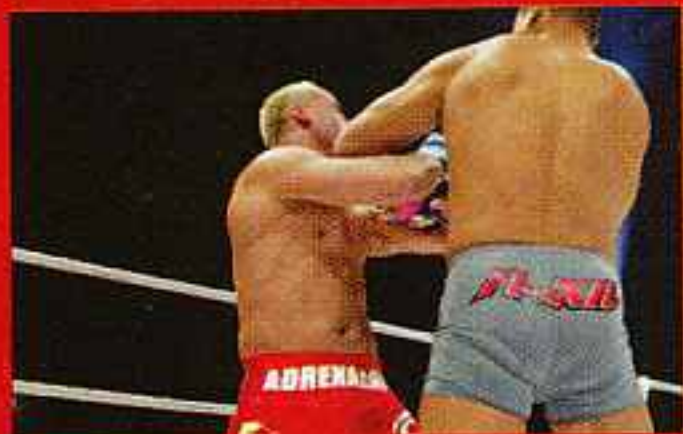
暫定ながら『PRIDE』ヘビー級王者に君臨するこの男は、VT世界最高峰の頂点に立ちながら、いまだ新人選手並のハングリー精神を保っている。一回戦の前には、キューバで合宿を張りボクシング特訓、時差ボケ対策のために早々と来日。横井戦に備えていた。今回も戦闘準備に抜かりはないだろう。なにしろ全試合オール一本勝ちの優勝宣言をしてるので、そのモチベーションはただごとではない。試合後、大好きな夜の六本木に気持ちよく直行、ハッスル、ハッスル!! するためにも、荒馬をきっちり締め落とす構えである。

一回戦の高橋義生戦は、パワーを活かした鉄槌連打でTKO勝利。

復讐の荒馬、2年半振りの再戦へ!!

前回のノゲイラ戦は、01年11月23日『PRIDE.17』。『PRIDE』初代ヘビー級のベルトを争い、ノゲイラの魔術の如き寝技を幾度となくかわし続けたが、スタンド、グラウンドともに実力差を見せつけられての判定負け。ヒーリングはその後、ヒョードル、ミルコ相手に惨敗を喫し、一時はドン底まで叩き落とされるも、現在は4連勝中と復調をはたしている。一回戦には事実上、一階級下の高橋に翻弄される局面も見受けられたが、恵まれた身体を活かした爆発力をいかんなく発揮すれば、ノゲイラの牙城を揺るがすことはたやすいだろう。

ハッスル暴走王vs大巨人

［ハッスル軍］小川直也 vs ジャイアント・シルバ［高田モンスター軍］

K-1ファイターのレコから打撃でダウンを奪った小川は、最後は寝技でキュッと絞めた。

準決勝のテーマもハッスル、ハッスル!!

『ハッスル』普及のテーマを背負って、ハッスル、ハッスル!! の小川は、グランプリ一回戦でK-1ファイターのステファン・レコを打撃で吹っ飛ばしたことで、その幻想をさらに膨らませることになった。準決勝のシルバ戦には、楽勝ムードも漂っているが、小川本人も口にしているように、何が起きるかはわからないのが勝負事である。一寸先は闇。ファンの視線はすでにグランプリ決勝戦、ノゲイラやヒョードルとのドリームマッチに向けられているが、シルバは230センチ235キロの巨体を誇る。何が起こっても不思議ではない。

一回戦はvs相撲。まさかのジャイアント・アームロックで一本勝ちを強奪!!

GPのガリバー旅行記、第2章に突入!!

とにかくデカイ。デカイだけの理由でグランプリで出てしまったシルバは、テクニックなどまるで持ち合わせていないかと思いきや、なんと一回戦はジャイアント・アームロックで一本勝ちを収めてしまった！ デカイだけの理由でグランプリで出てしまったシルバは、ただデカイだけではないのである。バスケで培ったそのスピードも油断はならない。2階から振り下ろすドリブルパンチ、乗っかるだけで凶器となる巨体、マヌケな顔立ちも相手に大きな圧力となる。デカイだけでグランプリで出てしまったシルバだが、ただただデカイだけではないのだ！

8・15決勝ラウンドに勝ち残るのは誰だ?『PRIDE・G

巨大格闘ロボットvsロシア軍隊・最強

［ゴールデン・グローリー］セーム・シュルト vs セルゲイ・ハリトーノフ［ロシアン・トップチーム］

滑り込み参戦となった一回戦。ガン・マッギーを腕十字で仕留めた。

地上波放映でダイジェスト扱いはイヤ!

こいつもデカイ。しかし、ただデカイだけの理由ではなく、実績&実力をかわれてグランプリに出場したシュルトは、ここぞというときに敗戦を喫して、浮上のチャンスを掴めてない。つい先日もオランダでは、ムエタイルールでイグナショフと対戦し、1RKO負け。ツイてない。そして、『PRIDE』開幕戦の地上波放映では、唯一ダイジェスト扱いたった。大道塾、パンクラス、『PRIDE』、K-1と、どの場でも実力者の評価を授かってきたが、シュルト初めての壁がTV局である。ハリトーノフ戦ではTVノーカット放映を目標に頑張ってもらいたい!?

一回戦・最大の潰し合いは、ハリトーノフがニンジャに打ち勝った!!

“新・三強”襲名も間近? GPのダークホース!!

あのムリーロ・ニンジャを完膚無きまで叩きのめしたハリートノフ。『PRIDE』過去2戦の闘い振りで「ロシア軍・最強兵士」の片鱗を覗かせていたが、ヒョードル以上の逸材という触れ込みは、いよいよ真実味を帯びてきた。人見知り激しいヒョードルとは違って、あれだけ鋭いボディブローを放っておきながら、「打撃はテレビなどで見て知識がある程度」とジョークを飛ばす一面も（顔が怖いのでジョークに聞こえないのが）。ヒョードルとは遺恨凄惨マッチを期待する声もある。シュルトはヒョードルも登り切った山なので、一気に踏破したいところだ。

6・20 PRIDE・GP　3大スペシャルマッチ見どころ大解剖！①

これぞゴッドアングル！吉田vs小川戦への第1Rが今、始まろうとしているのだ!!

ターザン山本

マーク・ハント vs 吉田秀彦

人について書いたり、言ったりするとき、嫉妬（ジェラシー）という言葉を使うのは、相手に対して失礼なことになるのだ。

吉田秀彦が6・20『PRIDE』さいたま大会に打って出たのは、ひとえに小川直也を意識したからである。小川の側にはまったくそういう意識はなかった。

こういう計算外、予想外のアングルほど興味深いものはない。なぜなら小川と吉田がついに同じ日、同じリングに上がることになってしまったからだ。

両者の間に一つの接点ができた。これを、我々は決して見逃さない。ビッグプレゼントへの予感と感じてしまうのは、はたして私だけだろうか？　これこそゴッドアングルだ。

なぜなら地上の誰がやろうとしても無理だったからだ。すべては神におまかせしよう。それにしても小川という人は、いい意味でも悪い意味でも我々を裏切ってくれる。

それに関連して『PRIDE』のGP（グランプリ）は今や優勝者が誰になるかよりも、我々の中では小川の一挙手一投足の方が断然、上位概念になっている。わかりやすく言うと、今や小川以外の選手は、すべて刺身のつま状態なのだ。

いやぁ、痛快である。面白過ぎる。純度100%の勝負論の世界と思っていた『PRIDE』のGP大会も、小川個人のドラマの前には形無しなのだ。この時点でもう小川の独り勝ち状態になっている。なぜなら小川がトーナメントで負けてしまうと、GPの存在理由がもはやなくなってしまうからだ。

そうであるなら、小川の影が少しでも見えるところには、本来、吉田は出ていくべきではない。しかしそこで出ていかなかったら、プロとしてある種のチャンスを失う。

出るべきか、出ざるべきか？　それが問題だ。でも、吉田は出た。つまりやっと吉田はプロの世界に足を踏み入れたのだ。

プロとは第三者が評価をしていく世界のこと。アマチュアの競技は記録しか評価するものがない。たとえばオリンピックで金メダルを取るとか……。

これは記録的価値しかない。これからの吉田はマスコミ、関係者、ファンが「オレを取るのか、小川を取るのか？」を突きつけるべきなのだ。ということは吉田にとってマーク・ハントとの一戦は“対小川”に向けて、その答えを出すしかないのだ。

普通に考えたら、吉田にとって、今の小川は手が付けられない強敵である。あらゆる風が小川の方に向いているのだ。そこをなんとかしたいと不利を承知で吉田は勝負に出たのだ。そういう吉田は無条件で支持したい。

直接には闘わないのに、間接的に小川に勝つ必要がある。要はインパクトである。ハントとの試合で観客にどんなインパクトを与えることができるのか？

吉田vsハント戦はそこの部分だけが我々のジャッジの対象にある。要は吉田の勝ち方とハントの負け方が問題なのだ。

吉田の運命は勝敗や結果ではなく、ハントの出来にある。敗者が勝者の価値を決定するという真実は、先に行われた藤田vsサップが証明してくれた。

そうなると、やっぱり気になるのはハントである。私的には小川の得意技を吉田かハントのどちらかに試合で出してほしい。そういう挑発を吉田に対してすべきである。私だったら小川のテーマ曲で花道を登場してくる。それぐらいのサプライズはプロならやってみろなのだ。

吉田にとっては『PRIDE』のGPよりもっと凄いもの……「小川vs吉田戦」があるということを、すべての人に暗示させる試合をやってしまうのだ。真のプロならそういう発想をするはずなのだ。私のように、猪木からすべてを学んだ人間は、そういう意地悪なことしか考えない。

小川vs吉田戦に向けての第1ラウンドが今、スタートしようとしているのだ。こんな黄金カードは他にない。おいしいよなぁ。おいしいものは絶対に食べたい、味わってみたい。6月20日はそのことを確認するために、私はさいたまスーパーアリーナに行く。

この闘いの影に小川あり！

Mark Hunt vs Hidehiko Yoshida

K-1ワールドGP王者vs柔道金メダリスト

6・20 PRIDE・GP　3大スペシャルマッチ見どころ大解剖！②

ニーノにとっては最後のチャンス“いい試合”を見せないと次はないと思います

“ブッカーK”川崎浩市

桜庭和志 vs ニーノ・“エルヴィス”・シェンブリ

桜庭和志、リベンジロード第一章の相手は、かねてから噂にあがっていたニーノに決定した。6月2日に行われた会見の席上で、「……ニーノとはやった記憶がない。その日は夢を見てたので今回が初対決」とうそぶいた桜庭。ニーノ戦と同日に行われるランペイジ vs アローナの一戦について「シウバの持つミドル級王座の次期挑戦者決定戦として考えている」と榊原代表が発言すると、すかさず「ボクの試合も挑戦者決定戦にして下さい！」と猛アピール。これには榊原代表も「結果を出してもらってから考えます」と苦笑い。さらに、恒例となっているニーノの〃エルヴィス〃コスプレに対抗する入場パフォーマンスについて記者から質問が飛ぶと「いま考えてる最中です。（ニーノ戦が）次期挑戦者決定戦になれば真剣に考えます」と、再び榊原代表をチラリ、4度目のシウバ戦に対する強いこだわりを見せた桜庭。

前回、桜庭は夢の中でニーノと闘った際にはフィニッシュ寸前まで圧倒。最後の最後でバッティングを受けた上での敗戦だっただけに〃初対決〃と言えども少なからず自信があるのだろう。いかに〃ヒクソンの再来〃と呼ばれるニーノと言えども、総合でのキャリアや2人の体格差から、ファンや関係者の間では桜庭の勝利を予想する声が圧倒的に多い。果たして桜庭はニーノを退け4度目のシウバ戦の足掛かりをつかむことができるのだろうか？『PRIDE・26』で浜中和宏に敗れた後、所属ジムをグレイシー・バッハから、シウバの所属するシュートボクセに移籍し、『PRIDE』へ約一年振りの登場となるニーノの近況を〃ブッカーK〃こと川崎浩市氏に聞いてみた。

今回、ニーノはシュートボクセに移籍して初めての試合になるんだけど、ニーノのマネージャーがフジマール（シュートボクセ代表）の『メッカ・バーリトゥード』の共同経営者であり、その関係でシュートボクセと練習することになったのがきっかけです。あと、シュートボクセに移籍したんでニーノは打撃も相当上達してるんじゃないかって言う人も多いけど、実際は、まだ移ってからそんなに経ってないんで、そう考えるのはあまりにイージーですよ。そんなにすぐに上達するのなら誰も苦労しないからね。ただニーノは前回の桜庭戦でも打撃をそれなりに出して行ったんで、スタンドでは打って行くんじゃないかとは思うよ。それにセコンドはフジマールも付くし、ヴァンダレイも付くかもしれないので、打ち合いに行くかもしれないね。『武士道』の三崎戦でのマカコのように、短い期間だけどシュートボクセで練習して「シュートボクセに来たからシュート・ボクセらしく殴り合いでいく」って思ってるかもしれないね。「なんでマカコは、もっとグラウンドにいかないんだ」ってシュートボクセ以外のブラジルの選手は言ってたけど、それはやっぱり「シュートボクセに入ったからには」ってことで、そういうスタイルを見せようとしたわけ。だから、ニーノも、もしかしたら打ち合いに行く可能性はあるんじゃないかな？玉砕するかもしれないけど試合としては面白くなるかもしれないよ。もしかしたらニーノが桜庭選手をノックアウトする可能性もないとは言えないしね（笑）。バーリ・トゥードは何が起こるかわかんないんだから。

それとニーノって「ネクスト・ヒクソン」って呼ばれるだけあって、柔術では素晴らしいものを持ってるんですよ。お互いに道衣を着たら最高にいい試合になると思うよ。さすがにそれは無理か（笑）。柔術ではサイズとか関係ないぐらいのテクニックを持っているっていうのは事実だけど、やっぱり柔術とバーリ・トゥードは違うっていうのは本人も感じてるところじゃないかな。でも、グラウンドで噛み合ってくれたら面白い試合になるかもしれないですね。私としてはそっちを期待してるんですけど。それだけのものを持ってますから。

それに、ある意味、ニーノにとって今回の桜庭戦が最後のチャンスだと思うんでね。厳しい言い方になっちゃうけど、よっぽどいいものを見せないと、たぶん呼ばれなくなると思いますよ。とにかく勝負にいって、いい試合を見せてもらいたいですね。（談）

サクは悪夢を払拭できるのか!?

Kazushi Sakuraba vs Nino "Elvis" Schembri

なるか、次期挑戦者決定戦

6・20 PRIDE・GP 3大スペシャルマッチ見どころ大解剖! ③

真の“進化する野獣”リアル・ビーストはこのランペイジなんです!!

日本武道傳骨法創始師範 **堀辺正史**

ヒカルド・アローナ vs クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン

6・20『PRIDE』さいたま大会で、私がもっとも注目すべき試合だと思うのが、このアローナとランペイジの一戦です。

というのは、この日はGPの2回戦が4試合、それから吉田秀彦、桜庭和志のスペシャルマッチが組まれていて、メンバー的には非常に豪華なんですが、結果が比較的予想しやすい試合が並んでいますよね。その中にあって、このアローナvsランペイジ戦は、非常に高いレベルで実力が拮抗しているので、我々の想像を超える試合になる可能性があるんですよ。そういった試合こそが『PRIDE』の醍醐味であり、今大会でそれが最も強く感じられるのがこの一戦というわけですね。

しかも、この試合にはヴァンダレイ・シウバの持つPRIDEミドル級王座への挑戦権が事実上賭けられているということで、どちらも気合いの入り方が違うでしょうから、非常にエキサイティングな攻防が期待できると思います。そして、なんといっても興味深いのが、アローナ、ランペイジのどちらもシウバと因縁があるということなんですよ。

アローナはブラジリアン・トップチームとして、シュートボクセのシウバには強烈なライバル意識を持っていますし、道場同士の覇権争いの様相も呈していますから、これはそういった背景も含めて非常に面白い。

一方、ランペイジも昨年のミドル級GP決勝でシウバに敗れはしましたけど、内容的には勝っていたと言ってもおかしくない試合だったんですよね。しかも、シウバとは常に罵り合っている間柄ですから、どちらが勝ってもシウバ戦は間違いなく盛り上がるんですよ。そういう幾つかの要因を考えてみると、『PRIDE』もなかなか心憎いカードを組んだと言えますよね。そこら辺の事情はマニアの方はよく知ってると思うんですけど、知らない人はその辺の事情を理解すると、かなり感情移入できる試合になるんじゃないかなと思いますね。

今、シウバは近藤(有己)選手との一戦が取りざたされていますけど、シウバにとって本当に怖いのは、ハッキリ言ってこの2人です。アローナは弾丸タックルと押さえ込みを得意としているシウバにとっては“天敵”のような選手だし、一方、ランペイジというのは、ここ数年の『PRIDE』で最も急成長した選手だと思うんですよね。

彼の『PRIDE』に出てきた経過を思い出してみると、最初は桜庭選手の噛ませ犬的な雰囲気があったのに、一回ごとに確実、かつ急激にレベルアップしているんですよ。これは彼の努力の賜だと思いますけど、普通、パワーがズバ抜けてある選手は、技を学んでいくと、力と技が上手く同居できなくて、逆に持ち味を失ってしまうことが多いんですよね。そのいい例がボブ・サップですよ。サップは確かに力はあるけれども、格闘技の技を覚えていくにつれ、彼のパワーとか闘志が死んでしまって、空回りしてきましたよね。でも、ランペイジは、同じビースト系なんですけども、そのケダモノ的な特性を失わないで、格闘家としての深まり、広がりを身に付けてきているっていう点で、『PRIDE』の中でも私がいま最も注目している選手の一人なんですよ。

ランペイジは前回、大晦日に美濃輪選手と闘って以来、半年ぶりの参戦ですから、我々が想像できないぐらい、さらに強くなってる可能性があるんで非常に楽しみです。もちろん、アローナが世界一の寝技を持っていることに異論はありませんから、この一戦はシウバへの挑戦者決定戦というより、事実上のミドル級最強決定戦と言っていいかもしれない。ヘビー級GPの影で、隠れ最強決定戦が行われているということですね(笑)。

そして、私はアローナの最高のグラウンドテクニックすら破壊して、ランペイジが勝つと予想します。(談)

どっちが勝ってもシウバが危ない!

Ricardo Arona vs Quinton "Rampage" Jackson

因縁のミドル級裏最強対決

1年6ヶ月ぶりの復帰戦でミルコ相手に大奮闘！
されど、マスコミ報道に激怒!!

あの試合を見て「ミルコ調子悪い」と思う格闘技マスコミはド素人以下！もう辞めたほうがいいよ!!

左ヒザの手術から再起し、5･23『PRIDE武士道』で、実に1年6ヶ月ぶりに復帰をはたした金ちゃん。しかも、その相手があのミルコ・クロコップながら、技術と根性で妖刀を凌ぎ、判定に持ち込む奮闘を見せた。しかし、この試合を報道する新聞、雑誌の論調は、「ミルコは体調不十分だった」というものばかり。これには金ちゃんも激怒！ 久々にボヤキ節が爆発した！

聞き手／堀江ガンツ
撮影／丸山剛史
試合撮影／乾晋也
designed by hisa (Two Three)

金原弘光

祝・復帰！ ボヤキ節も30%増量!!（当社比）

5·23『PRIDE武士道』スペシャルマッチ

ミルコ・クロコップ［2R 判定 3-0］**金原弘光**

あの日のミルコが「調子悪かった」なんて、どこを見てるんだって！

金原　も〜う、腹立って仕方ないよ！

――いきなり、どうしたんですか！（笑）。1年6ヶ月ぶりの復帰を記念して、今日は「金ちゃん復帰おめでとう。ミルコ戦おつかれさま」インタビューなんですよ。

金原　いやさぁ、ミルコ戦のあとに新聞とか雑誌とかマスコミの報道見たらさ、みんなどこもかしこも「ミルコは調子悪かった」とか書いてて、どこを見てるんだって！　あれで調子が悪かったら、調子いいミルコはどうなっちゃうんだよ⁉

――そんな超人はいないと（笑）。

金原　過去のミルコの試合見てみればわかるじゃん。結構彼はスロースターターだし、相手を見るよね？

――じわじわプレッシャーかけて、一気に仕留めますよね。

金原　そうでしょ？　それなのに、いきなりもの凄いラッシュだったじゃん。

――1秒でも早く勝って、完全復活を見せつけたいというのがあったんでしょうね。

金原　そうだよね。それはオレも闘ってて凄く感じたよ。ミルコは3分でスタミナ切れたって言ってたけど、あんだけ畳みかけたらそりゃ切れだろうってくらいのラッシュだったからさ。でも、それをオレが捌いて凌ぎきったからスタミナ切れたわけでしょ？　ミルコはKO勝ちが欲しくて欲しくてたまらなかったのにKOできなかったから、あんなに落ち込んだわけじゃない。それはある意味、オレがしてやったりっていう感じだよね。それなのに後半動きが落ちただけで「ミルコ不調」ってさ、あんな動きがいい選手いないよ！

――怒ってますねぇ（笑）。

金原　そりゃムカツキますよ。オレだって、結果は完敗だったからもちろん満足はしてないし、ほめてくれとは言わないけどさ。今回1年半ぶりの復帰だし、体重差も10キロあるし、ミルコみたいな超一流選手相手に2週間前のオファーで受けて、そういう悪条件の中ではいい仕事ができたかなという自負はあったんだよ。それをオレがKO負けしなかったっていうだけで、「ミルコ不調」だからね。

――「ミルコが金原をKOできないなんておかしい。不調に違いない」ってことなんでしょうね（笑）。

金原　ムカつくなぁ。ホント、試合をちゃんと見て書いてほしいよ。やっぱり総合格闘技って、まだ野球とかみたいに専門の解説者がいないからなんだろうけど、わからなかったら、プロの選手に聞けばいいじゃない。ちゃんと取材してさ。一流の選手は総合の人もボクシングの人もみんな「今回のミルコは調子よかった」って言ってるよ。だって、みんなをKOしたキックを俺もバンバン喰らって、ミドル喰らってホントに苦しくてさあ。それでも微妙にずらして上手く捌いてるのがわからないかなぁ。

――それはちょっと難しいですね（笑）。

金原　わからない人はオレが講習してやるよ（笑）。マスコミ集めて講習会開こうかな？

――また高いですね（笑）。一人2万円で。

金原　それで技術がわかるようになれば安いもんでしょう（笑）。ハイキックもまともに喰らったらガードの上からでも威力が凄いから、ちょっと力を後ろに逃がしてたんだよ。あの試合を極真空手の人が観ててさ、「凄いなあ」って言われたんだから。ホントに格闘技マスコミを名乗ってる人間で、アレを観て「ミルコが調子悪い」って言うんだったら、もう格闘技のこと書くの辞めた方がいいよ！

――素人は黙ってろと（笑）。

金原　だって凄いラッシュなんだもん。ビックリしちゃったよ。オレなんかそれ捌くだけで2分でスタミナ切れたからね。

――あ、ミルコより1分早く切れましたか（笑）。

金原　だからさ、頭が割れてよかったよ。

――え⁉　割れてよかったんですか？

金原　あれでドクターチェックで休めたから。あん時、呼吸が苦しくて限界だったの。ミルコが大外刈りで倒して、マウントとったじゃん。もう、あの時は足に力が入らなかったんだよ。全然踏ん張れなくて。

Kanehara Hiromitsu

金原弘光vsミルコ・クロコップ REVIEW

短期KOねらいの怒濤のラッシュを凌がれたミルコは、1R後半から明らかにスタミナ切れ。タックルを切るとこんな表情を見せた。

この日のミルコは伝家の宝刀・左ハイだけでなく、パンチも多彩。よく伸びるリードジャブや、アッパーまで繰り出していった。

打撃をかいくぐりタックルに行く金原だが、ミルコはすぐさまがぶり、脳天にヒザを打ち付けていく。しかし、これは効いてないとのこと。

試合開始早々からミルコはエンジン全開！　ご覧のようなすさまじい形相で、当たればKO必至のラッシュ。金原はこれをなんとか捌く。

金原の攻撃で有効だったのは、右のミドル（もしくはハイ）から右ストレートへのコンビネーション。１Ｒにはこれがモロに入るシーンも。

ミルコのミドルが腹にきてたのもあるけど、それと息切れがダブルパンチでさ、立ってるのがやっとだったんだよ。だからドクターチェックが入った時に「お願いだから、長く診ててくれ！」って思ってね（笑）。ミルコも肩で息してて、疲れてるの分かったけど、それ以上にこっちはもう限界だったから。昔、Uインター時代に高山（善廣）君とスタミナ配分度外視でムチャクチャな試合した時ぐらい疲れたよ（笑）。

――それぐらいお互いMAXだったと（笑）。

金原　息が苦しくてしょうがないから、潰される覚悟でタックルいって、そこで休んだのよ。それぐらい息が上がってたからね。

――でも、4点ポジションの攻撃が有効だったから、そうとうキツかったんじゃないですか？

金原　いや、実はミルコのがぶってからのヒザ蹴りって痛くないんだよね。

――え!?　痛くないんですか？

金原　何でかって言うと、ミルコは切りかえされたくないから、凄い力で首を締めるでしょ。そうするとヒザ蹴りの威力がないのよ。ミルコと試合した人が「アレは全然痛くないですよ」って言ってたんだけど、喰らったらホントに痛くなかったからね。手でガードしてればいいから休めたよ。

――見てる方からしたら、「金原大ピンチ！　またしてもタオル投入か？」って感じでしたけどね（笑）

金原　あれは全然効いてないよ。頭が割れたのはパチンって一回蹴られた時だしね。だから、わざとがぶらせて、そっから切り返しとか狙ってたんだけど、力が強すぎてできなかったね。しかも俺、92キロなかったんだよ。相手はそれより10キロ近く重いんだからさ。

１Ｒ終了間際、ミルコは猪木－アリ状態からなんとジャンプ一番踏みつけ！　この日は、ミルコの今まで見れなかった面が見られた。

２Ｒ、なんとミルコがマウントポジションからＶ１アームロック、肩固めにトライ。極められなかったが、進化の一面が見られたのは確かだ。

２Ｒ後半に完全に手数が減ったミルコに対し、金原が徐々に右ミドルキックで反撃。もし、３Ｒあったら、はたしてどうなっていただろうか？

判定はもちろん3－0でミルコ。しかし、試合後はミルコの方から金原に近づき健闘を称え合った。金原、ミルコ共に次回に期待だ！

Kanehara Hiromitsu

――結局、「体重10キロ差にして、4点ポジションなしを狙う」っていう作戦も、どうやらミルコ陣営に感づかれたらしく、9キロ差だったんですよね（笑）。

金原　ホント、こっちは体格から何から、大ハンデ背負ってたんだから。それをさ、「ミルコに何が起こっているのか……」とかさ、何もわかってないよね。何が起こってるかなんて、次にミルコが誰かと試合したらわかるんじゃない？　いかにミルコが調子よくて強いかってことが。

――そうしたら、「どん底の金原戦から、ミルコが復活！」とか書かれるんじゃないですか（笑）。

金原　あったま来るなぁ～～！　ホント、みんな後からわかるんだよね。リングスの外人も最初から強いんだけど、『PRIDE』とか、UFCでチャンピオンになってから、「強かったんだ」ってわかった人多いでしょ？

――いや、リングスのファイターは強いですよ。ハンス・ナイマンですら未だにメチャクチャ強かったですから（笑）。

金原　そうでしょ？　ナイマン、怖いよね！（5・30『一撃』で）顔殴っちゃいけないルールなのに。いきなり寝てる選手の顔を殴るからビックリしたよ（笑）。

――何の躊躇もなくいってましたもんね。あの顔面にいくコンビネーションの早いことといったらなかったですよ（笑）。

金原　恐ろしいよね。あれなら反則しなくても勝ってたんじゃないかな。もういい歳なのにね。

――明らかに40代ですよね。

金原　強いよ、まだまだ。リングスで試合した時も「この人、上手いな」って思ったよね。捌くのも、カウンターも上手いし。リングスの外人の中では一番上手かったんじゃないかなあ。バーリ・トゥードは合わないかもしれないけど。

――金原さんは、そんな人とばっかり闘ってるんですよね（笑）。

金原　だからさ、『紙プロ』はちゃんと書いてくれないと困るよ。また、オレが怒ってることについて変に書くんじゃないだろうね？

――もちろんタイトルは「金原、マスコミ報道に大いにボヤく！」ですよ（笑）。

金原　ボヤいてるんじゃなくて、怒ってるんだよ！　俺がエンセンだったら「アナタのことボコボコにするよ！」って電話かけまくってるよ！（笑）。

――ガハハハハ！

金原　でもさ、エンセンも「今回のミルコ、強かったねえ。アナタ全部捌くから、ミルコ困ってたね」って大絶賛してくれたからね。だからマスコミも格闘技のこと書くんだったら、ちょっと経験しないとダメだよね。何にも運動したことない奴が書いたらダメでしょ？　思わない？　通いなさいよ、ちょっと。今はジムがいっぱいあるんだから。そうしたら、どういうものか分かってくるよ。そうしないといい記事が書けないでしょ。

――まぁ、ウチは技術的なことは半ば度外視な雑誌なんで（笑）。でも、素人意見を言わせていただくと、金原さんはよくあの死闘をやり終えたなって思うんですけど、ミルコがあわやっていうシーンがなかったのが残念なんですよね。金原さんだったら、もっとできるだろうって。

金原　それは俺も大きな反省点だよね。タックル取れなかったから。でも実はKOねらってたんだよ。

――一回でも「ミルコ危うし」っていうシーンがあったら、また評価も全然違ってた

試合後、ミルコが「あなたは勇敢なファイターだ」ってほめてくれたよ。

と思うんですよ。

金原　ホントはミルコ対策を練ってあってさ、タックルにしても違うことやろうと用意してたんだけど、復帰戦だったから頭が真っ白になっちゃって、試合中に一回も出せなかったんだよね。それが悔しいんだよ。ミルコ対策も、ABCって3パターン作ったんだけどさあ、一個も出なかった。

――そんな秘策があったんですか。

金原　そう。その局面になったらセコンドに「AとかBとか言ってくれ」って指示してたんだけどさ、セコンドの声聞く余裕がなかったよ。それとやっぱり、前半飛ばしすぎて、息が上がって力が入んなかったんだよね。アレで一回でもテイクダウン取れたら、ノゲイラvsミルコみたいな展開になったかもしれないしね。

――そこにいくのが難しいんでしょうけどね（笑）。

金原　それでも1年半ぶりの試合と、体格差考えれば、まあいいかなって思うんだけどね。だから俺、2日後に榊原代表に電話してさ、「(7・19)名古屋のミルコの相手、決まってないですよね？　僕やりたいんですけど」って言ったんだけど。

――やんわりと話を逸らされましたか？（笑）

金原　「んー、考えておきます」って言われたけど、まあ考えてないわな（笑）。

――考えてないでしょうね（笑）。

金原　でも、自分の中で次やったら負けないっていう自信がついたよね。だって自分の中で、あんまりいい状態じゃなくて、あんだけできたっていうのがあるからさ。これでちゃんと動けて、ABCが出せたら、間違いない！　長井秀和調に（笑）。復帰戦であれだけやれて自信がついたから。お互いに価値が上がってさ、またやれる時があれば一番いいんだけどね。

――そう言えば、試合後ミルコにUKR・Tシャツを渡しに行ってましたけど、あれはどんな意味があったんですか？

金原　ホントはミルコをKOして、寝てるところにサッとTシャツを掛けてやろうと思ってたんだよ（笑）。

――そんな大胆不敵なことを考えてましたか（笑）。

金原　でも、判定負けだしあげようかなって思って、スッとあげたんだよね。そしたらさ、ミルコってホントに誰とも口きかない難しい人間じゃない。それが控え室に帰る時に会ったら、ミルコとミルコの陣営が「カネハラ、カネハラ！」って来てさ、ミルコの控室に案内されたんだよ。それでミルコと2ショットで写真撮って、周りのセコンド一人一人と写真撮ってさ、そんでミルコがTシャツくれたんだよね。

――いま着てるTシャツですね。

金原　そう。お返しだろうね。それで「あなたはホントに勇気のあるファイターだ」って褒めてくれてさ、「ありがとう」って感謝されたよ。

――闘いを通して認め合った、と。

金原　「俺は1年半ぶりの試合だったんだぞ」って言ったら「分かってる。だからお前は凄いんだ。〝ブレイブ・ハート〟を持っている」って言ってたけどね。

――マスコミはわかってくれなくても、闘ったミルコだけはわかってくれたんですね（笑）。

金原　でも周りの反応は「感動した」って言うひとが多いんだよ。「涙しました」って言う人もいて、自分ではビックリしてるんだよね。それからファンメールがやたら多いのよ。未だに来るからね。

――これから地上波で流れたら、また来るんじゃないですか。

金原　携帯もさ、ひどい時には3日ぐらい鳴らない時もあって、「俺の携帯、不通なんじゃないか？　捨てちまうか」って思う時もあるぐらいなんだけど、試合終わってから、やたら多くて、みんな「感動しました」って言う人が多いんだよ。自分の中では負けたからしょっぱいっていうのしかなかったんだけどさ。でもみんなミルコにKOされてるんだよね。そう考えたらまだいいかなって。

――試合後、前田（日明）さんとは話しました？

金原　うん。電話で報告したら、「復帰戦であれだけやれたら、大したもんやなあ」って言ってくれたよ。前田さんには試合前、こういう技やれ、ああいう技やれっていろいろアドバイスしてくれたんだけど、何一つできなくて申し訳ないと思ってたんだけどさ。

――前田さんの秘策も、さっきのABCに入ってたんですか？

金原　いや、前田さんに教えてもらった技はDぐらいなんだけど（笑）、そのDも全然出せなくてさ。でも、「復帰戦であれだけやれたら、次やったら絶対勝てるよ」って言ってくれたよ。そのぐらい復帰戦っていうものは大変だものだって。前田さんもヒザ手術してるから、分かってくれてるんだよね。

――金原さんと同じ手術してるんですよね。

金原　そうそう。それで前田さんは復帰戦で、最初にいきなり蹴ったら、後十字（こうじゅうじ）靱帯っていうのが切れちゃったんだって。「復帰戦ってそれだけ怖いものだから、気を引き締めていけ。いつもの調子のようにやるとよくないよ」って、ずっと言われてたからね。

――じゃあ、金原さんも下手したらニーブレス生活になってたかもしれないんですね。

金原　そうだよ！　みんな俺がケガしてたこと忘れてるんじゃないの？　ヒザの大きな手術して、1ヶ月も病院のベッドで寝てた

試合後、金原はミルコのコーナーまで歩み寄って、「UKR」Tシャツをプレゼント。ミルコの心に「日本に金原あり」を植え付けることはできたか。

んだからさあ。忘れてるよ、それを。『紙プロ』がお見舞に来なかったから悪いんだよ！

――ウチがお見舞に行って、痛々しい写真を載せるべきだったんですね（笑）。

金原　それがないから、みんな俺がどんだけ辛かったか分からないんだよ（笑）。

――ただ、1年半試合に出なかっただけみたいな感じはあるでしょうね（笑）。

金原　手術して最初の何日間は車椅子だったんだから。それが松葉杖になって、その後、そして赤ちゃんが初めて歩くみたいなヨチヨチ歩きして。平坦なとこしか歩けないから、階段上れなくてさ。

――『ハイジ』のクララみたいな感じだったわけですね（笑）。

金原　そうだよぉ。クララが歩けたときは感動したでしょ？　俺だって歩けただけで感動したんだから（笑）。それがミルコと闘うまでになったんだからね。

――クララがミルコとフルタイムやるまでになったと（笑）。

金原　だから、あの俺を知ってる人は、感慨深いものがあったと思うよ。

――そういえば、ミルコ戦の後、入院してたっていう話でしたけど体は大丈夫なんですか？

金原　見てのとおり全然大丈夫だよ。ただ、頭が切れてたから、縫いにいかなきゃいけなかったのと、あとヒジを曲げた状態でミドルキックを何発も受けたら、肉が裂けたんだよね。

――肉が裂けましたか！

金原　ヒジは皮しかないじゃん。だからもう骨が見えてたの。それでドクターがチェックしたときに、骨にバイ菌が入るとウミを取り出すのが大変だし、最悪の場合、骨を削らなきゃいけないから、抗生物質飲むよりも投与した方がいいっていうからさ。「試合終わって暇だし、入院でもするか」っていう感じで、3日間抗生物質投与するために入院してたんだよね。

――その割には、物々しいリリースが流れてきましたからね。「金原、全治2～4週間。頭部及び肘裂傷」とか（笑）。

金原　打撲はあるけどさ、そんな大袈裟に書かなくたって、アンタ。示談金ふんだくる当たり屋じゃないんだから（笑）。俺は入院した次の日から外に出て遊んでたからね。病院から電話掛かってきたけど（笑）。

――それは入院って言いませんよ（笑）。

金原　ちょっと腫れたけど、抗生物質打つだけじゃん。看護婦さんから電話が掛かってきて「どこにいるんですか！　あなたは過出許可も出てないのに、どこほっつき歩いてるんですか！」って。夜9時半ぐらいに帰って「すみませんでした」って謝ってさ。

――じゃあ、別にミルコに半殺しの目にあってたわけじゃないんですね。

金原　ダメージはあるっちゃああるけど、昔KOKでやった決勝トーナメントのデイブ・メネー戦とかノゲイラ戦とかの方がひどかったよね。あれがマックスだったし、あれと比べたら全然たいしたことなかったよ。

――アバラが折れて、目の下を骨折して。

金原　そうそう。4日後にはもう腫れが引いたし、その状態を観て「ああ、思ったほどもらってないんだな」っていうのはあるよね。

――じゃあ、次の7・19『PRIDE武士道』とか出れたりするんですか？

金原　大丈夫じゃない？　ミルコだったらすぐやるよ（笑）。

――ま、それはありえないとして（笑）。次の『武士道』は日本vsブラジリアン・トップチームの全面対抗戦らしいですよ。また金原さんの出番じゃないですか？

金原　いやぁ、でもトップチームとはいいよ～。

――僕は個人的に金原さんとムリーロ・ブスタマンチの試合が見たいんですけどね。お互いボクシングテクニックがあって、極める力もあるから、メチャクチャいい試合になると思うんですけど。

金原　別にいいけどさあ、俺まだ復帰したばっかなんだよ。復帰2戦目でそんな大御所とやる選手なんかいないでしょ？　もうマスコミは勝手なこと言うから。

――やっぱりセミナーやんなきゃダメですか（笑）。

金原　そうだよ。どんだけ大変かたっぷり教えてあげるよ（笑）。格闘技がもっとよくわかりたいマスコミの方は、UKRまでご一報くださいって感じだね（笑）。

――わかりました。久々にたっぷりボヤいていただいたところで、今日はお開きにしましょう（笑）。

金原　ボヤいてないよ。怒ってるんだよ！

【04年6月3日／二子玉川にて収録】

金原弘光打撃セミナー開催

日時：6月13日（日）　18:15～20:15
料金：6000円（税込）
定員：先着20名にて締め切り
6月1日より受付開始
［お問い合わせ・申し込み］
グランデリアスポーツ鴨居
TEL 045-935-0369

前田さんは同じケガしてるから俺のことわかってくれたよ。

Kanehara Hiromitsu

実力者・中村、本領発揮の一本勝ち!

◯中村和裕 VS ハリッド“ディ・ファウスト”×

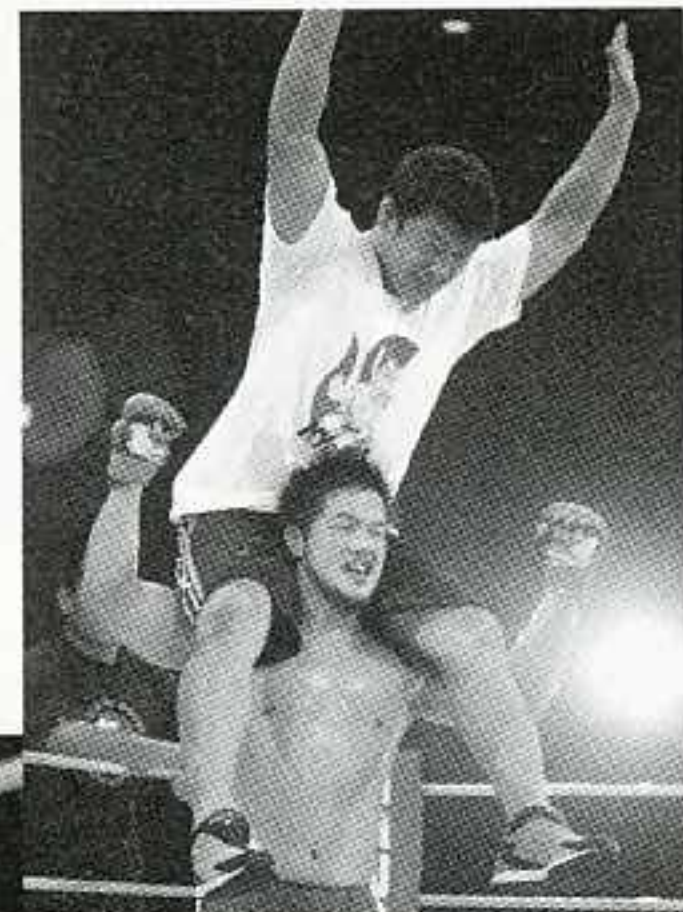
[1R4分45秒、腕ひしぎ十字固め]

4月のGPでノゲイラ相手に大善戦した横井と同様かそれ以上に、選手間で評価が高い中村カズが『PRIDE』4戦目にして初の一本勝ち！　これまでノゲイラ弟、ダニエル・グレイシー、ドスJr.らと互角以上に闘いながらも一本奪えなかったことを悔やんだ高い志が実を結び始めたと言えるだろう。顔つきもプロらしくなって、いよいよ本領発揮してきたカズは、今後も大いに期待できる!

ヤマヨシ、泥臭い闘いの末敗れる

×山本宜久 VS チェ・ム・ベ◯

[2R　判定　3—0]

ケアーへの「DDT発言」の“罰ゲーム”的な感があったミルコ戦で、見事な散り様を見せたヤマヨシが、イッキシンテン、再浮上を期して『武士道』に連続出場。同じ高田道場の今村を下した“韓国のラマジ”チェ・ム・ベと対戦したが、ヤマヨシは投げ技に対して“ロープエスケープ”を連発。イエローカード2枚もらっての痛い痛い判定負け

5.23 PRIDE武士道　其の参　DIGEST

寝業師、またしても観客に敗れる

◯高瀬大樹 VS カーロス・ニュートン×

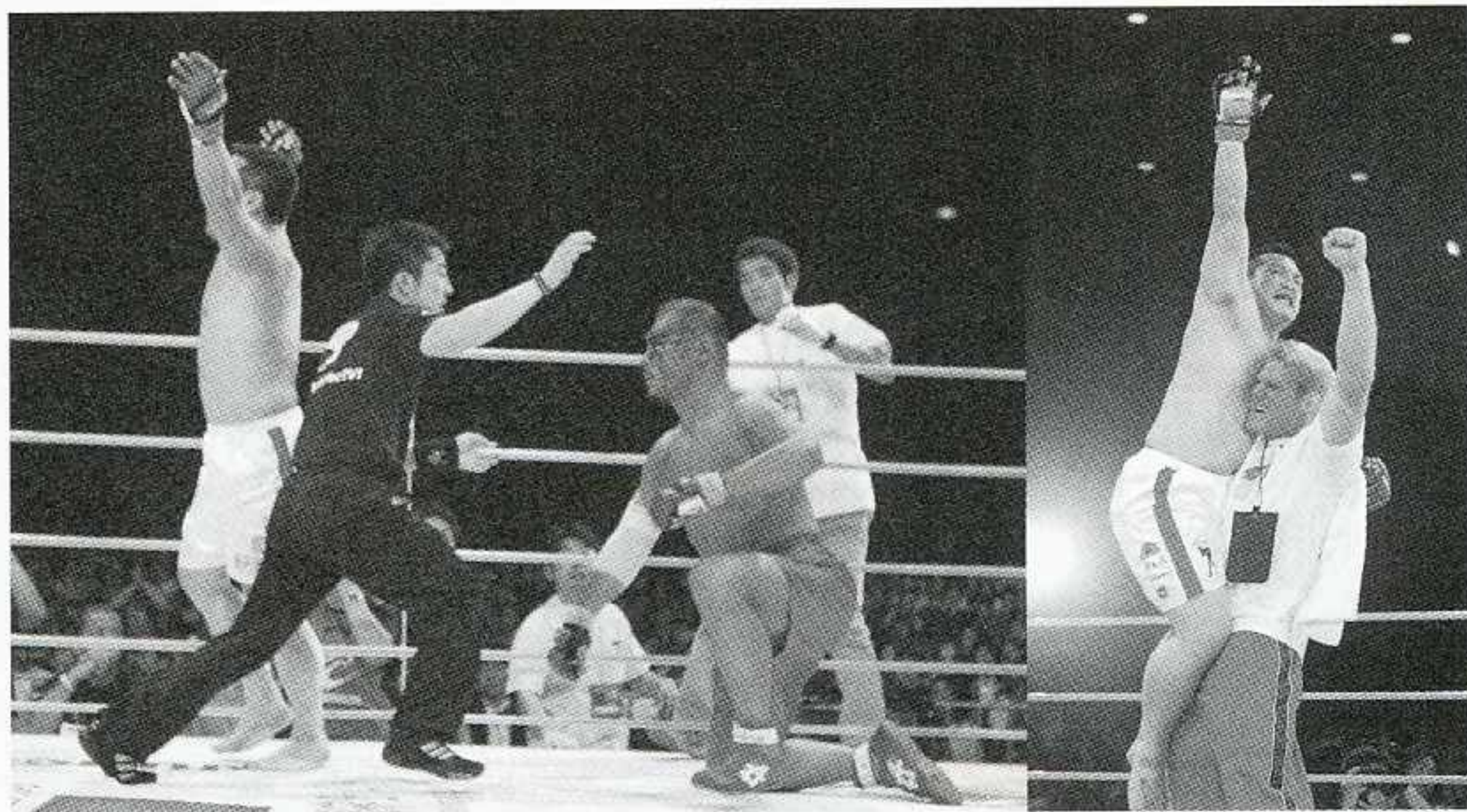
[2R　判定　2—1]

日本を代表とする寝業師ながら、“魅せる”攻防ができず、プロとして崖っぷちの高瀬。今回はラストチャンスとして自らニュートン戦を希望したが、結局、“ボール”の異名を持つニュートンが全く転がらないという大膠着戦となりまたもや客席を凍り付かせた。

玉海力、「100万発パンチ」不発!

◯小路晃 VS 玉海力×

[1R0分18秒、KO]

元幕内・前頭八枚目にして現・ちゃんこ酒場『玉海力』オーナー兼貿易会社社長、玉海力が満を持して『PRIDE』デビューをはたした。前号の本誌インタビューでは、「100万発パンチ」等、幻想を高める発言を連発していた玉海力だが、相手は『PRIDE』最多出場を誇る小路。わずか18秒のKO劇となってしまった。

グラバカがシュートボクセに勝利!

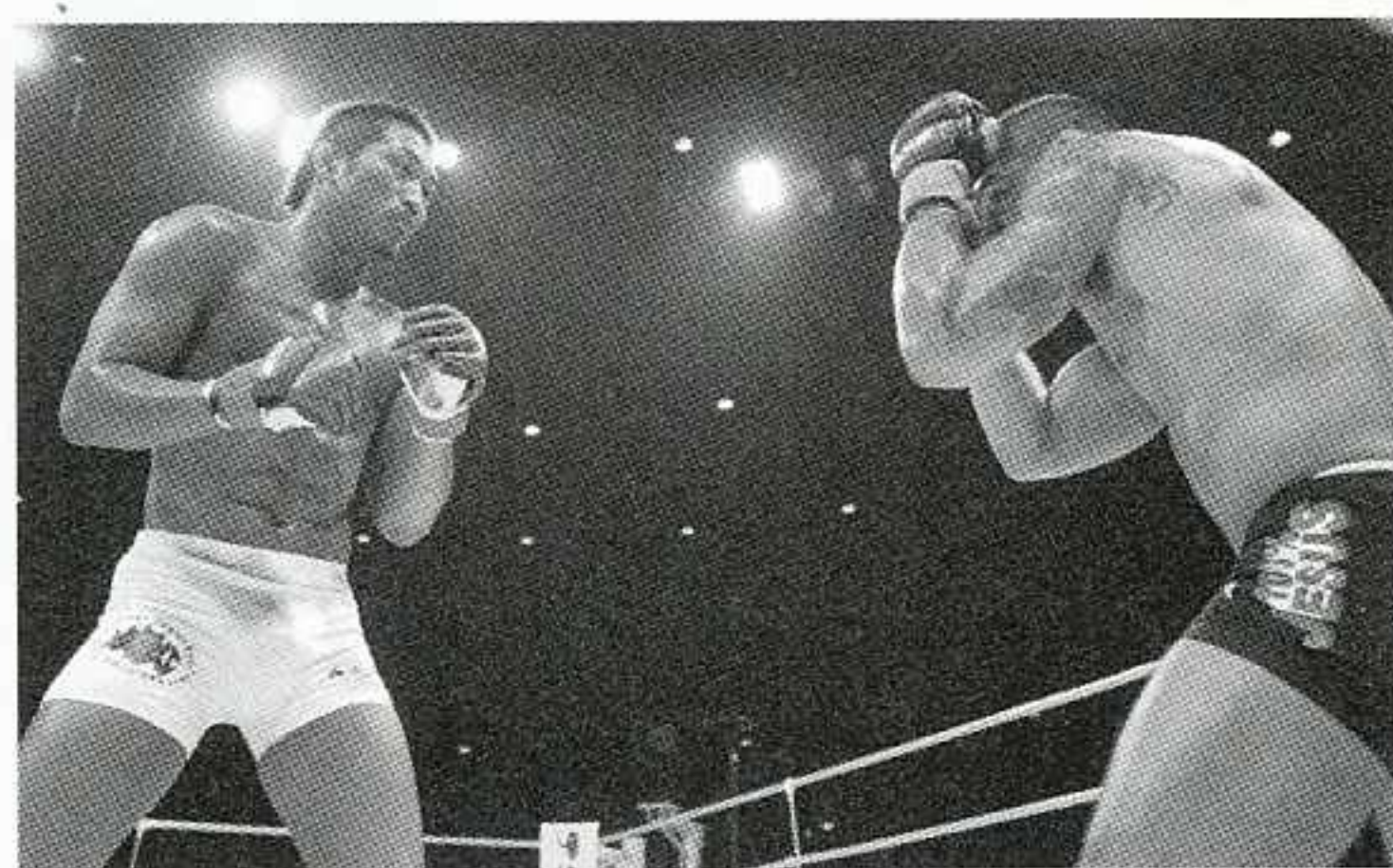
◯三崎和雄 VS ジョルジ・パチーユ・マカコ×

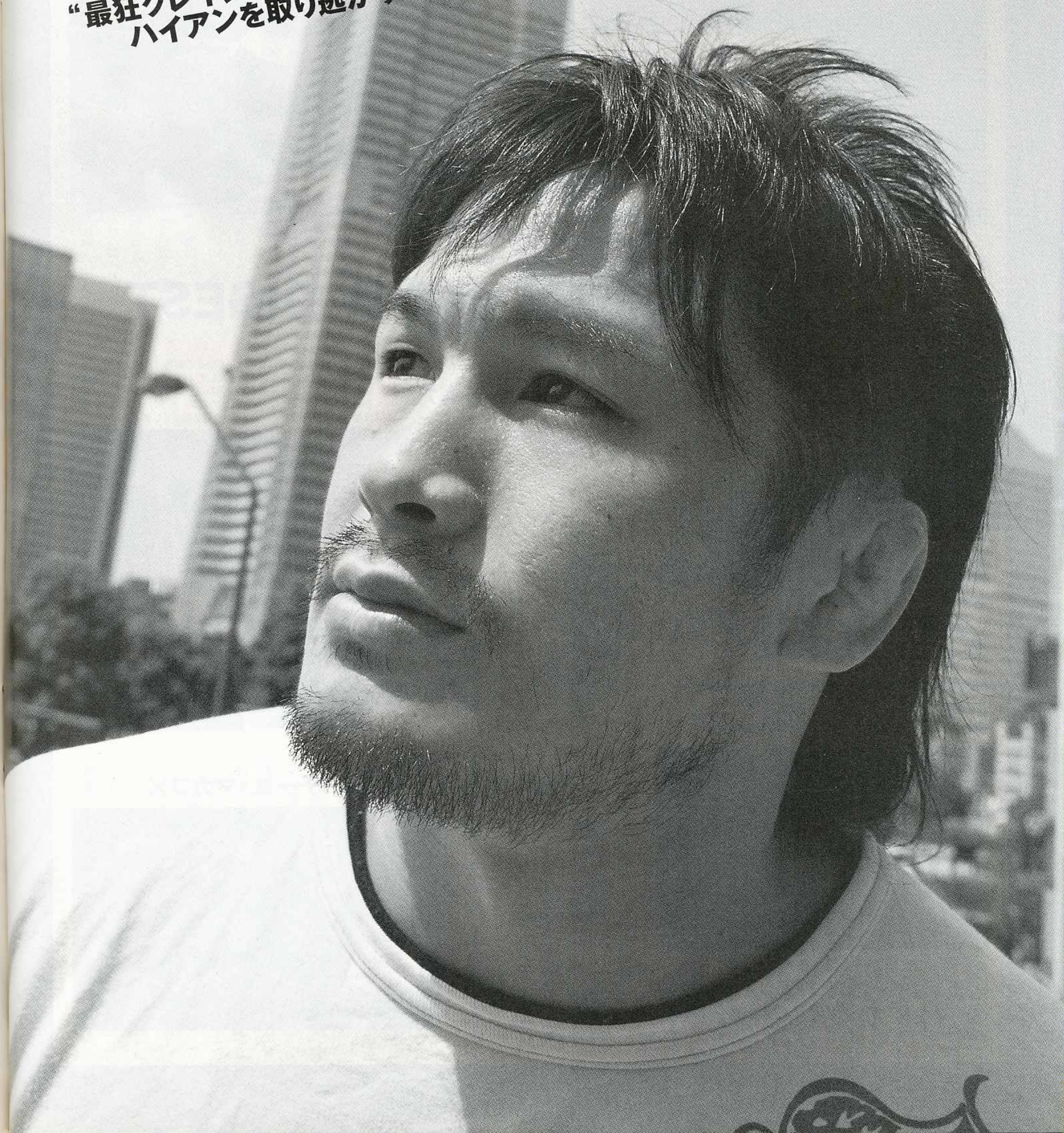
[2R　判定　3—0]

前回の『武士道』で郷野がマウリシオ・ショーグンに敗れたグラバカvsシュートボクセin『武士道』の第2ラウンド。立ち技、寝技どちらもいける三崎は、シュートボクセ所属でも打撃は修行中のマカコに立ち技勝負に持ち込み、実にらしい判定勝ちを収めた。

ヒョードル弟、桁違いの強さを見せつける

◯エメリヤーエンコ・アレキサンダー VS マット“ザ・ツインタイガー”×

[1R3分16秒、裸絞め]

なんでこんなに強い人が『武士道』チャレンジマッチにでてるんだろう？と誰もが思うアレキ。試合前にジャンケンで出場者を決めた双子の“ツイン・タイガー”をまったく寄せ付けず、完勝。第2のトム・エリクソンの道を着実に歩くアレキだった。

"最狂グレイシー"
ハイアンを取り逃がす!

美濃輪、無念のPRIDE3連敗。一体何が足りないのか!?

僕はまだ火事場のクソ力の何たるかがわかってない!

不死身のリアル・プロレスラー(修行中)

美濃輪育久

聞き手/堀江ガンツ
撮影/森モーリー鷹博
designed by hisa(Two Three)

美濃輪無念、ハイアン・グレイシーを取り逃がす！

5・23横浜アリーナで『PRIDE武士道』2大会連続メイン出場を果たし、"最強のグレイシー"ハイアンと対戦した美濃輪は、後半得体の知れない力で盛り返したものの、結果は僅差の判定負け。『PRIDE』3連敗となってしまった。ファン、関係者の期待が共に高い美濃輪だが、一体何が足りないのか。再び韓国に修行に出る直前、美濃輪を直撃した。

——美濃輪選手、いきなりですが、5・23『PRIDE武士道』でのハイアン戦では、"火事場のクソ力"は出せましたか？

美濃輪 いや、まだ火事場のクソ力のなんたるかがわかってないですね。

——火事場のクソ力がわかってない！（笑）。

美濃輪 一体どこにあるのか……どうやって引き出すのか……。

——試合後半はパウンドでガーッと盛り返してきましたけど、あれはまだ火事場のクソ力とは言えない？

美濃輪 ダメですね。もう一つ上の力が出ないと……詰めが甘かったですね。

——その結果、追い上げむなしく判定負けになって……。

美濃輪 （遮って）負けてないです！

——ま、負けてないですか!?

美濃輪 闘いには負けてないです。

——勝負に勝って、試合に負けたという感じですか？

美濃輪 闘いとしては負けてないです。負けてない、負けてない（ぶつぶつぶつ）。

——では、判定には納得してませんか？

美濃輪 いや、負けてないですけど、勝ってるとも思えなかったですね。だから、負けてないですけど、（判定で）勝たなくてよかったなと。もしあそこで判定勝ちになってたら、「勝ったからいいだろう」っていう気持ちになって、自分の悪いところも見えなかったと思うんで。

——あそこで判定勝ちになっていたら、自分が成長するためにはよくなかったと。

美濃輪 そうですね。「結果出したんだから」って、悪いところは目をつむってたかもしれないんで。

——では、ちょっと試合を振り返りたいんですけど、あの"ケンカ屋"ハイアンが、1Rはもの凄くねちっこく寝技で来ましたけど、あれは面食らいませんでしたか？

美濃輪 いえ、僕はそうくるだろうと思ってました。ハイアンの試合をビデオで見ても、アグレッシブそうに見えて、実はそうでもなかったんで。アグレッシブなのはリング外だけで、試合になると意外と来ないっていうのはわかってましたね。来ても最初の一発だけだと思って警戒してたんですけど、思った以上に押しが強かったですね。

——あの最初のタックルとか押さえ込みは、やっぱりパワーの差というか、体重差を感じたんですけど。

美濃輪 観てて体格差感じました？ 逆に僕は今回の試合で「ああ、やっぱ体重は関係ないんだな」ってよく分かりましたけどね。最初に上に乗られた時には体重差どうのって、そういうことも少し頭をよぎったんですけど、動いてるうちに「関係ないな。こういうことか」って思いました。

——とは言っても、ここまで『PRIDE』で3戦して、いずれも約10キロの体重差がある相手と闘って、結果的に3連敗となってしまいましたよね。そうなるとやはり、「なるべく近い体重で」とはなりませんか？

美濃輪 体重差があるから負けてるっていうわけじゃないですからね。ただ、3連敗したっていうのはちょっとマズいですね。これは考えなきゃいけないです。今回も「あの試合は勝ってたよ」って言ってくれる人も多いんですけど、それで

相手がピストル持ってるのにナイフを出して「あ、間違えた！」と言ってるウチに撃たれてるような感じがしますね。

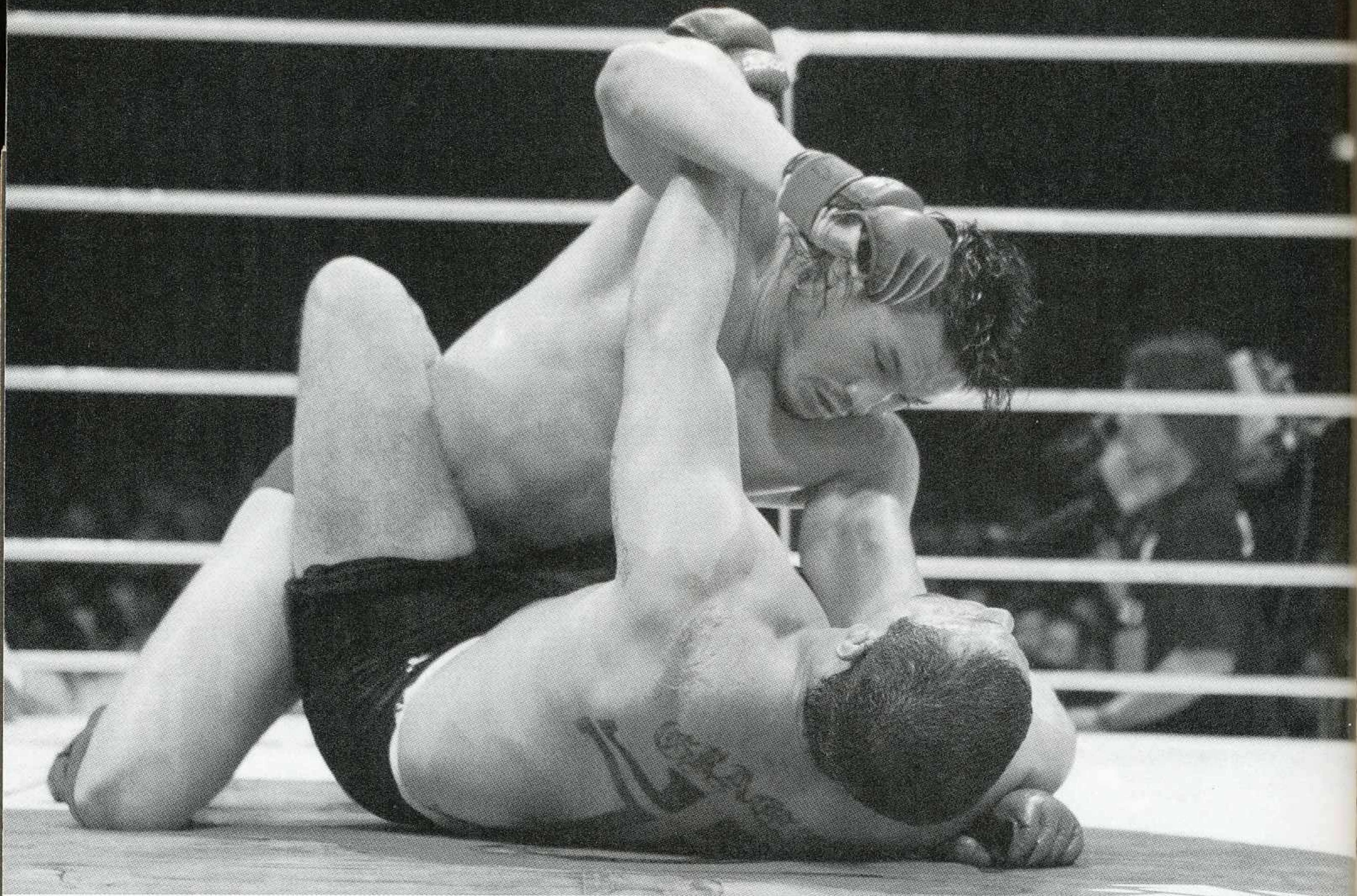
本能のタイマン勝負 美濃輪VSハイアン

PUTIT REVIEW

5・23『PRIDE 武士道』横浜アリーナ

○ハイアン・グレイシー [3R 判定2-1] **美濃輪育久×**

開始早々、テイクダウンを奪ったハイアンは、ねちっこく寝技アリ地獄に美濃輪を誘い、じわじわと攻めていく。美濃輪もプロレス式のアンクルロックで応戦。

ファーストコンタクトで先に仕掛けたのはハイアン。体格差、パワーの差を活かして一気にタックルでテイクダウンを奪うと、あの石沢常光戦のようにコーナーでパウンドを狙う。

も黒星がついたっていうのは、かなりマズいっすね。負けるっていうのはいけないことです。

──具体的に何が足りなかったと思いますか?

美濃輪　ところどころの詰めの甘さとか、考えたらいっぱいありますね。あとは……練習不足ですね。

──練習不足ですか!　逆にオーバーワーク気味な気もしますけど(笑)。

美濃輪　何て言うか、練習しなきゃいけないところを練習してなかった。練習してても大事なところを練習してなかったですね。要領が悪いと言うか。

──ああ。確かに僕が見てても、以前の美濃輪さんと比べたら、打撃にしても、柔術的な寝技にしても、レスリングにしても、それぞれは確実にレベルアップしてると思うんですよ。でも、それを全て統括した使い方っていうものが、まだ自分のものになってないのかなっていう気がしましたね。

美濃輪　そうですね。一個一個の武器は使えても、それを上手く使い回せてない状態ですね。なんか大事な場面で間違ったものを出しちゃってる。相手がピストルを持ってるのにナイフを出して「アッ、間違えた!」って思ってる間に撃たれるという感じで……。

──それは致命的なミスですね(笑)。

美濃輪　そういう練習をやってなかったんで、その部分が練習不足でしたね。

──では、これからは柔術、ムエタイ、ボクシングといった感じでわけて練習するのではなく、トータル的な実戦に近い練習が必要になってきますか?

美濃輪　いや、まだ修行しなきゃいけない部分もあるんで。次は韓国でレスリングをやって、それからですね。

スタンドに戻ると美濃輪はタイでのムエタイ特訓の成果を見せるべくローキックを放つが、これはハイアンに右ストレートを合わされ、再びグラウンドへ。

後半、スタミナが切れたハイアンに対し、美濃輪は怒濤の反撃。ガードポジションのままハイアンの後頭部をターンバックルに叩きつけ、雄叫びをあげながらパンチの雨を降らせる。

興奮状態の美濃輪は、終了のゴングが鳴った後もなお、ハイアンに襲いかかろうとする。対するハイアンは披露困憊だが、前半の貯金が活き僅差の判定をモノにした。

——完成型はまだまだ先だと。

美濃輪　全然先ですね。全然、自分のスタイルがちゃんとなってないんで。

——そんな完成への過程の段階で大きな試合が続いちゃってるジレンマってありませんか？

美濃輪　それはしょうがないです。いましかやれない相手かもしれないし、いまの状態でも勝って、どんどん進んでいかないと大きなチャンスも掴めないから。

——でも、早くも一ヶ月後に次の試合が控えてるんですよね？　このスパンだと自分のモデルチェンジが追い付かないんじゃないですか？

美濃輪　そんなことないです。取りあえずいまは経験値が必要なんですよ。だからケガもしてないし、試合もできますから。身体が動くんであれば試合をします。

タイ修行中、手でお尻を拭いたとき「経験値がUPした。これで強くなれる！」と思いましたね。

"試合"終了のゴングが鳴った後もまだ"勝負"は終わってないとばかりに、美濃輪は判定を待つ間もハイアンを挑発。この勝負、クレイジーぶりでは完全に美濃輪が勝っていた。

――トータル的な武器の使い方を実戦で身に付けると。

美濃輪　やっぱり実戦が一番の経験になると思うんですよ。一ヶ月の練習より、一回の試合の方がより経験になるんで。たった一日、たった10分の試合の方が自分を成長させますからね。例えば海外に行って一ヶ月間練習しただけで帰ってくるのと、一ヶ月間練習して最後に一発試合をやって帰ってくるのじゃ凄く差があるんで。

――そういえば、今回の試合前にタイで、ムエタイの試合に出たらしいですね。

美濃輪　やりましたね。タイで二ヶ月練習して、最後に試合しようということで申し込んでやったんですけど、ムエタイの試合ってなかなか経験できないことなので、そういうものを自分の中に入れられたのは大きいですね。

――しかも、勝っちゃったんですよね？

美濃輪　右ハイキックでKOでしたね。

――右ハイキックでKO！　初めてムエタイの試合に出て、ハイキックで勝っちゃうプロレスラーって凄いですね（笑）。

美濃輪　ビックリしました。「ハイキックだ！」って思った瞬間に出したら、相手のアゴにペチンって入って、そしたらフニャフニャフニャって倒れて、「あ、人ってこれで倒れるんだ」って思いました。

――KO勝ちって総合格闘技も含めて初めてじゃないですか？

美濃輪　初めてですね。

――相手はどんな選手だってんですか？

美濃輪　相手は70キロぐらいの人で、僕より10キロぐらい軽いんで、いつもと逆の立場だったんですよ。でも、やってみてわかりましたけど、相手が小っちゃくても恐怖心は変わらないんですよね。

――相手が小さくても、大きい選手とやるときと同じように怖いと。

美濃輪　そうですね。だから多分、僕とやる相手も同じように怖いんだろうなって。タイではそれが一つ勉強になりましたね。

――タイには前々から行こうと思ってたんですか？

美濃輪　はい。昔から行きたいなって思ってました。もう中学校ぐらいのときから。

――またずいぶん前からですね（笑）。

美濃輪　ムエタイやってみたくて、だったらタイに行かなきゃなって。

――実際行ってみて、練習環境はどうですか？

美濃輪　いやあ……、日本はいいなって思いましたね。

――そんなにひどかったんですか？（笑）。

美濃輪　日本は恵まれてるというか、練習環境がちゃんとしてるなって。日本って凄くきれい好きで、清潔ですよね。でも清潔じゃないところに自分を置かなきゃいけないから、自分も清潔にしてたらついていけないんで。

――なんか美濃輪さんのHPによると、ネズミがどうのゴキブリがどうのっていう世界に身を置いてたらしいですもんね。

美濃輪　だいたい屋台とか外に食事にいくんですけど、食べてる横をこんなデカい（推定30㎝）爬虫類が通るんですよ。「エー!?　何でこんなにデカいのが、こんなところに！」って。あとはゴキブリがしょっちゅう、ブーンって飛んできて。「こっち来んな」っていう感じで。

――こっち来んな（笑）。じゃあ、精神的にタフになったんじゃないですか？

美濃輪　というか「こんなので強くなんのかな？」って思いましたけど（笑）、いろんなもん見れました。あと歩いてて左足に何かぶつかったんで、何かと思ったらデカいネズミだったんですよ。ネズミにぶつかるなんてありえないじゃないですか。だからそのとき、「あ、経験値アップしたな」って。

――ネズミで経験値アップ（笑）。ちなみに住まいはどんなところだったんですか？

美濃輪　普通のアパートだったんですけど、トイレとシャワーしかなくて、紙がないんですよ。

――ああ、向こうはバケツの水でお尻を〝手洗い〟なんですよね。

美濃輪　だから最初は紙を持っていってたんですけど、やっぱり向こうの流儀に従わないといけないんで……やりましたね。

――やりましたか！　それでまた、経験値アップしたんじゃないですか？（笑）。

美濃輪　かなりアップですね（真顔で）。「よし、これでまた強くなれる！」って。でもタイでは普通ですからね。

日本 vs チーム・グレイシー3対3 対抗戦

○五味隆典 vs ハウフ・グレイシー×

[1R0分6秒 KO]

前回、2・15『武士道　其の弐』でシュートボクセの新鋭ジャドソン・コスタを相手に完勝で『PRIDE』デビューをはたした五味が、見事2連勝！　『武士道　其の壱』で三島☆ド根性ノ助を判定で下したハウフを出会い頭のヒザ蹴りからパンチの連打でKO！　わずか6秒で"グレイシー"から失神KO勝ちを奪った。

×長南亮 vs ヒカルド・アルメイダ○

[2R 判定3－0]

DEEPで急激にのし上がってきた長南が『武士道』初登場。「ピラニアは勘弁」と言ってるにも関わらず、煽りVで思いっきり「ピラニア」ネタを展開される『PRIDE』の洗礼を受けながらも、80～90キロ級のトップクラスであるアルメイダ相手に寝技を凌ぎまくり、善戦。判定負けながら、これからを期待させる闘いぶりを見せた。

——身体は壊さなかったですか？
美濃輪　向こうでは大丈夫だったんですけど、こっちに帰ってきたときに、下痢になって、一週間は全然立ち直れなかったですね。
——帰国してホッとしたんでしょうね（笑）。
美濃輪　あっ……ちょっとすいません……。
——どうしたんですか？
美濃輪　……ちょっとお腹が……。
——今になってまた来ましたか！（笑）。では、一旦中断しましょう。
（約10分後）
——大丈夫ですか？　急にきましたか（笑）。
美濃輪　ええ、ちょっと急に……。
——では、気を取り直して。『武士道』は7月（19日）にもありますけど、ここに出場する予定はありますか？
美濃輪　まだわかんないです。とりあえず、次は韓国なんで。いまはその試合に集中したいですね。
——美濃輪選手は韓国でも修行してましたけど、向こうの格闘熱はどうなんですか？
美濃輪　熱いですね。熱いですし、よくお客さんは知ってますね。
——じゃあ、6月の『グラジエーター』大会は、韓国初の国際的なビッグイベントですけど、そこを自分の手で盛り上げてやろうとか、そういう気持ちですか？
美濃輪　盛り上げてやろうっていう気もありますし、大会が2日間あるので、その中のピークをもらおうかなって思ってます。
——一番インパクトを与えてやろうと。
美濃輪　お客さんの熱の一番熱いところをいただこうかなって。
——いいですねえ。周りはみんなライバルだと。
美濃輪　みんなライバルです。どんな試合でも、いくら仲間が出てても、8試合に出る16人の中で一番を取らないとダメだと思うんで。それがメインイベンターの役割というか。でも僕自身の考えとしては、メインでも第一試合でも、大会のピークを喰っちゃおうかなっていう感じでいきます。
——そして、もちろん狙うは一本勝ち。
美濃輪　一本勝ちですね。ここんところ、TKO負け、KO負け、判定負けって3種類揃って、もの凄い嫌なものを全部感じたんで（笑）。あとは勝ち星を。
——KO勝ち、一本勝ち、あとは……判定勝ちですか？
美濃輪　いや、判定勝ちはいらないです。勝負は殺すか殺されるかなんで。
——そうですね（笑）。では、韓国で爆発して、このところのうっぷんを晴らしてください！

【04年5月28日／桜木町『スターバックス・コーヒー』にて収録】

ハイアン戦が終わっても美濃輪は立ち止まらない。自らがセミナーを何度も努めた韓国で、再び上昇気流に乗ることができるか!?

韓国VTビッグイベント「グラジエーター」に
美濃輪の出場が正式決定！ さらにビッグネーム続々集結!!

第一回 Gladiator Fighting Championship 2004

2004年6月26日（土）、27日（日）　試合開始17:00（開場15:00）
韓国・オリンピック公園第1体育館

かねてから噂されていた韓国初のバーリ・トゥードビッグイベントの開催がついに正式決定。ソウルの大会場で2日連続で開催されるこの大会、難産の末に発表となった注目の対戦カードは、日本、アメリカ、ブラジルのビッグネームも多数参戦する、日本の格闘技ファンも無視できない魅力的なマッチメイクとなった。

日本からは美濃輪、松井、滑川、入江ら10人が参戦。『PRIDE』3連敗から復活を期す美濃輪は韓国のイ・ジョンピルと対戦。松井、滑川はそれぞれ、パウロ・フィリオ、ファビアーノ・カポアニというブラジリアン・トップチームの強豪と試練の一戦を行い、そして入江は、なんと“元祖ビースト”ダン・スバーンと対戦することとなった（P54～のインタビュー参照）。また、佐山皇帝率いる掣圏道から桜木、瓜田の2トップが揃って出場するところも見逃せない。

さらにジェレミー・ホーンvsアンデウソン・シウバという、ミドル級のトップクラスの対戦も実現。もちろん、『PRIDE武士道』で存在感を見せつつあるキム・ジンオー、チェ・ムベなどの地元・韓国勢も必見だ。飛行機で行けば、アッという間の韓国。土日開催ということもあり、日本から観戦に行く価値アリ。総合格闘技の新たな歴史が生まれる瞬間を見よ！

［6月26日］
片瀬慎二（CMA・日本）vsスルタンマゴメドフ・カフガス（ロシア）
イ・ティホン（CMA・韓国）vsマトキン・セルゲイ（ロシア）
滑川康仁（フリー・日本）vsファビアーノ・カポアーニ（ブラジル）
キム・ジンオー（CMA・韓国）vs瓜田幸造（日本）
ダン・スバーン（アメリカ）vs入江秀忠（日本）
美濃輪育久（CMA・日本）vsイ・ジョンピル（CMA・韓国）
キム・ジョンアン（CMA・韓国）vsブラッド・コーラー（アメリカ）
アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ（ブラジル）vsアレックス・スティーブリング（アメリカ）

［6月27日］
奥山哮司（CMA・日本）vsアフメドウ・ザウル（ロシア）
谷村光教（岡村ジム・日本）vsチェラコフ・エドアルド（ロシア）
キム・ソンチョル（CMA・韓国）vs桜木祐司（日本）
濱田順平（CMA・日本）vsクラウディオ・ゴドイ（ブラジル）
ペク・チョンホー（CMA・韓国）vsフォカムヌヌック・カルルパトリック（カメルーン）
パウロ・フィリオ（ブラジル）vs松井大二郎（髙田道場・日本）
チェ・ムベ（CMA・韓国）vsアムマエム・ムラド（ロシア）
ジェレミー・ホーン（アメリカ）vsアンデウソン・シウバ（ブラジル）

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2004 NO.75

※吉田豪『書評の星座PART2』は都合によりお休みです。原タコヤキ君『大阪プロレスファン通信』は中島らもインタビューで、金ちゃんの『なん〜でそうなるの!?』は拡大インタビューでお届けします。

[お詫び] 本誌NO.74掲載の巻頭座談会において、前週刊プロレス編集長・佐藤正行氏に関する記述について、一部不適切な表現がありました。文中、佐藤氏の発言として誤解を招くような表現がありましたが、これは事実ではありませんでした。これにより、佐藤氏ならびに株式会社ベースボール・マガジン社関係者各位にご迷惑をおかけしたことをお詫びし、訂正いたします。
株式会社ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL
編集責任者／堀江将司　　編集担当／斉藤慎一

マット界のキーパーソンが語る『PRIDE・GP』、『武士道』、引き抜き騒動、そして『ロマネコンティ』……!?

ドリームステージエンターテインメント代表取締役

榊原信行

『紙プロ』読者なら、誰もが気になってしょうがないのが6・20『PRIDE・GP』さいたま大会の行方だろう。チケット売り上げも過去最高の売れ行きを見せているという。この大会を前に、DSE榊原代表に5月に行われた『武士道 其の参』、『ROMANEX』、そしてもちろん『PRIDE・GP』の展望まで、ざっくばらんに語ってもらいました！ ハッスルハッスル!!

聞き手／堀江ガンツ　構成／松澤チョロ　撮影／乾 晋也

designed by bun-chan (Two Three)

今回のGPに小川さんが出てなかったら、こんな熱は生まれていなかったと思う

――代表！　6月の『PRIDE・GP』の盛り上がりは凄いですね。

榊原　そうですね。チケットも爆発的に売れてまして、過去最高なんじゃないかな？

――ほう、過去最高ですか！

榊原　今回のGPは3大会にまたがるということで、セットで買ってくれる人が多いんですよ。さいたまスーパーアリーナで3連戦して、そこをGPの聖地にしたいという思い入れでやってるんですけど、ファンの方も3大会を全て見ようということでしょうね。

――あの開幕戦を見せられたら決勝まで見ずにはいられないですよ。

榊原　でしょうね。スカパーの方も3大会をセット販売してて、そっちも予想以上にいいんでね。いままでの格闘技の概念って、結果が出て次っていう感じだったんですけど、GPっていうハードを持ち込むことによって、個々のイベントへの期待感が点から線へ変わっていって定着しつつあるということは喜ばしいことだと思いますね。

――次の6月20日の大会なんて、〝史上最大の前哨戦〟って感じですからね（笑）。

榊原　ホントだよね（笑）。でも、その先があって、それを想像しながら6月の大会を見るっていうのもあると思うんですよね。単純にワンマッチのイベントで、今回のGPセカンドラウンドの4試合が行われるんじゃなくて、勝ち上がったら先が必ずあるわけだから、そしたら小川vsヒョードルだってあるかもしれないし、ジャイアント・シルバが小川を凌駕してノゲイラやヒョードルとやる可能性だって十分あると思うしね。いろんな夢が広がるんで、ファンの想像や幻想を掻き立てられますからね。そういう意味ではセカンドラウンドが一番夢を見ながら観られる大会なのかもしれないですよね。8月は確実にその日のうちに白黒ついちゃうわけですからね。

――ついに来てしまうわけですよね（笑）。去年から『PRIDE』の熱は凄いですけども、特に4月の大会なんかはホントに凄かったですからね。会場に入った時の観客の多さと熱に圧倒されましたよ。

榊原　やっぱり、お金を払って観ようという目的意識を持ってくれてるファンが、ありがたいことに会場を埋め尽くしてくれたので、ああいう熱が生まれたんだと思います。何かよく分からないけど、2～3日前に招待券もらったからっていう人が多いと熱は生まれないですよね。

――それは言えるでしょうね（笑）。

榊原　例えば『PRIDE・10』の西武ドーム大会もそうだけど、暑い思いをしてでも観たとか、雪で電車が止まってもめげずに来たとか、会場に来ることにハードルがいくつもあって、それを乗り越えて来たっていうと、お客さんも必然的に苦労した分、お金を払った分、元を取ろう、楽しもうという意識が働きますからね。それは『PRIDE』だけじゃなくて、他の音楽イベントとかもみんなそうなんですよ。こうした能動的な観客の皆さんが集まってくれた会場の熱は違いますよ。

――都心じゃない、さいたま市にあれだけの人数が集まるんですからね（笑）。

榊原　我々としてはGPが定着していって、前回のパンフレットに金子（達仁）さんに書いていただいたように、1年に1度のウィンブルドンじゃないですけど、世界中の格闘技ファンが、1年に1回『PRIDE・GP』をさいたまスーパーアリーナに観に行くことが夢や目標だったりして、そんなふうに定着していったらいいと思いますね。

――そして今回のGPの熱の要因は、やはり小川直也の存在が非常に大きいと思うんですけど。

榊原　そうですね。やっぱり日本で行われる大会で、ホントに強くて、自分たちの思いを託せるような日本人が出てきてくれるっていうことは必要ですよね。昨年のミドル級GPの桜庭、田村、吉田みたいな形で日本人が出てくることによって熱が生まれますから。今回のGPに小川さんが出てなくて、外国人だけの大会だったら、こんなことにはならなかったと思いますよ。

――それこそ小川さんが勝ち上がったら、『PRIDE』で小川さんの試合が4試合も観れるわけですからね。ちょっと前までは考えられなかったことですよ（笑）。

榊原　考えられなかったですよね。

――その裏では、やはり交渉は大変だったと思うんですけど。

榊原　格闘技ブームと言われる中で、プロレスという格闘技と似て非なるもので、何か新しい熱を作ろうというところで年末ぐらいから小川さんたちと話をして、年明けに『ハッスル』を始めたじゃないですか？　共に新しいものを作ろうということで、同じ船に小川直也と乗ることができてたので、その中から、『ハッスル』に熱を付けるにはどうしたらいいんだっていう一つの方法論で、小川さんはGPに出ようと決めたんですね。だけど恥ずかしがり屋なのか、素直にそれを言わないわけですよ（笑）。

――恥ずかしがり屋なんですかね（笑）。

榊原　真のリアルプロレスラーっていうか、逆に言うと、あれほど有言実行な男はいないと思うんですよね。プロレスを守るために、世界一過酷なトーナメントに出て、いとも簡単に汗一つかかず一回戦を勝ち上がりましたから。

榊原代表も「あれほど有言実行な男もいないと思う」と評価する小川。レコ戦後の小川のアピールでハッスルポーズは大ブレイク。フジテレビでの当日中継も決まった6月大会でのシルバ戦後は、さらなるブレイクが予想される

ハッキリ言って『ROMANEX』は『PRIDE』と似て異なるものですね

4・25『PRIDE・GP』開幕戦翌日の会見での榊原代表とベスト8進出者＋マーク・ハント（小川とレコは欠席）。横一列に並んでみると、シルバの巨大さがよくわかる。この中から8月大会にコマを進めるのは一体誰だ!?

―レコ戦の勝利で小川直也の評価も一気に高まったと同時に、あれだけプロレスファンにヒートを買ってた『ハッスル』が突然ベビーフェイス化しましたからね（笑）。

榊原　そうですよねぇ（笑）。小川さんの考え方としては、『PRIDE』のリングは『ハッスル』をプロモーションする場としては最高だろうし。でも一歩ずつ進むごとに険しい山が待ってますからね。

―いや、ホントに険しい山ですよ！

榊原　そうなんだけど、小川直也っていうプロレスラーの生き様をGPで見せて、掛け値なしにぶつかっていくしかないわけだから、どこまで強がりが通じるのか見てみたい。少なくとも8月まで勝ち上がったらノゲイラかヒョードルは勝ち上がってくるだろうし、世界最強の男を向こうに回して飄々としていられたら、ホントに大したものですし、それを軽くやってのけそうな気がするだけに怖いんですよね（笑）。

―優勝して「ハッスルハッスル！」ってやったら大爆発するでしょうね。でもまさか「ハッスル」が流行語になるとは思いもよらなかったですけど（笑）。

榊原　巷で大流行ですからね。さっき見た『週刊ポスト』にも「藤田まこと(71)、ハッスル不倫」って出てましたからね（笑）。

―ガハハハ！　ここまで流行るとは誰も予想してなかったんじゃないですか？

榊原　そうですね。でも非常に分かりやすい言葉だし、最初聞くと恥ずかしいけど、一回聞くと忘れられないですしね。そういう意味でキャッチーな感じで。プロレスっていうと、どうしてもレスリングの造語みたいなもので作られたじゃないですか。

―そうですね。

榊原　そういうものを打破しようと、格闘技が数年前に行った、観てない人をどう振り向かせるかっていう作業ですね。自分たちが思い切って変わっていかないというところで付けたタイトルなんですよ。それがことのほか浸透してきてますからね（笑）。

―ここ最近の浸透ぶりからを見ても結果的に大成功でしたね。

榊原　そうですね。『ハッスル』は6月28日に『ハッスル・ハウス』、7月25日に『ハッスル4』がありますけど、次のGPは夜の10時から放送されるわけですから、シルバ戦で勝って、その勢いでやられたら、もっと流行っちゃうかもしれないですよ（笑）。

―ホントそうですよね。『ハッスル』も最初はDSEの税金対策だとか言われてましたけど（笑）、ようやく本腰を入れたのが伝わり始めたんじゃないですか？

榊原　何を言ってるんですか（笑）。最初から本気ですよ！　僕らはプロレスっていうものに熱をつけようと思ってやってきて、試行錯誤を繰り返すことになるんだろうけど、まだ3回目ですからね。

―あとは、やっぱりテレビが欲しいところですよねえ。

榊原　そうですね。

―格闘技の方は各局こぞって放送してる感じですけど、プロレスとなると難しいんですかね。

榊原　なぜ格闘技をこぞって放映してるかというと、テレビ局って常に横並びなんで、どっかの局でやってるとウチも欲しいとなるんですよね。だから、どうしても似通った番組が次々出てくる。バラエティ番組なんかもそうだけど、格闘技も一緒ですよ。TBSが数字取った、フジも日テレも取ったとなると、テレ朝もやりたいってなって、やってみたら転んじゃったっていう（笑）。

―テレ朝は転んじゃったんですか？（笑）。

榊原　K・1vs極真だっけ？　あれ3・3%だよ。その枠が持ってる普通の平均視聴率より悪いんだもん。やめときゃあ良かったんですよ！（笑）。

―ガハハハ！　慌てる乞食はもらいが少ないというか……これは言い方が悪すぎますね（笑）。

榊原　やっぱり作り手が心血を注いで情熱を持って作れる数というのは、物理的にも限界があるしね。年末の日テレもそうだと思うんだけど、それを任せる組織がキチンとしたものを作れるかどうか。似たようなことは誰でもできるんですよ。

―似たようなことはできますよね。

榊原　でもやっぱり、過去の大会の実績とか、過去の歴史に裏打ちされたもの、そういう意味でK・1とか『PRIDE』っていうものは、トップから下まで試行錯誤して汗かいて失敗を繰り返して、その中から学んだことっていうのは簡単に何かで補うことはできないですよ。やっぱり組織力、マンパワーっていう部分での組織力があるのかないのか、そのソフトに熱を持ってやってるのかどうか、それを見極める必要があるなと思うんですよね。これからもソフトとしての需要が高まれば、新規参入もあるでしょうし、この間もK・1さんの……何だっけ、『ロマネコンティ』？（笑）。

―ガハハハ！　いや『ROMANE

引き抜き？　吉田さんは最も信頼している選手だし、同郷だからありえない

X』ですね（笑）。

榊原　そういうのもあるしね。

——当然、ご覧になられたと思いますけど、いかがでしたK-1MMA『ROMANEX』は？

榊原　いやぁ～、観たけど、似て異なものですね。ゲーリーとか「自分は『PRIDE』で通用しない」って引退していった人が通用する場所だなっていう印象ですね。

——そういう印象ですか（笑）。

榊原　基本的に闘う者として、腕が折れようとも命を落とそうとも、この場で相手を倒してやるんだっていう気持ちが作り出せてるかどうか、『PRIDE』では、そこが大事なところだと思うんですよ。競技の枠を超えて、果たし合いの場であって欲しいんですしね。やっぱり『PRIDE』は文字通り自分の持ってる〝誇り〟を懸けた場所っていうことで始まったわけだし、高田vsヒクソン戦でスタートしたわけだから、高田延彦の死に場所に向かっていくような入場シーンに象徴されるように、ホントに修羅場であって欲しい。正直言って、『ROMANEX』には、そういう雰囲気が全く感じられなかったよね。

——それは言えるかもしれませんね。

榊原　ボブ・サップにそれが全くないんだもん。「殴られたくありません」っていうか、「ほとんど練習してません」っていう、そういう姿で試合に臨んじゃったというか。あの試合でサップが丸くなって逃げたでしょ？

——はいはい。カメになってましたね。

榊原　あれは喧嘩で言うとボコボコにされる姿勢なんですよ。路上でいったら「やめてくれ、もう参った」っていう姿勢が、まさにあの姿勢なんですよ。途中からは逃げてるだけでしょ。あれは闘う者の姿じゃないですよ。

——藤田選手がイジめてるみたいでしたもんね（笑）。

榊原　そう。藤田もひどいことしてるように見えるんだけど、それより「サップ、何とかしろよ」っていう感じなんですよ。あの姿勢しか取れないでリングに上がらせちゃう、ましてやメインを務めなくてはいけないっていうこと自体が、『PRIDE』とは全く似て異なものなんですよ。ああいう精神状態とか、ああいう準備の段階でリングに上がらなきゃいけないサップは哀れだね、ハッキリ言って。

——なんか可哀想でしたもんね。

榊原　何も準備できてないし、ファンに何も伝えてなかったし、悲壮感というか、もっとレベルの低い部分で哀れだったね。

——ところで次回大会の日程はまだ出てませんけど、どうなるんですかね？

榊原　またやるんじゃないの？

——そうなると引き抜き合戦が加熱してくるんでしょうね（笑）。

榊原　もう引き抜き合いですよ！（笑）。

——引き抜き合いますか!?（笑）。

榊原　いやいや、ホントはそういうことはしたくないですよ。それに僕らは引き抜いてないですからね（笑）。マーク・ハントもステファン・レコもそうだけど、向こうから売り込みがあるんだから。別に引き抜いたわけじゃないですよ。

——引き抜いたつもりはないと？

榊原　辞めてきてるわけだからね。選手の意識の中で「『PRIDE』に出たい」って思ったら門を叩きに来るじゃないですか。条件があえば僕らは出すしね。まあフライなんかは〝PRIDE男塾塾長〟だったんだからね（笑）。

——そうですよね（笑）

榊原　その肩書きで出て欲しいなあ。ゲーリーも〝PRIDEの番人〟なんだしさ。『PRIDE』っていう舞台で初めてキャラが立って人気が出た人たちなんだから。ドン・フライなんて、新日本で猪木さんの最後の相手をつとめてたり、小川さんとも闘ったりとか結構、新日本の中でやってたんだけど、それでも知名度も人気もなかなか上がらなかった選手なんだから。

——それが高山戦やアイブル戦で〝PRIDE男塾塾長〟の異名を得てブレイクしたわけですからね。

榊原　初めて『PRIDE』の中で彼の生き様というかキャラを世に出せた。ファンにも浸透した。それが、上がる場所を変えた時に同じようにドン・フライに人気があるかっていったらないんですよ。その場所と、そこに上がってくるドン・フライっていうのがあっての人気だったんだから。だからその辺は、お互いに試行錯誤して、選手もそうだしプロモーターもそうだと思うしね。僕らの中でも、お互いに無用に選手を取り合うことっていうのはプロモーター同士としてはツライことなんですよね。やっぱり商道徳に則ってルールを守ってやっていきたいと思ってますね。

——いまはお互いにバックにあるテレビ局から指令が下ってるっていうような気もするんですけど（笑）。

榊原　まあでも、僕らはテレビ局側の強い意向で動いてることはないですよ。逆にテレビを観る人、会場に来ているファンが何を求めてるかというところに突き動かされている部分が一番大きいですけどね。

——引き抜きというと、『PRIDE』の3強とか、吉田秀彦も危ないんじゃ・ないかっていう報道もよくされてますけど、その辺はどうお考えでしょうか？（笑）。

榊原　行く人は行って下さい。ただ吉田さんは私が最も信頼している選手だし、生まれが同郷だから絶対にありえないですよ。

——吉田さんはありえないけど、出る者は追わずと？

榊原　ただ、さっきと一緒で、『PRIDE』という場所の熱というか、『PRIDE』は、これからも世界中の格闘技の中の最強を決める場所であり続けようと思ってますから、そこから逃げたい人は逃げればいいんですよ。「もう実力的に無理だ」って思うんだったらね。ゲーリーなんかそうだと思うんですよ。通用しないんだもん。ドン・フライだって、このところずっと負けっぱなしだし。他に行く人は僕らは逃げたとしか思わないんで。まあでも、引き抜かれるのかなぁ（苦笑）。

——ガハハハ！　引き止めとか再契約するにしても相当お金は掛かるでしょうね（笑）。

榊原　ねえ。その辺は我々の負担もそうだし、選手たちのファイトマネーが高騰していくだけだし、ビジネスとして成り立たなければ、バブルみたいにどっかで崩壊していくんだろうし。そこはプロモーターの中で暗黙の了解でね。『UFC』とはキチンとそういうこ

もう僕らは選手の獲得競争にお金で付いていく気はないですね

とができてるんだけど、そういうことがK‐1サイドと向き合えればいいと思ってますけどね。

――いまはホントにギリギリの線でやってるって感じですよね（笑）。

榊原　まあそうだよね。もう僕らは獲得競争にお金で付いていく気はないですね。目的意識を持った選手たちが、しのぎを削る場所、あっちこっちから引っ張ってきて、何か突然変異的なマッチメイクをするっていうのはやめた方がいいと思ってますから。柔道とか相撲、レスリングもそうだし、アテネ以降、すでに秋山（成勲）選手もいろんな話が出てるけど、新規で格闘技界に打って出てくるアマチュア格闘家のトップ選手たちは何人か出てくるんじゃないの？

――水面下で、そちら方面のスカウト活動はなさってるんでしょうか？

榊原　まあ、いろいろなところからの話もあるし、こっちからもいろいろ話を振ってる部分もあるし。日本だけじゃなくて海外にも目を向けてるし。それこそ柔道界なんて、ヨーロッパもそうですし、アテネ以降メダルを持ってくる選手が出てくるっていうのもありますよね。

――そちらの方に力を入れる感じなんですかね？

榊原　そういうのもありだと思いますし、人が持ってるものを変に取り合うんじゃなくてね、新しい選手を開拓し育成するっていうところですよね。これは髙田統括本部長とも前からずっと話してるんだけど、『武士道』にはそういう意味合いもあるんですよね。若い日本人で、第2第3の桜庭和志や吉田秀彦を育てる意味で。いずれの選手も35歳前後ってところじゃないですか。

――そうなんですよね。

榊原　これから先のことを考えると、20代とかで彼らの後を追えるような、僕らも気持ちを託せて、世界に向けて闘っていけるような選手を育てていくことが必要だと思うんですよね。「人のモノを横取りして成り立ってきた『PRIDE』が偉そうなことを言うな」って言う人もいるんですけど（笑）。

――ガハハハハ！　では、ちょうど話題に出た『武士道～其の参』について感想を聞かせてください。

榊原　いやぁ、まだまだですね。観ても退屈ですよね。僕らのマッチメイクの噛み合わせが思った方向にいかなかったというか、例えばお互い技術を持った高瀬君とニュートンなんかは、高いレベルでの膠着かもしれないけど、観客には全然届いてなかったでしょ？

――正直、会場は冷え切ってました（笑）。

榊原　ああいう試合を繰り返してたら、もうチャンスはないですね。出たい選手はいっぱいいるんだから、そういう試合しかできない選手は、どんどん新陳代謝を激しくしていって限られたチャンスを活かせる選手を出していかなきゃならない。今回で言えば五味君とか中村カズ（和裕）みたいなね。

――その2人は、しっかりチャンスを活かしましたからね。

榊原　厳しい言い方かもしれませんが、三崎君なんかもあそこまで攻めてるんだったら一本取りにいって欲しかったわけですよ。その姿勢が裏目に出て一本取り返されちゃったとしても、プロモーターである我々も、ファンもそれを支持すると思うんですよ。判定で勝ちましたとはいっても、次に『武士道』に出られる切符を手に入れたかというと手に入れてないんですよ。高瀬君なんかもそうなんですよ。あの試合で勝って、手が挙がって喜んでるんだもん。何を見せたいのか、何がやりたいのか、全く分からないですよ。

――試合後はかなりブーイングも出ましたね。

榊原　あれがアマチュアの試合だったらいいよ。でも試合前は「スペクタクルな試合をします」とか言っておいて、プロである以上、そのセリフに責任を持たなきゃいけないんですよ。

――ごもっともです（笑）。

榊原　僕としては喜んでる高瀬君を見て愕然としましたね。プロとして何を求められて、何を提供しなくちゃいけないのか。極論すれば、自分の思いだけでやるんだったら、ニュートンを自分の金でギャランティーして、どっかの体育館でやれと。あんな試合してる以上、使う価値がないと言われても仕方ないですよ。山本君にしてもそうだし、せっかくのチャンスなんだから。『武士道』ってまだ3回目じゃないですか。僕らとしても、いまの時点では当然ビジネスになってないんだから。先行投資でやってるわけで、『ハッスル』もそうですけど、4回目5回目をやって、ある程度ビジネスとして成り立っていく可能性が見出せなかったら、ズバッと辞めるしかない。

――いつまでも慈善事業みたいな形で続けるわけにはいかないですからね。

榊原　そうそう。ギャラあげて、発表の機会もあげて、お客さんが面白いって思ってくれるものを、選手たちなり提供する側が作り出せなければ、それはダメなんですよ。そういう部分では物足りないものを感じざるを得ないし、マッチメイクの方向性を変えて、外国人同士や日本人同士の試合を入れたりとか、あのクラスにこだわらずヘビー級の試合を入れたりとか、もっと考えなくちゃいけないかなぁって。試合数も多いしね。

――ある意味、選手にとっては査定試合みたいなものですからね。査定されてるのが分かってないと正直厳しいというか。

榊原　ただ逆にそういうことが選手を小さくさせちゃってる部分があるのかなとは思いますね。「ここで結果を出さないと、使ってもらえないんじゃないか」っていう風に萎縮させてるんだったら、可哀想だなって思うんで、そん

5・22、さいたまスーパーアリーナで旗揚げ戦を行ったK‐1MMA『ROMANEX』。『PRIDE』で引退試合を行ったグッドリッジはプレデターに殴り勝ち。メインでは、英雄候補のサップが藤田の顔面蹴り連発の前に完敗。この後、IWGPも返上することに

な勝った負けたっていうことは、猪木さんじゃないけど小さなことなんですよ。それよりも、もっと違う次元でファンの人に「コイツ凄いな」っていうとこを見せてもらいたいんですよね。

――逆に勝った負けたとことんこだわって、一回、『武士道』のメンバーで軽中量級のGPをやっちゃうっていうのはどうですか？

榊原　そういう考えもありますし、選手も揃ってるんですけど、『武士道』としての演出はひとつの世界観を作ってやってきてるし、そういうものは繰り返しやっていくうちに雰囲気も生まれてくると思うんですよ。その中でもっとガツガツしたハングリーな血に飢えた侍たちの場所にして欲しいわけ。日本人は特に。それが何かアマチュアっぽいっていうか、もっと自分たちの貪欲さをリングで見せて欲しいですね。

――ついでにいかにもプロアマ臭いマイクも禁止にして欲しいところですね（笑）。

榊原　そういうものも僕らも経験だと思うんで、失敗から学ぶこととか、そこから立ち上がるっていうのも大事なことだと思っています。そういう意味では1回や2回で見捨てたりはしないんだけど、改善の兆しが見られなければ、それはその人たちに能力というか才能がないということだから。お互い長く繰り返してても生産性のないことを続けててもしょうがないしね。逆にそうやって考えれば桜庭和志は、本当に天才なんだなって改めて思いますね。

――それは痛感しますね。

榊原　事実、桜庭以上の技術を持ってても、リングっていう場所に上がって、真人前で闘うっていうことになって、真剣勝負になった場合の自分の持ってる能力の出し方とか相手の引き出し方っていうのは、桜庭君は天才なんだなあっていうね。みんな実力的には桜庭君と近いようで、その辺の差っていうものは凄くあるんですよ。もっと学んで欲しいですね。

3度目の開催となった「武士道」は判定決着が続出し、観客の満足度もイマイチという結果に。ニュートンとなら面白い試合をする自信があると豪語していた高瀬だったが、結局は膠着が続き会場にはブーイングが飛び交った。次回、「武士道」名古屋大会はどうなるのか？

『武士道』に出てる選手と桜庭君は実力的に近いようで、その差は凄くある

――僕らも「桜庭を見ちゃった」っていうのもあるのかもしれないですよね（笑）。いいものを見過ぎたというか。

榊原　そうだよねぇ（しみじみと）。あんなもん見せられちゃったらねぇ（笑）。誰でもできるかって言ったら、誰にもできないんだよなあ、あれは。

――その桜庭さんは、次の6月大会に出場するわけですけど。

榊原　いろいろ考えてるんじゃないのかな。35歳なんだけども、まだみんなの前で闘いたいっていう強い思いは、いまの若手と変わらないぐらいあるんでね。その思いがあるうちはサクの現役は続くんだろうなって思ってますね。まあでも僕の知ってる20代の頃のサクと比べても、確実に身体を蝕まれてるっていうのはありますから。無理しちゃう人じゃないですか。ホジェリオとの試合もキツかったと思うんですよね。

――キツかったでしょうねぇ。体格差もあったし。

榊原　でも、体格の違いっていうものが、1ラウンド、2ラウンドって見ていくうちに歴然と現れてくるんですけど、それを認めちゃうっていうか、それに屈しちゃったら終わりなんで、それを受けとめるサクっていうのが、あの試合にはいたと思うですよね。だから今後もキツい闘いは続くと思うけど、打倒ヴァンダレイ・シウバとか、自分の中の目標に向けて、来年のミドル級GPはやってくれると信じてますけどね。

――桜庭さんは昨年後半は11月と大晦日と連戦になってしまったわけですけど、今年後半の『PRIDE』はどういうスケジュールになるんでしょうか？

榊原　8月のあと、10月の末頃にさいたまを予定してるんですよ。その後は大晦日で、2ヶ月間隔でやろうと思ってるんで。でもサクもそうだし、勝った後、体調が良かったりすると選手ってすぐやりたくなるんですよね（笑）。

――では8月もあり得ると？

榊原　調子良かったらあり得るでしょう。

――「桜庭も参戦」なんてなったら、ただでさえGP決勝で大注目なのに、大変なことになるんじゃないですか？

榊原　可能性はあると思うよ。8月は近藤vsシウバを必ず実現させたいと思ってますから。この試合が中止になって、この前の『武士道』は千枚近くキャンセルが出たんですよ。

――あっ、そんなにキャンセルがあったんですか⁉

榊原　そうなんですよ。思った以上にその試合が見たい人が多かったということだと思うんですよね。だから逆に5月にやらなくて良かったなって。やっぱり、お互いベストの状態で闘わせたいじゃないですか。あとで「実はヒザが痛かったんだ」とかっていう泣き言は言わせたくないし、DSEが無理矢理言ったから仕方なくやったんだみたいなエクスキューズをヴァンダレイにもさせたくないし、2人には8月にベストコンディションで来て欲しいんだよね。ファンが5月に期待したものを、3ヶ月遅れたけども、そこで実現して、ファンの前で決着をつけさせたいと思ってます。

――いや、大変なことになってきた（笑）。

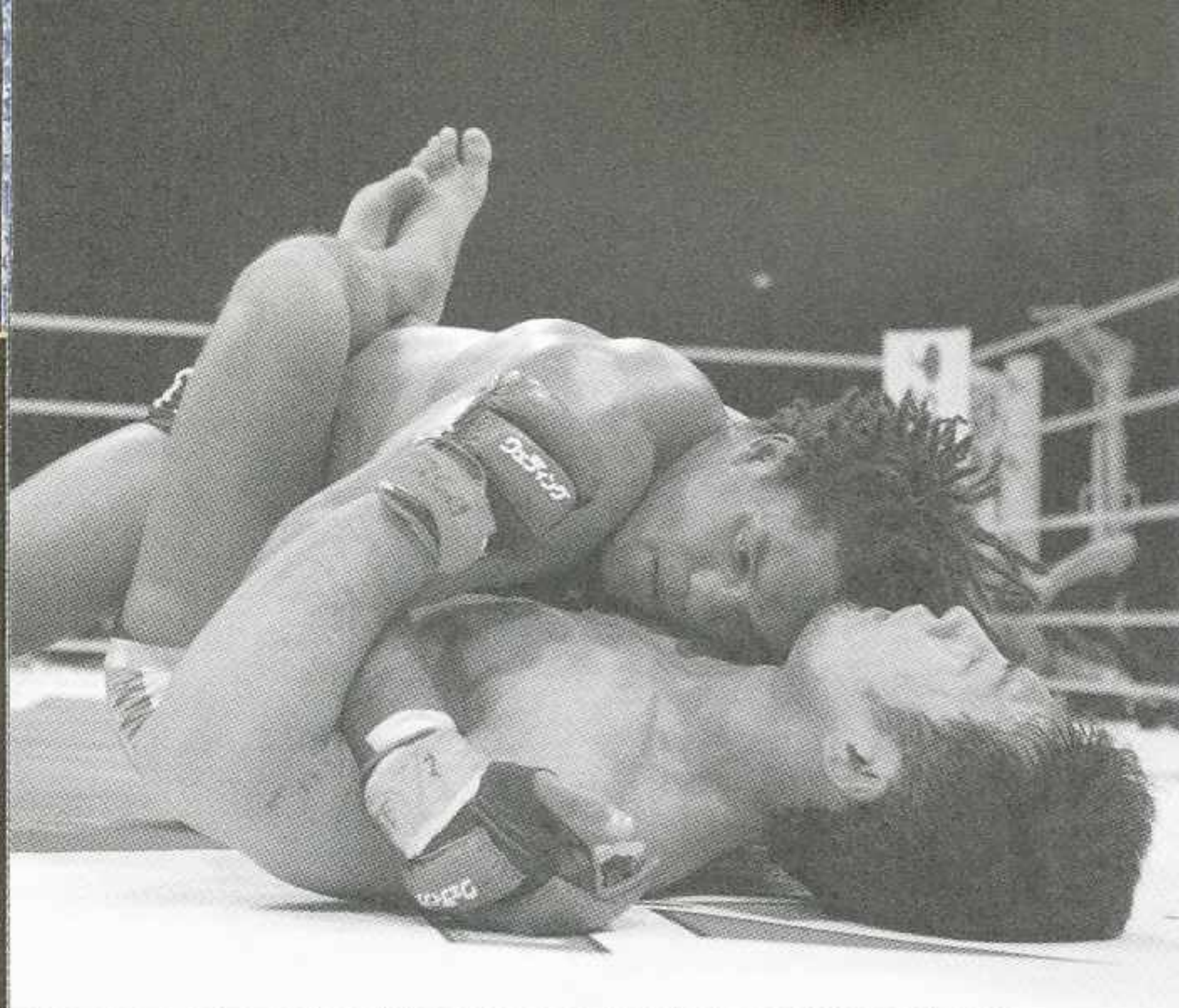
榊原　でもヴァンダレイも近藤君も、いったんリセットされたわけだから、それをキチッと終えてからじゃないと次の目標に向かえないと思うし、何としても8月にやりたいですね。

――『武士道』より、さらに大きい舞台ですから、注目度も上がりますよねぇ。

榊原　その試合に関しては一回流れたことが、更に熱になるだろうからね。やっぱり会場に足を運んで来てくれるファンが満足するものを、いかにこれからも作っていくかだと思うんだよね。余りにも遠心力の人たちを意識しちゃうと、ドーナツ化現象になって、コアな人たちを失うことになると思うから。そもそも総合格闘技なんて、万人に受けるものじゃないからね（笑）。

――ホントはそうですよね（笑）。

榊原　万人にウケた時点でダメになると思うし。やっぱり、ある部分いかがわしくて、アンダーグラウンドな匂いっていうか、そういうものでなくちゃダメだと思うんですよ。サッカーとか野球みたいなメジャースポーツみたいに健全なスポーツになった瞬間にダメになるような気もするし、ちょっとやばくて見ちゃいけないっていうものって感じですよね。

――いや、ジャンルとしては明らかにR指定ですよ（笑）。

『猪木祭り』の騒動？　言っていいかわからないけど、自業自得ですよ（笑）

榊原　そうそう。いまだに地上波で流していいのかなって思いますよ（笑）。

――いまだに思いますか？（笑）。

榊原　この前の試合でもえげつないじゃないですか。

――ゴールデンタイムに人が殴られて失神する映像が次々と流れるわけですからね。普通あり得ないですよね（笑）。

榊原　若干、いいのかなあって。

――地上波の方はこれからも当日放送になっていくんですか？

榊原　当日は6月だけですね。地上波って凄く媒体力があるじゃないですか。だから諸刃の剣なんですよ。この間のサップの試合も、あの試合だったら僕は地上波で観せなかった方がいいと思ったしね。サップの価値のことを考えたら。だって、あれを観た子供たちから大人まで、「サップって弱いじゃん」っていうことを万人に表現しちゃったわけでしょ？

――一夜にして、それを広く知らしめましたわけですからねぇ。大晦日の曙もそうなんでしょうけど。

榊原　凄く諸刃の剣なんだよね。それとタダでこれだけのものが観られるっていうのは、1つのソフトから二次使用、三次使用含めてね、いろいろ活路を見出していく上では、必ずしもいいことじゃないと思ってるんで。今回の6月は、『PRIDE』っていうもののプロモーションとして、夜の10時から当日放送します。スカパーでオンタイムにブチ抜きでノーカットで観ていただいている人に対しては、キチッとその環境を整えたいなと。

――いまのクオリティとバリューなら、当日中継があったとしても、数は減らないでしょうね。

榊原　減らないと思う。やっぱり、地上波ってCMでブツ切りになるでしょ。切られたらまた前のシーン戻るからね。さっき観たっていうシーンがCM明けも必ず繰り返すわけじゃないですか。どっからでも乗ってこれるように。だから同じ映像ソフトなんだけど、ブツ切りに編集されたものっていうのは、ある意味ダイジェスト版なんだよね。一般のライトユーザーにはいいけど、もっと観たい、もっと知りたいっていう人には、スカパーの完全放送版を観たくなると思うし、違いをキチッと作って供給していきたいなと思いますね。メディア戦略を持って使っていきたいですね。

――最後に、これもテレビが引き起こした弊害なんでしょうけど、『猪木祭り』の騒動についてどのようにお考えですか？　訴訟にまで発展してしまいましたけど。

榊原　どうっていうか……こんなこと言っていいかどうか分からないけど……自業自得ですよ！（笑）。

――自業自得！（笑）。

榊原　悪いけど（笑）。

――実に正直な感想ありがとうございます（笑）。

榊原　いや、ホントに自業自得。僕は何度も止めたんだから。まあ、どっちも安直すぎたよね。

――どちらも安直と言わざるを得ない部分がありましたからね。

榊原　やっぱり「じゃあ猪木さんが」とか「じゃあ川又さんが」ってなってしまったっていうか。実際にイベントを作るとなったら、弁当の手配から、選手の渡航の手続き……数限りない実務があるわけじゃないですか。そういった仕事は経験や失敗や多くの試行錯誤の中でしか精度は上げられないじゃないですか。競技のレフェリングだってそうじゃない？　毎回、賛否両論やバッシングがあって、その中で彼らが反省会をドクターと開いて、そういうことを何十回も繰り返してる。その中で培ったものは簡単には手に入れられないんですよ。それを持ってるのはK-1と『PRIDE』っていう組織しかないと思うしね。

――そうでしょうね。

榊原　そういうものもないのに「『猪木祭り』やりますよ」って、僕らは最後まで「誰が競技を進行するんだろう。一番大事な選手の安全管理は誰がやるんだろう」って考えると恐ろしかったですからね。でも逆に言うと、そういうところが全く見えてない人たちだからできたんだと思うんですよ。

――怖いもの知らずで突っ走った結果、案の定、脱線したと（笑）。

榊原　競技の進行を誰かが司らなきゃならないっていうこと自体分からない人たちがやったんだと思うんだよね。真似事はできても、それは真似の真似なんだよね。自業自得ですよ。

――同じような大会がこれからも出てくるかもしれないですけど、迂闊に手を出すとああなるわけですね。

榊原　失敗から学んで欲しいですよね。

――では、『PRIDE』はこれまでのノウハウを結集して、さらに上を目指して頑張ってください。

榊原　そうですね。小川直也じゃないですけど、コツコツと頑張ります！（笑）。

――期待してます！

【6月1日／DSEにて収録】

昨年大晦日の『猪木祭り』は大会後のリング上同様、大混乱に。『猪木祭り』を運営したケイ・コンフィデンスが大会を放映した日本テレビを提訴することを発表。混乱は、まだまだ続く

どうなる
小川vsシルバ!?

小川vsシルバ戦の正しい見方から『武士道』、『ROMANEX』までここ1カ月のマット界をプレイバック!!

マット界の
キーパーソン(?)
山口日昇が語る

月刊Y1談

スリー、ツー、ワンッ、ハッツルハッツルゥ〜！（『ハッスル』中継の小倉優子調）。え〜、今回は『月刊Ｙ１談』という形でお届けします。Ｙの１乗ということは、そのまんまＹ談？ 別に「わいせつな話」や「みだらな話」ってわけじゃありません。とにかく、いってみよ〜!!

聞き手／松澤チョロ
designed by さおとめの事務所

特に『武士道』なんかを見ると、サクの凄みが改めてわかる

月刊Y談[1]

――会長（山口日昇のアダ名）!! 何ヶ月ぶりかに『Y2談』をやろうと思ったんですけど、〝Y〟の片割れの吉田豪は、一方的に気に入られてるストロング金剛の自宅での取材や、内田裕也にワインをご馳走になりながら3時間半もインタビューしたりと、かなり忙しいみたいなんですよ。

山口 俺だって、きのこの研究したり、アニメのこと考えたり忙しいよ。

――き、きのこですか？

山口 いろいろあるんだよ。で、なに？

――あと、会長が失踪したとき、たまに登場する〝Yの中のY〟ことターザン山本さんは、相変わらず彼女の〝ラスカルの公（きみ）〟に夢中みたいなので……。

山口 ら、ラスカルの公〟？ それがターザンの彼女なの？……あ、キミも彼女と別れたみたいだけど、どうなの、その後？

――（無視して）なので、今回は会長ひとりで、マット界のここ1ヶ月をサクッと語ってもらえればと思います。

山口 俺は穴埋め要員かよ！ バチーンッ!!（チョロの頭を思い切りはたく）。

――ヒャッ！

山口 で、なんですか？

――（ビビりながら）あの、まずは5・22K―1『ROMANEX』、そして翌23日に行われた『PRIDE武士道』の2大会について振り返ってもらいたいと思います。ファンやマスコミの間ではK―1と『PRIDE』の興行戦争っていう意味でも、かなり注目されていたわけですけど。

山口 その2大会は似て異なるものだけど、なんか〝桜庭和志〟っていう概念というか成り立ちを、そこにポンと置いてみると、実に紐解きやすくなるんだよなぁ。

――あ、ボクが最初に「サクッと語ってください」って言ったから、そのダジャレですか？ ウヒャヒャヒャ、つまんないですねぇ……。

山口 バチーンッ!!（再びチョロの頭を思い切りはたく）。んなわけねーだろっ！ いや、まじめな話、特に『武士道』なんか見てると、サクの凄みが改めてわかるっていうかさ。

――（たじろぎながら）そ、それは実力ってことですか？

山口 もちろん実力も含むんだけど、サクは『PRIDE』というものを背負ってきたし、いまでもまだ背負ってるでしょ？

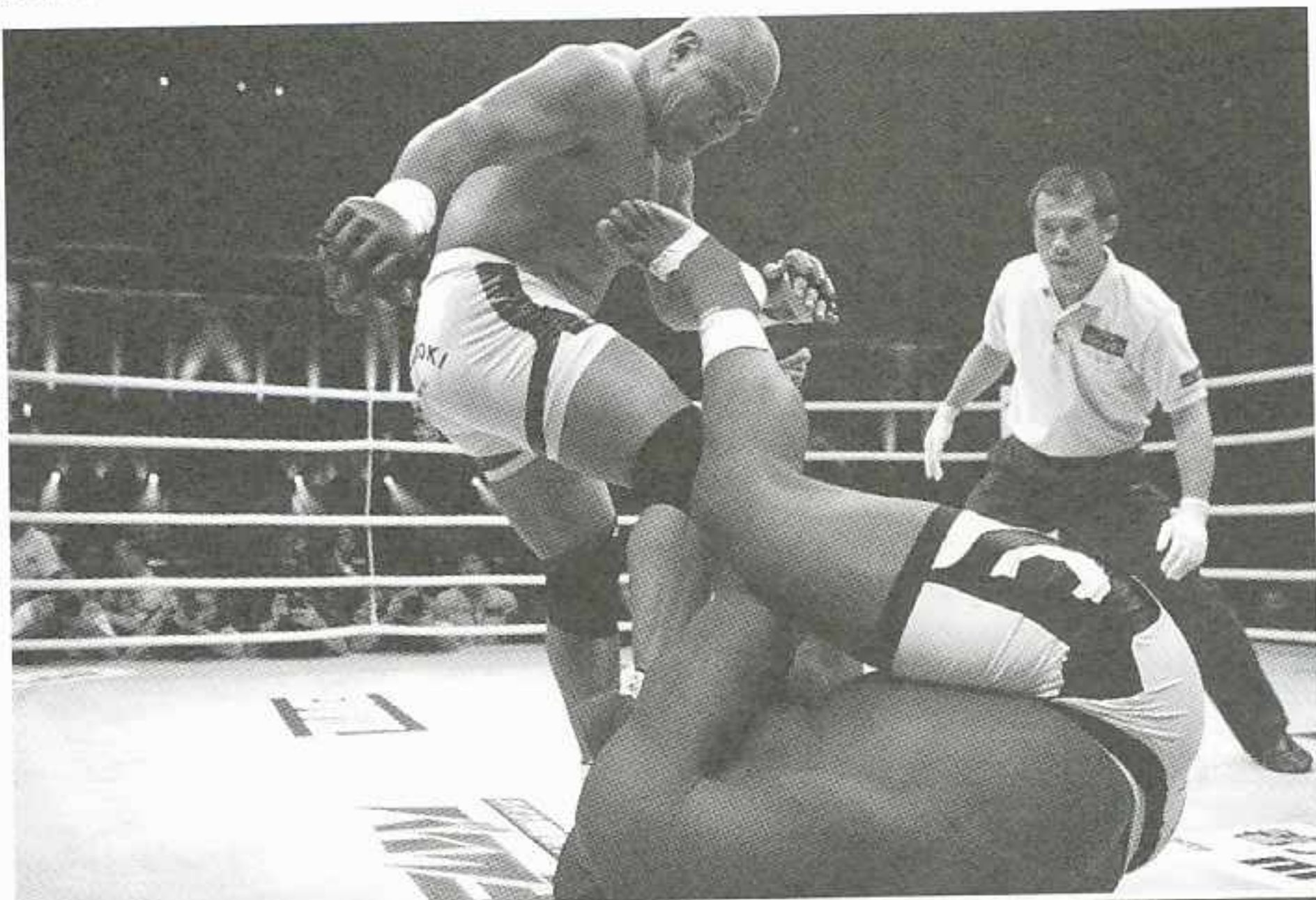
――たしかに思いきり背負ってましたし、いまでもそうかもしれないですね。

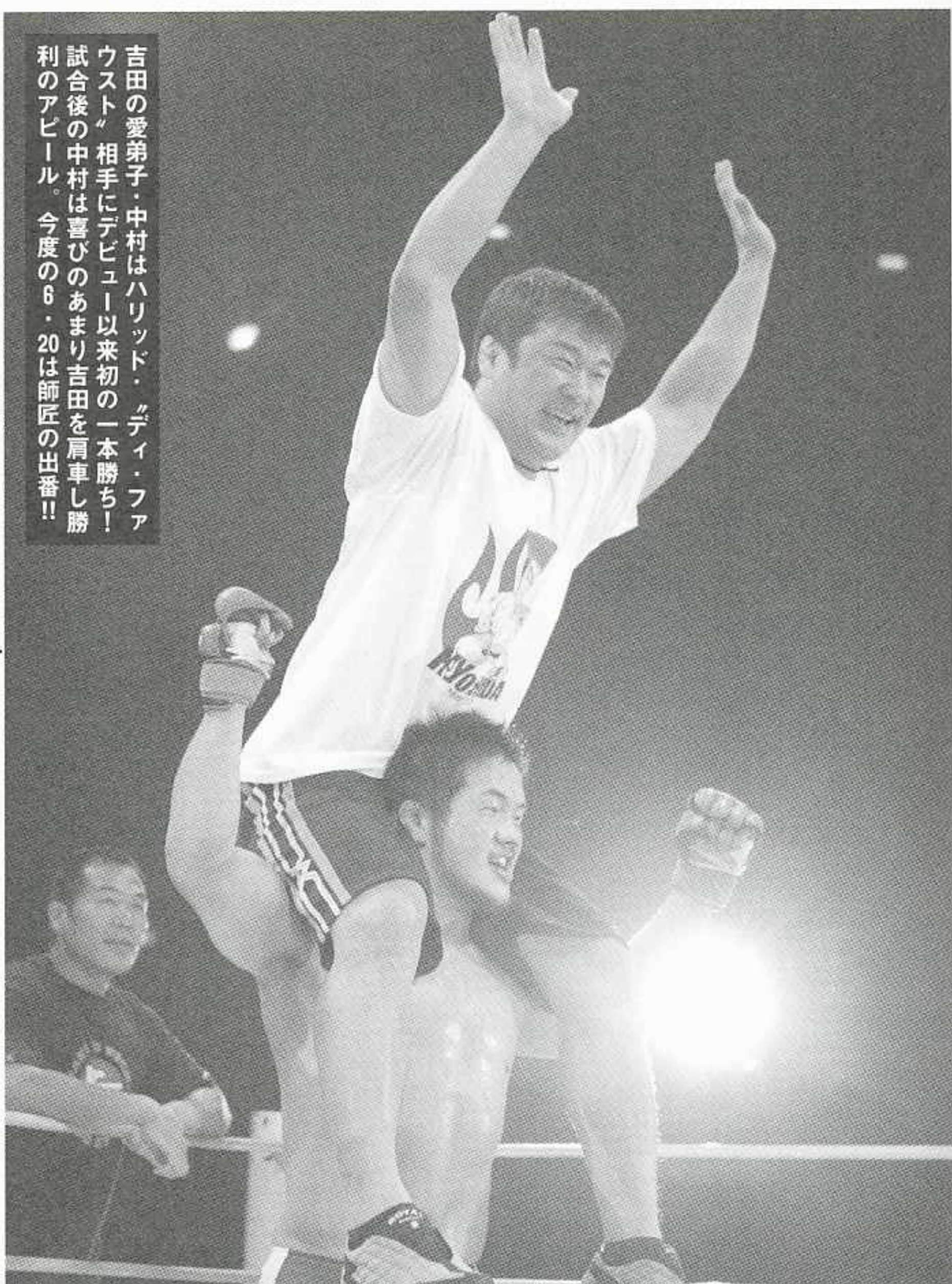
山口 サク自身は「背負ってないし、背負いたくないですよ～」って言うかもしれないけど、好むと好まざるに関わらず、〝自分のやりたい方向性〟と、〝やりたくないこともあるけど、『PRIDE』という場をつくり上げていくことを上位概念に置く〟という作業を合致させて表現してたのが桜庭和志という存在だよね。それはレベルの高い覚悟がないとできないもん。そういう存在が『ROMANEX』にも『武士道』にも見えなかったというところが、その2大会に対して〝イマイチ〟っていう声が挙がる一つの原因なんじゃないかなぁと思うね。

――中邑は「新日本を背負って」たけど『ROMANEX』は背負ってなかった。藤田も「藤田和之は背負って」たかもしれないけど、『ROMANEX』は背負ってなかった。逆にプロモーター側はサップに『ROMANEX』を、美濃輪に『武士道』を背負わせたかったけど、叶わなかったってことなんでしょうかね。

山口 うん。中邑が「新日本を背負う」っていうのはいいと思うけど、それはあくまで〝自己申告制〟なんだよね。ファンが中邑に「新日本を背負ってほしい」というところまでは行ってない。で、プロモーター側が藤田やサップに対して「『ROMANEX』を背負ってほしい」というのは〝他者申告制〟でしょ。サップや藤田が心の底でどう思ってるのかが見えてこない。〝自己申告〟と〝他者申告〟がハードルの高い部分で合致することが「背負う」ってことなんじゃないの？ たしかに単体で見たら『ROMANEX』の藤田にも器のデカサは見えたし、『武士道』の美濃輪にもプロとしての存在感は見えたよね。でも、彼らからは〝自分を背負ってる〟というところしか立ち昇ってこないんだよなぁ。ところでキミは『ROMANEX』と『武士道』はどうだったの？

――ちなみにボクは『ROMANEX』の日は、『週プロ』の表紙にもなった全日本の中嶋クンと川田のタッグマッチを取材に行ってて、『武士道』の日は新宿プロレス

「蹴って蹴って蹴りまくり、蹴るだけ蹴ったら見えてきたホントのサップ」――。新発進の『ROMANEX』メインでは藤田がサップに圧勝！ 6・26サップ復帰戦の相手は誰だ!?

「今日のテーマは笑顔でしたぁ」と満面の笑みを浮かべたのはイグナショフを下した中邑。試合後、アントンと握手を交わした中邑は、しばらく総合は休みプロレスに専念するとのこと

吉田の愛弟子・中村はハリッド・〝ディ・ファウスト〟相手にデビュー以来初の一本勝ち！ 試合後の中村は喜びのあまり吉田を肩車し勝利のアピール。今度の6・20は師匠の出番!!

6・20『PRIDE・GP』を前に『武士道・其の参』で小川と吉田がセコンドで揃い踏み。小川の愛弟子・軍鶏侍は挑戦試合に出場し、キム・ジン・オーに殴られながらも一本勝ち!

中邑には、いい意味での「うぬぼれ」が見えないんだよ

にサスケ社長の取材で行ってました（笑）。

山口　相変わらず隙間産業三昧だね、おまえ。まったくキミは『紙プロ』を背負ってないな（笑）。

——（ムキになって）い、い、いや、川田の蹴りで意識が飛びながらも必死に食らいついていく中嶋クンは良かったですよ！　ボクがいま32歳で、中嶋君の歳のちょうど倍なんですけど、可能性も含めて中嶋クンはやっぱり凄いですよ。サスケ社長だって相変わらず面白いし。

山口　そりゃあ中嶋クンのプロレスラーとしての素質だって、サスケ社長の面白さだってわかってるよ、そんなもん！　あ、そうだ！【背負う】って辞書でちょっと引いてみてよ。

——せ、【背負う】ですか？　ちょっと待ってください（といって辞書を開き始める）。

山口　早く。

——ありましたありました。【せお・う】は、「背に負う、背にのせる」「苦しい仕事や不本意な仕事を引き受けて、責任を持つ」で、【しょ・う】っていうのもありますね。「しょ・ってる」の形で使うときには「うぬぼれる」という意味もあるみたいです。「あの人はしょってる」っていうふうに使うみたいですよ。

山口　「うぬぼれる」かぁ……。

——あと、【背負って立つ】というのは、「組織や団体の中心となって、活動・発展のささえとなる。全責任を一身に負う」という意味がありますね。

山口　なるほどね。な～んかその「うぬぼれる」っていうのもキーポイントになりそうだなぁ。サクと中邑の違いってなんだろうね？

——中邑がうぬぼれてるってことですか？

山口　いや、違うよ（笑）。

——まぁ、中邑いわく今回のイグナショフ戦のテーマは〝笑顔〟だったらしくて、入場時から笑顔を振りまいていて、試合後には「プロレスラーは強いんです！」っていう桜庭ばりのマイクまで飛び出しましたからね。〝笑顔〟と〝プロレスラーは強い〟っていうところでは、サクと中邑は被りますね。

山口　あ～、わかった。たぶんね、逆にサクには、いい意味での「うぬぼれ」があったんだと思うんだよなぁ。「俺が『PRIDE』を背負ってやる」っていうさ。いや、そんなことひと言も言ってないんだよ、サクは（笑）。でも、高田延彦にしてもそうだけど、『『PRIDE』という場をつくりあげることを上位概念にする」ってことに関しては、誰にも譲らないところがあったじゃない。試合の勝ち負けはともかく。

——逆にいうと、中邑にはそのいい意味での「うぬぼれ」が見えない、と。

山口　厳しい言い方をしちゃうとね。いい意味での「うぬぼれ」と、さっき言ってた「苦しい仕事や不本意な仕事を引き受けて、責任を持つ」という、ある意味で相反するものを同居させて、それが表に見えたときに「背負ってる」っていうことになるんだと思うんだよ。よく経営者とかが「自由と責任は表裏一体です」なんて言い方もする

背負うということが背中に貼りついてる選手の出現を待ちたいね

じゃない？

——よく知りません（笑）。なんか、会長、国語の先生みたいになってますよ。中卒のくせに！

山口　バチーンッ!!（三度びチョロの頭を思い切りはたく）。だからさ、サクや高田延彦にとっては『PRIDE』が、無くなっては困る場所だったんだよね。そういうギリギリ感から出る迫力が彼らの闘いにはあったわけ。『ROMANEX』や『武士道』に出てる選手からはそういう意味での迫力は感じられないんだよね。

——ああ、たしかにそうですね。そのころのサクや高田本部長にとってはUインターやキングダムがすでに無かったけど、中邑には新日本という帰る場所がある、と。でも、それを言ったら中邑がかわいそうな気もしますけど。それは時代性っていう部分で仕方ないんじゃないんですか？

山口　まぁ、いろんな事情や要因が積み重なってサクや高田本部長の〝使命感〟が立ち昇って切迫感が出たんだけどね。でも、だったら『ROMANEX』や『武士道』っていったい何のための場なの？　っていう疑問も出てくるじゃない。

——それは回数を重ねていけば、どんな場なのかは見えてくるんじゃないですか？

山口　だから、サクや高田本部長からは「『PRIDE』が、無くなっては困る場所」という現実的な問題を超えた部分で、「『PRIDE』こそが〝新しいプロレス〟である」、あるいは「総合格闘技を広める」っていう〝使命感〟みたいなものが見えたでしょ。その〝使命感〟こそが、さっき言った、いい意味での「うぬぼれ」だと思うんだよね。だから、〝自分のやりたい方向性〟と〝やりたくないこともあるけど、その場をつくり上げていくことを上位概念に置く〟ということが高いレベルで摺り合わせられる。その摺り合わせができるのは、ある意味〝職業病〟にかかってるってことなんだけど、それができる人をプロフェッショナルっていうんじゃないのかなぁ。プロフェッショナルっていうのは〝職業病〟にかかってる人のことを言うんだよ。

——な、なんだか頭の痛い話になってきちゃいましたね（苦笑）。

山口　おまえは時々性病にかかってるみたいだけどさ（笑）。だから、かつての猪木さんは新日本を思いきり背負ってた。しかも、その新日本を背負うということは、その時代の中での〝新しいプロレスをつくることだ〟という使命感があった。つまり、〝新たな場をつくらなければプロレスがダメになる〟という「うぬぼれ」の元に突き進んでいった。いまのオーちゃんもそうだよね。〝ハッスルを背負うこと〟＝〝新しいプロレスをつくること〟＝〝つくらなければプロレスがダメになる〟という理念を身体を張ってやってるから、『ハッスル』に熱が付きかけてるんじゃないかと思うよ。さっきのサクや高田本部長の話もそうだし、UWFを背負ってた前田日明もそうだったでしょ。魔裟斗も、好むと好まざるに関わらず『MAX』を背負ってるっていう迫力が伝わってくるもんね。

——つまり、簡単に言うと、『ROMANEX』や『武士道』を背負う選手に早く出てきてほしい、ということですかね。

山口　簡単に言うとね。背負うということが〝職業病〟のように背中に貼りついてる選手の出現を待ちたいよね。逆に言えば、「プロレスとは何か？」というテーマを〝職業病〟のように延々と考えてたのが猪木さん。「UWFとは何か？」を〝職業病〟のように延々と考えてたのが、前田日明。「『PRIDE』とは何か？」というテーマを考えて考え抜いて体現してたのがサク。『PRIDE・GP』という、プロレスラーにしては敷居の高い場所まで出向いていって「ハッスルとは何か？」を延々と考えてるのが、小川直也。『ROMANEXとは何か？』『武士道とは何か？』を〝職業病〟のように考えたり、体現できたりする選手に早く出てきてほしいね。なんかさ、『武士道』とか見てると「俺は客に媚びない」とか「俺は組織に染まらない」とかさ、そういう個人の思いは見えてくるんだけど、〝職業病〟にかかってるプロがいないっていう印象だよね。『ROMANEX』にはプロはたくさんいるんだけど、そのプロが〝職業病〟にかかれるほどの熱を場が帯びてないって感じがするね。まぁ、これからなんだろうけど。

——ところで『ROMANEX』のキャッチコピーは「最強？　笑わせるな！　このリングからは英雄が生まれる」ってことでしたけど、会長の目から見て誰か英雄は発見できましたか？

山口　だから、まずはその〝場〟の定義だよね。『ROMANEX』が総合格闘技の場なんだったら、いまの方向性じゃ『PRIDE』のような熱は生まれないよ。『ROMANEX』を背負う人が出てきたり、「ガチンコ・プロレス」って銘打つんなら別だけど。「最強？　笑わせるな！」って言うんであれば、「最強」は決めないってことでしょ？（笑）。であるならば、内容が最も問われる世界になってくると思うんだけど、その内容も旗揚げ戦のあれじゃあ心許ないよね。

——評判も芳しくなかったですね。

山口　一回見ただけじゃ決められないけどさ。あのさ、「純粋」なんて言葉はいま死語じゃない？

——な、なんですか、いきなり！　まぁ、「ハッスル」も死語だったけど、見事に蘇りましたけどね（笑）。

山口　でも「純粋」っていう言葉があったから、「不純異性交遊」なんて言葉も出てくるわけでしょ。「不純異性交遊」っていうのは、性行為は「不純」っていう考え方から出てるんでしょ。でも、別な角度から考えたら、「純粋」な「異性」との「交遊」なんだったら、当然、性行為も含まれるわけじゃん（笑）。

——まぁ、そうですね。

山口　そう考えたら、プラトニックな恋愛のほうが「不純異性交遊」だ、という考えも成り立つわけですよ。実際には北欧の人たちはそういう考え方らしいから（笑）。

——北欧といえばフリーセックス！　ですからね（笑）。

山口　おまえ、そういう話題のときは目がランランと輝いてるね（笑）。

——で、どういうことですか？

山口　いや、だから「最強」ということの捉え方だっていう話。総合格闘技である以上、「最強」を求めなきゃその存在意義は

6月2日、都内ホテルでの会見で発表された桜庭の対戦相手はニーノ。一部で報じられたヒザのケガについては「ヒザは10代の頃からのケガなので適当にやってます」。吉田が柔道衣を改良したことを聞くと「ボクもヒザを改良したいと思ったんですけど、1年ぐらいかかってしまうので、少し軽くしておきました」とサクスマイル

同じく6月2日の会見に出席した吉田は写真撮影でファイティングポーズを求められると、なぜか両手でチョキを作りポーズを決めるハッスルぶり。K―1王者ハントの総合初挑戦の相手に選ばれた吉田は元ハントのトレーナーのハピ氏の指導を受け試合に備えるという。吉田と小川、揃い踏みとなる柔道王。輝くのは一体どっちだ!?

希薄になってくると思うね。日本のプロレスは、かつては「プロレスこそ最強の格闘技である」って打ち出したためにこういう有様になってるわけだけど（笑）、でも、打ち出しはベタベタでもいいから、大事にしないとね。気分として「最強」という概念に飽きた、というのはわからないでもないけど、だったら内容でノア以上のものを見せろって話になるじゃない。

――うーん、そうかもしれないです（笑）。

山口 『ハッスル』は最初から、〝誰が一番ハッスルしてるかを決める場〟ってハッキリしてるから乗れるんだよ（笑）。でも『ROMANEX』は中軽量級のほうが面白かったな、俺は。

――たしかに、須藤元気がホイラーにKO勝ちしたり、UFC王座を剥奪されたBJペンが評判通り圧倒的な強さを見せたり、中軽量級は非常に評判がいいですね。今回は出場しませんでしたけど、山本〝KID〟徳郁も控えていますし。

山口 『武士道』も中軽量級のほうに思いきり針を振ったほうが、その存在意義は見えやすくなるかもしれない。

――ちなみに『ROMANEX』と『武士道』の2大会を観て、MVPを選ぶとしたら誰になりますか？

山口 『ROMANEX』は須藤元気。『武士道』は中村（和裕）と藤井軍鶏侍。中軽量級に針を振ったら面白いというのとは矛盾しちゃうけど、カズなんかは一本取れる技術もあるし、ハートの強さにも信頼感が持てるよね。やっぱり背負ってもらいたいと思う選手は、サクじゃないけど、基本的には強くなきゃダメだよ。プラス、技術やハートに対する信頼感がないとダメ。プロモーターサイドもそこを見極めないといけないと思うよ。サップにはそれが一瞬見えたから背負わせようとしちゃったんだろうけど、地金の部分じゃないからほころびが出ちゃうと思うんだよね。たしかにサップは侮れないし、ああいった怪物に何もさせなかった藤田はもっと評価しないといけないけどね。

――『武士道』でいえば、無敗のハウフを秒殺した五味が前回に続き評価をあげましたけど、会長的にはいかがですか？　ウチの編集部内の評価はイマイチですけど、周りからは「五味は凄い」とか「『紙プロ』で取材して」とかよく言われるんですよ。

山口 五味は強いよね。でも、修斗出身だからかなぁ。さっき言ってた〝職業病〟みたいな感覚は貼りついてはいないよね。プロフェッショナルな匂いがこれから出てくれば面白い存在だけど、いまのままだと〝自己申告〟で終わっちゃう気がしないでもない。〝他者申告〟と早く合致できるようなシチュエーションをプロモーターサイドがつくってあげればいいんだけどね。例えば、来年、中軽量級のGPがあったりすると、五味みたいな存在はもっと色気を醸し出してくると思うよ。

――最後に、『猪木祭り』の訴訟騒動についてはどう思います？

山口 いきなり話題が変わるな（笑）。

――いや、これも5月の話題としてはフォローしとかないと（笑）。DSEの榊原代表によると「自業自得」ってことです（笑）。

山口 榊原代表は四字熟語で来たんだ。俺はじゃあ、「意味不明」にしとこうっと（笑）。

――そうきましたか（笑）。意味不明な締めの言葉、ありがとうございます！（笑）。

涙のカリスマ、ヒクソン戦断念の真意とは!?
『紙プロ』に久々の登場!

6・26 "元祖ビースト"ダン・スバーンと韓国で激突!!

格闘技界の負け犬・日本代表

入江秀忠

韓国VT大会『グラジエーター』でダン・スバーン戦が決定した入江が、同大会記者会見で、突然のヒクソン戦断念を宣言! その真意を探るため入江を直撃したところ、今だから語るヒクソン戦実現に向けての活動秘話、スバーン戦への意気込み、そして衝撃のカミングアウトまで飛び出した! 果たしてその内容とは……!?

聞き手/松澤チョロ designed by Tani-Yan (Two three)

——お久しぶりです！　今回、韓国でダン・スバーン戦が決まった入江さんですけど、それを機にヒクソン戦を断念しちゃったらしいじゃないですか？

入江　そうなんですよ。僕はデビューした時から「ヒクソンとやりたい」ってずっと言ってたんで、もう5〜6年経つのかなあ。川崎でのキングダム・エルガイツ初のビッグマッチで優勝した時にヒクソン戦をアピールして『紙プロ』さんとかに大きく取り上げられたのも、もう4年ぐらい前ですからね。

——あの時は『紙プロ』でも2ページ使って特集しましたからね（笑）。

入江　署名集めの旅もしたり、いろいろやりましたよ。その中で、ヒクソン自身にもお子さんの不幸があったり、船木戦以来、日本での試合が噂されても実現しなかったりで。

——ここ最近ヒクソン冠の大会をK-1が主催する噂が出てましたよね。

入江　金銭面以上にメンタル面の問題もあるんじゃないかなって。やる気がない人にいつまでもしがみついてる自分も嫌だったし、どっかで踏ん切りをつけたいなっていうのがあったんですよ。そうして迷ってる時に、今回のスバーン戦の話が来たって感じですね。

——今回、入江さんがヒクソン戦を断念したという報道が出て「えっ？　まだ諦めてなかったの」っていう声も正直多いんですけどね（笑）。

入江　ハハハハハ！　ホント、しつこいなっていう感じで（笑）。

——ボクも入江さんは引退するまで、ずっと署名は続けるのかなって思ってました（笑）。

入江　そう思ってた人も多いみたいですね（笑）。でも、ボクは本気でヒクソンとやりたいと思って、インディーズとしてできる限りのことをやってきたつもりですから。

——改めて伺いますが、なぜそこまでヒクソンにこだわったんですか？

入江　もちろん世界最強に挑戦したいというのもありますけど、やっぱりUWFの流れを汲むキングダムの名前で出た高田さんがヒクソンに負けじゃないですか。自分も微力ながら頑張れば、ヒクソンに辿り着いてUWFの仇を取れるかもしれないって思って諦めずにやってきたんですよ。

——打倒ヒクソンはUWFの悲願でしたからね。時には行方不明になってまで、あちこちを署名活動して回ったヒクソン戦でしたけど、実際どれぐらいの成果があったんですか？

入江　都内、九州、大阪、仙台といろいろ行って、あとは雑誌とかで呼びかけたりしたんで、ぶっちゃけ全部で三千人ぐらい集まりましたね。

——三千人！　ちなみに目標はどれぐらいに設定してたんですか？

入江　一応、一万人ですね。まあ、一万人集まっても実現できるかどうかはわからないんですけどね（苦笑）。

——まあ、そうですよね（笑）。

5月10日、都内ホテルで行われた『Gladiator Fighting Chanpion sihp 2004』記者会見には、美濃輪、滑川、松井という錚々たる顔ぶれ。ダン・スバーンとの対戦が決定した入江は「この場で今、ヒクソン戦を諦めることを発表します」と突然の“ヒクソン戦断念”を表明。「選手としての僕は人生の勝ち組とは言えない。僕は普段サラリーマンをやりながら選手をやってる。サラリーマンとしても勝ち組じゃない。僕は全てにおいて負け犬です」と声を震わせた。

2000年9月2日、川崎市体育館で行われたキングダム・エルガイツ初のビッグマッチ『PROGECT U』。トーナメントに優勝し、UWFヘビー級チャンピオン輝いた入江は「僕のお願いを聞いてくださ〜い!!　僕はッ、ヒクソンと闘いた〜い（号泣）」と突如ヒクソン・グレイシー戦へ名乗りをあげ、実現のための全国署名運動を開始した。

入江　その話題も自然と風化しちゃいましたけど、それと同時に僕の中でもヒクソン戦への夢が風化していった感じでしたね。署名してくれた人には、ヒクソン並のネームバリューと実績を持つスバーンとの闘いを償いとさせていただきたいなって思ってます。

——ネームバリューはともかく、スバーンの総合での実績はヒクソンと遜色ないですからね。それに比べて最近の入江さんは、正直、パンクラスやDEEPで芳しい成績は残せてませんよね。それについては、どう思ってますか？

入江　全てがルールですね。他団体に出るということはルールを認めてのことですから、ちょっと言いにくいですけど、正直言って団体によってブレイクのタイミングが全然違うし、僕としては自分の実力を出し切れなかったと思ってますね。例えばグラウンドのスパーリングとかをやったら、全盛期の頃の僕だったら誰にも極められるわけないじゃないですか？

——全盛期は、とにかく自信があったんですね？

入江　そうです。それぐらいグラウンドは自信があったんですよ。でも、いまのMMAの試合っていうのは、寝技より打撃が強い選手が有利になるし、押さえ込んでもブレイクになるようなルールですから。僕はいまのMMAルールにはついて行けなかったというわけです。そういう意味で僕は格闘技界の負け組だと思ってるんです。

——負け組ですか。ちなみに全盛期は何歳ぐらいの時だったと思ってます？

入江　20代後半ぐらいの時ですかね。その頃は、いろんなところにスパーリングの出稽古に行って、強いと言われてた選手とかとスパーして5年間ぐらい一本も取られなかったんですよ。

——その頃だったら、もっといい成績を残せたという思いがあるんですね。

入江　はい。でもそういう時は僕から逃げとかいて、逆に僕が団体背負っちゃって満足に練習ができなかった時になって試合が組まれたんで。その時の僕で評価するのはやめて欲しいですね。対戦相手も、僕の全てを出せる相手を用意してくれてるとは思えなかったし、崖っぷちの試合ばっかりやらせて、勝って何が残るんだと。正直、僕もやる気出ませんよ。だから今回のスバーンのような相手を待ってたんです。

——スバーンだったら相手にとって不足なしと？

入江　スバーンって、僕が総合を始めた時の憧れの人だったんですよ。UFCで勝って、更に『アルティメット・アルティメット』っていうUFC王者を8人集めたトーナメントでも勝ってますしね。僕の中では“ビースト”と言えばサップじゃなくてスバーンですから。

——そういえばスバーンも“ビースト”ってキャッチフレーズでしたね。

入江　僕が尊敬するのは、力と技術と精神力が備わってるファイターですから。スバーンは、闘えないまでも、「いつかどこかで握手できればいいな」って考えてた格闘家なんで。

——握手するだけだったら、ボクでもできますよ！（笑）。

入江　それぐらい尊敬してた選手なんです。でも、スバーンとは体重差が20〜30キロはあるんで話があってから2日ぐらい悩んだんですけど、僕の格闘家人生に区切りをつけるいいキッカケだと思って受けました。

——スバーンはネームバリューも実績も入江さんより上の選手ですけど、年齢を考えると勝たなきゃいけない相手なんじゃないですか？

入江　僕はそういう考えなんですけど、周りの人たちはどうしても知名度だけで比べて「相手はスバーンだよ。勝てるわけない」っていう感じのことを言うんですよね（笑）。

——そういった声を跳ね返す自信があるわけですね。

入江　たしかにスバーンは年齢はいってますけど、フィジカル面を考えたら、ちょっと不利かなって（ニコッ）。

——どっちなんですか!?（笑）。先ほどは、自分で格闘技界の負け組と言ってましたけど、ここで勝てば一気に勝ち組に上がれるんじゃないですか？

入江　そうかもしれないですけど、実際、僕は負け組ですから。全盛期の時にデカい団体に入って、社長業もやらずに練習一本に打ち込んでればもっと上に行けた自信はありますよ。そういう意味では運もなかったと思うし、もっと上手く立ち回って

Hidetada Irie

いたらなって思う時もありますね。……まあ、運も実力のうちって言いますけど（苦笑）。

——こんなはずじゃなかったという思いが強いんですね。

入江　はい。僕はいまの若い人たちみたいに、二股かけていい方に行くとか、メリットのある方にすり寄って行くとかできなかったですから。

——義理堅さが仇になってしまったんですかね？

入江　僕は鈴木健さんに拾ってもらったわけだし、キングダムっていう団体がなくなるのも嫌だったから社長業もやってるし、会社潰さないように下北沢の興行で赤字出さないようにしなくちゃいけなかったし、どうしても満足な練習はできなかった。対戦相手もそんなに有名な選手は呼べなかったです。ですけど、僕はインディーズという裏街道でやってきたことを誇りに思ってますよ。全ての集大成として、そしてインディーズの代表として、裏街道を歩いてきた人間の代表として韓国でスパーンと闘ってきます！

——スパーン戦は進退を賭けるぐらいの意気込みなんですね。

入江　はい。僕はこの試合の後のことは一切考えてないんです。勝ったから続けるとか負けたから辞めるとか、そんなことは関係ないんですよ。韓国から帰って、しばらく休んで、もう一度やりたくなったらヒョコっと出てくるかもしれません。だけど今後、スパーン以上の相手や、それ以上の闘うテーマが見つかるとは思えないんですよ。

——現時点では、もうスパーンしか見えないんですね。

入江　そうですね。ネームバリュー的にも実績的にも尊敬できる格闘家は、そういないですね。強い弱いは別として、興味を持てる選手がいない。主催者には「よくぞ組んでくれた」って感謝してますよ。

——入江さんとスパーンが組み合ってるシーンを想像するだけでも、いろんな意味で面白いと思いますよ（笑）。

入江　ネットでもそういう書き込みが多いですからね（笑）。僕にとっては、ある意味、人生最大にして最後のチャンスっていうつもりで闘いますよ。あっ、あとこれは言っておきたかったんですけど、ちょっと前の『格通』にスパーンがオーストラリアの試合でワークをしたとか書いてあったんですよ。

——ありましたねぇ。その試合を見た記者が、スパーンの試合は格闘技とは程遠い内容だったってことでワークと判定してましたね（笑）。

入江　そうなんです。僕はそれを読んだ人から「入江vsスパーンって、もしかしたらワークなんじゃないの？」って思われるのが嫌なんですよ！

——スパーンといえば、その試合以外にもそういった噂はよく出る選手なんですけど、ズバリ言って、入江vsスパーン戦は八百長じゃないと？

入江　八百長じゃないです！（キッパリ）。……まあ、僕も若い頃とか売れない頃は、くだらないワークもやったことありましたけど（苦笑）。

——衝撃のカミングアウトですね！　薄々気付いてはいましたけど（笑）。

入江　そういう時期もありましたよ……。いまだから言いますけど（笑）。でも、今回のスパーン戦でワークは絶対ありませんので安心して下さい。何なら署名集めてもいいですよ！（笑）。

——どんな署名ですか!?（笑）。

入江　取りあえず、6月26日の試合が僕の集大成になることは間違いないです。（小声で照れながら）僕、『あしたのジョー』のように燃え尽きたいんですよ……。

——そこは小声にならなくてもいいですよ（笑）。

入江　ジョーのように真っ白な灰になれるようになればなって。これまでの試合って団体のために闘ってた部分が大きかったんですけど、今回は自分のために闘う部分が大きいし、凄くいい練習もできてるんでワクワクしてるんですよ。いままでの入江じゃない試合を見せることができると思います。

——入江さんは海外での試合は初めてですよね？

入江　いや、試合というより海外に行くのが初めてなんですよ（笑）。

——あ、そうでしたか（笑）。

入江　だから、水は大丈夫かなあとか不安なんですよ（笑）。最近、国士舘大学のレスリング部に出稽古に行ってるんですけど、韓国に遠征に行ったことあるみたいで「コンセントが三つ又でしたよ」とかいろいろ教えてくれて。

——そんなこと心配しなくていいですよ（笑）。

入江　ご飯とか持って行ったほうがいいかなあとか。

——米は韓国にもあるんで大丈夫です（笑）。ところで国士舘のレスリング部には、スパーン戦を想定して出稽古に行ってるんですか？

入江　そうです。130キロぐらいで体格がスパーンと一緒ぐらいのグレコの選手がいるんですよ。寝技はともかく、体重の乗せ方とか上手いし、パンチとか打ってもらうと凄く重いんで。そんな選手は日本にあまりいないですし、その辺の練習相手は凄く恵まれてますね。

——今回の韓国大会は入江さん以外にも、美濃輪さんや滑川さんとか松井さんとか日本人選手もたくさん出るんで、日本のファンもかなり注目してますからね。いい試合を期待してます！

入江　僕のファンってどのぐらいいるか分からないですけど、スパーン戦は僕にとっての集大成であることは間違いないです。ヒクソン戦の実現を信じてくれてた人がいるとすれば、今回の試合が形を変えたヒクソン戦だと思って観に来てください！

——韓国まで観に来ても損はさせない試合を見せると？

入江　そのつもりです。馬鹿と言われてもしょうがない格闘技人生でしたけど、最後にここまで辿り着けたわけですからね。どこで区切り付けようかと、ずっと死に場所を探してたんですよ。いまは、この試合が終わって、このままいなくなっても別に笑われねえだろうなって思ってます。もし勝ったら、他の死に場所を探しに世界のどこかに行くかもしれないし、納得して真っ白な灰になれば消えるかもしれない。とにかくスパーン戦で完全燃焼して、入江秀忠の集大成をお見せします！

【5月28日／都内のレバノン料理店にて収録】

数年前、知人を介して、ホイスと会食する機会を得た入江。この時、ホイスは「柔術マッチでなら、自分が闘ってもいい」と発言したという。しかし、あくまでヒクソンにこだわる入江は、ホイスとの対戦の話をこれ以上進展させることはなかった。う〜ん、残念！

【いりえひでただ】1969年6月17日、長崎県対馬市出身。1998年10月13日、マーク・ジョンソン戦でデビュー。第二回全日本アマチュア修斗ヘビー級優勝、キングダムエルガイツ・ヘビー級王者、UWFヘビー級王者。2000年9月2日、ヒクソン戦をブチ上げるも今年5月に断念を宣言。自らの格闘人生の集大成とするべく、「グローブが異常に薄い」（入江・談）という『グラジエーター』のダン・スパーン戦に命懸けで挑む。182cm、95キロ。

第一回
Gladiator Fighting Championship 2004

■日時　2004年6月26日（土）、27日（日）
試合開始17:00（開場15:00）
■場所　韓国・オリンピック公園第1体育館
6月26日　第五試合　**入江秀忠 vs ダン・スパーン**
※大会詳細はP40で!!

取プ闘龍

闘龍門JAPAN
旗揚げ5周年記念大会

年金問題から剛竜馬、そしてUFOまで衝撃発言連発!!

岩手県議会議員＆UFO研究家

ザ・グレート・サスケの近況報告

前号の佐山皇帝に続き、今回、近況報告してくれるのはザ・グレート・サスケ。いまや“覆面議員”として全国区になったサスケだが、議員となってから『紙プロ』に登場するのは今回が初。というわけで、初登場のサスケ議員に、ここ最近話題の年金問題から、剛竜馬復帰、さらには自ら研究家と名乗るサスケ議員に先日メキシコで目撃されたUFOについて必要以上に熱く語ってもらいました。オヴニ!

聞き手＆撮影／松澤チョロ　designed by nogu（Two three）

——サスケさん、お久しぶりです！

サスケ　ホント、『紙プロ』は久しぶりですよね。目を離してた隙に私は議員になっちゃったわけですけど（笑）。

——それは知ってますよ！（笑）。でも議員になったら、以前と比べて喋りもかなり制限されちゃうんじゃないですか。

サスケ　あのねぇ、やっぱり下ネタはあんまり喋っちゃいけないみたいだねぇ。

——それはそうでしょうね（笑）。

サスケ　そういうのはあるんだけど、でもついつい喋ってるうちに、また元通りのサスケになっちゃうんだよね（笑）。

——サスケさんといえば「レスラー、芸人にプライベートはねえんだよ！」という名言がありますけど、議員にはプライベートって必要なんじゃないですか？

サスケ　いやいや、むしろね、議員こそプライベートがないみたいな。議員になると隠し事なく、すべて公にしなきゃいけないですからね。

——ということなので、ここ最近ボロボロと発覚している国民年金問題を公にしてもらいましょうか（笑）。

サスケ　そう来ましたか（笑）。年金はね、私は県議会の中では真っ先に発表したんですよ（なぜか得意げ）。で、いろいろ調べたらトータルで2年2ヶ月、26ヶ月分の未納期間があったんです。いつ頃かっていうとユニバにいた頃ですね。

——アハハハハ！　それはある意味、しようがないというか（笑）。

サスケ　そうそう（笑）。ユニバ時代、それに、もちろん、新日本プロレス学校時代と。この2つの期間が未納期間だったと。あとはね、みちプロ立ち上げの3年目かな？　3年目でようやく厚生年金に加入したんで、その切り換えの時期で若干の未納期間があったんですよ。そのぐらいでしたね。でもまあ、2年2ヶ月とはいえ、未納は未納ですからね。そこは深く反省しております。

——以前からお忙しいサスケさんですけど、いまは映画もあったり、議員活動もあり、もちろん試合もありとホント、ミルコかサスケかって感じですよね（笑）。

サスケ　プロレス界のミルコ・クロコップですからね（笑）。でも私がやっぱり、ミルコに聞きたいのは、なぜ国会議員なんだということですね。彼はもともと政治家志向なのかどうなのかっていうね。

——かなり本腰を入れて議員活動もしてるみたいですよ。まあ入れ過ぎちゃって、この間の『PRIDE・GP』はランデルマンに負けちゃいましたけどね。

トータルで2年2ヶ月分、年金の未納期間がありました。ユニバ時代と新日本プロレス学校時代ですね。

サスケ　そうそう、負けちゃったんだよねぇ。同志として、頑張れミルコ！　とエールを送っておきましょうかね（笑）。

——で、『紙プロ』に出てない間に因縁のデルフィンさんとの試合があったり、デルフィンさんの結婚もあったりしたわけですけど、いかがですか？（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　あったあったあった！（なぜか嬉しそう）。

——サスケさんって結婚式には呼ばれたんですか？

サスケ　それがさぁ、アイツは招待状も寄こさねえんだよ！

——あ、やっぱり（笑）。

サスケ　でもね、人生社長には招待状送ってんだよ！　で、なんで俺に来ないのっていうね。俺を呼んでくれたらね、アイツの過去の悪行を洗いざらいブチ撒けようと思ってたんだけどさ。

——アハハハハ！　それは確実に呼ばれないでしょうね（笑）。

サスケ　ホントね、喋る内容まで克明に台本作って準備万端だったのにさぁ。なんで呼んでくれないんだろうな。

——もし呼んでたら、歴史に残る結婚式になってたかもしれないですね（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　ホント困ったもんだ。デルフィンのバカヤローッ！

——ズバリ言って再戦は難しそうですね（笑）。あと、時事ネタになっちゃうんですけど、最近、"プロレスバカ"こと剛竜馬さんが復活したんですよ。

サスケ　ムッフフフ（笑）。

——サスケさんはAV出演疑惑は断固として認めてないですが、剛さんも『東スポ』一面にもなったビデオ出演疑惑を否定してたんですよ。『東スポ』情報だと5本は出てるって話だったんですけど。

サスケ　あ、5本も出てるんだ!?

——いや、だからサスケさんと同じように否定してるんですよ（笑）。

サスケ　いやいや、俺は出てないから。

——でも声紋が一致したとか、いろいろ突っ込まれてたじゃないですか（笑）。

サスケ　（急に真顔になり）あのですね、声紋に関して言えばね、実は声紋っていうのは100%じゃないんですね。指紋は100%になるんだけど、声紋っていうのは99・9%以上いかないんです！

——そうなんですか？

サスケ　あくまでも推定なんですよ。それが声紋の弱点なんですよォォ！

——弱点を見つけたわけですね（笑）。

サスケ　ていうかね、私はパソコンの声紋認証ソフトを持ってるんだけど、自分の声紋が合わなかったりしますからね。

——本人でも合わないときがあると？

サスケ　そうそうそう。だから、声紋っていうのはそういう危ういもんなんですよ。だから、そんな疑惑云々は全然屁のツッパリですよ！

——屁のツッパリでしたか（笑）。ちなみに剛さんはひったくりもやってないと言ってましたね。

サスケ　あっ、俺ねぇ、剛さんは、ひったくりはやってないと思いますよ。

——何か証拠でも握ってるんですか？

サスケ　剛さんって知ってる方は知ってると思うんだけど、乾杯するときにさ、コップを持って腕をグルグル回すクセがあるんだよね。で、相手の顔に掛けちゃったみたいな（笑）。酔ってくると常に右手を動かしてるんだって。飛んでる虫を掴むような動きをするらしいから。

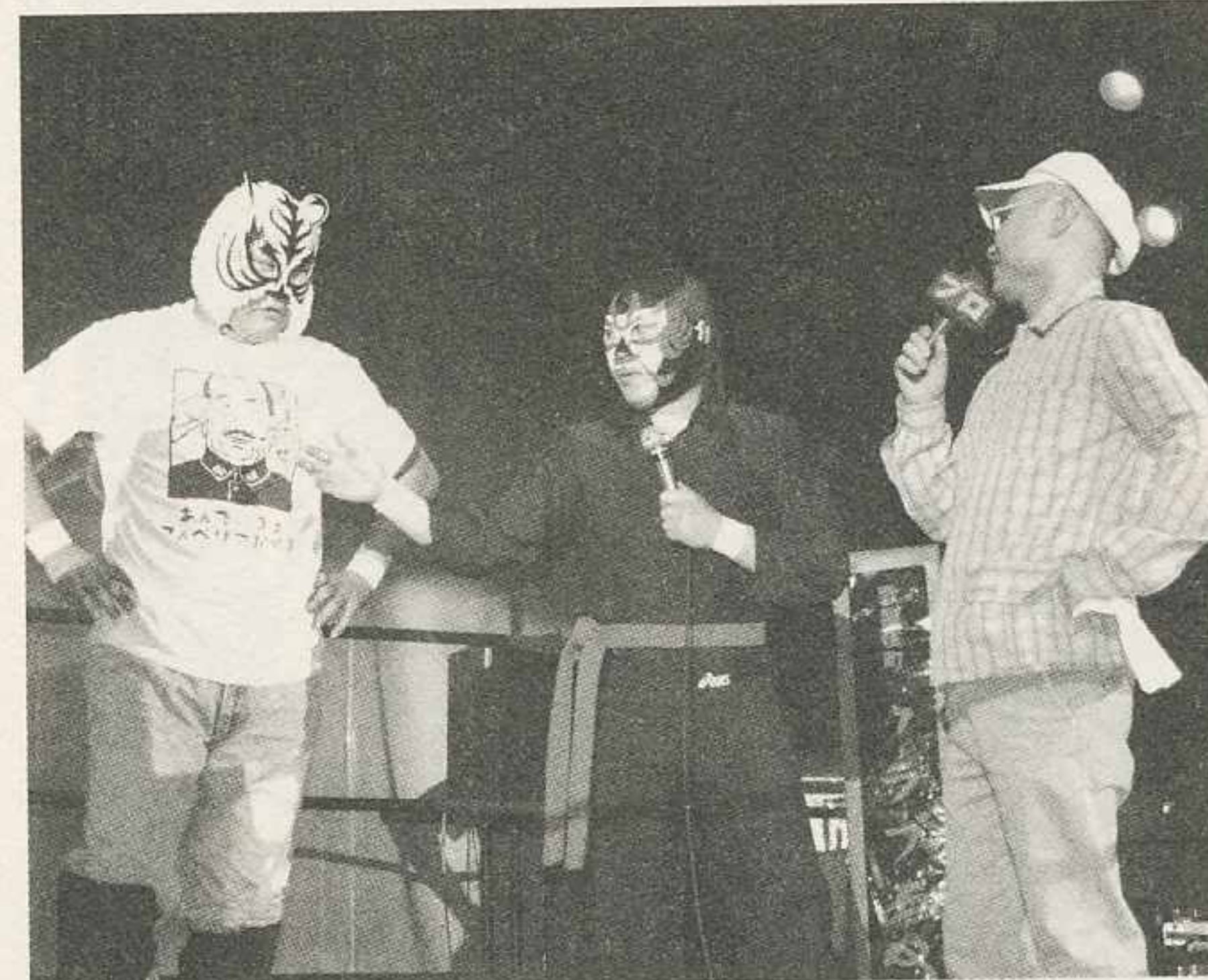
——演歌歌手がコブシを回す要領で右手を回しちゃうんですね（笑）。

サスケ　そうそうそう（笑）。ひったくり騒動のときもね、酔っ払ってたらしいから。で、新宿駅の構内かなんかでしょ。

取プ闘龍

闘龍門JAPAN
旗揚げ5周年記念大会

――新宿西口の切符売り場で、おばさんとぶつかったらしいですね。
サスケ　そりゃ、ぶつかりますよ。酔っ払って歩いて（右手をグルグル回して）こんなことやってたらね（笑）。
――確実にぶつかりますね（笑）。
サスケ　虫を掴んでるような意味不明のいつもの動作をしてたと思うんですよ。で、ハンドバックかなんかでしたよね。
――そうですね。おばさんはハンドバックから財布を出して切符を買おうとしてたところだったみたいです。
サスケ　で、いつもの動作をしてたら、間違って財布を掴んだんじゃないかなって思うんだよね。
――アハハハハ！
サスケ　だから、本人は盗んだっていう意思はないんですよね。
――剛さんは無実が証明されるまで闘うって言ってましたね。あと、最近のサスケさんといえば、映画『シベリア超特急』の特別版『欲望列車（仮）』のスーパーバイザーとしてターザン山本と共に名前が入ってたのには驚かされましたよ。
サスケ　いやいや、俺も驚いたよ（笑）。
――本家『シベ超』監督の水野晴郎先生とは何度かご一緒されてるんですよね。
サスケ　そうですね。舞台版の『シベリア超特急～007』には念願の出演も果たしてますし、映画的にももちろん私的にも評価の高い作品なんで。
――映画好きのサスケさんの認める作品なわけですね。
サスケ　やっぱりね、第一作目の衝撃は物凄かったですからね。でね、『シベ超』のパート2の試写会に私は招待頂いて、その試写会の打ち上げの時に、ようやく水野晴郎先生とご対面したわけですよ。で、「出させてくださいよぉ！」って私からお願いしてね。そしたら「いやぁ、いいんですか？」っていう感じで、すぐ仲良くなっちゃってね（笑）。
――そこから発展して、遂にシベリアン・タイガー・ジュニアという大型レスラーもデビューしましたよね（笑）。
サスケ　ねぇ。誰なんだろうねぇ？
――全くわかりませんでしたね（笑）。で、クランクインしたばっかりの『欲望列車』は、『シベリア超特急』の番外編というようなノリで、新宿プロレス勢が総出演するみたいですね。
サスケ　そうですね。やっぱり、番外編の着眼点っていうアイデアっていうのも新宿プロレスのプロデューサーの田中社長のアイデアがあって、で、また（西田）ぼんちゃんともずっと親交があるんで、そういった関係で、「やろうか」って盛り上がって決まったみたいですね。
――結構、軽い感じなんですね（笑）。
サスケ　そうそう。ただ、最初は日活ロマンポルノの線でいこうかってことで、だいぶ盛り上がってたんですけど、クランクインしてカメラを回していくうちに「いや、これスポ根じゃないか!?」って感じで路線が変更してきててね。いまは撮りながらドンドン進化してますよ。
――日活ロマンポルノからスポ根に変更って、また大幅な路線変更ですね（笑）。主演はつぼ原人とのことですが、つぼ原人メインのスポ根ものになると？
サスケ　そうそう。しかも、つぼ原人はセリフが喋れないですからセリフはないんだけどね。喋っても「ウッウッ」ですから。それで、いかに感情表現できるかっていう。ところが、その感情表現ができちゃってるんですよ。それで、プロデューサーのぼんちゃんもビックリしちゃって、「これはちょっとスポ根路線の方がいいんじゃないか」っていうふうになってきて。なかなか面白い作品になりそうですよ。ただね、つぼ原人のプライベートシーンっていうところで、つぼ原人の素顔が公開されてますからね。
――リング上では見られない、つぼ原人の素顔が見れるわけですね（笑）。
サスケ　そうなんですよ。まあ素顔っていうのは語弊がありますけどね（笑）。リングを降りた現代人的な部分が公開されてるんで、そういう意味では、ちょっとプロレスファンにとってはショッキングだと思いますよ。
――つぼ原人の謎が垣間見える作品になるわけですね。
サスケ　うん。見えるかもしれない。
――サスケさんの素顔は垣間見えないんですかね（笑）。
サスケ　いやいやいやいや、私は、これが素顔ですから（とマスクを指さす）。
――そ、そうですね（笑）。そういえば、つぼ原人もサスケさんと同じようにAV出演の経験がありましたよね（笑）。
サスケ　いやいやいや、つぼはあるかもしれないけど、俺は出てないって！（笑）。
――わかりました（笑）。で、今日の本題に入ります。サスケさんと言えば、いろんな顔を持ってるわけですが、UFO

“プロレスバカ”剛竜馬が5月16日、ディファ有明での『レッスル・エイド・プロジェクト』旗揚げ戦で復活。因縁の宇宙魔神を下し復帰戦を勝利で飾った。試合後は「プロレスは最高です」と笑顔を見せた剛。ひったくり騒動に関しては「私はやってません。ただ、今回の件で迷惑をかけたファンやマスコミの皆様には申し訳ないと思ってます」と頭を下げた。その後、ビデオ出演の件について聞かれると「ここで話すことではない」と遮りつつ「私はやってない」と、サスケもビックリの発言が飛び出したのだった。ショアッ!!

サスケの新日本プロレス学校仲間の金原が、サスケと同じく議員との二足の草鞋を履くミルコと闘った5月23日、サスケは新宿プロレスに参戦しシベリアン・タイガー・ジュニアデビュー戦のパートナーを務めた。この日の新宿プロレスでは、この秋、劇場公開予定の『シベリア超特急　欲望列車（仮）』の撮影が行われ、主演のつぼ原人をはじめとする新宿プロレス勢、映画の中で一夜限りの復活を遂げる下田美馬、さらにサスケと共にこの映画のスーパーバイザーのターザン山本が警官役で出演し名演技を披露!?

THE GREAT SASUKE

今回のメキシコでのUFO騒動は、政治家として言えない部分があるんです

に関しては評論家になるんですかね？

サスケ　いや、私はUFOに関しては研究家ですね（キッパリ）。

――あ、研究家でしたか（笑）。ここ最近、UFOの目撃情報がメキシコであって、ちょっとした騒ぎになってますけど、研究家から見ていかがですか？

サスケ　はいはいはい、来ましたね!?　その辺は私の専門分野ですから。ただね…………（急に無言になるサスケ）。

――どうしたんですか、急に？

サスケ　これに関してはですね、正直言って言えない部分があるんですよね。

――それは研究家としてですか？

サスケ　いや、研究家としてでしたら、私は何でも言えます。ただね、地方議員とはいえ、政治家としてですね、ちょっと言えない部分があるんですよねぇ。

――立場的にまずいことがあると？

サスケ　いや、そうではない。私はね、政治家としてもね、むしろ議会でも真剣にUFOに関して論議しようと思ってるぐらいですから。ただし、これはですね…………やっぱり、メキシコ国家の安全保障に関わることなんでね。

――今回の騒動はメキシコの安全保障に関わってくるぐらいのことだと？

サスケ　そういうことです。まあ、ヒントを言うと撮影されたのが麻薬捜査中の空軍だったと発表されてるんですよね。

――そうみたいですね。麻薬捜査をしていたらUFOを目撃してしまったと。

サスケ　それ以上は私の口からは言えないんですけども。ここだけの話……（この後、誌面には掲載できないが、サスケからは驚くべき衝撃発言が連発される）

――そ、それは載せられないですねぇ。

サスケ　でしょ？　要はですね、あの報道が日本で報道されまして、当然前の日にメキシコでも報道があってですね。さらに、その前に実は私のもとに情報はすでに入ってました。

――ほぉ！　いつぐらいに情報を入手していたんですか？

サスケ　具体的に言いますと、5月の8日だったかな？　みちプロの、たしか山形の中山大会。そこの控室に情報が入ってきたんですよ。

――それは研究家仲間からですか？　それともメキシコネットワークですか？

サスケ　もちろん、メキシコルートからですねぇ…………あっと、これは言っていいかな？　……あ、大丈夫だ。

――大丈夫ですか（笑）。

サスケ　国際電話で連絡がありまして。「まあ、大騒ぎになると思うけど、こういうことが起きたから」っていう電話が入りましてね。ただね、これは非常に問題があってね。とりあえず、メキシコの国防省の発表ですよね。でね、撮影したのが空軍だと。で、国防省もどうやって扱っていいかわかんなかったんですよ。

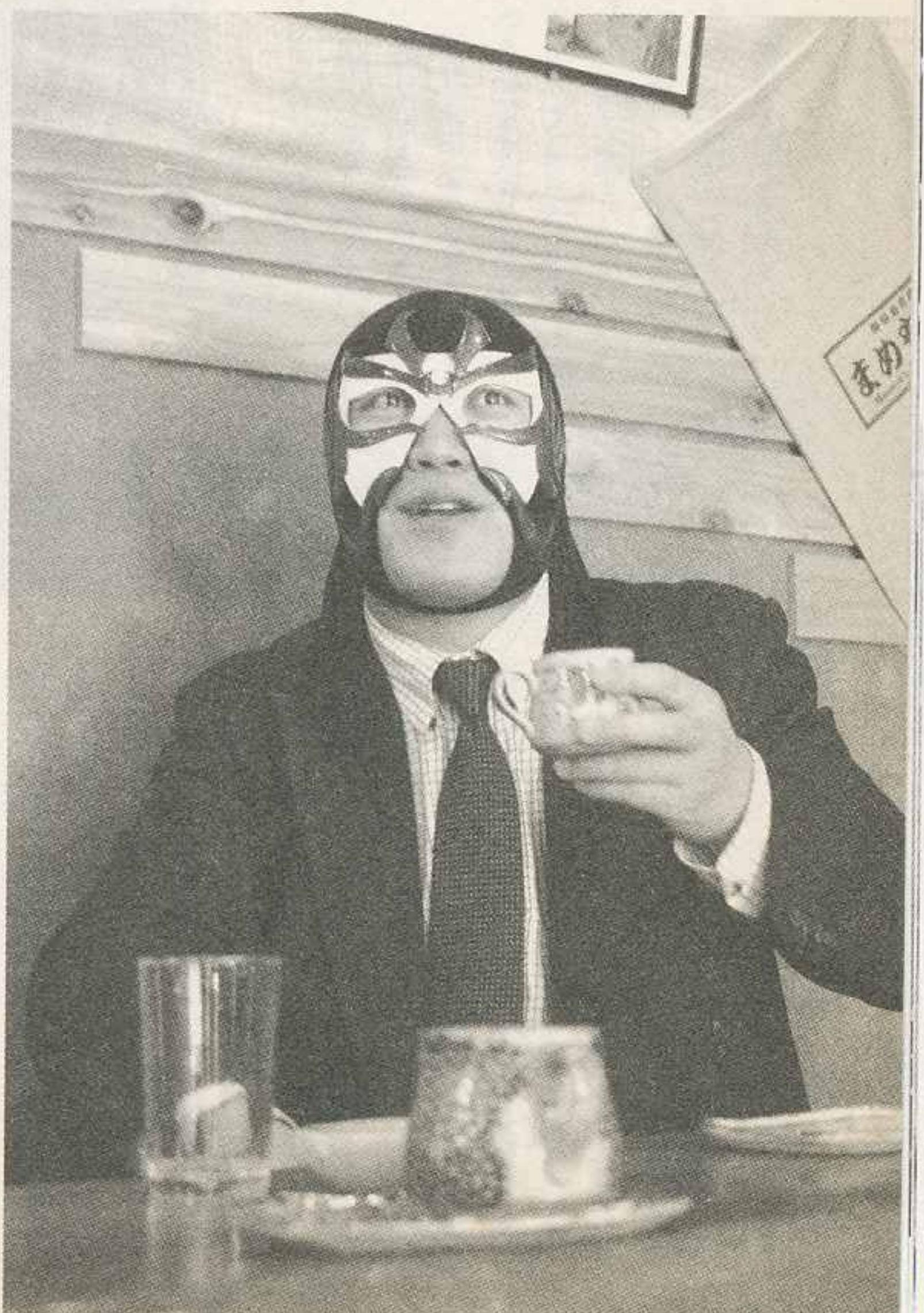
――そうなんですか。

サスケ　で、メキシコで一番のUFO研究家のハイメ（・マウサン）さんって方がいるんですけど、国防省も「ハイメさんにお任せします」という感じで会見させたんですよ。まあ、日本でいうと矢追純一さんみたいな感じで。

――メキシコの矢追純一ですか（笑）。

サスケ　そうそう。ハイメ氏は私がメキシコにいた頃からすでにUFO番組やってる人で、当時、90年、91年、92年なんてのは大UFOフィーバー、UFOラッシュがあった時期なんですよ。

――UFOラッシュがありましたか（笑）。

THE GREAT SASUKE

矢追純一さんのようにハイメ氏のUFO番組があったわけですね？

サスケ　あったんですよ。しかも凄い視聴率でね。で、面白いのがハイメ氏の特番の場合はスタジオのお客さんも一緒に混じって討論するんですよ。「俺も見た！」とか「私も見た！」みたいな。

――さすがに日本とは違いますね。

サスケ　そうそう。でね、メキシコ市から車で2時間ぐらいの所にプエブラ市ってところがあって、そのプエブラ市で、だいぶUFOフィーバーがあったんですよ。そこにポポ山っていう火山があるんですけど、これは活火山なんですよね。

――ポポ山ですか？

サスケ　その活火山に影響されてUFOが出てるんじゃないかって説が有力で。で、そのポポ山に対して警告を発してるのか、あるいは活火山のエネルギーの磁場がUFOを吸い寄せてるのかとか、いろんな説があるんですけど、いずれプエブラ周辺で物凄い目撃談があるんです。

――サスケさんがメキシコに行ってた時代はUFOを目撃してるんですか？

サスケ　あのね、残念ながらね、当時は空を見る余裕がなかったですね（笑）。

――それどころじゃなかったと？（笑）。

サスケ　ずっと下を見てましたからね。残念ながらね。ただね、だいぶUFOの出版物とかね、創刊ラッシュでね。『週刊オヴニ』っていってね。OVNIね。

――石川社長と「チームOVNI」を名乗ってたこともありましたからね（笑）。

サスケ　あったねぇ。日本風にいうと『週刊UFO』みたいな感じで。で、いまでも出してるんじゃないかな。で、年末にはオヴニカレンダーなんて出てね（笑）。

――カレンダーまで出るんですか（笑）。

サスケ　鮮明なUFOのカラー写真が12ヶ月分出たりしてね。そのぐらいメキシコ人にとってUFOっていうのは身近なものなんですよ。もちろん一般市民の方々は「え～っ、嘘だろ!?」って言う人も、まだまだいっぱいいますけどね。

――日本と近い感覚なんですかね？

サスケ　そうですね。結構、当たり前に「あぁ、見たよ」っていう人もかなり多いですよ。だから、私が帰国した後なんかはね、92年後半以降なんかは、もうホントにメキシコ市の市街地でも目撃が相次いで、向こうは完全な車社会なんだけど、ドライバーが「うわっ、何だあれ!?」って言って、それで車を止めちゃって、大渋滞が起きるっていうぐらいでね。

――ＵＦＯ渋滞ですか!?（笑）。

サスケ　そうそう。そのぐらいの所なんですね、メキシコは。あとはね、テオテイワカンのピラミッドっていうのが有名でね。メキシコ市郊外にあるんだけども。

――あ、それは知ってます。

サスケ　テオティワカンのピラミッドっていうのは太陽のピラミッド、月のピラミッドなんて言って、エジプトなんかのものと違って尖ってなくて台形なんですね。で、みんな上に何十人も集まれるような感じなんですね。それをね、さらに小高いところから、その台形のピラミッドを眺めるとね、これどう見ても、ＵＦＯの発着台としか思えないんですよ！

――ＵＦＯの発着台ですか!?

サスケ　ホントちょうどいいんですよ。そうじゃなかったら、あんなもの作る理由が見当たらないんですね。だから、昔からアステカ文明とかね、マヤ文明とかいろんな文明があるんですけど、ああいう文明の時代からＵＦＯみたいなものが発着してたんじゃないかなっていう考えではいますね。そこで凄く高度な文明を地球外から授けられたのかなっていう。

――そんな時代からＵＦＯはあったと。

サスケ　そうそう。でね、メキシコの先住民。いわゆるアメリカでも先住民のインディアンなんていいるんだけど、メキシコでも先住民族がいて、その先住民族の間では独特の暦を使ってるんですよね。マヤ暦って言うんですけども。

――なんか聞いたことありますね。ＩＷＡとかにいませんでしたっけ？

サスケ　いやいや、それはマネージャーだから！（笑）。そうじゃなくて、そのマヤ暦っていうのはどんなものかと言うと、いま我々が生きてる世界の始まりからちゃんと数えて、で、終わりまで設定してる暦があるんですよ。

――世界の終わりが設定されてるんですか？　ヤバイじゃないですか!?

サスケ　そうなんですよ。で、その暦が終わるのがいつかっていうのはハッキリわかってるんですよ。

――ノストラダムスの大予言みたいになってきましたね（笑）。

サスケ　いやいやいや、あれとは、また違うんだけどね。その暦の終わりはズバリ言って、２０１２年の12月22日！

――２０１２年って、あと8年しかないじゃないですか!?

サスケ　そうなんですよ。それは我々が生きてる暦の完全な終わりなんですよね。そういう教えもひっくるめた高度な文明があったということなんですね。

――それは知ってる人には有名な話なんですか？

サスケ　知ってる人は知ってます。そっち方面の研究してる人はね。いま世界中の考古学者の常識ではありますね。

――考古学者の常識なんですか!?

サスケ　で、いろんな説があるんですね。じゃあ、その後、何がどうなるのかっていう。たとえば、これも私の知り合いの知り合いの占いをやってる方なんかに言わせると、もうその先は全く見えないっとかって言う人もいたりとかね。

――知り合いの知り合いの占い師（笑）。

サスケ　そうそうそう（笑）。あるいはＵＦＯ研究家に言わせれば、いよいよ地球外生命体がね、公式に姿を現すんじゃないかとかね。そこを境に。

――ほぉ！

サスケ　いろんな説があるんですけどね。まあいずれそういった高度な文明がね、メキシコに根付いていると。だからこそＵＦＯが頻繁に現れるんじゃないかということなんですね。

――サスケさん的には、その日を境に何が起きると思ってるんですか？

サスケ　私的にはですねぇ、これがね、まだ信じられないんですがね、政治の分野と関わってくるんですよね。

今回のメキシコでのＵＦＯ騒動をここで説明しよう。メキシコ国防省はカンペチェ州南部の上空で同国空軍のパイロットが11個の未確認飛行物体（UFO）を撮影していたことを2004年5月11日（現地時間）に認めた。この映像は10日夜、地元テレビの人気ニュース番組で放映。翌11日にはＵＦＯ研究家のハイメ・マウサン氏が会見し、国防省から了承を得て映像を改めて公開。撮影されたのは3月5日、麻薬密輸の監視をしていた空軍機のレーダーがＵＦＯを探知しパイロットが赤外線カメラで撮影、肉眼では見ることが出来なかったという。上の写真は、日本を代表するＵＦＯ研究家の矢追純一氏と『紙プロNO24』で対談した際のサスケ。あれから4年、議員となったサスケだが、ＵＦＯへの情熱はさらにパワーアップしていた。

――またまた言えないことも多いわけですね（笑）。

サスケ　というか、世界的な視野で見てですね。いまＥＵがまた加盟国が増えて、巨大なヨーロッパ大帝国になるという話がありますよね。

――そうみたいですね。

サスケ　ＥＵというのが、まずひとつのキーポイントでね。で、貨幣のユーロが世界共通貨幣になるんじゃないかと。

――ユーロの方がドルを上回る可能性もあると？

サスケ　そうですそうです。だからね、今後ドルは大暴落すると思いますよ。

――ドルは大暴落しますか？　それは近い将来ってことですか？

サスケ　ええ。ドルは大暴落して、もうユーロしか使えないみたいな。世界の共通の貨幣としてね。あとは、もうクレジットカードだけとかね。ただ、幸いなことに日本円だけは残るんです、これは。

――それはサスケさんの読みだとってことですよね？

サスケ　もちろんもちろん！　日本だけはどうしても政治的な視点でね、お金の面から見ると世界から特別視されてるんですね。それは今回の北朝鮮問題もご覧の通りなんですけど、やっぱり日本っていうのはドンドンお金を出しちゃう国なんですね（笑）。

――かなり出してますからね（笑）。

サスケ　そういったことで、逆に日本円はまだまだ強いっていう裏返しでもあってね。だから、日本円っていうのはなくならないんですよ。世界共通貨幣としてのユーロ。そして、資産価値の高いものとして日本円と金っていうものがあるんですよ。ゴールドの金ね。

マヤ暦っていうのがあるんだけど、その歴の終わりは２０１２年12月22日！

ある極秘計画書には、道州制が導入された後、沖縄がアメリカに奪われて金融センターになるということが書かれているんですよ！

――はいはいはい。

サスケ　それが今後の大きな流れなんですね。そういった大転換の時期でもあるのかなと、その2012年っていうのが。あとまあ、日本で道州制っていうのが地方議会でも論議されてるんですけどもね。日本をもうちょっと大まかに分けようっていうね。そういった道州制がハッキリと形作られてくるのも2012年ぐらいなのかなって。その辺で新しい世界の価値観っていうのが、また生まれるんじゃないかなって思ってるんですよ。

――道州制の導入と共に新しい世界の価値観が生まれると？

サスケ　そう思いますね。日本で道州制、いわゆる北海道州、東北州、関東州だとか分かれて、どうしても手放さなきゃならないところが出てくるんですね。それはズバリ言って沖縄なんですよ。

――沖縄は手放さないといけなくなるんですか？

サスケ　沖縄はね、残念ながらなくなっちゃうって説もあるんですよ。

――お、沖縄がなくなる!?　議員がそんなこと言っていいんですか？（笑）。

サスケ　これは私個人の読みじゃなくてね、96年に「アジア・太平洋平和工学共同体構想」という極秘計画書の存在が明らかになったんですね。

――それはどんな内容なんですか？

サスケ　その中身はね、道州制が導入された後、沖縄がアメリカに奪われて金融センターになるということが詳細に書かれているんですよ。

――エッ？　沖縄がアメリカの金融センターになっちゃうんですか!?

サスケ　沖縄を金融センターにしてアジアを金融的に制圧しちゃうと。朝鮮半島、中国、東南アジア全部ひっくるめて。で、その中に当然、日本も含まれるんだけど。そういう流れなんですね。

――それは凄い流れですね。

サスケ　そういった、もの凄くいろんなものが変わる転換点も、やっぱり2012年じゃないかなと。

――単純に、その日で暦が終わってしまうとなると、世界が滅びるという説も出たりするんじゃないですか？

サスケ　そういった捉え方は全く必要ないと思うんですよ、私はね。だって、まさかね、いま我々が生きてて突然死ぬとかね、突然巨大な隕石が降ってくるなんておよそ考えられないですし。まあ昔はノストラダムスの大予言だなんて、一世を風靡したんだけども（笑）。

――何ごともなく通り過ぎちゃいましたからね（笑）。

サスケ　そうだよねぇ（笑）。何もなかったじゃないかっていうこともあったし。

――ちなみに、その話はどれぐらい前から知っていたんですか？

サスケ　知ったのは割と最近ですよ。やっぱり、いろんなものを調べていく上で、最近の考古学者がみんなそういうことを言ってるってことがわかってきて。

――そういった考古学者の中でもいろんな説が出てるわけですよね。

サスケ　そうですね。翌23日から新しい世界観が生まれるのかなっていうね。だいたい、国際情勢っていうのはそういうものに乗っかっちゃうんで、どうしても。だから、ワザとそこにぶつけて何かをやるんじゃないかと。

――ほぉ。そういうことも考えられるわけですね。話は戻りますけど、先ほどのメキシコで目撃されたのはサスケさん的にはUFOなんですか？

サスケ　いや、もちろんです！（キッパリ）。ただ、最近の『紙プロ』の読者の方々はね、私が昔、『紙プロ』さんが出した『トンパチ』っていう単行本で、UFOについて熱弁したこともご存知ないと思うんでね。改めて申し上げると、UFOっていうのは全部が全部、宇宙人が乗っている銀色の円盤ではないんですね。これはもう日本語に訳すると未確認飛行物体ですから。なんでも未確認のものだったらUFOなんです。

――そうなんですよね。じゃあ、メキシコでマスカラスが飛んでたら、それはUFOになるんですかね？

サスケ　いや、それは確認されてるんでマスカラスでしょうね（笑）。

――失礼しました（笑）。

サスケ　でもたとえば、もしそれが車のヘッドライトだったとしても、その時は車のヘッドライトだとはわかりませんでした、だから未確認物体だっていうことなんですよね。そういう広い意味で私は当然UFOですよ、と。ただ、あれはね、特徴的なものとしてね、現象として、光が分裂してるんですよね。

――そうみたいですね。

サスケ　最初、2つか3つの光だったのが最終的に十数個に分裂したっていう。

――肉眼では見えなかったみたいですけど、赤外線カメラに写ってたんですよね。

サスケ　はい。あれはいままでの目撃情報でよくあることなんです。それから、よく見ると円盤状、ディスク状にね、お皿状になってるものもあったということが、まず1つ。それから、移動の仕方がね、不規則だというところですね。ですから、通常の旅客機の類ではあり得ない。また、軍事レベルの機体でも当然ないと。空軍がわからないものなんだからと。で、そういうのを考えると、これは2つの説が考えられるんですね。

――どういった説が考えられますか？

サスケ　やはり、通常考えられる地球外生命体が乗っているもの。で、もう1つがメキシコっていうのがポイントで、お隣の国・アメリカ製のUFOじゃないかというのが、もう1つの説ですね。

――アメリカ製のUFOですか!?

サスケ　アメリカ製のUFOってなんじゃそりゃ!?っていうことになっちゃうんでしょうけど。知らない人にとってはね。

――そうでしょうね。

サスケ　これはもう、有名な「エリア51」、映画『インディペンデンス・デイ』でも描かれたわけですけども、実はもうアメリカという国は密かに自前で円盤形の乗り物をね、研究開発をとっくにしていると。だから、「エリア51」という地域では毎週水曜日になると、テストフライトが目撃されるっていうね。発光体がもの凄いスピードで不規則に動いていたりっていう。そういったものがメキシコまで来ちゃったっていうことなのかなって。だから、メキシコの空軍、あるいは国防省としては「自分の国のものじゃないからわからない」ということなのかなと。この2つの説がありますね。

――ほぉ～。

サスケ　で、ちょっと話逸れますけど、じゃあ何でアメリカはそんなことやってんのかっていうと、これは歴史的に有名

THE GREAT SASUKE

な1947年にロズウェル事件というのがあったわけですよ。

――ロズウェル事件は有名ですね。タイガー・ジェット・シンが買い物中の倍賞美津子を襲ったっていう事件ですよね？

サスケ　いやいやいや、それは新宿伊勢丹事件だから！（笑）。ロズウェル事件っていうのは、ニューメキシコ州のロズウェルに一機の円盤が墜落して、数体の宇宙人らしき遺体が回収されたっていう事件なんだけどね。これはいまだに「それは嘘だ！」って言う人もいて。アメリカでは、1997年にロズウェル事件50周年記念ということで、あのロズウェル事件は円盤ではありませんでしたと発表したんですよ。やはり、あれはパラシュートの実験でしたと。回収された異星人らしき遺体は実はマネキン人形で、人体の落下実験をしてましたなんていってね。おかしな話なんだけども。

――それは公式発表なんですか？

サスケ　アメリカの国として公式発表ですね。実際、どういうマネキンの落下実験だったのかっていう、実際マネキンが落下してる映像なんかも丁寧に映したりしたんですよ。交通事故実験のロボットみたいなのがよくあるじゃない？　あんなものを落としてね。我々、日本人っていうのは、そういうことにすぐ騙されちゃうんですよ。まさに、これは情報コントロールの最たるものですからね。

――サスケさん的にはロズウェル事件は実際にあったと？

サスケ　モチのロンですよ！　だって、ロズウェル事件はホントはなかったたって言っていながら、ロズウェルの50周年記念って言ってること自体がもうおかしいんだっていう（笑）。

――まあ、そうですよね（笑）。

サスケ　だからね、アメリカっていうのはね、結構そういう冗談みたいなことをやるんですよね。歴史的に有名なのは、クリントン前大統領の時代に、下半身スキャンダルが発覚して大騒ぎになったときに、それをもみ消すためにスーダンとアフガンに爆弾を撃ち込んだっていうね。そういう情報コントロールに、我々日本人は騙されてはいけない。で、実はね、『ペンタゴンの陰謀』っていう、日本版もちゃんと出たんですけど、完全に回収されちゃって、発売禁止になった本があったんですよ。

――発禁本ですか？　ちなみに、どういったことが書かれていたんですか？

サスケ　その本は実際ロズウェル事件に関わった元アメリカ情報将校のフィリップ・J・コーソーって人が書いた本なんだけど、実際に落下した円盤の破片の分析を頼まれたってこととか、回収された異星人らしきものの遺体も見てしまったっていうことを全部克明に書いてるんですよ。で、やっぱり、そういう事件は実際に起きてるんですよ。

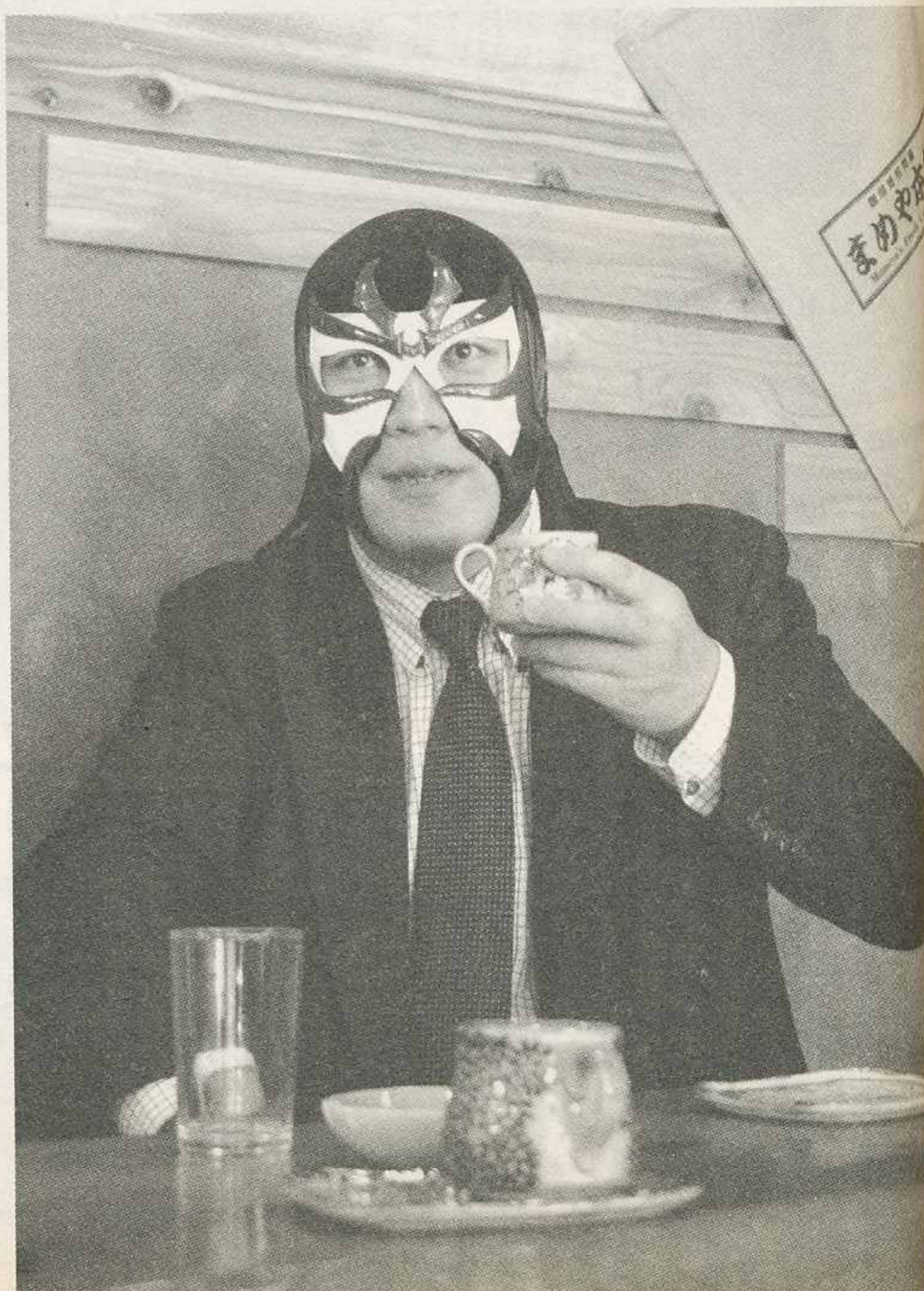
――全部事実だと？

サスケ　そう！　で、ちょっと話はさらに脱線するんだけど、そういった落下物に1947年当時、ありえないものがとにかくいっぱいあったと。たとえばトランジスタの回路というかパソコンの基盤みたいなヤツ、ああいうものも当時なかったんですけど、「これなんだろう？」とか言って、そっからいまのパソコンが出来上がったんですよ。

――いままで、そういったシステムは開発されていなかったのに突然変異的に生み出されたわけですね。

サスケ　そうなんですよ。あとは、サングラスみたいなものがあってね、前から見ると何も見えないんだけど、反対側から見ると、暗くても何でも見えちゃうっていう不思議なレンズみたいなものが出来たのもその頃なんだよね。いまで言う暗視装置っていうヤツでね。

――はいはい。

サスケ　そういった現代のテクノロジーに活かされてるもののヒントがいっぱいあったと。そういうのが克明に書かれてる本があってね。そういったことがあって、円盤形のUFOをアメリカの軍をあげて複製しようじゃないかっていうところから始まってるんですね、このプロジェクトは。

――いわゆるUFOと言われるものをアメリカでは既に完成させていると？

サスケ　モチのロンです！　有名なのはステルス戦闘機ですね。このステルス戦闘機っていうのは大きく分けて2種類あるんですよ。いわゆる普通の戦闘機の発展系のヤツと、もう1つ異様な形のこれをデルタ型って言うんですけど、我々の用語では。

――研究家の間では（笑）。

サスケ　そうそう。それは三角形でね、全翼機って言うんですよ。全部翼みたいな機体で。そういう形状のものが裏ステルスとしてあると。その裏ステルス全翼機のデルタ型のUFOというのは全くレーダーに写らないというね。そういったテクノロジーっていうのを完全にアメリカは手に入れてるんですよ。そういったものが今回メキシコまで飛んじゃって目撃されたんじゃないかっていう。

――ほぉ～。日本でUFOというとピンクレディーか小川直也かサスケさんって感じですけど、日本ではUFOを作る技術はないんですかね？

サスケ　全く出来てないでしょうね。やっぱりそれは日本人の意識がまだそこまで行ってないんですよね。たとえばアメリカではホントに国会レベルで議員がUFOの話をするんだけど、日本というのはそういったものが議論の対象にすらならないんですよね。……UFO党って政党はありますけどね（笑）。

――ありますよね（笑）。

サスケ　そういったものを含めてまるで相手にされていないっていうところがね。ホントにロズウェル50周年じゃないけども、UFOに関する認識は日本は50年

遅れてますね。遅れすぎですよ！

――50年遅れてますか!?　プロレスで言うと、まだ、力道山が日本に持ち込んだぐらいなんですね（笑）。

サスケ　そうそう。それぐらい遅れてるんだよね。昔、JALのパイロットがね、巨大UFOと遭遇したなんて話が最近になってまたクローズアップされてるんだけど、もっともっと見た人が公に発言しないと、ドンドン遅れていきますよ！

――サスケさん的にも覆面問題を議論する時間があるなら、もっとUFO問題を議会で論議したいわけですね（笑）。

サスケ　そうそう。だから、日本でも自衛隊なんかには、だいぶ記録が残ってるはずですよ。自衛隊が持ってる記録とかも公にしていかないとダメですね。いまこそ公開すべき時期だと思いますよ。で、そろそろまとめに入りますけど……。

――まとまる話なんですか？（笑）。

サスケ　モチのロンですよ！　つまりね、メキシコは国をあげてUFOの解明に努めているということなんですね。

――それは、ここ最近ってことですか？

サスケ　だいぶ前からですけど、今回の件でさらに拍車が掛かったと。国をあげてなんとかしようとしている。で、逆にお隣のアメリカは、あの手でこの手で偽情報もまぶして情報をコントロールしていると。かといってね、完全に全否定してるわけじゃないんですよ。巧みに情報コントロールしてるんですね。有名なのはスティーブン・スピルバーグを使って、映画を作らせたりとかね。

――『未知との遭遇』とか、あと『E.T』もスピルバーグですよね。

サスケ　でしょ。実は人々の心の中には、いてもいいんじゃないかっていう風に仕込ませてるっていう。だけども、全部は肯定しない。じゃあ日本ではどうかというと、日本も面白いんですよ。やっぱり、UFO情報に関しては、日本もアメリカのコントロール化に置かれてますからね。

――具体的に何かあるんですか？

サスケ　たとえばですね、日清食品のカップヌードル。

――焼きそばのUFOのことですか？

サスケ　UFOもそうだけど、日清の他のコマーシャルなんかも、ここ最近ずっと宇宙人なんですよ。懸賞のプレゼントの景品なんかもさ、何故か宇宙人のフィギュアとかなんだよね。焼きそばのUFOのコマーシャルならまだわかるんですけど、そうじゃない別ブランドのカップヌードルの懸賞とかがその路線ですからね。これは何かあるんじゃないかと。

――日清は怪しいわけですね（笑）。

サスケ　怪しいんだよね（笑）。だから、結構ね、いま宇宙人が出てきても驚かないんじゃないかなって思うんですよ。

――日本でもサブリミナル効果で知らない間に浸透してきていると？

サスケ　そうそうそう。知らず知らずのうちに、我々国民はそうやって植え込まれてるんじゃないかなというね。そういった意味でも8年後の2012年には、そういった劇的な出来事もあるんじゃないかなという気はしますね。

――8年後にはどうなってしまうかはわからないですけど、関心を持って情報収集しておいた方が良さそうですね？

サスケ　そう！　でも、いまだにいますからね。信じる信じないのレベルで論議してる人とかが。でも、「そんなのいるわけないじゃん！」って昨日まで言ってた人が、メキシコの国をあげての公式発表だっていうことで、「へぇ～、そういうものもあるんだ」っていうふうに、わかってきてるみたいですからね。

――やっぱり、今回は国をあげてっていうのが大きいんでしょうね。

サスケ　ですね。これを機会に日本でも政治レベルでね、議論を交わせる時が来るのを私は楽しみにしてますよ。

――UFO研究家のサスケさん、本日はありがとうございました！

サスケ　いやいや、ちょっと待ってよ！　研究家は研究家でいいんだけど、プロレスラー・サスケとしてもね、UFOに負けじと飛んで飛んで飛びまくるぞ、と！

――「校庭を芝生に」との公約も実現に向けて頑張ってください！（笑）。

サスケ　ガハハハハ！　高田さんの分まで私は頑張りますよぉぉぉ！

【5月24日／横浜『珈琲・まめや』にて収録】

これを機会に日本でも政治レベルでUFOの話ができればな、と!

UFO研究家・サスケも太鼓判！
『珈琲焙煎問屋・まめや本店』

今回の取材場所は、サスケが横浜を訪れた際には必ずと言っていいほど立ち寄るという『珈琲焙煎問屋・まめや本店』（神奈川県横浜市中区伊勢佐木町5丁目126　TEL.045-242-5526）。偶然ながら、取材日の「本日の珈琲」はメキシコ産の豆を使ったもの。ちなみに、この店のマスターはUFOを目撃したことがあるとのことで、サスケとUFO話に花を咲かせていました。

闘龍門JAPAN
旗揚げ5周年記念大会
7・4神戸ワールド記念ホール
直前スペシャルINTERVIW

闘龍門を極めることで プロレスのイメージを 取り払いたい！

プロレスを忘れた他団体、そして師匠ウルティモ・ドラゴンまでも一刀両断！

CIMA

体の小さい新人レスラーだけでスタートしながら、その努力と情熱で今やプロレス界の最優良団体となった闘龍門JAPANが、7・4神戸ワールド記念ホールで、ついに5周年記念大会を迎える。そこで今回は、闘龍門一期生として、文字通り5年間ひたすら全力で突っ走ってたCIMAに、なぜ闘龍門が独り勝ちしているのか、そしてプロレス界の問題点とは一体何なのか、ズバリ聞いてみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本 崇　試合撮影／平工幸雄
designed by ngqu (Two three)

闘龍門がここまで順調に来たのは当たり前のことをやってきたから。他団体はそれができてない！

——今日は東京・初台のトレーニングジム『ミッドブレス』で取材させていただいていますけど、ＣＩＭＡ選手は東京滞在中、ほとんどの時間をこのジムで過ごしてるらしいですね？

CIMA　そうですね。ここを「オフィスＣＩＭＡ東京支店」にしてるんで（笑）。ずいぶんお世話になってますよ。

——あとゼブラーマン（小笠原和彦）もよく現れるって聞きましたけど。

CIMA　ゼブラーマンは現れすぎですよ。完全にここの使い方間違ってます。毎日10時間ぐらいいますからね。

——10時間！（笑）。

CIMA　だからここ『ミッドブレス』は、「オフィスＣＩＭＡ東京支店」兼、ゼブラーマンの〝アジト〟と化してますから（笑）。

——ただのトレーニングジムじゃないわけですね（笑）。では、今日はゼブラーマンとはまったく関係なく、闘龍門ＪＡＰＡＮ5周年記念インタビューとして、いろいろ話を伺っていきますので、よろしくお願いします。

CIMA　はい。よろしくお願いします。

——7・4神戸ワールド記念ホール大会で闘龍門は5周年を迎えるわけですけど、ボクなんかの感覚からすると「まだ5年だったんだ」って感じなんですよ。闘龍門1期生のＣＩＭＡ選手からすると、5年という時間はどう感じてますか？

CIMA　やっぱり自分なんかにしても、ベタな言い方すれば、長いようで短い5年でしたね。ただ、とりあえず会社として考えれば、規模は小さくてもどこの団体よりも順調やと思いますし、そういう自信はありますね。

——ホント旗揚げ以来、ずっと右肩上がりで成長してきましたけど、闘龍門がここまで順調すぎるくらい順調に来た、一番大きな理由はなんだと思いますか？

CIMA　まあ、当たり前のことをしてるからですね。ウチは資金があるわけでも、有名な選手がいるわけでも、最初から地上波のテレビがついてたわけでもないですからね。だから闘龍門が一番順調だって言われるってことは、逆に言えば順調じゃないと言われる団体は、当たり前のことができてないってことですよ。

——あぁ、なるほど。例えば体つきひとつ取っても、闘龍門の選手って誰一人としてだらしない身体の選手がいませんけど、これってプロスポーツ選手としては当たり前ですもんね（笑）。

CIMA　そうですよ。他団体がデブっちょばっかりだからウチが目立つだけで、たるんだ体でリングに上がるのが当たり前っていう状況の方がよっぽど異常やと思うんですけどね。ウチは「太ってる」って言われてる（ドン・）フジイさんでも、ただ太ってるわけじゃないですから。

——あれは鍛えた太り方だってわかりますよ。

CIMA　フジイさんはいま肉体改造中なんで、たぶん冬には完成すると思うんですけど、昔のマイティ井上さんみたいな豆タンクを目指してますからね。近々「タンク宣言」しますんで（笑）。

——やたら胸板が分厚くてゴッツイ感じになるわけですね（笑）。

CIMA　フジイさんだけやなしに、いま闘龍門は肉体改造がブームなんですよ。肉体改造自体は昔からやってるんですけど、一時期よりもさらに深い部分にいったというか、これまでは所詮自己流だったんですけど、いまはみんなパーソナルトレーナーについてもらってっていうやり方ですから、全然違いますね。

ぶっちゃけた話、オレを含めて闘龍門トップ全員肉体面でのピークは完全に過ぎてるんですよ。

——選手みんながそこまで本格的な肉体改造に着手してるんですか!?

CIMA　やっぱりそれは必要なことですからね。自分が去年選手会長になって最初に思ったのは、「選手全体のレベルを上げよう」ってことだったんですけど、そのためにはまず、我流ではなく、専門の先生についてもらってコンディション調整せなあかんと思ったんですよ。やっぱりプロレスに関しては自分らが専門かもわからないですけど、肉体作りやコンディション調整に関しては、自分ら専門じゃないですからね。ましてや、闘龍門は去年183試合やってるわけですから、それを乗り越えるためにも専門の先生についてもらってコンディションを調整していく。これも他のスポーツ見てもらったら、極々当たり前のことですから。それができないところは、取り残されて行っても仕方ないと思いますよ。

——闘龍門というと、コストを抑えて着実にというイメージがあるんですけど、お金を掛けるところには、ちゃんと掛けてるわけですね。

CIMA　掛けてますね。だから自分、貯金なんかほとんど持っとらんですからね。家庭を持つまでは、もろたらもろたで全部使いますから。その浪費も全部自分のため、闘龍門のためですね。

——自分に対する投資だと。

CIMA　これもバネとかゴムの反動みたいなもんなんですよ。昔（メキシコ修業時代）は極貧生活強いられてきたんで、いまはその反動で「使える分はなんぼでも使ったる」っていう感じで（笑）。ホント昔は鶏一羽買ってきて、みんなでカラスみたいにつつき合って、軟骨までフライに揚げて食べたりしてましたから。そんなふうに頑張ってきてくれた身体にプロテイン飲ましてあげて、アミノ酸入れてあげて、サプリメント入れてあげて、肉入れてあげたら、やっぱり身体も喜びますよ。あの頃の鳥肉が今のプロテインであり、サプリメントですよ。オレ達ゴキブリみたいな人間ですから、もう一回あの頃に戻っても同じように生きていけますよ。

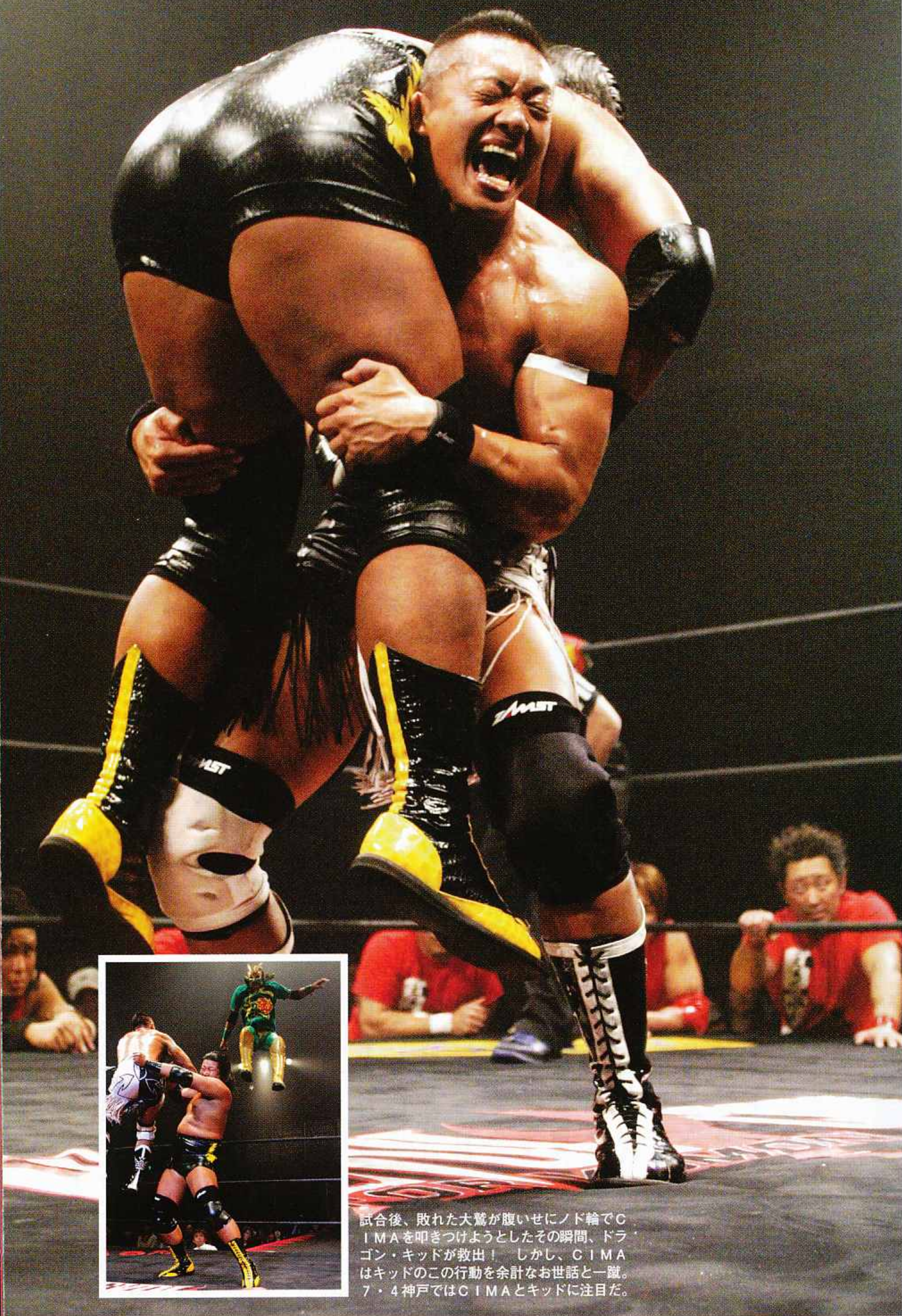
——そういった意味でも、あのころがあって今がある、と。

CIMA　それは絶対ありますね。だから、ちゃんと整体にも通って、車と同じように身体のメンテナンスしてあげて。これまで散々無理させてきた身体ですから、その分返してやらんといかんですね。ぶっちゃけた話、自分やマグナム、ＳＵＷＡ、ドン・フジイ、望月成晃にしても、肉体面では完全にピークは過ぎてますから。

——もう肉体面のピークは過ぎてる！20代半ばのＣＩＭＡ選手でもそうなんですか!?

CIMA　いま26歳ですけど、ピークは23～24歳だったんじゃないです

CIMA

5・23ディファ有明■"闘龍門B面"と呼ばれた喧嘩マッチの激しい抗争を続けてきた大鷲透と決着戦に挑んだCIMAは、120キロという闘龍門の中では規格外の体格を誇る大鷲を見事に切り札シュバイン投げきって、完全ピンフォール勝ち。この勝利のカタルシスが味わえるのがCIMAのプロレスだ。

試合後、敗れた大鷲が腹いせにノド輪でCIMAを叩きつけようとしたその瞬間、ドラゴン・キッドが救出！　しかし、CIMAはキッドのこの行動を余計なお世話と一蹴。7・4神戸ではCIMAとキッドに注目だ。

かね。それはどうしても感じますよね。プロレス界からしたらまだまだ若いんでしょうけど、メキシコでデビューしてから7年。これだけやってれば身体も痛みますし、ケガもしますし、ダメージも蓄積されてますから。

――でも、その歳で自分から「ピークは過ぎた」って言えるところが凄いですよ。

CIMA　だからピークが過ぎてからどうするかが重要なんですよ。料理で言うと、オレがニンジンやったら、プロレスに入る前のオレは土に埋まってますよね。そんで闘龍門に入った時点っていうのは、土から掘り起こした状態で、日本に上陸するまでは、ニンジンを切った状態やと思うんですよ。

――食べられはするけど、まだ生のニンジンの状態だと。

CIMA　それで日本に帰ってきて試合して、雑誌とかテレビに出るようになったら、それは焼いてる作業ですよ。ジュワーって感じで油がパチバチはねて、凄い派手で。そこがやっぱりピークだと思うんですよ。

――もう塩こしょうだけで美味いみたいな感じですね。

CIMA　そう。素材のうまさが一番味わえるのがそのころだと思うんですよね。でも、そのまま焼き続けると、シナッとなってきて、おいしくなくなっちゃいますよね。だからそうなったら火にかけるのはやめて、そこからがどう味付けできるかが問われてくると思うんですよ。その味付けが上手ければ、もっとプロレスに深みが増して、もっと広く世間に伝えることができますし、その味付けがクソ不味かったらオレら潰れるだけですから。でも日本の（プロレス）業界なんか見たら、焼いてる時間があまりにも長すぎますよね。「焼き過ぎやぞ、オマエら」って。

――焦げまくってるだろうと（笑）。

CIMA　だから行列ができないんですよ。ウチは大手チェーンやなしに定食屋でいいから行列をつくろうと思ってますから。

――いまのプロレス界は、大手のチェーン・レストランが軒並み焦げた料理をいつまでも出し続けて客に逃げられてる感じがホントしますからね（笑）。

CIMA　焦げたらクソ不味いですからねえ。だから焦げる前にフライパンからあげなイカンですよ。そこから味付けに試行錯誤するのが、マニアのファンは楽しいんですから。そして、その味付け段階で初めて見るっちゅう人もいるわけですから、たまには原点回帰する。それができれば自ずと生き残れるんじゃないですかね。これがオレが思ってる〝フライパンの理論〟です。

――覚えておきます（笑）。

ウルティモ・ドラゴンには負けない！

――さて、闘龍門JAPANが5年間やってきた中で一番大きな変化と言えば、去年ウルティモ・ドラゴン校長がWWE入りを機に闘龍門を離れたことですけど、今年校長が一時帰国となっても再合流とはなりませんでしたよね。これはやはり闘龍門JAPANの選手たちの「自分たちだけでやる」っていう気持ちの表れですか？

CIMA　そうですね。やっぱり現時点で校長とは考え方が全く別ですから。これは否定するとかではなくて、環境も状況も全て違いますから、こっちが悪いとかあっちが悪いっていう話じゃなくて、もう違うもんですから比べようがないんですよ。だから自分らは校長のスタイルになかなか合わせられないですし、それはもうしょうがないことですね。

――だからこそ、もう一緒にやるのは難しいと。

大メシ食らって大酒飲んで、ちょこっと練習しただけで「プロレスラーは強い」とか言ってるから、いつまでたっても胡散臭いと思われるんですよ！

CIMA　そうですね。去年ウルティモ・ドラゴンがアメリカにチャレンジしに行って、オレらはその背中を見て、「やっぱりオレらの師匠はカッコええな。これがオレの憧れたウルティモ・ドラゴンや」と思いましたし。校長がそっちの道に行くなら、オレらはオレらで闘龍門を極めようと。その思いだけが、久しぶりにCIMAとマグナムの意見が一致した部分ですからね。だから、今さら帰ってきても関係ないし、どうにもならないんですよ。

——もう関係ありませんか！

CIMA　関係ないって言ったら他人行儀ですけど、まず闘龍門のリング内でやっててウルティモ・ドラゴンなんかに負けるわけがないですからね。何があっても。その辺は全選手、末端まで自信持ってるんじゃないですかね。U・ドラゴンは素晴らしいですけど、オレらは絶対負けない！

——校長に負けないというのはリング内っていうことですよね？

CIMA　リング内では、まず負けないですね。

——でも、リング外の話になると、去年の4月までは、さっきの〝フライパンの理論〟で言うと、校長が料理人であり料理長だったわけですよね？　そういったプロデュース面を含めても負けてませんか？

CIMA　確かに去年までは校長の手のひらに乗せられてたというか、校長の料理次第のところはありましたよ。でも、今はもう自分らがウルティモ・ドラゴンという料理長から独立した料理人ですからね。その腕を比べようとしても、やっぱり素材が新鮮な時期と熟れてきた時期では料理の方法が違うと思いますから、その辺は比べようがないと思いますね。じゃあ、味ではなく業績で比べようとなったら、業績は校長がいた頃より上がってますし、その辺の現実は数字になって表れますから。だから校長から見たら、ここがよくない、あそこがよくないっていう部分があるんでしょうけど、それはもう料理方法が違うとしか言いようがないですよね。ただ今の闘龍門も、どっか味付けはウルティモ・ドラゴンテイストだとは思いますよ。そこはやっぱり校長の遺伝子を受け継いでますからね。

——では、校長がいた時代といまの闘龍門は何が一番変わったと思いますか？

CIMA　選手の意識が全然違うんじゃないですか。やっぱり絶対的な人間がいなくなって、より団結力が高まりましたね。だからハッキリ言って、他の団体の選手が闘龍門の闘いに入るのはかなり至難の業ですけど、いまは他団体どころか校長自身が入ることすら至難の業になってますからね。もうそういう状況になってますよね。闘龍門は闘龍門であって、他とは全く違います！（キッパリ）。

——それぐらい闘龍門というジャンルの純度が、どんどん高まってると。

CIMA　これを言うと語弊があるかもしれないですけど、リングの上で裸で闘って、相手の技受けて、やってることは自分らも完全にプロレスですけど、プロレスはプロレスでも、オレらはプロレスのイメージを取り払うためにやってますから。

——プロレスのイメージを取り払う！

CIMA　メチャクチャなこと言うてますけど、そのために5年間費やしてるんですよ。だって、いまはプロレス界がプロレスしてないじゃないですか。だからそういった他団体がやってるものを「プロレス」と呼ぶなら、オレらはそのイメージを取り払って「闘龍門」を極めますよ。それはCIMA・マグナムの世代じゃ完成できないかもしれないけど、絶対に闘龍門っていうものを世間に分からせますから。プロレスはプロレスだけど、闘龍門こそがプロレスだって。それが実現する前に、オレらがみんな野垂れ死にしたら笑ってくれたらいいんですよ。

——そういう考えでいたら、CIMAさんなんか「総合格闘技にプロレスが押されてる」とか言われても、あまり気にならないんじゃないですか？

CIMA　気にならないというか、面白いもんにはお客さんが入るし、オモロないもんには入らない、それだけだと思いますけどね。だって『PRIDE』とか面白いですもんね。自分もスカパーとかで観ますし、そりゃお客さん入りますよ。プロレスはプロレスで、総合格闘技とはまた違う面白さがあるんですけど、自分がお客さんとして観た場合「プロレスを観に行こう」とはならないですからね。

——プロレスの人気凋落は単純に面白くないから。格闘技のせいにするなってことですよね。

CIMA　デブっちょが裸になってバチバチ体叩き合っても、どうかなって思いますよ。やっぱり観たいと思わないッスもん。そういう自分の感性がおかしいのか分かりませんけどね。

——いや、実に正常な感性だと思います（笑）。でも、プロレスファンというかマニアの一部には、格闘技よりプロレスが好きにも関わらず、「強い」「弱い」という思いこみの基準で、「闘龍門より他団体の方が上だ」とかいう人がいたりするじゃないですか。そういう声についてどう思います？

CIMA　だからそういう見方でプロレスを見る人は、ウチは合わないでしょうね。それはしょうがないですよ。合う合わないはありますから。ただ、「強い」「弱い」で言ったら、メジャーと言われる団体の選手なんかは強いんじゃないかと思いますけど、もっと強い人っていますからね。

——まぁ、普通に考えて総合格闘技の本職には適わないですよね。

CIMA　プロレス界でも、ごく一部の人は総合でもいけると思うんですよ。でも、それは真剣に総合の練習をずっとやってるごく一部じゃないですか。ウチの岡村社長もキックボクシングのジムを神戸に持ってますから、自分も練習させてもらったりしてるんですけど、みんな四六時中練習して、食事制限してやってるんですよね。そういう人たちと、適当にチンタラ大飯喰らって酒バカバカ飲んで、ちょこちょこ練習してみたいなのんとでは、どっちが残るっていったら、漫画の世界じゃないですから、そりゃあ分かりますよ。そこで「オレはプロレスラーだから強いぞ」みたいなこと言われても、ちょっと信じられないで

03・11・28後楽園■はぐれ軍団（当時）の挑発を受けたCIMAは、ボクサーキャラの高木省吾と闘龍門初の“グローブマッチ”を敢行。タイソンを思わせる黒ずくめのボクシングコスチュームで登場したCIMAは、“なんちゃって格闘技”を拒否。開始約10秒間だけ全力で殴り合った後、豪快なバックドロップで投げ捨て、最後は必殺シュバインを決め、見事に3カウントを奪った。（格闘技戦なのに）　試合後、“丹下団平”役のストーカー市川と勝利をアピールするCIMAに、惜しみない拍手が送られたのは言うまでもない。

すからねえ。そんなことだから「プロレスは胡散臭い」ってなるんですよ。もうその辺はキッチリした方がええんちゃうかなあって思いますけどね。

——いや、キッチリしないとダメだと思いますよ。やっぱり『PRIDE』にしても闘龍門にしても、どんどん純化して突き詰めた結果、クオリティを高めたから、一般の人を巻き込んでこれだけ人気を博してるわけじゃないですか。そういう中で、いまだに異種格闘技戦で誤魔化そうとしてるところがあるんだから、そりゃ人気も落ちますよ。同じような〝格闘技戦〟でも、去年の11月に闘龍門でやったCIMA vs 高木省吾のグローブマッチは最高でしたけどね（笑）。

CIMA　あれは最近の格闘技戦を観てるプロレスファンにしてみたらブチ切れるかも分からないですけど、ラジャ・ライオンを知ってる十数年来のプロレスファンからしたら、堪らん試合やったと思いますね（笑）。

——あれはクオリティ高いですよ。ちゃんとボクシングスタイルのトランクス履いて、真面目な顔してるのに、セコンドのトレーナーがなぜかストーカー市川で（笑）、ボコボコに殴り合った後、シュバインで秒殺（笑）。

CIMA　あれでウチの女の子のファンとか喜んでくれましたから（笑）。

——3カウント入って、会場が爆発してましたもんね。あんなにスカッとした勝利が味わえる〝格闘技戦〟はなかなかないですよ（笑）。

CIMA　さすがにアレをメインイベントでやろうとは思わないですけど、休憩前だったら楽しんでもらえるんじゃないですかね。

——格闘技に対するコンプレックスがまったくないところが素晴らしいですよ。あれを観て「どんなにプロレスが格闘技に食われても、闘龍門は大丈夫だ」って思いましたから（笑）。あのとき突然〝グローブマッチ〟をやろうとしたきっかけはなんだったんですか？

CIMA　全然、根拠はなかったんですよ。ちょうどその時期に「劇団たる」っていうのをやってて、その中でフジイさん扮する「フジ・ロドリゲス」っていう悪役ボクサーがいたんで、その衣装のまんまっていう（笑）。

7・4神戸ワールド記念ホールは必ず超満員にして営業本部長に立候補したフジイさんを男にしますよ！

CIMA

S52年11月15日、大阪府出身。選手会長として文字通り団体を引っ張る、闘龍門の象徴的存在。全身全霊を掛けてプロレスに邁進するその姿は多くのファンの心をとらえて離さない。7・4神戸の5周年記念大会では、再び闘龍門の頂点、UDG王座奪回に挑む。174cm、82kg。

——そんな安直な理由でしたか（笑）。

CIMA　でも、あれを分かってくれるなら、ホントにありがたいですね。ホントの素人さんか、玄人さんにしか通用しない試合だと思いますけど、あれを楽しめるのがプロレスファンの深い見方だと思いますから。

闘龍門史上最大のものを見せる！

——では、最後に7・4神戸ワールド記念ホール「闘龍門JAPAN5周年記念興行」について伺いますけど、5年間の集大成として、みんなそうとう気合い入ってるんじゃないですか？

CIMA　もう入りまくりですね。選手もスタッフも気合が入りまくってるんで。もしかしたら今回は、ビジョンが初めて導入されるかも分かんないです。

——あ、意外にも闘龍門はビジョンを使うのは初めてなんですね。

CIMA　まぁ、ビジョンっていってもウチは寸劇みたいなことはやらないですけど。なぜ導入しようかと言うと、神戸ワールド記念ホールぐらいの規模になると、全体の6〜7割の人たちが初めて闘龍門を観にくる方だと思うんですよ。でも、そういう人にいきなり今までの物語の集大成を見せたところで伝わらないですから、それを伝えるためのビジョンっていうのは必要だと思うんですよね。ウチはそういうビジョンの使い方をしたいですね。

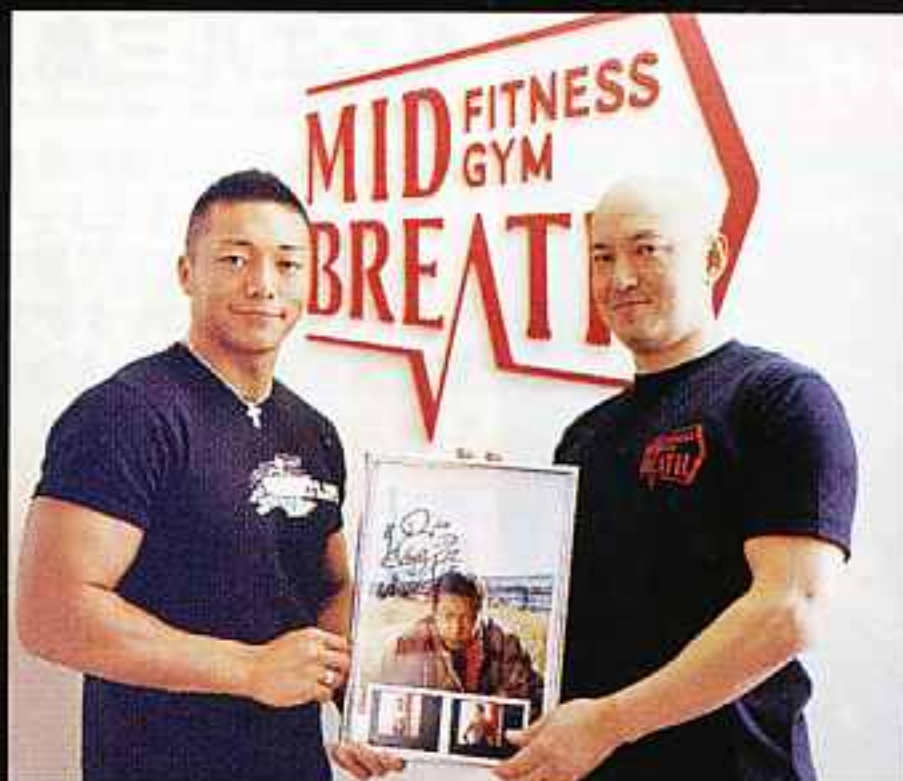
——7・4神戸大会を観たら、闘龍門っていうものがどういったものかが、初めての人にも分かると。

CIMA　初めての人もわかるし、ずっと闘龍門を見続けてくれた人も絶対満足できる大会にしますから。やっぱり、これから闘龍門がどんだけ大きな大会をやろうが、年に1回のお祭りである、この神戸ワールド記念ホールだけは特別ですからね。ようやく5回目で定着した感もありますんで、ホントに今年は史上最大規模のものを見せますよ。これが闘龍門だっていうものを見せつけますんで、これまで見たことなかった人も嫌がらずに一度闘龍門を観に来てほしいですね。あとは何で「今回は最大規模だ、最大規模だ」って騒いでるかというと、フジイさんを男にするためなんですよ。

——あ、なんか神戸大会の営業本部長になったらしいですね（笑）。

CIMA　そうなんですよ。去年までは選手、スタッフ一丸となって営業してたんですけど、そういう責任者みたいなものに誰も名乗り上げなかったんですよ。でも、今回は男・ドン・フジイが営業本部長に立候補しましたからね。フジイさんを大会後に男泣きさせなあかんのですよ。オレは泣かせるために頑張ります。なぜか副部長がストーカー市川で、補佐がTARUさんなんですけど、オレも精一杯サポートしますよ。

——では、このインタビューの3ページ後に、フジイ営業本部長が7・4神戸大会への意気込みを語るミニ・インタビューがありますんで、残りはフジイさんにたっぷり語ってもらいましょう（笑）。5周年記念大会、期待してます！

【04年5月25日／初台『ミッドブレス』にて収録】

今さら人に聞けない

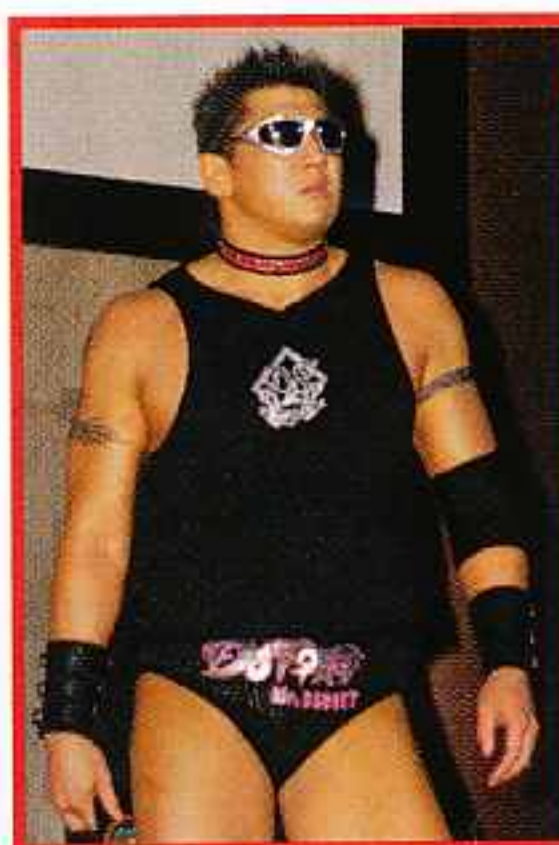
CIMAの寸評付き

闘龍門選手名鑑

旗揚げ5周年を迎え、ますます人気爆発中の闘龍門。しかし、プロレスファンの中には、これまで食わず嫌いだった闘龍門を見てみようと思っても、今さら何の知識もないとついていけないかも……と二の足を踏んでいる人も実は多いはず。そんな人のために、読者に優しい『紙プロ』が闘龍門の選手&ユニット編成を大紹介！ 特別にCIMAの個人的な選手評もつけてお届けします！

構成／堀江ガンツ

Do FIXER イタリアン・コネクション

マグナム欠場を期に、悪冠一色勢が抜けて手薄になったイタコネとDo FIXERが共闘を結んだ、闘龍門最大派閥。特徴は、チーム全員、ダンスが大好き。

マグナムTOKYO

U・ドラゴンの鞄持ちから始めた"元祖・闘龍門"にして、現・闘龍門の現場監督。今やDo FIXERのリーダーというより、プロレス界のニューリーダーの貫禄すら漂う。

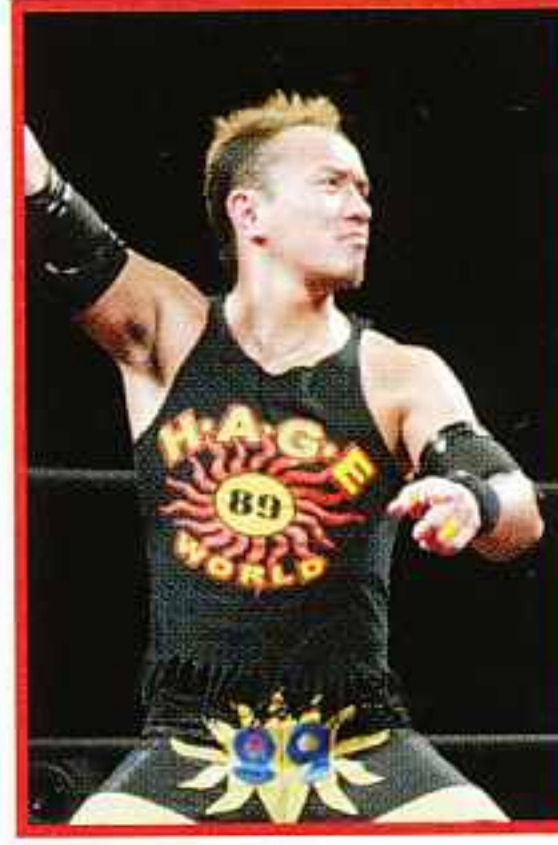
CIMA評

常にCIMAの反対側にいるお調子者ですね。典型的なAB型。こいつの考えてることは誰にも理解できない。最高の戦友であり、最大のライバルですよ。

横須賀享

闘龍門、いや日本マット随一のバイプレイヤー。その"巧さ"は誰もが認めるところで、特にドラゴン・キッドとの絡みは絶品。美しい技の影には常に享の姿があるのだ。

CIMA評

ジメッとした梅雨時みたいな人間ですね。オレの予想ではフィギュア集めが得意なはず。細かい仕事に注目ですね。

堀口元気

HAGE帝国を建国し、全国の薄毛に悩む若者に勇気と希望を与えた、若ハゲ界ではアルシンド以来の英雄。"神が宿る"逆さ押さえ込みと必要以上に豊かな表情は絶品。

CIMA評

3年後の堀口元気は、プロレス雑誌以外の広告に出てるでしょうね。その広告が何かは、みなさんで考えて下さい。

谷嵜なおき

第3の闘龍門"TOURYUMON-X"から単身"編入"してきた新入り。2代目・サーファーキャラとして堀口に弟子入り中。ドリフで言うところの「すわしんじ」的ポジション。

CIMA評

あんまり接触がないんで、よく分からんけど、おまえホンマにアホなんか？

K-ness

ダークネス・ドラゴン時代は闘龍門の中では異色のしゃべらないキャラながら、マイクを解禁したら、実はいい味出してた業師。この人のテクニックも実にハイレベル。

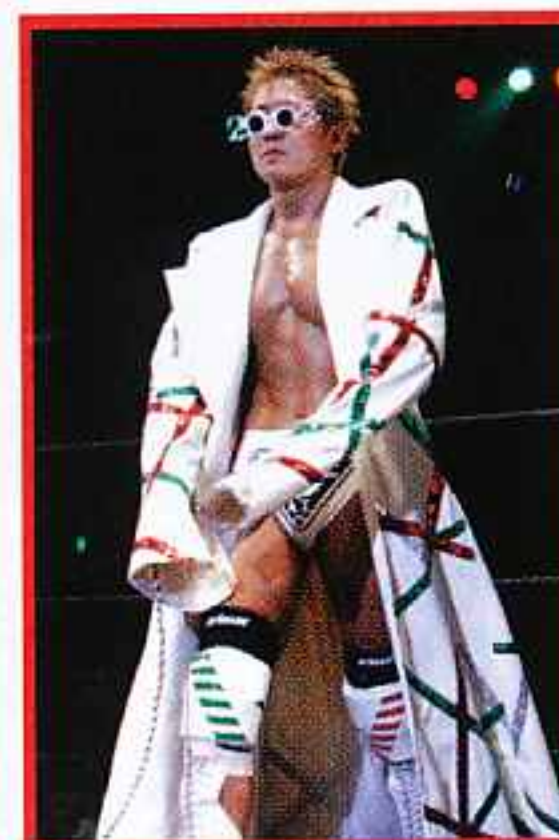
CIMA評

自分では正体不明にしたいんでしょうけど、全然正体不明じゃないマスクマン。いま欠場中なんで、帰ってきたときに大変身してて欲しいですね。

斉藤了

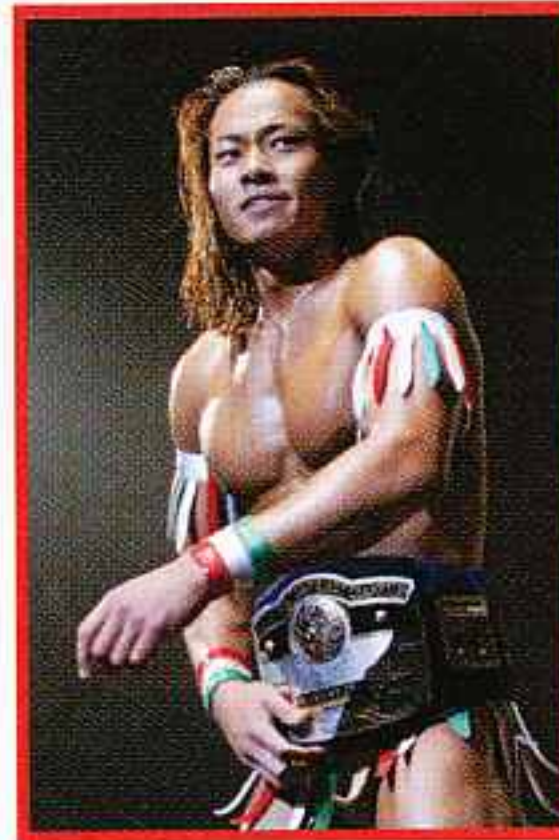
純粋真っ直ぐを絵に描いたような、迷いのない目をした青年。アンソニー・W・森とは友情を越えた、限りなく愛に近い結びつきを持っている。騙されやすいのが欠点。

CIMA評

ある意味で闘龍門のマイクの新境地を開いた人間。グレた斎藤了はもう見たくない。

ミラノコレクションAT

T2P時代はクールで嫌なヤツだったが、闘龍門JAPAN入りしてから、ハジけた素顔を解禁し、2・5枚目キャラを確立。ダンスでのハッスルぶりは他の追随を許さない。

CIMA評

ミラノの30年後は、体型が馬場さんみたいになってるでしょう。オレらにもファッション教えろ。

YOSSINO

体脂肪率わずか5パーセントを誇る、パーフェクトボディの持ち主にして、目にも留まらぬ回転技の使い手。かつてはミニゴリラ・ルチャドール"ベヴェネツィア"を飼っていた。

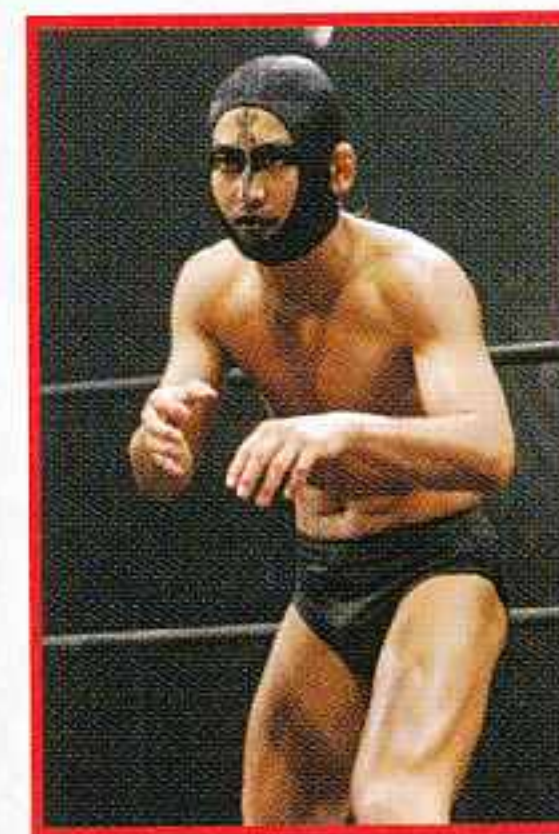
CIMA評

世界最速のプロレスラーですね。ただ、もうひとつ派手な点が欲しい。おまえ真面目過ぎるんじゃ。

アンソニー・W・森

端正な顔立ちにサラサラヘアー。いまにも白馬に乗って現れそうな気品溢れる王子様だが、メキシコ修行時代"エロ本キーパー"の名をほしいままにしていたことは内緒である。

CIMA評

「王子様」キャラ。でも王子と言われながらも28歳。ここには触れてくれるな。

ストーカー市川

日本最弱のレスラーとして闘龍門になくてはならない存在だったが、フロリダの登場により"なくてもいい"存在になりつつある崖っぷちレスラー。SUWA曰く、「嫁が下げマン！」

CIMA評

早く子供つくれ。

フロリダ・ブラザース

マイケル岩佐

「岩佐軍団」総帥を名乗っていたような気もするが、いつの間にかアメリカ人に。への字眉毛の情けない顔をさせたら右に出る者はいない。実はお金持ちとの噂。

CIMA評

自分はマイケルを控室で張り飛ばし、金八先生ばりに涙の説教したことあるんですけど、おまえは一体何をしてんねや？ 真っ当なレスラーにしようとしてたオレが悪かった。

ダニエル三島

かつてはあのIWGP最多防衛記録者・永田裕志をモチーフにしたと思われる、凄まじく地味なキャラだったが、フロリダでブレイク。反則勝ち直後の嬉しそうな顔がいい。

CIMA評

ダニエルにも悪いことしてるんですよ。新技の実験でダニエルを骨折させてしまったんで。また今度おいしいオコゼ食べに行こか？

クレイジーMAX

闘龍門で最も長い歴史を持ち、最も強い絆で結ばれた最凶のユニット。4人のメンバーは盤石だが、「5人目のクレイジーは定着しない」というジンクスが5年間つきまとっている。

CIMA

"全身・闘龍門"と呼びたいほど、闘龍門にすべてをささげる現・選手会長であるが、かつてあの伝説のルード集団"SASUKE組"に所属した栄光の過去も持っている。

CIMA評

……………………………………
……………………………………
………………偽善者。以上！

SUWA

闘龍門イチの厳しさを持つ、男の中の男。しつけの厳しさは新人レスラーだけでなく、近所の子供にも及び、メキシコの子供を叱りとばして拘置所に入れられた経験もあり。

CIMA評

典型的な九州男児。常にクレイジーの監視役ですね。SUWAが動けばクレイジーも動くっていう部分もありますからね。

ドン・フジイ

闘龍門の"お母さん"的存在。かつて『紙プロ』紙上で、「スモー・ダンディ・フジ2000の首投げごっつぁんです」という連載を持っていたが、大人気の末1回で終了した。

CIMA評

人生、時の流れに身をまかせ。大相撲出身のレスラーで新境地を開いた人ですね。早く豆タンクになって下さい。

TARU

クレイジーMAXの課外授業、「劇団たる」を主宰。かつて石野真子の親衛隊を努めた経験があり、娘にしたいタレントは加護ちゃんで、カリスマが天山というナイスな人選をする。

CIMA評

クレイジーMAXにとどまらず、闘龍門全体のお父さん的存在ですね。ぶっといタイプです。

名無し軍団

かつては「正規軍」と呼ばれ、一時期は「第2次M2K」を名乗ったが、モッチー離脱後は、便宜上2ちゃんチックな呼び方をされてしまってるお気の毒なユニット。

ドラゴン・キッド

龍のマスクを校長から受け継ぎ、数々のウルトラC技で"神の子"と言われながら、長い低迷期間を経験。今春、『エルヌメロ』に優勝し、ようやく目覚めた（と信じたい）。

CIMA評

ピーターパンが成長した姿は見たくない。おまえがどれだけ活躍しても、オレとフジイさんだけは絶対認めない！

新井健一郎

坊主に刈り込んだ自慢の石頭は闘龍門イチの堅さを誇り、阪神タイガースをこよなく愛すトラック野郎。ちなみに、80年代アイドルもこよなく愛している。

CIMA評

オレの元ペット・日本猿のコラをよろしく。アラケンが里親なんですよ。

セカンド土井

「土井」というだけで「セカンド」とつけられたウルティモ・ドラゴンの被害者のひとり。されど、闘龍門でのポジションまで、しっかり2番バッターなのが渋い。

CIMA評

オレが思う闘龍門一オシャレ。クレイジーMAX内では"ジゴロの土井"って呼ばれてますから。

スペル・シーサー

「しょんべんタイム」と称される可哀想なマッチメイクが多いが、実はジェシー・メイビアばりの返し技の達人。「SAITOさん」と呼ばれると、マスク越しにうろたえる。

CIMA評

全プロレスラー目標にする鍛え抜かれたふくらはぎの持ち主ですけど、これまたオレとフジイさんは絶対に認めないです。

TOPIX

モッチー、悪冠一色離脱!!

今年1月、まさかのヒールターンで近藤らと結託。ヒールユニット悪冠一色を結成したモッチーが、締め切り直前の6・6本川越大会で、メンバーの裏切りに合い正式に悪冠一色を離脱した。若いT2P世代で構成される悪冠一色にあって、ただ一人のベテラン。しかも、一人だけヒールながら歓声を浴びているとあって、メンバーとの溝は深まるばかりだったが、ついに爆発してしまった形だ。なお、6・20ディファでは、早速モッチーvs近藤＆大鷲の理不尽ハンディマッチが決定。見逃せない！

望月成晃

今年1月、「ヒールを極める！」と宣言し衝撃のヒールターンを行い悪冠一色入りしながらも、「いい人」のイメージが強すぎて黄色い声援を浴びてしまう、ホントにいい人。話の面白さも抜群。

CIMA評

トイレに行ってても望月が試合してれば聞こえるぐらい、実は甲高い声を持つ男。そして実は私生活ではギャンブラー。

離脱!!

悪冠一色 アーガンイーソー

「スポーツライクになりすぎた（モッチー談）」闘龍門に久々に現れた悪の限りを尽くすヒールユニット。ある意味、ここ1年はこの軍団を中心に闘龍門は回っている。

近藤修司

もの凄い肉体を持った闘龍門イチのパワーファイター。破壊力抜群のラリアットは絶品。昨年はヘル・ミッショネルズばりにマスク狩りに精を出していたが、今年も6・6本川越で再会！

CIMA評

こいつはメキシコ時代に犬の肉を食ってたらしい。そういう噂があります。

大鷲透

120キロの巨体を誇り、「オレ様」節を轟かせる闘龍門最凶の怪物。しかし、リングを降りると、大相撲出身者らしくプロ顔負けのちゃんこを作り、選手たちから尊敬を集める。

CIMA評

闘龍門で唯一、メキシコに行って体重がアップした人間。フジイさんは20キロダウンしたのに、大鷲は30キロも大増量して帰ってきましたから。

"brother" YASSHI

放送禁止用語を連発し、出てきただけで女性ファンから悲鳴とガチンコの罵声を浴びせられる素晴らしいヒール。5・23ディファでは、股間を掻きながらブリーフ一丁で登場。

CIMA評

闘龍門一のトンパチ。トフトーレ・デラノージェっていう技はいつんなったらでるんや。

高木省吾

マスクマン、ベルリネッタ・ボクサーから素顔に変わりながらも、表情がまったく変わらないリアル「素顔のマスクマン」。みんなで叫ぼう、う～～、ジェット！

CIMA評

"ジェット高木"っていう名前に改名したが認可が下りず、周りがおちょくって「ジェット」って呼ぶんですよ。谷津さんの「オリャ！」を継承できるのはジェットしかいない。う～、ジェット！

菅原拓也

アンソニー・W・森と「ロイヤル・ブラザース」を結成していたが、ヒールに寝返り悪冠一色入り。しかし、ヘンリー・Ⅲ世・菅原時代の写真は1年後くらいにネタに使われるだろう。

CIMA評

メキシコ修行時代が長かったため、帰国後、百円の回転寿司食べて泣いたらしい。

7月4日は神戸ワールド記念ホールに大集合！

聞き手／ささきぃ

神戸大会営業本部長ドン・フジイが大いに語る!!

ストーカー市川もプロレスラー生命をかけて決死の営業!!

――今日は7月4日に控えた闘龍門5周年大会に向けて、営業本部長であるドン・フジイさんと、今日付けで副部長に就任されたストーカー市川さんの意気込みをお伺いしたいと思います！ なんでも、宣伝カーに乗ってかなり熱心に営業活動されてるということでしたが。

フジイ まわってますね〜。もう、西は明石から、東は大阪市内まで回ってますからね。

――お二人でですか？

フジイ そうですね。基本的にはボクとストーカー市川と、営業の南部っていうのでグルグル回ってます。

――正式に本部長に就任されたのはいつですか？

フジイ 3月くらいですかね。そのころから「そろそろワールドや」っていう意識が。毎年、闘龍門の集大成を見せる大会ですから。もう、絶対に満員にするっていう気持ちで。最低でも超満員。

――最低でも超満員ですか！

フジイ 最低でも超満員です！（キッパリ） それがボクのつとめですから。

――気合い入ってますねぇ！

フジイ 気合いっていうか、当然のことですからね。これは闘龍門にいる限り。

市川 闘龍門の地元ですから。これが満員にならなきゃねぇ。

フジイ 闘龍門イコール神戸ですからね。

――そういう意識ってありますか？

フジイ もちろん。東京のビッグマッチも大切ですけど、闘龍門が生まれたのは神戸ですからね。やっぱり大事ですよ。

――宣伝カーでは、アナウンスも流してるんですか？

フジイ やってますね。ぼくの声なんです（笑）。

――え、フジイさんの声なんですか？

フジイ そうです（笑）。一回、その美声も聞いて欲しいですね。たぶん、聞いた人は僕の声だってわかんないと思いますよ。WAR時代に1年やった営業の成果が今出てますね（笑）。

――運転はちなみにどなたが？

フジイ 運転は僕です（笑）。

――ホントになんでもしてますね（笑）。

市川 僕は助手席から顔を出したりしてます。

フジイ 三宮の元町駅周辺を、この格好でストーカー市川がサンドイッチマンやってますから。

――新日本プロレスの営業がドーム前にサンドイッチマン通勤したことがありましたけど、闘龍門はストーカー市川が自らですか（笑）。

フジイ そうです。この格好で。

市川 無視されるんですよ（笑）。たまーに、知ってる人が「がんばってください」とか言ってくれるんですけど、基本的には冷たいですね。

――フジイさんはアナウンス、そして市川さんはサンドイッチマンと。

フジイ そうです。まぁ、市川の場合、試合に出れるかどうか微妙ですからね。

市川 営業の成績がいいかどうかで、ボクが出れるかも決まりますから。

――市川さんは、神戸での出番がない可能性もあるわけですか（笑）。

フジイ ワールドはね、市川の歴史がつまってる大会だと思うんですよ。アジャ・コングさん、グレート・サスケ選手……。

市川 つぼ原人、TARUティモ・ドラゴン……。

――名勝負揃いですよね。

フジイ そうそう。今回はワールド名物となったその、ストーカー市川の歴史がとぎれる可能性がある大会ですね。

――あっ（笑）。

市川 試合に出れるように頑張ります。

――売り上げた枚数によって市川さんが出られるかどうか変わってくるんですね。

フジイ そうですね。当日市川が試合に出てたら「売った」ってことです。

――出てきたら「よく売った」と（笑）。

フジイ はげましの声をかけてあげてください。

市川 応援よろしくお願いします。宣伝カーを見かけた方はぜひ声をかけて、直接チケットを買ってください。

――あ、直接販売もされてるんですか？

フジイ そうです。宣伝カーでも販売中です！ それは強調しといてください。

――じゃあ、大会前に一度神戸に行って宣伝カーからチケットを買ってと（笑）。

フジイ そうですね（笑）。大会前に宣伝カーを見に神戸に来るのもいいかもしれません（笑）。

――わかりました（笑）。いや〜、こんなに具体的な営業努力をしてるレスラーは他にはいないでしょうね。

フジイ 努力してなんぼの世界ですから、当たり前の話ですよ。なんでもいたしますよ、本部長の肩書きをもらった以上は！

――いや〜、リング上だけじゃなく、当日の会場も楽しみになってきましたよ。フジイさん市川さん、当日まで宣伝カー頑張ってください！

（5月23日・ディファ有明大会後に収録）

最低でも超満員にします!!（フジイ）

5月25日ディファ有明大会のロビーで7月4日神戸大会のチケットを販売する営業本部長C-MAXのドン・フジイと副部長ストーカー市川。この日は補佐のＴＡＲＵもともに声を張り上げていた。握手＆撮影会を兼ねたチケット販売コーナーは、大会直前の6月29日鳥取大会まで続けられる。

UDG王者決定トーナメント開催!!
闘龍門を語る上で、この大会は絶対に見逃せない!!

5月23日ディファ有明大会のメイン終了後、ＣＩＭＡが「各ユニットから1人ずつ出て、誰がUDGにふさわしいかトーナメントをやったらえぇんや。C-MAXからは私CIMAがいかせていただきます」と提案。現在名無しのおそらく正規軍からはキッド、悪冠一色からは望月と近藤が出場権を賭けて対戦。DoFixer&イタリアンコネクションからは、参戦を主張する堀口をマグナムTOKYOがいさめ、代わりにYOSSINOをあおってミラノとの間で出場権を賭けて対戦するよう決定させる。
思わぬ同ユニット内対決を強いられることになったイタコネに対し、CIMAが「次の6月20日、ディファ有明でオマエらを査定したる。俺とフジイさんのタッグで、ミラノ&YOSSI-NOと対決や」と、さらに試練を突きつけた。7月4日の闘龍門5周年記念大会・神戸ワールド記念ホールで開催されるUDG王者決定戦に向かって、闘龍門内での熾烈な争いはさらに激化していく!!

また、第2試合で行われたストーカー市川vs“b”YASSHIの闘龍門最弱決定戦では、ドン・フジイが強引に市川を救出。市川を勝利に導くが、同時に市川の一番の売りである（？）“最も弱い男”の称号を奪う結果に。はたして“闘龍門ブービー賞”となった市川の今後はいかに……!?

『闘龍門JAPAN5周年記念大会〜Vnt Aniversario〜』

【日時】7月4日(日)
3:00PM開場/4:00PM試合開始
【会場】兵庫・神戸ワールド記念ホール
【チケット料金】
ドラゴンＶＩＰ ¥15,000(前売/当日とも)
特別ＲＳ ≪前売≫¥10,000 ≪当日≫¥11,000
ＲＳ ≪前売≫¥7,000 ≪当日≫¥8,000
アリーナ席 ≪前売≫¥5,000 ≪当日≫¥6,000
特別スタンドＡ ≪前売≫¥8,000 ≪当日≫¥9,000
特別スタンドＢ ≪前売≫¥6,000 ≪当日≫¥7,000
２Ｆ自由席 ≪前売≫¥4,000 ≪当日≫¥5,000
３Ｆ自由席 ≪前売≫¥3,000 ≪当日≫¥4,000
【前売券販売所】
チケットぴあ TEL:0570-02-9977
ＧＥＯ新開地店 TEL:078-574-2805
リングソウル TEL:078-333-6690
※その他、関西地区の主要プレイガイド、プロレスショップほか
関西地区をひた走る**宣伝カー**にて絶賛発売中！
■ 問：闘龍門JAPAN
TEL：078-333-9797

前夜祭情報

神戸ワールド記念ホール大会
前夜祭INルミナス神戸2 決定！
例年同様、今年も神戸ワールド記念ホール大会の前夜祭が
開催される！

【日時】7月3日(土)19:00〜21:20
乗船受付開始=18:00 出航=19:00
【会場】ルミナス神戸2(明石海峡周遊エレガント・ベイクルーズ)
【参加料金】1人=¥15,000(チケット送料別途¥500)
☆フリードリンク&フリーフード！
神戸ワールド記念ホール大会の出場全選手が参加予定！
各ユニットによるアトラクションや、撮影会など内容も盛り沢山！
■ 参加受付&お問い合わせ：闘龍門JAPAN
TEL:078-333-9797

変俺お

ビビってたじろぐ
秘密を大公開!!

構成／ジャン斉藤
designed by matsu（Two Three）

髙田総統 E-mail INTERVIEW

TEAM TAKADA THE MONSTER

「私はメールだってできるんだよ」

7月4日は神戸ワールド記念ホールに大集合!

聞き手／ささきぃ

神戸大会営業本部長ドン・フジイが大いに語る!!

哀れでちっぽけなプロレス界に見切りをつけられないプロレスファンの諸君、御機嫌いかがかな？　我こそは『髙田モンスター軍』総統、髙田だ。よろしく！　今回は、私の秘密を少しだけ明かしてやろう。『紙のプロレス』とやらを選んだ理由は他でもない。この雑誌の頭の悪い編集者が、本来ならば『ハッスル軍』特集なぞにページを割こうとしていたのを参謀長の島田裕三から伝え聞き、私がページをブン取らせたというわけだ。残念ながら私は忙しい身なので、直接インタビューを受けている時間はない。メールでのやり取りになってしまったことはお詫びしておくよ。どうだ、私に謝られて嬉しいだろう？　日本のプロレス界やプロレスファンが、どんなにちっぽけな存在であろうと、私は決して礼儀は欠かさない。ありがたさが身に染みたら、さっさと読んだらどうだ!?　ビターンッツッ!!!!!!

『髙田モンスター軍』総統　髙田

お
俺
変

Q 髙田総統は、『紙のプロレス』のことは御存知なのでしょうか?

✉ 『ハッスル』のリングでは大した活躍もしていないチキンこと小川直也君がたびたび表紙になっている雑誌ということは聞いている。ポークこと橋本真也君の団体にも、かなりの誌面を割いているらしいな。率直に言えば腹立たしいことこの上ないが、我が『髙田モンスター軍』を概ね好意的に扱ってるから良しとしようか。

ただし、だ! 不甲斐ない闘い振りをしているチキン&ポークを今後も変わらずに持ち上げ続けるのであれば、即刻、『髙田モンスター軍』は貴誌に取材拒否を申しつけることを通告しておく。

Q 髙田総統は日本人なんですか? 日本人でなければ、どこの国の方なんでしょうか?

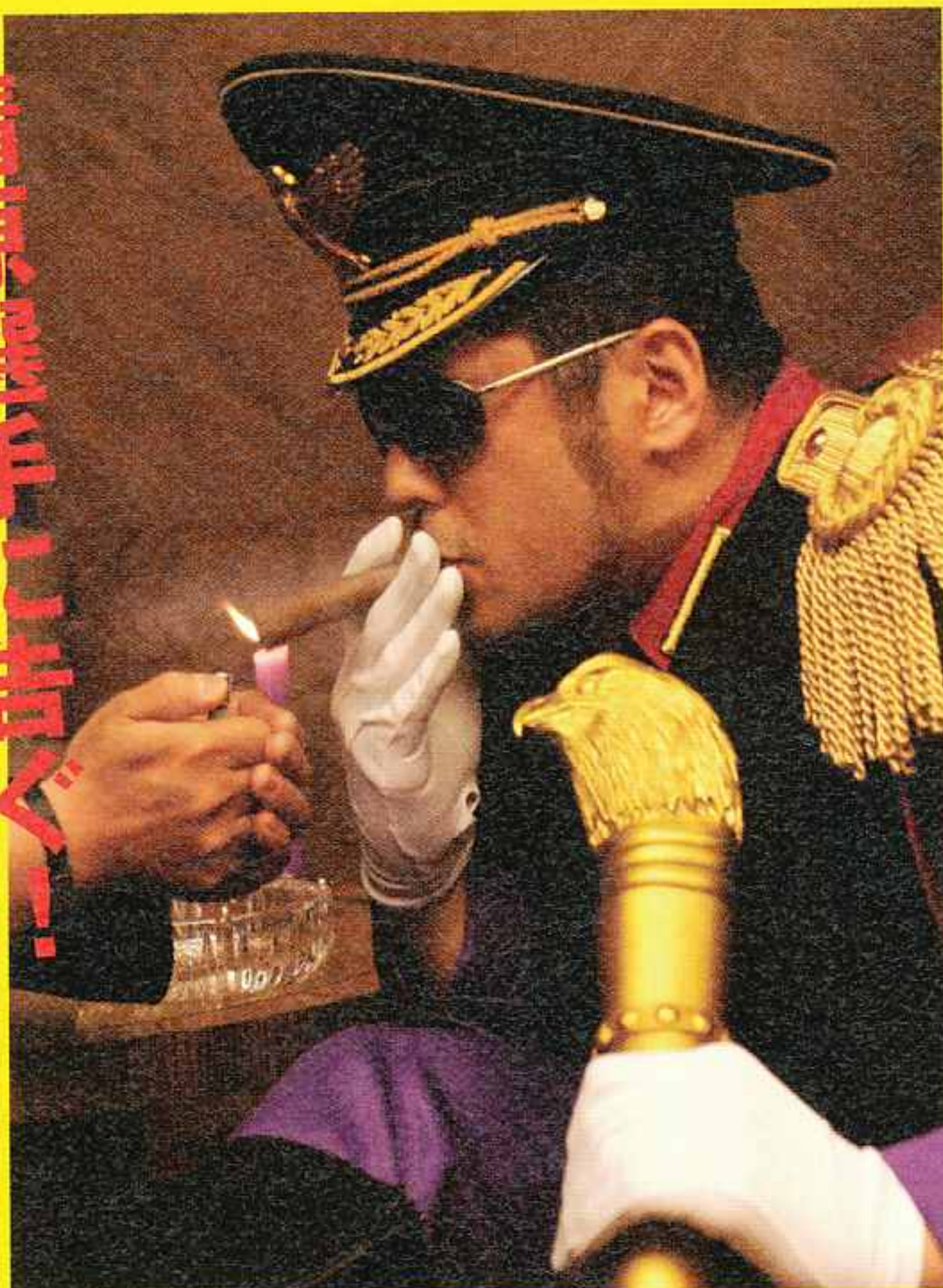
✉ 君たちは私を「日本人」だと認識しているらしいが、それは大きな勘違いだと指摘しておこう。そもそも私は出身地や国籍、年齢、思想などにとらわれない生き方をしている。どこぞの国家のちっぽけな枠組みに入るつもりは毛頭ないし、組み込まれることも断固として拒否する。私は自分の信念のみで行動しているわけだ。どうだ、カッコイイ生き様だろう?

日本のプロレス界によくいるだろう? 団体の枠にのうのうと収まっていながら「俺のやりたいことはこうじゃない」だの「俺は俺だけの道を行く」とかブツクサ言ってる輩が。そう言うなら、さっさと、自分の力のみで生き抜いてみたらいい。

いいか、日本のプロレスラーたちよ。その情けない君らの精神構造、古ぼけた団体の枠組みを、実力主義の『髙田モンスター軍』が、今後根こそぎブチ壊していくことをあらためて宣言してやろう。ビビッたか? たじろいだか!

Q 総統と髙田延彦・PRIDE統括本部長とは本当に別人なんでしょうか? 別人だとしたら、知り合った経緯を教えてください。

✉ 低脳なマスコミ諸君らはいまだに髙田延彦氏と私を同一人物扱いるようだ。そのうえ御丁寧に「髙田総統(42歳)」などと、髙田氏の年齢を付け加えて報道している輩もいるそうだな。いいか、耳の穴をかっぽじってよく聞きたまえ! 私と髙田延彦氏とはまったくの別人。スケジュールの都合があえば、いずれ2人揃っての登場を予告しておく。

髙田氏と知り合ったのは、彼がヒクソンと最初に闘ったあとのころだ。場所は日本ではないとだけ言っておこう。私が所有する人里離れた山奥の別荘に、私はたまたまバカンスで訪れていた。そこに泥酔した髙田氏は迷い込んできた。そのときに私が介抱してあげたのが友人となったきっかけだ。彼が「A級戦犯」などと馬鹿なマスコミに叩かれまくってたころだったらしいが、そのころの彼には「迷い」があった。私と出会ってから、彼からその迷いは消えたよ。それから彼は、愛弟子の桜庭君の『PRIDE』での活躍ぶりなどを、真っ先に私に報告してくれているよ。私も『ハッスル』におけるチキン&ポークの低たらくぶりを逐一報告している。そうすると彼は腹を抱えて大笑いしてくれるから、私も伝えがいがあるというものだ。そしてまた、チキン&ポークをイジメたくなるというわけだ。

清原選手に告ぐ!
巨人軍が優勝をするためには、
「ビターン!!」ポーズを
お勧めしたい。

Q 『髙田モンスター軍』の島田裕三参謀長と、『PRIDE』の島田裕二レフェリーも別人なんですか? 双子説も流れてますが……?

✉ 最近になって発覚したらしいが、参謀長の島田裕三は、普段から『PRIDE』の島田裕二レフェリーになりすましていただけで、まったくの別人だ。島田レフェリーになりますことは、私が政治力を駆使して『ハッスル』を主催するDSEに話を付けておいた。じつはチキン&ポークをカク乱する作戦だったのだが、裕二も裕三も同じくらいブーイングを浴びるし、性格や行動もさして変わりがない。あまり意味がないことに気がついた。私としたことが恥ずかしい限りだよ。

双子説は初耳だな。じつは私は島田裕三のプライベートのことはよく知らないんだ。いつも何やら喋りかけてくるが、大して重要じゃないことが多いから耳を傾けていない。私は忙しい身であるからあまり構っているヒマはないということだ。しかし、『ハッスル3』のメインで3カウントを入れたときは明らかにカウントが速かった。たとえあのポークに手を出された直後で錯乱してたとはいえ、あれは奴の大きな大きなミスだ。奴のミスで我が『髙田モンスター軍』は、『ハッスル3』では負け越してしまった。もちろん数字の上での出来事だが、ミスに対しての制裁は加える。それが私の信条だ。

Q 好きな色はなんですか?

✉ しいて挙げれば、紫になる。それは私の服装の色使いにも現れているから、ご理解頂けると思う。すべてを焼き尽くす炎のような情熱は「赤」に例えられ、氷のような冷静沈着さは「青」に例えられる。その2つの色が交わったときに「紫」が生まれる。炎のような情熱と、氷のような冷静さを共有している私にはピッタリなカラーだよ。もうひとつ理由を付け加えるとすれば、聖徳太子が制定した冠位十二階は、色によって徳の高さ、位の高さを表していた。それくらいは、いくら無知とはいえ諸君らも御存知のはず。最上級の位の色は、紫だ!

どうだ。ビビッたか? たじろいだか!? チキンのコスチュームの色は白、ポークは黒を基本としているが、いずれも最下級の位の色であることも付け加えておこう。彼らがいかに下品で野蛮かつ低俗な人間であることもわかるな。ただし、白であれ、黒であれ、私が身に付ければそれは最上級の位の色となる。要はそれを身に付ける者の中身が問題だということだ。

7月4日は神戸ワールド記念ホールに大集合！

聞き手／ささきぃ

神戸大会営業本部長ドン・フジイが大いに語る!!

Q 最近話題になっている年金未納の政治家についてどう思いますか？

✉ 税金を払わない政治家よりはマシだとは思うが、まさかそんな政治家は過去に遡ってもいないはずだろう？ まさか、いたのか!? まあ、日本の政界も根こそぎ変わることを期待しているよ。

Q 好きな食べ物はなんですか？

✉ 赤ワインが好みだな。赤ワインの産地で有名な、フランスはブルゴーニュ地方に私の古くからの知り合いがいる。その友人から超高級の赤ワインが何本も送られてくる。君たちが生涯、口にできない美酒でふだんからこの喉を潤しているわけだ。羨ましいだろう？ いや、君たちのことだ。その価値さえも理解できずにポカンと口を開けている姿が想像できるよ。

「髙田モンスター軍総統、髙田だ。私には、むさ苦しさだけが取り柄のチキン&ポークとは違って、美人秘書がいる。あらためて紹介しよう。彼女の名はウテ・"セクレタリー"・ワーナー。私に相応しく優秀賢明な秘書なんだよ」

Q 一部では「総統は太陽光線に弱い」と報道されてますが……？

✉ 私を『ガメラ』に出てくるギャオス扱いするのはよしてくれ。光に弱いのではなく、私は暗闇に慣れているだけだ。「暗闇にサングラスは意味はない」という面白くもないことを言っても無駄だ。暗闇の中にこそ、真実があるのだよ。

Q プロレスファンの間では総統のコスチュームをコスプレ呼ばわりする声も挙がっていますが……？

✉ 洗濯のしすぎで色あせたプロレスTシャツに、ケミカルウオッシュのGジャンしか持ち合わせていない君たちに、私の服装をとやかく言える道理はないはずだ。まずは自らのファッションをあらためることをマスコミ、そしてプロレスファンの諸君に忠告させていただく。そして、もうひとつ忠告、いや、ご教授しよう！ 個性とは背中に貼り付けるもの。キャラクターとは人格そのもの。そしてファッションも同じく、その人間の人格を表現するものだ。諸君らも服装には気を使ったほうがいい。

Q 総統の座右の銘を教えてください。

✉ 「予の辞書に不可能という文字はない」――。かのナポレオン1世の有名な言葉であるが、私のために残したかのような名言が座右の銘ということになるかな。先に予告している"例の計画"の全貌が見えたときには、私の辞書に「不可能」という文字がないことがわかるだろう。

Q 総統の発せられる「ビターン!!」の意味を教えてください

✉ 「ビビッたか？ たじろいだか？」の略から来ている洗脳用のポーズと言葉だ。叫ぶ前にグルグル指を回すムーブ、最後のキメのポーズも付け焼き刃では真似はできない。巷ではチキン&ポークの低俗なハッスルポーズが流行中らしいが、ホームランを打つたびに、ハッスルポーズを連発している清原君が所属する読売巨人軍の戦績が首位ながらもダントツではないことをかんがみれば、あれがいかにハッスルできないポーズであるかがわかるはずだ。

清原選手に告ぐ！ 巨人軍がブッチギリの優勝をするためには、ハッスルポーズではなく、「ビターン!!」あるいは「ドゥ・ザ・ハッスル」のポーズの奥にある極意をきわめることをお勧めしたい。これには野球少年だった髙田氏も同意見のはずだ。英断を期待する！

私と髙田延彦氏とはまったくの別人。都合があえば、いずれ2人揃っての登場を予告しておく。

Q 小川直也選手が、弟分・藤井克久選手の出身が広島という理由で、リングネームを「藤井・軍鶏侍（しゃもじ）」に変更しました。試合で活躍しないと本名には戻せないそうですが、このアイディアはどう思われますか？

✉ じつにチキンらしい低レベルなアイディアだ。きっと私にたびたび「査定試合」を強要された腹いせに、そのストレスを藤井君とやらにぶつけているんだろう。わかりやすいのも非常にチキンらしいが、その話を聞いてグッド・アイディアを思いついた。よく聞け、チキン！ 今後、さらなる醜態をさらした場合は、杉並出身の君のリングネームを「阿波踊り・直也」とするのはどうだ？ 島田によると君は、桑田佳祐氏と親交もあるらしいな。ならば、どうせなら「小川・稲村ジェーン」にでもしたらどうだ。

Q 先日マスコミに公開された「総統の部屋」は一体、どこにあるんですか？

✉ 残念ながらどこにあるかは申し上げることはできない。ここで明かしてしまうと、薄

これが髙田総統のお気に入り写真だ！

「髙田モンスター軍総統、髙田だ。私は、ハッスル軍のマヌケな姿を写真で鑑賞することも楽しみだ。見たまえ、彼らの情けない姿を（ニヤリ）」

本部長が『PRIDE』の解説を務めるそのうしろで、総統が試合を観戦……!? 編集部に差出人不明の封筒が送り届けられたが、封筒にはこんな写真が同封されていた。菅野美穂の混浴露天風呂写真クラスの衝撃が編集部を走った!!

汚い格好で右手にはサイン色紙、首からカメラをぶら下げたプロレスファンどもが群がってしまうのは明白だからな。もし街などで偶然にも私に遭遇した場合は、サインをしてあげるのもやぶさかではない。その際には「ドゥ・ザ・ハッスル!」ポーズをするのだけは忘れないでほしい。

Q 高田総統のテーマ曲が『宇宙戦艦ヤマト』のデスラー総統のテーマ曲から、エネガーの『威風堂々』に変わった理由を教えてください

✉ デスラー総統のテーマ曲を流すように指示した島田を、こっぴどく叱りとばしてやった。私は誰にも例えられない絶対無二の存在。前人と同じ轍を踏むなんて言語道断だ。『威風堂々』もどこかのプロレスラーがテーマ曲として使用していたらしいが、私にふさわしく、荘厳な曲だから許した。私はワインで喉を潤しながら、クラシックを聴くのが趣味なんだ。

Q 尊敬する人はいますか?

✉ 私は私自身を尊敬している。

Q 高田総統は『ハッスル3』の最後に、高山善廣選手の登場を匂わす発言をしてましたが、高山選手は『ハッスル4』に参戦するんですか?

✉ 私は「高田延彦氏の遺伝子」「NO FEAR」と言っただけで、高山選手の名前は一文字たりとも発していない。どうにでも勘ぐるのは勝手だが、マスコミやプロレスファン諸君らの短絡さには呆れるばかりだよ。まぁいいだろう。まぁよしとしよう。高田氏の弟子は皆、優秀な選手ばかりだ。誰が出ていってもチキン&ポークを木っ端微塵することには変わりはない。『ハッスル4』を期待していてくれたまえ!

Q 小川選手も参戦している『PRIDE・GP』で優勝するのは誰だと思いますか?

✉ 私の予想は自分でもたじろぐほどピタリと当たる。ハッキリ断言してあげてもいいが、プロレスや格闘技を見るしか娯楽がない諸君らの唯一の楽しみを奪うのはよしておこう。

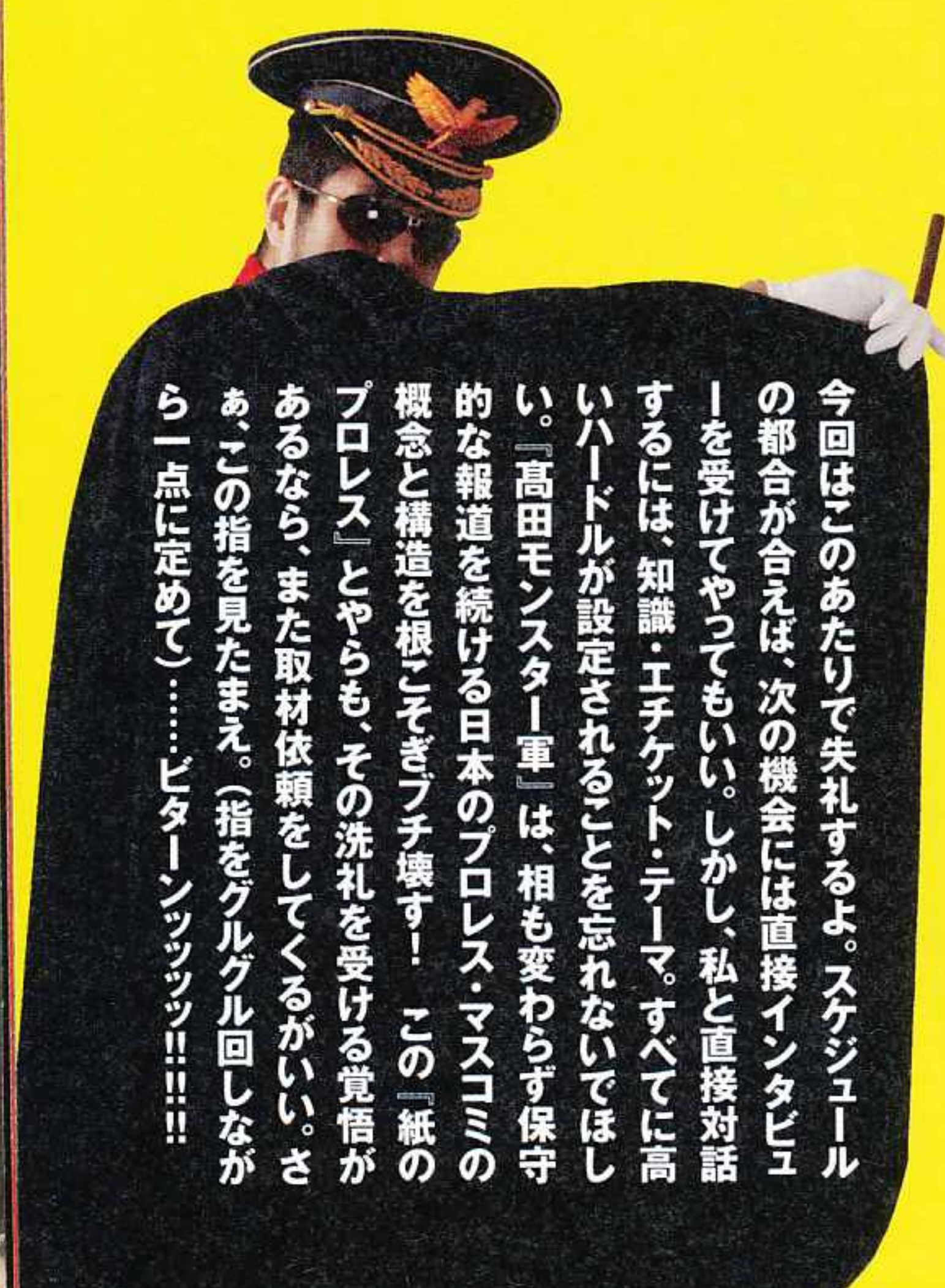
Q 高田総統の趣味は何ですか?

✉ 上から人を見下ろすことだ。いまの日本のプロレス界の連中は見下されっぱなしだから、私の気持ちはまずわからないと思うが、すこぶる気持ちがいいということだけは教えてあげよう。まぁ、現在の日本のプロレスラー諸君には、風上に立って強風を浴びる覚悟はないだろうから、せいぜい風下でチマチマ生きていけばいい。

Q 高田総統にはブーイングだけではなく声援も送られるようになりましたが、感想はいかがですか?

✉ 私のパワーの源は、目の前で愛するプロレスを破壊されてたじろぐプロレスファンの諸君らの嘆き、逆ギレの罵声だよ。まぁ、『高田モンスター軍』の圧倒的な強さ、崇高なる目的に感嘆して声援を送ってくることも、わからないではないがね。参謀長の島田もブーイングが何よりの快楽だと言っているが、たまには声援でも送ってやってくれ。まぁ、無理にとは言わないが。

Q 最後に、高田総統の目的を教えてください。そして〝例の計画〟とはなんですか!?

✉ もう一度言おう。ジメジメ、ウダウダとした日本のプロレス界の概念と構造を根こそぎブチ壊すことだ。ブチ壊したあとには、私の行動が正しかったことが諸君らにもわかるはずだ。そして諸君たちにも明るい未来が見えるはずだ。〝例の計画〟はいずれ全貌を現すとだけ言っておこう。まずはこの先、6月28日、日本のプロレス界の小さな小さな殿堂・後楽園ホールでも、誰も見たことのない未知のモンスターをお披露目してあげよう。ありがたいだろう? そして7・25『ハッスル4』も期待していてくれたまえ。

今回はこのあたりで失礼するよ。スケジュールの都合が合えば、次の機会には直接インタビューを受けてやってもいい。しかし、私と直接対話するには、知識・エチケット・テーマ。すべてに高いハードルが設定されることを忘れないでほしい。『高田モンスター軍』は、相も変わらず保守的な報道を続ける日本のプロレス・マスコミの概念と構造を根こそぎブチ壊す! この『紙のプロレス』とやらも、その洗礼を受ける覚悟があるなら、また取材依頼をしてくるがいい。さぁ、この指を見たまえ。(指をグルグル回しながら一点に定めて)……ビターンッッッ!!!!!

7月4日は神戸ワールド記念ホールに大集合!

聞き手／ささきぃ

神戸大会営業本部長ドン・フジイが大いに語る!!

笹原氏、GMに就任!!　ヤドカリ散々!!

[今月の]ハッスル劇場

今月もやっぱり、ハッスル、ハッスル!!　6月4日、『ハッスル』を主催するDSE事務所にて、『ハッスル』会見が行われた。会見では、『ハッスル』を統括するゼネラルマネージャーに、『ハッスル』事業主任の笹原氏が就任することが発表されたが、そのまま無事に会見が終わるわけがない。ヤドカリ、そしてギョロ目&軍鶏侍が乱入だ!!

『ハッスル』ゼネラルマネージャーの笹原です!!

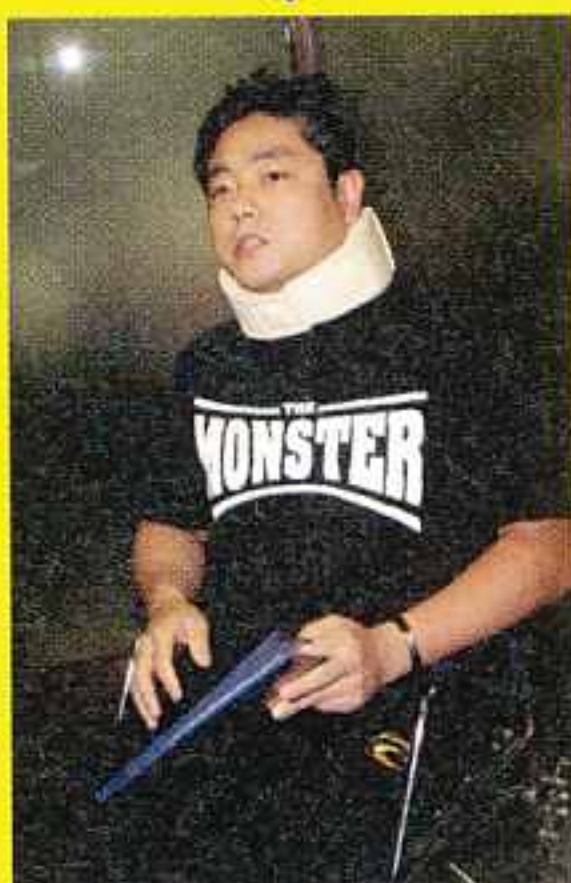
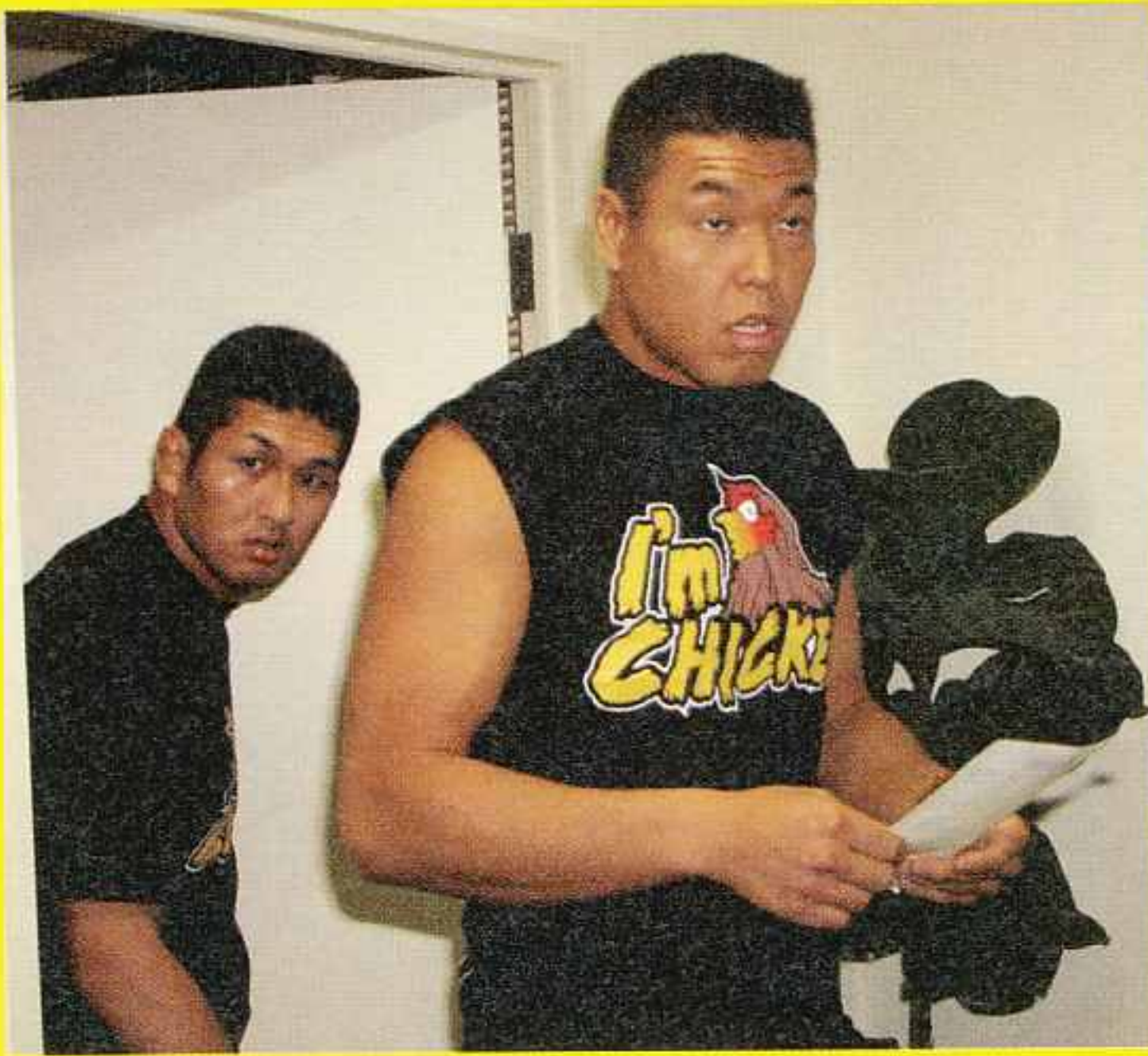
小川に「オマエ誰だ?」と問いただされることでおなじみになっている『ハッスル』事業主任・笹原氏が、DSE榊原代表より『ハッスル』の全権を委任されることになった。中立の立場で『ハッスル』を仕切っていくことになる。

強きを助け弱きを挫くヤドカリが登場!!

突然『髙田モンスター軍』参謀長の島田裕三が花束を抱えて現れた。なぜか首にはコルセットが復活、右足首はギプスで固められているために車椅子で。少しも痛々しく見えないのはその人格のせいだろう。

GM就任おめでとうございま〜す!

「笹原さん、いや、笹原GM!　プレゼントを持ってきました!!　ヨッ、GM!!　今後とも髙田モンスター軍をぜひよろしくお願いしま〜す!!」馴れ馴れしくゴマをスリ、ヤドカリらしさ爆発。「そういう物を頂くのは……」拒否する笹原GMに花束を強引に押しつけた。ヤドカリのことだ。花束代は自腹を切るわけがない。『髙田モンスター軍』の経費で落としたに決まってる。

『ハッスル・ハウス』は『髙田モンスター軍』が全勝で〜す!

適当にゴマをスったヤドカリは勝手に会見を仕切り始め、6・28『ハッスル・ハウス』に投入予定のモンスターたちの名前を口にした。しかし、笹原GMは「ハッスルの場に相応しくない選手、ハッスルしてない選手は、髙田モンスター軍だろうと小川直也であろうとリングにあげません!」イベントを運営する立場として、中立の立場をアピールすると……。

ギョロ目&軍鶏侍が乱入!!

「オイオイオイ!!　ちょっと待てよ!」小川直也が藤井軍鶏侍を従え会見に乱入!!「いま俺の名前、誰か呼ばなかったかぁ?」モサドも真っ青、迅速すぎる情報収集能力を披露した!!

『髙田モンスター軍』の逆襲?　ふざけんなよ!!

ギョロ目は『ハッスル・ハウス』のサブタイトルが「髙田モンスター軍の逆襲」となっていることにオカンムリ。「ハッスル軍の大行進とかよ、ハッスル軍の大進撃にするだろう!?」ギョロ目をヒン剥いてGMに詰め寄った。

ヤドカリ、なぁ〜にやってんだオマエ!!

先ほどまでの我が物顔の態度はどこにいったのか?　小川が現れるや、すっかり大人しくなったヤドカリ。ギョロ目の視界に入らないように両手で顔を覆う往生際の悪さを見せたが「お?　ヤドカリ、なぁ〜にやってんだオマエ」あっさりバレた。

このケガは、総統から制裁を受けたんです!!

「こ、こんにちわ」小声でギョロ目に挨拶したヤドカリ。右足のケガは、『ハッスル3』のメインで破壊王に手を出された直後で錯乱（首のケガは破壊王のせい）、自軍がカバーされてることを気付かずに3カウントを入れてしまった罰として、髙田総統にアキレス腱を切られたことを告白した。　ヒドイよ!

アキレス腱を切った?　誰も信用してねえよ!!

「なぁ〜にがケガ人だよ。誰も信用してねえよ!!」ヤドカリのマイ松葉杖でギプスを突っつくギョロ目!!　「ウッギャアッッッッッッッッッ!!　ヒ、ヒィ。ゆ、許してください、許してください〜ぃ!!　ホントにアキレス腱、切れてる……んですからぁ」グッタリしながらヤドカリは大悲鳴を挙げたが、同情する人間は日本中を探し回ってもいない。

変俺お

今月のハッスルアピール・その1

巨人軍・清原、2000本安打達成にオーちゃんが祝福メッセージ!!

ヤドカリをグルグル巻きの刑に処した6月4日、神宮球場でのヤクルト戦で2000本安打の偉業を達成した巨人軍・清原和博に、小川が祝福メッセージを発表。ホームランを打った選手を出迎えるときにハッスルポーズを見せていた清原に、ハッスル普及の感謝の意を表した。以下メッセージ。

「2000本安打おめでとう! 2000本のカウントダウンが始まってからは、ほとんどがホームランなんて絵になる男はやっぱり違うね! また、同じスポーツマンとして、同世代として誇りに思うよ。それと、いつもいつもハッスルポーズをありがとう! オレも技に記念すべき「2000」の数字の入ったネーミングを勝手ながらつけさせてもらった。今度の試合ではそのネーミングの技で決めるよ。次は3000本目指して頑張ってほしい! 同世代としてお互い頑張ろう! 3、2、1、ハッスル! ハッスル!」

今月のハッスルアピール・その2

『ハッスル・ハウス』にモンスターが続々!! 高田総統から予告状!

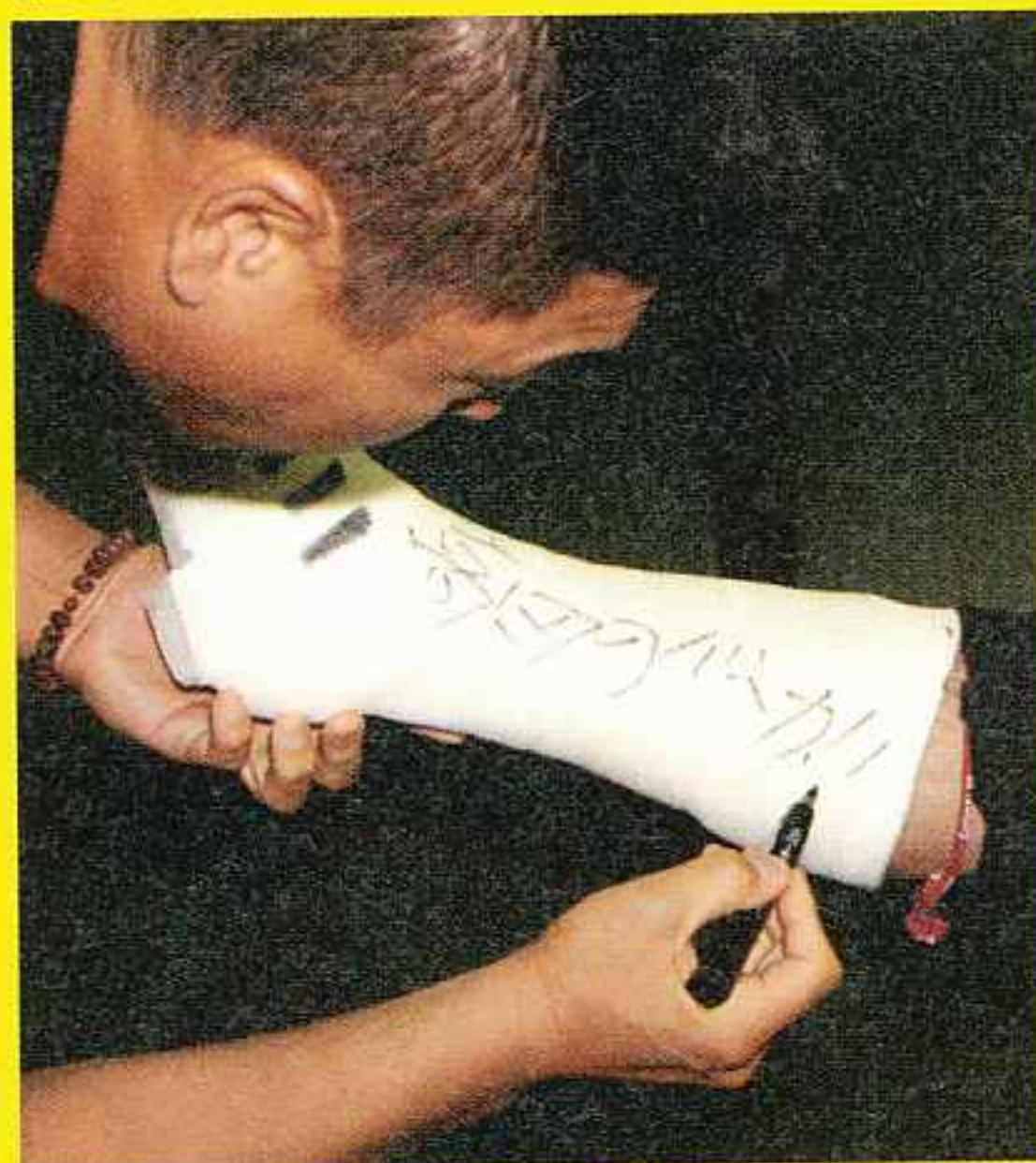
「5・8『ハッスル3』。チキン&ポークを始めとしたハッスル軍は、確かに数字の上では、我が高田モンスター軍に勝ち越した格好となった。しかしそれはマスコミやファンの諸君が見た通り、あくまでも偶然の産物だ。時計の針を、ほんの数秒巻き戻したにすぎない。改めて言っておこう。その概念と構造もろとも、日本のプロレスを根こそぎブチ壊す"例の計画"は、我が高田モンスター軍の手によって着々と進行している。そして、我が高田モンスター軍には、文字通り世界中からモンスターたちが続々と集結している。ハッスル軍の諸君、そしてマスコミ&ファンの諸君、ありがたいと思え。誰も見たことのない未知なるモンスターたちを、後楽園ホールという、日本のプロレス界の小さな小さな殿堂でお披露目してやろう。せいぜいビビってたじろぐがいい」

今月のハッスルアピール・その3

小川、衝撃予告!! 「破壊王にアフロヘアを用意する!!」

5月28日、日本青年館で行われた『ダービー前夜祭2004』に、サンケイスポーツで競馬予想コーナーを持つ小川直也が登場。日曜日に行われるダービーの注目馬などについて熱くトーク。最後は場内の観客を総立ちにさせて「恥ずかしがらずに行くぞーッ!!」と声をかけて、「ハッスル!! ハッスル!!」と腰を振った。イベント後に会見を行った小川は、6・28『ハッスル・ハウス』に「破壊王にもコスチュームを用意しないとね」と準備万端。5月8日の『ハッスル3』では、大会ポスターから飛び出したような小川のコスチュームに破壊王は激しく嫉妬した。小川は「アフロ・ヘアになってもらうしかないでしょう!! 真っ赤なパンタロンにぶっとい金のチェーンもぶら下げてもらうから。破壊王が大好きなベンツのマーク付のヤツだから」と、限りなくハッスル度の高いものになる見通しだ!!

ギプスにはオーちゃんサイン!!

「高田のバ～カ!!」ギプスにマジックで書き殴ったギョロ目。ヤドカリはキズが癒えてギプスが取れるまで、この小学生的な落書きと一緒に生活することになるが、同情する人間は太陽系中を探し回ってもいない。

ヤドカリ、ガムテープで車椅子にグルグル巻き!!

「高田総統に言いつけますよ!!」「じゃあ、俺がお前が大好きな総統のところに送ってやるよ!!」ガムテープで車椅子にグルグルと巻きつけ、花束のヒマワリを突き刺すギョロ目&軍鶏侍。前衛オブジェというよりはアブグレイブ刑務所の虐待に近い気もするが、ヤドカリを同情する人間は世界中を探し回ってもいない。

ヤドカリ、佐川急便で総統のもとへ!

「いまから高田のところに送ります!!」ヤドカリの顔に佐川急便の送り状を貼り付け、送付住所欄に「高田のところ」と書いて本当に出荷してしまった!

ギョロ目、笹原氏のGM就任を了承!!

ヤドカリを出荷したギョロ目は笹原氏に「オマエ、誰だ?」とおなじみのフレーズ。笹原氏は「GMの笹原です!! 今後は高田モンスター軍だろうと、あなたであろうと、ハッスルしてない選手はリングに上げません!!」と力強く言い放った。毅然とした態度にギョロ目は「そんだけ言うならGMの仕事をちゃんとやれよ」と新GMを了承。

最後はやっぱり、あのポーズ!!

「中立って言うなら、いつものアレをやるか?」中立じゃなくても強制するのは必至だが、例によってギョロ目はDSE社員を強制招集。「いくぞ～～!!」新GM笹原氏の掛け声勇ましく、「3、2、1、ハッスル、ハッスル!!」と魂のポーズで締め!!

来月もお楽しみに!

「よっしゃぁ～～っ!!」ヤドカリ退治、中立の新GM就任を了承、ハッスルポーズ、やりたいことやるだけやったギョロ目は「あと頼むぞォ!」と嵐の如くDSE事務所を去っていった。来月もハッスル、ハッスル!!

スポーツ・プロレスをブチ壊せ!!

怪しさ丸出し『ハッスル・ハウス』

～髙田モンスター軍の逆襲～

6・28後楽園ホール

世界中から未知の怪物がゾクゾク来襲!! ハッスル軍が迎え撃つ!!

怪しく、不気味で、面白い!!

あの『ハッスル』が〝プロレスの聖地〟に初進出!!『ハッスル』のハウスショー的な位置づけとなる『ハッスル・ハウス』が後楽園ホールにて開催されることになった。ビッグマッチ間の繋ぎの役割を果たすイベントの実施により、『ハッスル』はさらにダイナミックに動き出すことになる。ハッスル、ハッスル、ハッスル!!

6月7日の時点では、参戦選手や対戦カードは発表されてないが、中心企画としては、小川直也選抜によるハッスル軍vs『高田モンスター軍』の全面対抗戦が行われる。

サブタイトルに「高田モンスター軍の逆襲」と付いているように、『ハッスル3』でハッスル軍に負け越したかたちのモンスター軍。高田総統はその復讐を誓うべく、誰もがビビってたじろぐモンスターの投入を予告。そのモンスターたちはすでにリストアップ済み（下囲み参照）で、世界各国から選りすぐられたその怪物たちは、リングネームからしていかがわしく、怪しい雰囲気をぷんぷん漂わせている。「日本のプロレス壊滅」を目論む総統のことだ。怪しく、不気味で、面白い。かつてプロレスが内包していたはずの醍醐味を武器に、格闘技コンプレックスから抜け出せない、スポーツみたいなプロレスにくさび打つ構えなのだろう。

一方、メンツは揃っていながらも、横の繋がりが薄いハッスル軍は、『ハッスル』で活躍できる選手の登場を期待する願いも込めて、小川がそのギョロ目をヒン剥いて、各団体の若手に奮起を促す。小川選抜による若手主体のチームが編成される。

また、小川は盟友・橋本真也に「敗者アフロヘアマッチ」での出場を望んでいる。「敗者髪切りマッチ」は聞いたことあるが、負けた人間がアフロヘアに？ なぜだ!?『ハッスル3』で御披露目をした小川の新衣装は、『ハッスル』の大会ポスターに描かれている、『ハッスル』の世界観をイメージしたイラストをヒントに得ているが、破壊王の絵は、アフロヘアに赤いパンタロン姿——。

それは、見たい!! ぜひ!

実際にアフロマッチが行われるかどうかは不明だが、小川が指揮するハッスル軍は、とにかく馬鹿馬鹿しいまでのエネルギーで、後楽園ホールを『ハッスル』独特の世界に染めようとする。全面対抗戦は試合の勝敗よりも、どちらがハッスルできるかが本当の勝負でもある。高田総統も場内に設置される予定の特別観覧席から、各選手のハッスル振りを査定することだろう。

これまで後楽園ホールではたびたびハッスル劇場が行われてきたが、それはあくまでZERO－ONE、全日本プロレスのリングでのことであり、ボーナストラック的な意味合いが強かったが、6月28日は、イベント全体を通して『ハッスル』を体感できるわけだ。

チケットはリーズナブルな価格設定。すでに『ハッスル』運営サイドがビビってたじろぐ勢いで売れている。完売は必至なので、さぁいますぐチケットを買いに走ったらどうだ？（総統風）。決断を待つ!! ビターンッッッ!!

高田総統も観覧!?
モンスター軍vsハッスル軍
全面対抗戦勃発!!

7･25『ハッスル4』

『高田モンスター軍』の怪物は日本人もいる!! NO FEAR……（高田総統）

【日時】7月25日（日）15:00～
【会場】神奈川・横浜アリーナ

【ハッスル予定人物】
破壊王／暴走王／総統／俺だけの王道／タコココラ親父
笹原GM／『高田モンスター軍』の皆さん
『ハッスル』軍の皆さん／ハッスルディーバ
モンスターガール／ハッスル応援団の皆さんetc

【チケット】
VIP席30,000円（専用入場ゲート、グッズ付き）
RRS席15,000円
スタンドS席8,000円／スタンドA席5,000円
ハッスルシート12,000円（花道横・ハッスルグッズ付）

【特別電話先行予約】
6月13日（日）（10:00～19:00）電話番号:03-5749-9909

【PRIDEオフィシャルサイト先行予約】
6月13日（日）20:00～6月14日（月）6:00
6月14日（月）10:00～24:00

【『紙プロ』先行予約】 13ページ参照だ、たわけが!!

【一斉発売】 6月27日（日）

『ハッスル・ハウス VOL.1』
～髙田モンスター軍の逆襲～

小さな小さなプロレスの殿堂に私がわざわざ足を運んであげるよ（髙田総統）

【日時】6月28日（月）19:00～
【会場】東京・後楽園ホール
【入場料金】S席5,000円／A席3,000円

○チケットぴあ0570-02-9977
○ローソンチケット0570-063-003
○イープラスeee.eplus.co.jp
○後楽園ホール03-5800-9999
○書泉ブックマート03-3294-0011
○チャンピオン03-3221-6237
○火乃国屋03-5730-3966
その他ポスター提示店にて発売

【お問い合わせ】ドリームステージエンターテインメント 03-5464-1531

小川選抜のハッスル軍と対戦するモンスターはこの中にいる!! ビターン!!

6月4日のハッスル会見で島田参謀長が『ハッスル・ハウス』に未知なるモンスターの投入を予告した。以下は報道陣に配布されたモンスターリスト。どのモンスターが送りこまれるかは未定。

“死刑執行人”ムッシュ・ド・デス（フランス）
“吸血戦士”ザ・フライング・バンパイア（出身地不明）
“アマゾンの”ザ・ピラニア・モンスター（アマゾン）
“肩刈り首長”KATAKARI（フィリピン）
“殺戮パンク”ザ・クラッシュ（英国）
“深海の大巨人”ハンマーヘッド・ジャイアント（オーストラリア）
ザ・モンスターハーツ1号2号（カナダ）
ダン・“ザ・バッファロー”・ボビッシュ（米国）
パイソン・ザ・ロマネスク（出身地不明）
アルティメットM（米国）
アップロック☆ブラザーズ（米国）
マニア・ザ・サイコ（米国）
ハードコア・アレックス（英国）
プ・サンジュン（韓国）
カート・ハングル（韓国）
クラブマガ・マスター（イスラエル）
マーブリーブ・フェイクファー（米国）
ミラクル4（出身地不明）
キラー・カール・イズータス（ドイツ）
ロシアン・コマンダー・X（ロシア）
ウテ・“セクレタリー”・ワーナー（米国）
And more……

ジェット・シン

史上最凶の60歳・狂えるインタビュー!!

Tiger Jeet Singh

いくら歳を取ろうと時代が変わろうとも、その凶暴さは決して色あせることはない。
60代に突入すれば、日本の一般的なケースでは年金問題などが頭をよぎったりするものだが、
このタイガー・ジェット・シンは、ただただ血を求めてリングに上がるのだ。
そして過剰なまでのプロ意識が、常識を遥かに越えた狂気の言葉を吐き続ける！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／松本崇　designed by matsu (Two Three)

——ミスター・シン、今日はよろしくお願いします！

シン　（仏頂面で）うむ。ところで、貴様はどこのマガジンライターだ？　『ゴング』か？

——いや、『紙のプロレス』というマガジンなんですけど。以前に2度ほど、ミスター・シンを取材したことがあるんです。

シン　まったく覚えがないな。フフン。

——そうですか（笑）。前号の『紙プロ』はこちらになります（小川直也・表紙の『紙プロ』を差し出す）。

シン　（表紙を指差しながら）おい、なぜ表紙がイノ〜キじゃない？　もしくは！　なぜ俺様じゃないんだ！

——いや、猪木さんもミスター・シンも、この号には1ページも出てないんですけど……。

シン　黙れ、この三流マガジンライターが!!　俺様が載ってないなら、なおさら問題だ。そんなグリーンボーイが表紙になるし、こんなマガジンには出る気は毛頭ないわ！

——でも、この小川直也というプロレスラーはいまマット界で一番、輝いてるんですよ。

シン　それがどうした？　俺様はこの鼻タレ小僧がリングに上がる前から、さんさんと輝いていた。もっともその輝きは、鮮血にまみれているがな（ニヤリ）。

——それは十分に承知しております。

シン　承知しているなら話は早い。次号の表紙は俺様にしろ。表紙にするんだったら、ありがた〜いお話をしてやる。そうじゃなかったら……サヨナ〜ラァ（日本語で）。

——それは困ります！

シン　（突然）ヘイッ、ヤングボーイ。周りに気をつけろ！

——ま、周りですか（周囲を見回しながら）。

シン　この部屋には虎がいる。とっても凶暴な虎がな。……どこにいるか、わかるかな？　俺様の中に棲んでいるんだ……狂気とともに!!

——は、はあ。

シン　話を戻そう、狂気とともに！　こんなグリーンボーイが表紙を取れるなら、俺様が表紙を飾ることは、それはそれは簡単な話じゃないか。フフン。

——え〜っと、編集会議で検討します！

シン　検討するとな？　なぜいますぐ確約しない？　なぜ「イエス！」と言わないんだ！

もう少し小さな声で喋れ。俺の中に棲んでる虎が目覚めないように!!

——「なぜ」って、表紙を誰にするかは編集長が決めるので……。

シン　編集長の名前は？

——山口日昇と申しますが。

シン　ヤマグチノボ〜ル！　ヘイッ、ヤマグチはどこの生まれだ？

——山口は東京・生まれですが……。

シン　（即座に）俺様はインド人だっ。

——は……？

シン　何を戸惑っているんだ、ヤングボーイ。俺様から何を感じたい？

——え……？

シン　俺様の目の中から、何を見たいんだ！　狂気なのか……？

——は、はい……。

シン　話を戻そう、狂気とともに！　ヤマグチノボ〜ルにぜひ伝えてほしい。狂気な表紙にしろ、とな。ハッ！

——しっかり伝えておきますが、ミスター・シンはインタビュー取材を受けるとき、いつもそんな条件を要求するんですか？

シン　イエス！　俺様は世界的なスーパースターだからな。ストーンコールドよりも有名で、ハルク・ホーガンよりも金持ちである。カナダの自宅はまるで宮殿のようだぞ。聞いて驚くな。建築費用は2億5千万だ！

——2億5千万！　それは凄いですね！

シン　いや、それでもハシタ金なんだよ、俺様からすると。

——『紙プロ』でも、そのタイガー御殿

当日発表の〝悪の中の悪〟として「ハッスル3」に電撃登場!!　必殺技のコブラクローでゼブラーマンを散々に痛ぶった。コブラクローはきっとインドのVTでも猛威を振るっていることだろう。

いつも心に
Die with Guts!!

「最強」？　笑わせるな。

我こそは「最凶」である!!

タイガー

7月4日は神戸ワールド記念ホールに大集合!

聞き手／ささきぃ

神戸大会営業本部長ドン・フジイが大いに語る!!

11月にインドでシュートファイトをやる！相手はダン・スバーンだ

の写真を載せたことがあるんですよ。

シン　ハハン？　なぜ貴様のマガジンが御殿の写真を持っているんだ？

――いや、ミスター・シンが参戦しているIWAの浅野社長から、プレスリリース用に頂きました。

シン　アサノさんはグッドガイだ。心が広いし、そして、ユニバーサル・ミュージック。

――ユ、ユニバーサル・ミュージック？

シン　ユニバーサル・ミュージックから、俺様はアサノさんと一緒にCDを出したことがあるじゃないか。

――そういえば、浅野社長とゴージャス松野さんとミスター・シンの3人で、『妖怪人間ベム』を歌ったんですよね。それと早口言葉も（笑）。

シン　それ、『妖怪人間ベム』。ハヤクニンゲンニ、ナリタイッ!!……詳しい内容は知らないが、素晴らしいソングなんだろう？

――妖怪として生まれた人間の悲哀をつづったハードボイルドソングではありますね。

シン　おお、俺様にピッタリだよ。

――ミスター・シンは日本で芸能活動もなさってるから、プロレスラー以外の方々との親交も幅広そうですね。

シン　イエス！　千葉のイシイさんと知り合いだ。

――ち、千葉のイシイさん？

シン　あとイケウチさんとハヤシさん……（このあとイシイさん、イケウチさん、ハヤシさんの細かいエピソードをたっぷりと語られるが、3人とも一般人なので省略）。

――……そうですか。日本の芸能人で親しい方はいませんか？

シン　エンターティナー？　それならシムラさんがいるぞ。

――シムラさんというと、お笑いの志村けんさんですか？

シン　ノンノン。ナイトクラブをやっているシムラさんだ。

――ナ、ナイトクラブのシムラさん。

シン　知らないのか？　彼は素晴らしいエンターティナーだよ。

――あの、俳優や女優さんの知り合いを聞いてるんですけど……。

シン　だったら、サユリ・ヨシナガ（吉永小百合）だ！　彼女はたいへん美しい。俺様はサユリさんをとても尊敬しているんだよ。

――そういえば、ミスター・シンは吉永さんが主演された映画『千年の恋』の試写会で、吉永さんに花束を贈呈してましたね。

シン　いい映画だったな、あれは。サユリさんの素晴らしい演技に、俺様の涙腺は緩みっぱなしだった。あの試写会が発端で、彼女とのロマンスが日本の新聞に書きたてられたんだよな。

――そんなことがあったような、なかったような……。とにかく、シンさんはサユリストなんですね。

シン　大好きだ！　サユリさんは、俺様のプライベートビーチに遊びに来たこともあるんだぞ。

――え？　それはホントですか!?

シン　抱くな抱くな、ジェラシーを！　それは事実であり真実なんだよ。加えて、俺様がモテることもまたもや事実！

――失恋されたことはないんですか？

シン　生まれてこの方、失恋したことはいまだない。そしてジェット・シンは満天の夜空を見ながらこうつぶやく。「星の数ほど、レディを泣かしたことはある」とな……。カッ！

――さすがはスーパースターだけありますね（笑）。

シン　そんなスーパースターは、すでに4冊も本を出している。世界で成功したインド人を紹介する本では表紙にもなっているんだ。

――それは知りませんでした！

シン　いいか、心を静めるんだ。さらなる驚きが貴様を襲う！　俺様タイガージェット・シンの映画も製作予定。俺様の子供のころから現在に至るまでの道程を、俺様の主演でダイナミックにお送りする。

――その映画は一般公開されるんですか？

シン　公開されない映画なんかあるもんか！　日本では2年後に公開予定だよ。つまり、俺様のプロフィール欄には「ムービースター」と書き加えられることになる。そんな偉大な俺様だからこそ、ぜひとも表紙にすべきなんだ！　イノ～キ、ジェット・シ～ン、イノ～キ、ジェット・シ～ン!!　このローテンションなら、貴様のマガジンの売り上げは安定するだろう。

――巨人の中継ぎ陣よりは頼もしそうですねえ。猪木さんの表紙がOKなのは、どういう理由からなんでしょうか？

シン　イノ～キは俺様のベストライバルで、日本で一番強いからだ！　ババ（ジャイアント馬場）、ツル～タ（ジャンボ鶴田）、ムタ（武藤敬司）たちもたしかに強かったが、イノ～キはセメントも強いだろ？　パキスタンでアクラム・ペールワンの腕をボキッ！　と折りやがった。あれにはさすがの俺様も背筋が凍ったよ。

――ミスター・シンもセメントマッチをやったことはあるんですか？

シン　それは愚問だな。シュートマッチなぞは年がら年中やったった！

――とにかくやりましたか！　具体的にはどの試合ですか？

シン　あれは9歳のとき……クラスメイトをブン殴ったのが最初だな。

――ワハハハ！　そこから狂乱の人生の幕が開いたんですね（笑）。

シン　おい、勘違いするなよ。俺様はリングの中でも外でも、すべて命懸けの闘いをしてるんだ。すべてシュート！　リングで気を抜いたらボコボコにされるが、ビジネスで気を抜いたらボロをまとわなければならない。俺様を「ヒール」と評する輩が大勢いるが、それは違うんだ。俺様は気が済むまで暴れたいだけ。いつだって、やるか、やられるか、だ！　そしてここだけのスクープ。俺様は11月にインドでシュートファイトに挑む予定がある！

――60歳にしてシュートファイト！

シン　ダン・スバーンと闘う予定である。観客は6万人、いや、10万人の動員は可能だろうな。それは俺様の名前、実力があればこそ！　ハッ！

――10万人!!　それはきっとプロレスの世界新記録ですよ！

シン　20万の瞳を何を凝視する？　1人の男に視線は注がれる…… 俺様に、だ！　ところが、タイガー・ジェット・シンはこうも続ける。「10万人？　ガハハハハ！　シン様が半殺しにした人間の半分にも満たんわ！」……

見てみぃ、これが健介ですらビビッてたじろぐことは必至のタイガー御殿だ!!　この豪邸の他に、広大な敷地内にはハンティング場やゴルフ場もあるといわれる。握手をしてるのはＷＷＥでも活躍した息子のアリ氏。

…わかるか？　フフン。

――は、はい。

シン　話を続けよう、20万の瞳とともに！　同じくインドで合同結婚式のイベントが催されるが、その日に1111組の新郎新婦が祝福を受ける。そのイベントのスペシャルゲストとして俺様は呼ばれている。観衆は60万人!!　ウガーッ!!

――ろ、60万人!!　見当も付きません。

シン　ゲストのスポーツマンで呼ばれているのは、モハメド・アリ、ハルク・ホーガン、アントニオ・イノ～キ……。

――うわ～～！　世界的なイベントなんですね！

シン　……たちは呼ばれていない。

――は？　呼ばれてない（笑）。

シン　なぜ呼ばれない？　いや、ここで断言するのはよしておこう。ただ、ひとつだけ言えることは、スポーツマンで呼ばれているのは俺様のみ。理由はスーパースターだからに他ならない。俺様は他のプロレスラーと違って、ビジネスの分野でも大成功を収めているからな。

――巨大な富は不動産業で築いたそうですね。

シン　ホテルも数多く経営もしているし、近々、五つ星のホテルをオープンする予定なんだよ。

――そんな大富豪なら悠々自適の生活を送れるのに、いまだにリングに上がり続ける理由を教えてください。

シン　俺様は突っ走るだけだよ、理由もなく。いや、闘い続けることが宿命なのか？　あえて述べるとすれば……。

――あえて述べるとすれば？

シン　趣味だな、プロレスは（キッパリ）。

――プロレスは趣味（笑）。

シン　俺様はいつだってリングに上がり、対戦相手を血祭りにあげたい衝動に駆られる。言わばプロレス症候群、まさに血に飢えた狂虎！　おい、気をつけろ。この部屋には血に飢えた虎がいる……ぞ！

――は、はい。

シン　どうして血に飢えるのか、その秘密を教えてあげよう。俺様は、虎の肉をシンガポールより取り寄せて、それをワインに混ぜて飲んでいるんだ。

――たしか試合前にはマムシ酒も飲んでるんですよね。

シン　うむ。そんな狂虎も一旦リングを降りれば、身だしなみを気にするひとりの紳士に変貌する。お嬢さん、御機嫌いかがかな？　レディー・ファーストを心掛け、世界中の恵まれない子供たち、赤十字に莫大な寄付をし続けている。ヘイッ、俺様は世界平和を心から願う、ひとりの人間なんだよ。

――ミスター・シンはボランティア活動にも熱心なんですよね。

シン　ネルソン・マンデラが指揮するドラッグ撲滅グループが存在するが、俺様も及ばずながら手助けしているよ。子供たちがドラッグに手を出すことは、それは許し難い問題だからな。

――政治的な活動もなさってるわけですか？

シン　政治の世界は汚いから、俺様は絶対に足を踏み入れない。カナダでは「ぜひ政治家に！」と再三頼まれているが、断固として断った。なぜならば、イノ～キは見ればそれはわかる。彼ぐらいの偉大な人間でも、政治の世界に身を委ねれば、醜いスキャンダルに巻き込まれた。俺様はマネーのスキャンダルで汚れたくはない。たしかに政治家になればマネーには恵まれるだろうが、人生はマネーだけが絶対ではない。俺様は信用が一番、大事だと思っている。いまの言葉は大切だ。さぁ繰り返せ～！

――マネーが絶対ではない。信用が大事。

シン　もう一度、大きな声で。ただし、俺の中に棲んでる虎が目覚めないように!!　（大・絶・叫）。

――マネーが絶対ではない。信用が大事！

シン　ハッ！　話を戻そう。俺様は国際情勢や、世界が抱えてる問題に大きな関心があるし、ぜひ力になりたいと思っている。それは政治家にならずとも力は尽くせるんだよ。

――ミスター・シンは現在の世界情勢についてはどう思われますか？　とくにイラク問題ですが。

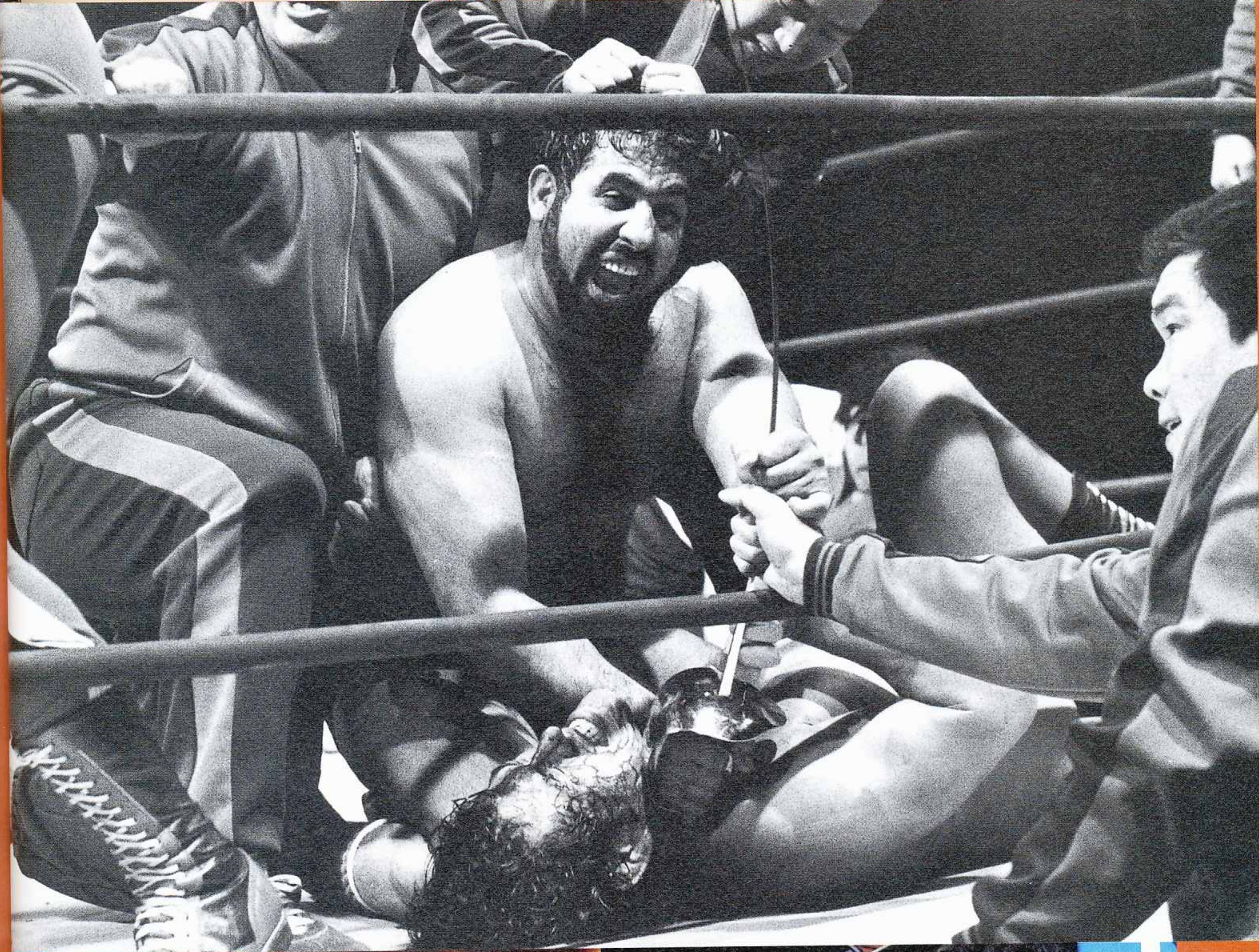
シン　とても悲しい事態が起こっている。俺様から言わせれば、アメリカはオイルがほしいだけ。そんなふざけた理由のために、無実の人たちが死んでいくのは非常に嘆かわしい。俺様は、戦争は嫌いだ。日本には2発の原爆が落とされて、たいへんな被害を被った過去があるが、そんな悲惨な歴史を繰り返してはいけないと心から願っているよ。

――中東政策に関しては、日本はアメリカに追従していますが。

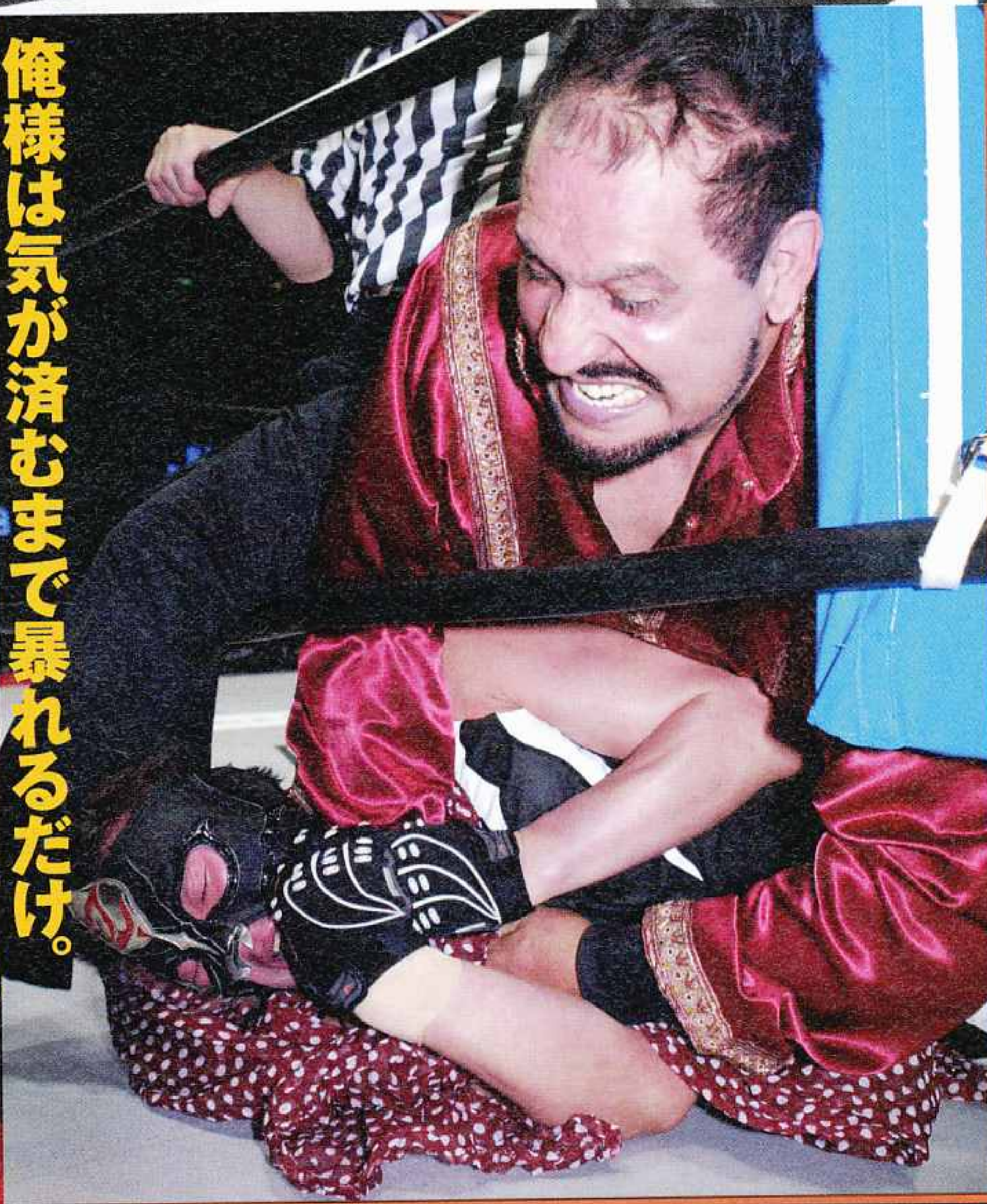
シン　まずハッキリさせたいことは、俺様は日本が大好きということだ。仏陀の教えも息づいているし、美しい国、美しい人たちばかり。ただし、国際政治においては信念に基づいた選択がなされていない。ビジネス的な問題があるから、アメリカのあと

7月4日は神戸ワールド記念ホールに大集合!

聞き手／ささきぃ

神戸大会営業本部長ドン・フジイが大いに語る!!

俺様は気が済むまで暴れるだけ。
いつだって、やるか、やられるか、だ!

お
俺
変

インドの狂虎

を追っているんだろう。それに昔の日本はこれほどアメリカナイズされてなかった。いまの日本はアメリカに毒された印象を受ける。それは日本人がいけないと言ってるわけではないぞ。時代の流れに染まっていることに同情しているんだよ。

――ミスター・シンからすると、古き良き日本が壊されてると感じるわけですね。日本のプロレス界も変わりましたか？

シン 大きく変わったな。リキドーザンはセメントスタイル、イノ～キもセメントスタイルだったが、いまはアメリカンスタイルになってしまった。それにいまはカンパニーが多すぎる。それも大きな問題のひとつだ。

――ミスター・シンの財力で、日本のプロレス界を統一することはできないでしょうか？

シン 問題はマネーだけじゃないので、俺様の力を持ってしても、統一することはなかなか難しいだろう。それに俺様はインドでプロモーションを持っているから、わざわざ日本で立ち上げる必要もないんだよ。

――インドにはミスター・シンの団体があるんですか？

シン イエス！ ダン・スバーンとのファイトもそのリングで行われるんだよ。俺様のプロモーションは、全試合シュートファイトだからな！

――それは凄い（笑）。その団体名を教えてください。

シン それは言えないな。なぜだ？

タイガーはこう続ける。「いまはそのときでない」と。

――そ、そうですか。インドではプロレス熱はあるんですか？

シン （突然）ヘイッ、コーラといえば、何だ？

――は……？ ペ、ペプシ？

シン （まったく無視して）日本人は誰も取材に来ないから、日本のファンには何も伝えられてないと思うが、インドでもプロレスは盛んなんだよ。

――す、すいません、ミスター・シン。先ほどの「コーラ」の質問には、どういう意図があったんでしょうか……。

シン まだわからんか！ そのイベントのスポンサーにペプシが付いているということだよ。

――やっと意味がわかりました。

シン 俺様のイベントは計8回のショーを行ったがすべてフルハウス。毎回5万人の観衆が「タイガー！」コールで送ってくれたんだ。

IWA浅野社長、ゴージャス松野氏と『妖怪人間ベム』を熱唱したかと思えば、女優の吉永小百合さんとツーショットにおさまる振り幅の広さを持つシンは、元・南アメリカ大統領のネルソン・マンデラ氏とも親交がある。

――毎回5万人！ 人気は健在なんですねえ。ところで今回の来日は、明日行われる『ハッスル3』に参戦するためとの噂もあがってますが、対戦カードにはミスター・シンの名前が載ってないですよね。もしや……。

シン フフフ。俺様から言えることは、明日サプライズが起きる。それ以上は何も口にはできない……ハッ！

――ちなみに、『ハッスル』というプロモーションに対して、どういう認識があるんですか？

シン 『ハッスル』のことはよ～く知っているぞ。主催は『PRIDE』と同じ。つまり、『ハッスル』もシュートファイトのプロモーション（キッパリ）。

――いや、まったく違うんですけど……。

シン 三流マガジンライターよ、よ～く聞け。俺様が闘えば、すべてがシュートファイトになるんだよ。俺様がひとたび牙を剥けば、思想も哲学もすべて吹き飛ぶ。対戦相手が誰だろうと、リングがどこであろうと、ハデに暴れることに変わりはない。ハタリ・ハタマタッ!!

――相手を血祭りあげることに変わりはないんですね。

シン 毎日のトレーニングも欠かしていない。毎日朝5時に起きて、広大な敷地内をロードワーク。それが終われば、息子のタイガー・アリとスパーリングをする日々だよ。

――息子のアリさんはWWEでも活躍されてましたね。

シン アリは不動産のビジネスに精を出しながら、いまだに闘うことは忘れてはいない。俺様には他にも息子が2人いるんだが、3人とも優秀なビジネスマンなんだよ。つまり俺様の血を受け継いでるわけだ。

――息子さんには、小さいころから英才教育を施されていたんですか？

シン 生まれたときから、俺様のすべてを注入してきたが、一度たりとも殴ったことはない。俺様は会話だけで、俺様が発する言葉だけで、人生のあり方を教えてきたんだ。

――日本では最近、家庭が崩壊するケースが多いのですが、ミスター・シンからアドバイスできることはありますか？

シン 両親に言いたい。あなた方の時間をすべて子供に費やしてくれ。一緒に過ごして、あなた方が人生で経験したことを伝えてあげてくれ。そうすれば、子供たちはドラッグに手を出さなくなるだろう。時間を惜しまず子供に接することが大事なんだよ。

――ミスター・シンの息子さんたちは立派に働いていますし、いまではご自身に時間を費やしてるんですか？

シン 先ほども述べたように、俺の趣味は闘うこと、相手を血祭りにあげることだが、スーパーカーでブッ飛ばすことも楽しみである。俺様はスピードキングだからな。誰であろうと俺様の前を走ることは許さんのだよ。

――車といえば、馳さんの車を壊したことがありますよね。

シン ハセ？ アイツはかつて、カナダの豪邸に来たこともあったな。俺様がハンティングを楽しんでいるところを邪魔しやがった。だから、ショットガンで殴って池に落としたんだ!!

――馳さんを真冬の池に突き落としたんですよね（笑）。

シン アレは犯罪ではないぞ。ハセは俺様の所有地に勝手に侵入したから、やっつけてやったんだ。しかし心優しき俺様は、凍傷になりかけたハセを、せめてもの慈悲として救急病院に送り届けてあげた。

――ミスター・シンの襲撃といえば、猪木夫妻・伊勢丹前事件に尽きるわけですが。

シン あ～れはイノ～キの奥さん（元・夫人、倍賞美津子）が悪い!! あの女は俺様の伝統衣装をバカにした。だ～から、平手でピシャリと張ってやったんだ。ピシャリとな。フフン。

――美津子さんがあまりに美人だから、シンさんが興奮して暴れたって噂も流れてますけど（笑）。

シン キレイだからどうした？ 俺様の奥さんのほうが百倍、美人。いいか、俺様はすべて女性を尊敬しているが、この伝統衣装をバカにするヤツは決して許さんぞ!! あのときは13人の警官が俺様を捕まえにきた

7月4日は神戸ワールド記念ホールに大集合!

聞き手／ささきぃ

神戸大会営業本部長ドン・フジイが大いに語る!!

最低
しま

インドの狂虎

俺様の目から何を感じたい?
何を見たいんだ!
狂気なのか……?

1944年インド生まれ。新宿伊勢丹前・猪木夫妻襲撃事件で名を挙げ、史上最凶のヒールとして各団体を渡り歩いた。現在は不動産やホテル経営を手掛けながら、リングに上がり続ける。11月にはインドでバーリ・トゥードに挑む60歳!!

が、警察署でちゃ〜んと事情を話したから、警察もちゃ〜んとわかってくれた。それで正当防衛として扱ってくれたんだよ。

——正当防衛ですか（笑）。シンさんは他にも暴れてますよね。ヤ●ザとも喧嘩したり。

シン ●●●●●!!

——ワハハハ! その具体名は載せられません（笑）。

シン あるときなんか、身体に入墨を入れた男が控室に入ってきたから、俺様がボコボコにしたやった。そうしたら、俺様に復讐すべく100人のヤ●ザが控室に雪崩れ込んできたんだ!

——出た、100人のヤ●ザvs狂虎! そのエピソード、大好きなんですよ（笑）。

シン 笑いごとじゃな〜い! ヤ●ザに「殺す!」とまで凄まれたが、俺様は一歩も引き下がらなかったら、ヤ●ザは俺様をこう褒め称えた。「シンは侍だ!」と。ハッ! 俺様は死ぬのは怖くない。人間はいつかみんな死ぬ。俺様はそんな尊厳を持って生きている。その姿勢を認めてくれたんだろうな。

——ミスター・シンがよく言われる「ダイ・ウィズ・ガッツ」の精神ですよね。

シン そう、ダイ・ウィズ・ガッツ! 誰もが死ぬときはくるが、死を怖がらないで何事にも立ち向かえば、他の人は思い出してくれるもんだ。臆病に死ぬな、勇気を持って死ね、前のめりに、な! ダイ・ウィズ・ガッツ!!

——よ〜くわかりました! 今日は長々とありがとうございました!

【04年5月7日／都内某所にて収録】

おい、知ってるか？俺たちがプロレスを変えたんだぜ

THE OUTSIDERS

Kevin Nash　Scott Hall

SPECIAL INTERVIEW

聞き手／坂井ノブ
撮影／乾晋也
designed by matsu（Two Three）

5月8日の『ハッスル3』で髙田モンスター軍の一員としてOH砲と闘ったジ・アウトサイダーズを抜きに、90年代のアメリカン・プロレスを語ることは出来ない。彼らはその徹底したゴーイング・マイウェイ精神で時代に風穴を開けた偉大なる先駆者なのだ。

ジ・アウトサイダーズといえば、90年代のアメリカンプロレスを席巻した名タッグ・チームであると同時に、バックステージでは良くも悪くもトラブルを起こし続けた問題児でもある。スコット・ホールはアルコールでの問題を抱え、ケビン・ナッシュはフロントとの衝突が絶えなかった。WWF（当時）で一世を風靡し、HBKやトリプルHらと「kliq」というユニットを組んで大暴れ、96年にWCWへ移籍してからはハルク・ホーガンと「nWo」を結成して世界的な人気を誇った。2002年にはWWEに復帰したものの、大きな注目を浴びることなく、現在では2人とも表舞台からは遠ざかっている。5月8日「ハッスル3」で久々に日本のファンの前に姿を現したアウトサイダーズに本誌は独占インタビューを敢行!! プロレス界で最もルーディーな男たち、ジ・アウトサイダーズの魅力を堪能せよ!

●

——今日はよろしくお願いします。

ナッシュ よろしくたのむ。

ホール Hey, yo!（ドカッとテーブルに足を乗せる）。

——い、いきなりカッコいい……。日本にいらっしゃるのは随分久しぶりだと思うんですが。

ナッシュ 俺が最後に来たのは……確か、97年だったと思う。

ホール 俺は2年ぐらい前にチョーノのところ（新日本プロレス）に来たから、そんなに久しぶりじゃねえな。チョーノは元気でやってるのか？ ヤツはグッド・フレンドだよ。

——ええ、現場監督もやめて元気にやってるみたいですよ。

ホール そりゃ良かった。

——でも、僕らにしてみると伝説のアウトサイダーが日本で見られることの方がよっぽど素晴らしいことなんですけどね。

ホール なぜだ？ 嬉しいのか？（笑）。

——もちろんです！

ホール 今回は俺たちのグッド・フレンド、ゴールドバーグがケガをしてしまったのがキッカケで、また日本に来ることが出来た。しかも、ナッシュはWWEとの契約が1月に終わったから、今や俺たちをしばる契約上の問題は何もない。二人とも日本がすごく好きだから、チャンスがあったらいつでも日本に来たいと思ってたんだぜ。

ナッシュ すでに俺たちは二人とも、プロレスではサクセスフルなキャリアを積んでるから、もう自分たちの闘いたい相手としかレスリングをしない。今回、日本にこうして来られたのはいい機会だし、いい試合がしたいと思ったからなんだ。

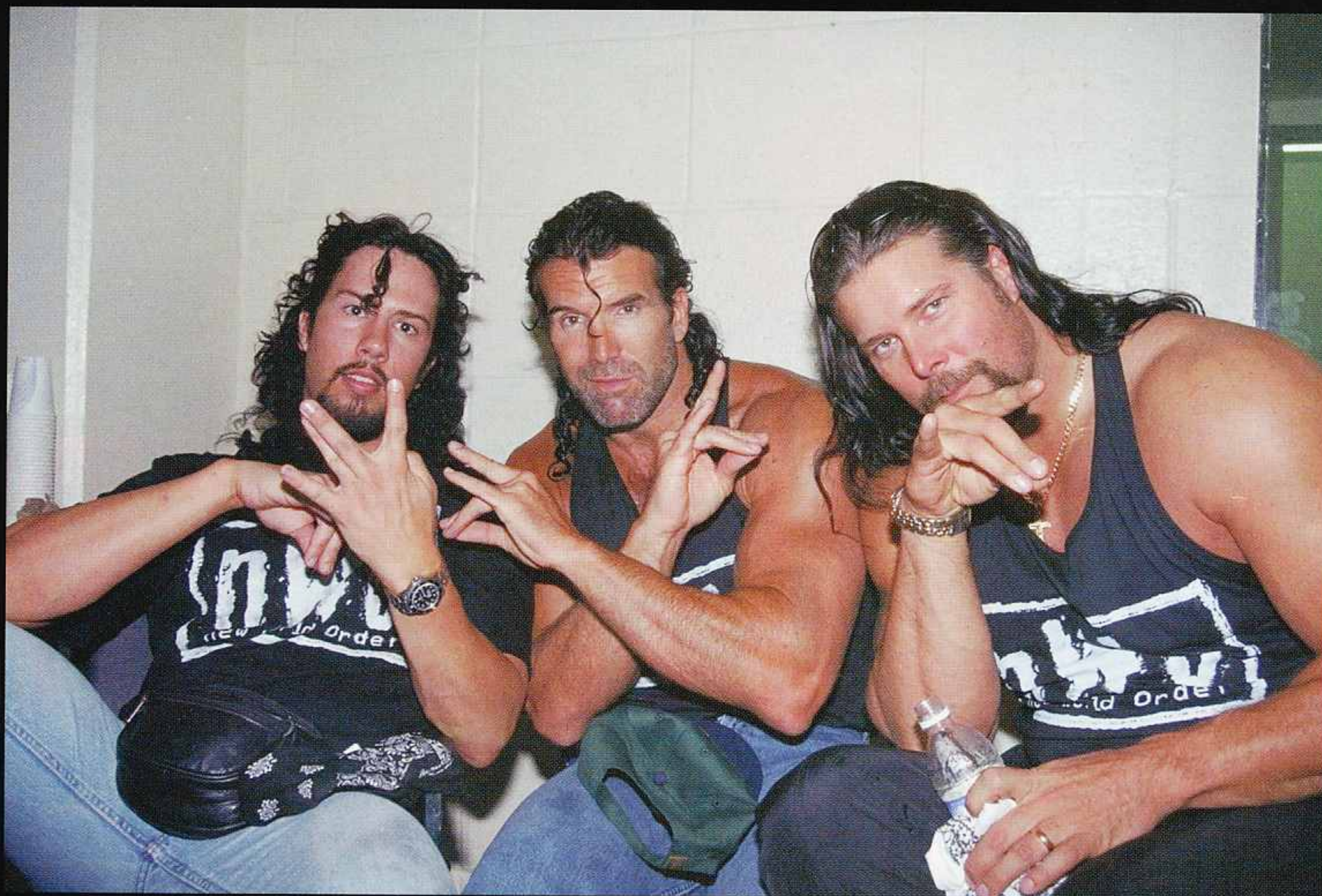
——最近はあまり試合に出ていないようですね。

ナッシュ 大きな試合といえば、去年の『サマースラム』でのエリミネーション・チェンバー戦が最後だな。ゴールドバーグやランディ・オートンと闘ったよ。

ホール 俺は一昨年の『レッスルマニア』でスティーブ・オースチンと闘ったけど、それ以来大きな試合はしてない。だいたい家でジッとしてるよ。

ナッシュ じつは『レッスルマニア』で使うリングを所有してるやつが友達だから、そこで遊び感覚でやってるけどな（笑）。その程度だよ。

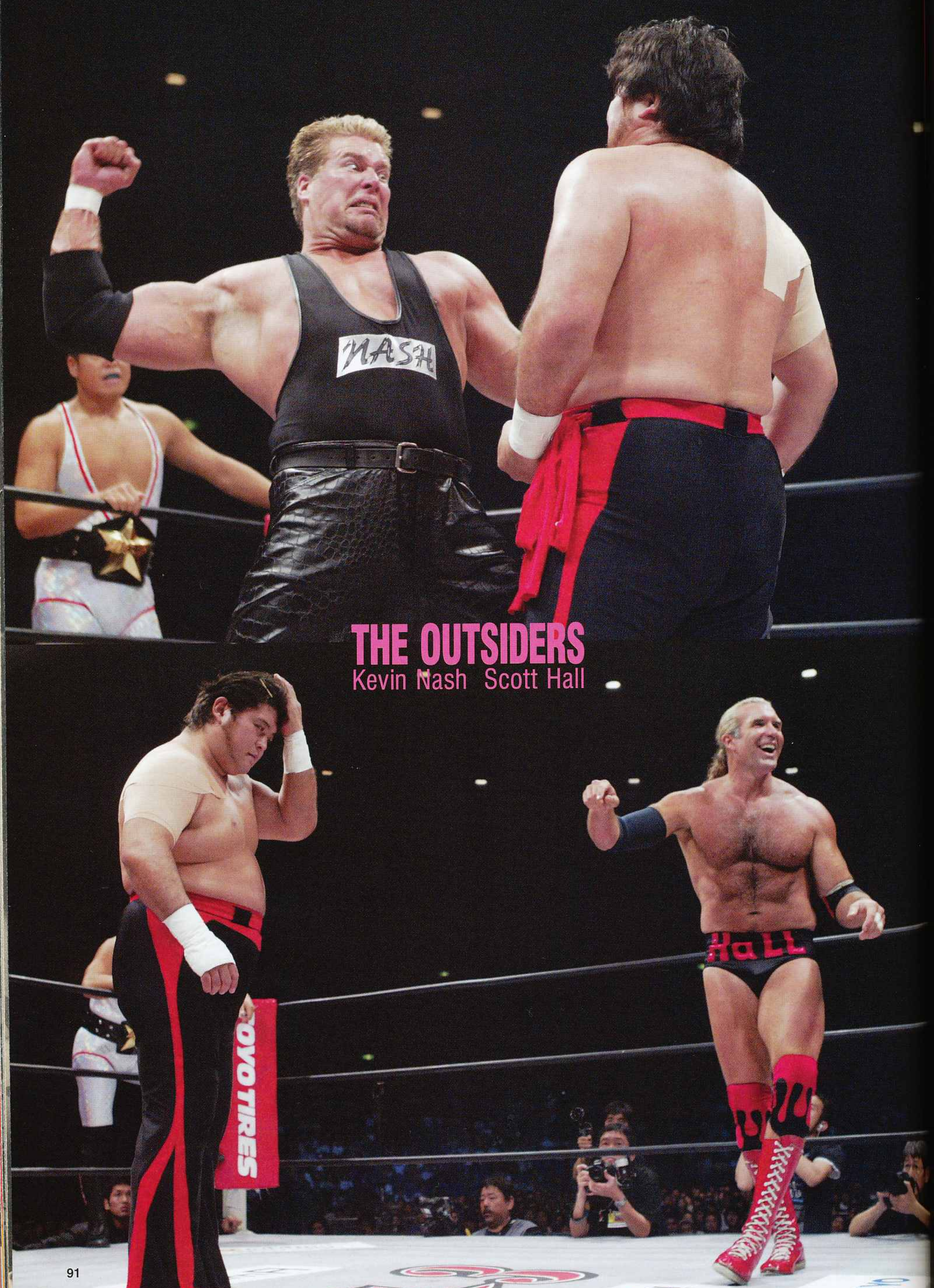
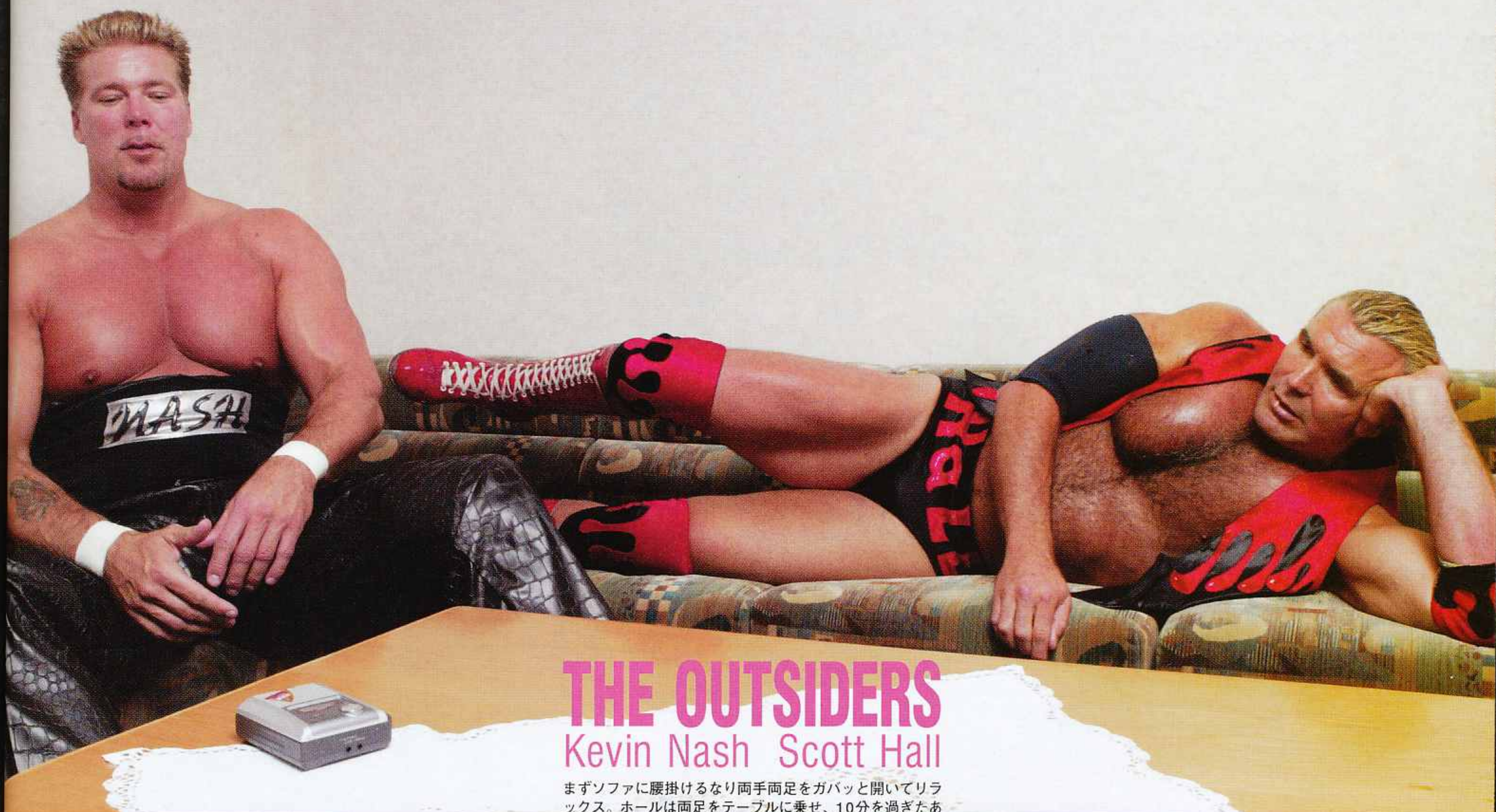
——今は表舞台から遠ざかっているとはいえ、アウトサイダーズといえば、90年代にWCWとWWEで暴れまくって、プロレス界の秩序と価値観を徹底的に壊してきま

そもそも爆発的な人気を得たnWoは、WWEからWCWに移籍したジ・アウトサイダーズ（ナッシュ&ホール）が母体である（左はシックス）。登場以来、WCW幹部のエリック・ビショフにケンカを売りまくり、そこにホーガンが合流してnWoが結成された。洗練されたセリフ回し、スプレー等の小道具を使った斬新なヒール像など、挙げだしたらキリがないほどアメリカン・プロレスの概念をぶち壊してきたのだ。

俺たちはすでにサクセスフルなキャリアを積んできたから闘いたい相手としか闘わない

THE OUTSIDERS

Kevin Nash　Scott Hall

ホール　そりゃ良かった。

界の秩序と価値観を徹底的に壊してきま

THE OUTSIDERS

Kevin Nash　Scott Hall

まずソファに腰掛けるなり両手両足をガバッと開いてリラックス。ホールは両足をテーブルに乗せ、10分を過ぎたあたりで次第に飽きてくるとソファに寝そべり始めた。どこまでもナメ切った態度ゆえ、ヒールながらもWCWでもWWEでも人気は絶大！（新日本では人気がなかったが）WWF（当時）時代はショーン・マイケルズと共にブレット・ハートをいじめまくっていたという噂も。「悪い大人」の見本のような人たちでした。いい人たちなんだけどね。

した。

ホール　もちろんだ。オレたちがプロレス界の全てを変えてきたんだぜ！

ナッシュ　たとえば、それまではプロモーター側が全ての権力を握っていた。そいつらに毎日レスラーはこき使われてたんだ。お金もあまりもらえなくて、厳しい生活をしなければいけなかった。だが、俺たちは自分たちの手で、レスラーの方にパワーが回るように変えてきたんだ。

――それが、そもそものｎＷｏの理念でしたよね？

ホール　（楊枝をくわえながら）そうだ。それに昔のプロレス界は怒鳴り合うようなスタイルばかりだったんだが、それも変えてやった。もっと会話調のスタイルにな。都会的に笑い合うようなスタイルに変えたんだ。言ってる意味、分かるか？

――もちろんです。つまり、自分がいかに強いかをがなるよりも相手を小馬鹿にしたような気の利いたセリフを言ったりするわけですよね？

ナッシュ　イエス。それに、俺たちはずっとタッグを組んでるがホントに仲がいい。15年間、いい友達関係で、それをアメリカのファンもよく分かってくれているんだ。オガワとハシモトもタッグは長いこと組んでるんだろうが、食事や映画や遊びまでは一緒にやってないだろ？

――そういう場面は見たいですけどね（笑）。

ナッシュ　でも、実際にはやってない。だろ？その点、俺たちはいつも一緒だ。それにオレたちはプロレスを楽しんでいるからな。それによっていいショーが作れるんだよ。

――徹底して肩に力が入ってない感じですもんね（笑）。ところで、お二人は最近の日本のプロレスって、ご覧になってますか？

ホール　（ソファにゴロ寝しながら）そんなに見てないなぁ。15年くらい前の試合なら観たことあるけどな。

――そんなに昔ですか（笑）。アメリカでｎＷｏが出来てから、プロレスの規模は何倍にも大きくなりましたよね？　でも、90年代後半の日本のプロレス界はｎＷｏ人気をピークに縮小が続いてて、いまでは普通のプロレスよりも総合格闘技やＷＷＥが人気なんですよ。ズバリ言って、アメリカより10年ぐらいは遅れてると思うんですけど……。

ホール　ふ～ん。アメリカでもビジネスという点では縮小気味だけどな。まあ、物事というものは、流行るときには突然流行るものなんだよ。だから、こうして日本に俺たちが来て、大きなケミストリー（化学反応）がもたらされるかもしれない。どんなつまらない映画でも、何かのキッカケで突然流行ることもあるんだから。

ナッシュ　日本のプロレスがアメリカより10年も遅れてるというわけではないだろう。ただアイディアがよくないんじゃないか？アメリカの場合はｎＷｏやストーンコールドvsビンス・マクマホンという強烈なアングルがあった。このアングルによってビジネスのスケールがもの凄く大きくなったんだ。日本には、ビジネスを拡大するような決定的なアングルがまだないんだと思う。まずは、そういうアングル探しから始めるべきだね。

ホール　賛成だな。

――そのケミストリーはどうやれば発生するんですか？

ナッシュ　まあ、レスリングというのは、対戦相手がいないといい仕事はできない。世界一の素晴らしいプロレスラーが、ひとりいたとしても、その能力を見せつけるた

ビジネスを拡大するような決定的なアングルをまず日本のプロレス界は探すべきだろうね

めには、同じぐらい素晴らしいプロレスラーとマッチメイクしなければいけないものなんだ。その結果、ケミストリーが起きて、素晴らしいショーになるというわけだ。

――お二人とも数々のケミストリーを体現してきましたよね。ちなみに、僕が一番衝撃を受けたのは、スコット選手がプロモーターから解雇されたときに、ナッシュ選手がリング上で「解雇処分は間違ってる」とフロント批判するシーンなんですけど（笑）。

ナッシュ　ああ、あれか。その次にスコットの等身大のパネルを持ってきて、テレビで話し掛けたシーンを見たことあるか？

――はい。

ナッシュ　そのパネルをプロモーターは「使わないでくれ」って言ってきた。でも、俺は「やめろ」と言われても、言うことを聞かない。リングに立てたスコットのパネルを「ベストフレンドのスコットだ」って観客に紹介して、色んなことをライブで話し掛けた（笑）。

――プロモーターにしてみたら扱いづらい選手ですよねぇ（笑）。

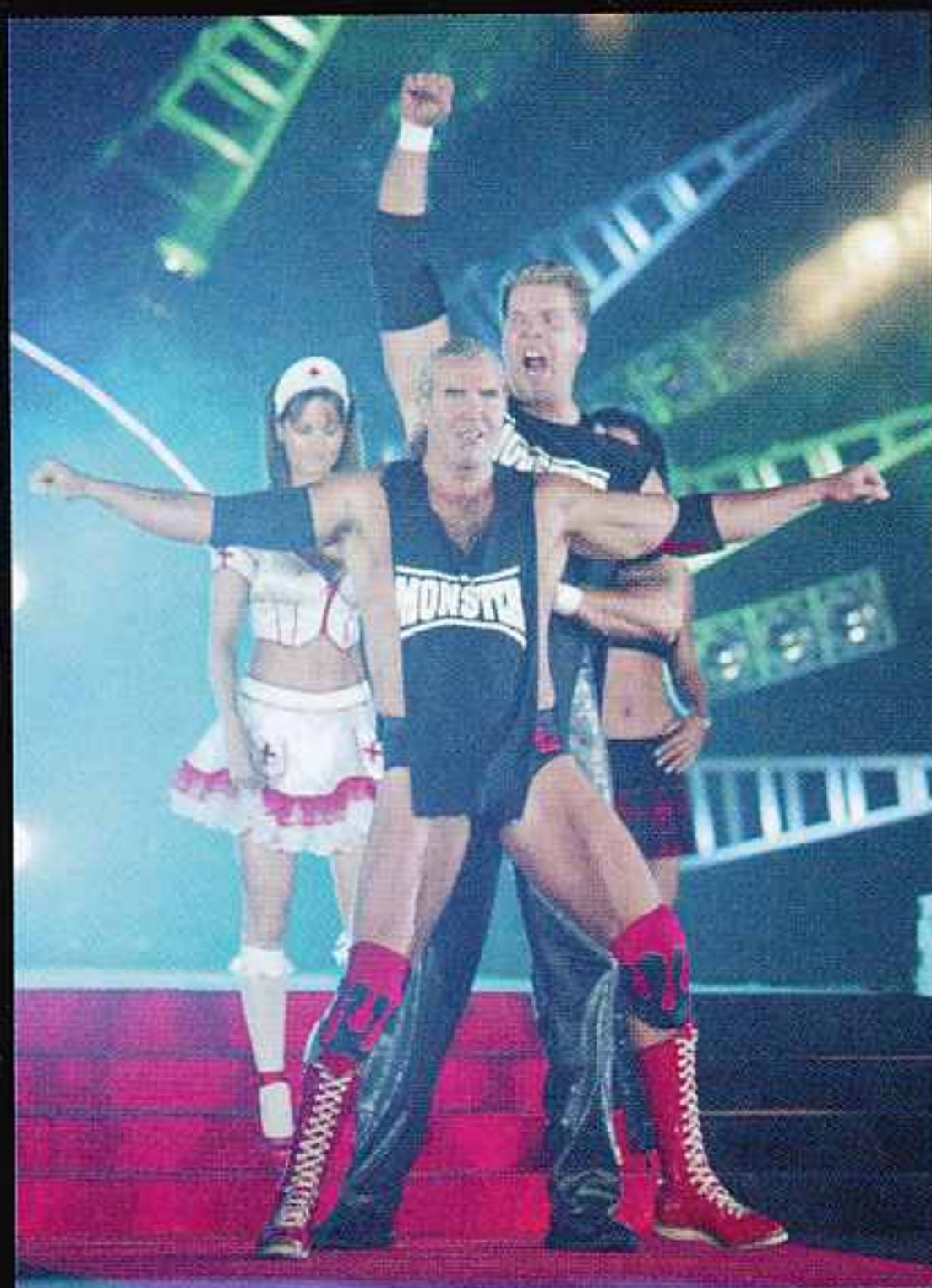
ナッシュ　そうだとしてもファンはそれを望んでたわけだし、ホントにオレたちが仲が良いということをファンも知ってる。誰も俺が解雇に納得してるとは思っちゃいない。

――そういうファンの期待にも応えなくちゃいけないわけですね。

ナッシュ　イエス。それに、俺たちはホントに仲がいい（笑）。タッグを組ませて「こいつらはチームだ」っていうのは簡単なんだよ。だが、本当の友達だと、そういうわけにはいかないんだ。

ホール　俺たちはいつも「トラブルメーカー」って言われてたけど、別の角度から見ると、収益をもたらす二人でもあったんだ。だからプロモーターにしてみれば頭を抱えるような存在だったかもしれないけど、オレたちのお陰で満員御礼ということがよくあった。だから「コレをやるな」って言われてもオレたちはやる。「困ったな。でもファンが喜ぶから、まあいいか」という結論だったんだろうな。

ナッシュ　俺たちはホントに強い男だ！　だから俺たちに「アレをやれ。コレをやるな」って命令なんかするんじゃねえ。頼んでこない限り、引き受けることはできないぜ。

――そこまで強気でプロレス界を生き抜いてこられた秘訣って何なんですか？

じ・あうとさいだーず■1965年7月9日ジョージア州アトランタ出身のナッシュと1959年10月20日フロリダ州タンパ出身のホールのタッグチーム。ともに93年にWWF（当時）入り。96年にWCWへ移籍、この頃からアウトサイダーズと呼ばれ始める。nWoで一世を風靡するも、解散。しかし、2002年にはホーガンと共にnWoを再結成してWWEに乗りこんだが長続きはせず。現在はアメリカのインディ団体にごくたまに登場する程度だ。

ホール　オレたちのキャリアは非常に貧しいところから始まったんだ。そもそも、子供の頃からトラブル続きの毎日だった。だが、俺たちには誰よりもプロレスラーとして成功したいっていう強い気持ちがあったんだ。だから一生懸命働いたし、成功を夢見て、倒れても起き上がってきたのさ。だから夢を達成した今でも、二人の絆は深いんだ。

――お二人に比べると、どうしても他のプロレスラーはサラリーマン化してるように見えてしまうんですけど、アウトサイダーズから見た最近のプロレスラー見てどうですか？

ホール　最近のプロレスラー？　わからねえなぁ。

ナッシュ　俺は、自分がプロレスを楽しめなければ、辞めるつもりだ。自分たちが声を出して笑えるような状況じゃなきゃ、もうプロレスはしたくない。マネーはもう十分にあるからな。これまでの歴史を見てきても、ピカソとかモネとか、彼らからフリーダムを取り上げたなら、あれだけのクリエイティビティは生まれなかったと思う。だからレスラーも箱の中に入れて「コレをやっちゃいけない。こうしなさい」って、がんじがらめにしたら、面白いものは生まれない。自分たちはリアルなプロレスラーだし、能力は持ってるから、自由にさせたときに一番発揮するんだ。

――わかりました。では、そろそろ時間もないので、最後に日本のファンにメッセージをお願いします！

ナッシュ　俺たちが、最後のクールなプロレスラーであり、最後のアウトローだ！

ホール　すべて、俺たちのやり方でやらせてもらうぜ。

【2004年5月7日、横浜アリーナにて収録】

インタビュー後記■かねてから噂は聞いていたが、彼らはまぎれもないアウトローだった。自らをピカソやモネにたとえる不遜さ、インタビュー中にゴロ寝するズ太い神経、お互いに笑いあい時には鋭い指摘をする頭脳……。すべてが「かっこいい」という言葉に集約されてしまう。特に興味深かったのは「日本のプロレスはビジネスを拡大する決定的なアングルがまだない」という点。たしかに、アメリカのプロレスが爆発的に拡大するキッカケになったのは、nWoやストーンコールドvsビンスといった世界的な規模のアングルだ。このような起爆剤は、まだ日本のプロレス界には存在しない。アンタッチャブルな絶対的ベビーフェイスであるはずのビンス・マクマホンやハルク・ホーガンが、ヒールとしてリングに立ったとき、アメリカのプロレス界は歴史が動いた。その存在にもっとも近いのは、ひょっとしたら、髙田総統なのかもしれない。

ネタバレ通信 Vol.15

毎度おなじみ裏ネタ密売座談会の来日記念3Pバージョン!!

7月中旬まで王座移動なし!?

何時男　遂にWWE『SMACKDOWN!』日本ツアーのカードが決まりましたね！　なんと、驚くべきことにエディ・ゲレロの名前の横には「WWE Champion」って入ってるし、ジョン・シナの名前の横にも「US Champion」って入ってたんですけど……。

叙似位　ようするに7月中旬までは現状のままで、王座の移動はないってことですね（笑）。

何時男　いきなり2ヶ月先のネタバレまでやっちゃうWWEって、ホント凄いなと思いましたよ。

派乱暴　さすがに2日目のカードには、そのへんのことは入ってなかったですけど、1日目でタイトルマッチを組むつもりでしょうからね。

叙似位　2日目まで入ってたら、えらいことになっちゃいますよ（笑）。WWEもそこまで野暮じゃないってことですよ。ハウスショーでベルトの移動はないという定説が、日本で覆るかもしれないですからね！

派乱暴　そのツアーは、「Return of the DEADMAN」ってタイトルなんですが、ようするにアンダーテイカーが最大の目玉みたいですよ。

何時男　……意外な切り口できたなぁって印象ですけど（笑）。

叙似位　去年の『SMACKDOWN!』は親族の不幸があって来られなかったんですよね。でも、今年の『レッスルマニア』からは昔の墓堀人スタイルで復活してますからね。あの入場シーンは最高にシビレました。

何時男　試合になると〝アメリカン・バッドアス〟の頃と大差はないんですけどね（笑）。

叙似位　まあ、とにかく雰囲気を味わうって感じですよね。入場が最高の見せ場になると思いますよ。武道館という会場にも映えると思いますし。

波乱暴　カート・アングルはGMとして来るんですね。

叙似位　カートは事実上の引退みたいですよ。もう、試合には出られないだろうと言われてます。残念ですねぇ。

何時男　あと、WWE日本ツアー恒例のブッカーT来日キャンセルですけど、今回は最初からメンバーに入ってなかったですね（笑）。これも残念ですよ。

叙似位　他にも見たい選手が入ってないですよね。スコッティ・2・ホッティとかスパイク・ダッドリーとか。

派乱暴　スコッティのW．O．R．M．はぜひナマで見たいですけど、スパイクは……まあ、いいんじゃないですか？（笑）。　僕の仕入れた情報だと、今回のツアーは2月の『RAW』の時の先行発売分と同じくらいの枚数が売れてるみたいだし。

叙似位　『RAW』の時は3大会あったけど、今回は2大会だから売れ行きは好調なんですね。

派乱暴　7月17日のチケットはほぼ売れちゃってるみたいですよ。

何時男　ただ、ちょっと気になるのは、カートがああいうことになっちゃって車椅子で登場するようになってから、『SMACKDOWN!』全体のトーンが暗くなってることなんですよね。

叙似位　でも、逆にキャラが際立ってる選手は増えてるじゃないですか。ジョン・シナのラップは冴えてるし、テイカーはポール・ベアラーと一緒に来るし。去年の『SMACKDOWN!』とは、ガラッと違う雰囲気になるんじゃないですか？

何時男　確かにジョン・ブラッドショー・レイフィールド（略してJBL）も、経済アナリストのキャラに転身してから素晴らしいですよね。

叙似位　普通に経済ニュースでコメンテーターをやってるみたいですね。それも、しゃべりが達者で好評みたいですよ。それと、酒を飲んでWWE幹部に絡みまくって解雇されたという噂だったJBLの元相棒ファルークがWWEに帰ってくるみたいですね！

何時男　えっ!?　APA（ブラッドショーとファルークの飲んだくれタッグチーム）も復活するんですか？

叙似位　どうでしょう？　さすがに経済アナリストと酒乱じゃタッグは組めないでしょうからね（笑）。日本ツアーには来てるかもしれないですよ。

派乱暴　いつものことですけど、事前に発表されたカードは試合が始まる直前まで変更の可能性がありますから。

何時男　つまり、いま話題のケンゾーだって、いきなり日本に凱旋する可能性だってあるってことですよね。

幻のリングネーム

何時男　そのケンゾー・スズキのプロモが遂に日本放送でも流れ始めましたね！

叙似位　画面いっぱいのドアップで「お前ら、まだ一番だと思ってんのか？　俺はゼッテー許さねえ！　ゼッテー許さねえからな。俺がやってやる！　サムライになる！　サムライになってやる！」って吠えまくってますね。

各1名様にプレゼント 新作DVDはどちらも今年の最重要作品だ！

今年3月の『レッスルマニア20』は、WWEがバック・トゥ・ベーシック路線に戻ったターニング・ポイントだった。一度は粉々に破壊したプロレスを再構築する作業は並大抵の作業ではないはず。だが、今年の『レッスルマニア』はそれをやっていこうという決意表明であった。世界ヘビー級選手権クリス・ベノワvsトリプルHvsHBKのトリプルスレット戦は、近年稀に見るハイレベルな試合内容。ザ・ロックも久々に試合を行い、アンダーテイカーも大復活!!　その他、見どころがテンコ盛りな本編274分、DVD特典映像は164分の超大作です。

『マンデーナイトウォー』は1995〜2001年に繰り広げられたWWEとWCWの月曜夜の視聴率合戦にまつわるドキュメンタリー業界の覇権をかけて争った両団体の壮絶な舞台裏を徹底的に検証するナイス企画だ。WWEが現在のように巨大な独占的プロレス企業となるまでの道程を改めてだどる！　また、この作品はWWEがいかにプロレスを壊していったかを検証する作品でもあるのだ。どちらも6月25日（金）に発売！

提供　ユークス

（右）『レッスルマニア20』（¥8800／本編274分、DVD特典164分）特典はスーパースターズのインタビューやドキュメントなど　（左）『マンデーナイトウォー』（¥4700／本編95分、DVD特典87分）特典にはDXのWCW侵攻まで収録！　必見！

※このページのプレゼント応募方法はP159を参照!!

日本からトライアウトを受けに渡米する選手も増えている今日この頃。スポーツ紙で

日本からトライアウトを受けに渡米する選手も増えている今日この頃。スポーツ紙でWWEを報じるところも増えてきてますねぇ。ただ、ニュースを鵜呑みにする前に、批判的にニュースに接することも、今後必要になっていくことでしょう。相次ぐ主力選手の離脱でニューカマーも続々登場する中、遂に日本大会の対戦カードも発表に。さっそくネタバレ上等な方々に向けて今月もF・B・Iが鵜呑み厳禁な裏ネタを密売します！

■F.B.I.とは「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな？（いいとも！）」の略。何時男（なんじお）はプロレス業界の末端に潜伏中、叙似位（じょにー）は桁外れのパワーで圧倒的な情報量を誇り、派乱暴（ぱらんぼ）は裏方さんとしてWWEに携わる、WWEとアメリカンプロレスを愛してやまないズッコケ3人組だ。

何時男　一時は「HIROHITO」というう、やんごとなきリングネームで登場するはずだったみたいですけど……。

叙似位　そのプロモを知った日本の放送局が「放送できるワケがない！」って抗議したらしいです。

何時男　そりゃそうでしょう！

叙似位　ビンス名義で謝罪のメールが送られてきたって噂です（笑）。

何時男　それでキャラが変更になったんですか？　さすがビンスはフットワークが軽いなぁ。

派乱暴　ケンゾーのCMで流れてた「信義を重んじる戦士」ってキャッチコピーとか「サムライになる！」って言葉を聞く限り、チョンマゲで刀とか持って登場するような気がするんですけど（笑）。

何時男　それと時を同じくして、ケンゾーの奥さんの浩子夫人もWWEと契約したみたいですね。5月1日付の『スポニチ』によると、奥さんの浩子夫人も「夫のデビュー内容についての会議で、独裁者のビンス・マクマホン（59）に盾ついた度胸が買われ、健想のマネジャーとしてデビューが内定したという。夫人の契約金は推定300万円」とのことですよ！

叙似位　それは凄い！　一説によると、いまだにトリッシュやジョン・シナですら、そんな金額はもらってないみたいですけど……。

何時男　まあ、「推定」ですからね（笑）。ちなみに、WJ時代のケンゾーの年収も300万らしいです（本誌63号参照）。夢があっていいじゃないですか！　浩子夫人本人も「っつぅか〜、『スポーツの経験は？』なんて質問をされるだけで、ちょっと困っちゃったりするレベル（悲）。だけど〝ディーバ〟で契約したの（笑）。笑っちゃうけど、だからこれこそが〝アメリカンドリーム〟ってやつなのかなって思ってる」って、6月7日付の『ぴあ』で言ってますから。これがアメリカン・ドリームなんですよ！

叙似位　個人的な感想ですけど、ケンゾーと浩子夫人にはアメリカでバリバリに活躍してからWWEの日本大会に来て欲しいですねぇ。去年のツアーでウルティモ（・ドラゴン）さんみたく、WWEで定着する前に日本に来ても応援する方も複雑ですからね。本人も、あの段階で帰国するのは、すごく嫌がってたみたいだし。

何時男　でも、『ぴあ』のインタビューによれば、浩子夫人は「そのままでいいわ。あなたヒールの才能あるわよ。あのVTR、スッゴクにくったらしくって良かったわ」ってステファニーに絶賛されたみたいですよ。メチャクチャ有望じゃないですか（笑）。

叙似位　だとしたら、いきなり日本の観客は思いっきりブーイングしてほしいですよ（笑）。腹の底から!!

派乱暴　ちょうど『SMACKDOWN！』ではカートとか、JBLとか、「アメリカ万歳」な人らが、メキシコ系移民をボロクソに言ってエディと抗争してるじゃないですか。「俺たちの祖先は海を渡って（ヨーロッパから）来た

WWE『SMACKDOWN!』presents『Return of the Deadman Tour』
全対戦カード決定!!（ただし、試合直前まで変更の可能性がある）

●7月16日(金)東京・日本武道館

（WWE王者）エディ・ゲレロvsロブ・ヴァン・ダム／アンダーテイカー vs ジョン・ブラッドショー・レイフィールド／（US王者）ジョン・シナ vs レネ・デュプリー／（WWEタッグ王者）リコ（withジャッキー）&チャーリー・ハース vs ダッドリー・ボーイズ／レイ・ミステリオ vs ビッグ・ショー※カート・アングル指名試合／ビリー・キッドマン&ポール・ロンドン vs ハードコア・ホーリー&ビリー・ガン／トーリー・ウィルソン vs ドーン・マリー※スペシャル・リングアナウンサー:セイブル レフェリー:フナキ／チャボ・ゲレロ（withクラシック） vs ナンジオ vs マット・キャピタリ／ジェイミー・ノーブル vs モーディカイ

●7月17日(土)東京・日本武道館

エディ・ゲレロ vs ジョン・ブラッドショー・レイフィールド／【ノーDQ戦】アンダーテイカー vs ビッグ・ショー／ジョン・シナ&トーリー・ウィルソン vs レネ・デュプリー&ドーン・マリー／リコ（withジャッキー）&チャーリー・ハース vs ハードコア・ホーリー&ビリー・ガン／ロブ・ヴァン・ダム&レイ・ミステリオ vs ダッドリー・ボーイズ／フナキ vs モーディカイ／ビリー・キッドマン&ポール・ロンドン vs ジェイミー・ノーブル&ナンジオ／チャボ・ゲレロ（withクラシック） vs マット・キャピタリ

『紙プロ』特派員ナンシーが掴んだアメプロの噂の噂

噂FILE

●エディにのしかかるプレッシャー

WWE王者エディ・ゲレロに、少しずつプレッシャーの波が押し寄せている。会社は王者が多くのファンを呼び集めることを期待しているが、現在、SmackDown!のハウスショーの入りは本当にお粗末な状況が続いているという。エディは本当によく頑張ってはいるのだが……。

●王者でなくても主役はオレ！

6月のPPV『バッド・ブラッド』で、ショーン・マイケルズとヘル・イン・ア・セルでの対戦が有力なトリプルH。本来ならば、世界ヘビー級王者クリス・ベノワが目立つべきところだろうが、そうは行かない様子。腰にベルトはなくとも、『RAW』の主役は今でもトリプルHだという。

●ブレット・ハート、ホーガンと場外戦？

NHLカルガリー・フレームスの大ファンとして知られるブレット・ハート。今季NHLファイナルまで進んだフレームスが対戦するのは、ハルク・ホーガンがシーズンチケットを保有するタンパベイ・ライトニング。このブレットとホーガンの2人は、両チームが苦しい時代も常に見守ってきたという筋金入りのファン。ハート自ら、カナダのスポーツサイト「SLAM sports」で、ハートvsホーガンのライバル関係になぞり、NHLファイナルの模様を熱く語っているそうだ。

●オースチンを失ったのは誰のせい？

WWEは今でも、スティーブ・オースチン退団の原因は、やけに力を持っていたオースチンの代理人だと思っている。噂によるとこの代理人、プロレスを見たことさえないという、人物だそうだ。ビンス側も、WWE以外の場所でストーンコールドの名称使用、その名称に関する全権利をオースチンに渡すことは、今なお断固として拒否しているとのこと。ビンスが、ドゥエイン・ジョンソンに、“ザ・ロック”の使用権と所有権を認めたのに、オースチンにはなぜ？とアメリカのファンは首をかしげているという。

んだ。お前らのように国境を越えてきた連中とは違う」とか人種差別スレスレのこと言ってますね（笑）。

叙似位　いまの『ＳＭＡＣＫＤＯＷＮ！』の枠組みにケンゾーがサムライの格好なんかで入っきたら、きっと「リメンバー・パールハーバー」とか言われますよ。

何時男　これで、もしリングネームが「ＨＩＲＯＨＩＴＯ」に決まってたら……考えるだけでゾッとしますね。以前ビンスは日本ツアーのタイトルを『トラ！トラ！トラ！』にしようとしてましたけど、7月のツアー名がケンゾーのためのツアーになってたでしょうね。武道館の目の前は靖国神社だし……。

ＷＷＥ報道の現在

派乱暴　あと、井上貴子もトライアウトを受けたんですね？

何時男　それが、媒体によって報道がまちまちなんですよ。

叙似位　最初にスッパ抜いたのは5月14日付の『日刊スポーツ』だったんですけど、「結果発表はまだだが、ＷＷＥでは女子レスラーがテストを受けること自体珍しく、当確と言っていい」って書いてるんですよね。

何時男　テストを受けた女子レスラーって、ほとんど合格してるんですか？

叙似位　さあ？（笑）。それよりも凄いのは、「『受けられただけで合格も同然』と解説する関係者もいる」という。この記事を真っ向から否定するような記事が6月3日付の『ファイト』に載ってることなんですよ。「ＷＷＥのエージェントであるジョン・ラリナイダス（ジョニー・エース）氏らが見守る中、リングに上がった井上貴は試合さながらのスパーリング。激しく動きすぎたあまり足首をネンザしてしまったのだ。（中略）井上貴はせっかくのチャンスをフイにしてしまった」って。

派乱暴　えっ？　じゃあ、トライアウト前の練習でケガをして、トライアウトは受けてないってことですか？

叙似位　でも、井上貴子自身は自分のＨＰで「失敗も断念もしてない」って、『ファイト』の記事を否定してるんですよね。

何時男　情報が錯綜してますね。そういや、同じ頃に新日本プロレスの上井文彦執行役員がＷＷＥの会場に行って、ジョニー・エースと会談してましたね？　夏のＧ1にエディ・ゲレロとクリス・ベノワを呼ぶとか息巻いてたみたいですけど（笑）。

叙似位　そのコメントを読んだＷＷＥの某幹部は首をひねってたらしいですよ。

山崎五紀さんやタイガー服部氏らのサポートを受け、井上貴子とマネージャーの田口かほるは渡米した。

何時男　「そんなこと、あり得るのか？」と（笑）。

叙似位　記者が記事を飛ばすならまだしも、団体の幹部が話を膨らませてどうすんだって感じですよ（笑）。

派乱暴　でも、これだけ報道にバラつきがあるのは珍しいですねぇ。

叙似位　そういう状況をタジリがバッサリ斬ってますね。ここに挙げたような記事を指してるわけじゃないでしょうけど、「特にここ3週間ほどは酷かった。デタラメのオンパレード！　それらの記事の中には、オレや船木さん、ならびにアメリカで働く日本人プロレスマスコミを心底怒らせるほど、無調査・聞きかじり・妄想・虚構という、トンデモない内容のものもあった」と5月29日付の携帯サイト『ＷＷＥモバイル』のコラム「痛快タジリズム」で憤慨してましたよ。

何時男　「日本での報道？　どうでもいいよ」ってスタンスなのかと思ってたんですけど、ギラギラしてますね。

叙似位　少なからず自分たちのビジネスについて書かれてるわけだから、敏感にならざるを得ないんじゃないですか。それこそ、このコーナーに怒ってるのかもしれないし（笑）。

何時男　噂とゴシップばっかり載ってるし（笑）。でも、ビンスが目指すものが映画のようなプロレスであるなら、このコーナーはそれに付随するゴシップとか新作情報を紹介していきたいですね。

※このページのプレゼント応募方法はP159を参照!!

原タコヤキ君の

大阪プロレスファン通信 拡大版

ナニワの中のナニワな人たちがお送りするダイナマイトな関西コラム

闇の世界の闇溜まり……
中島らも、ついに見参!!

10th Guest 中島らも

聞き手／原タコヤキ君　撮影／松澤チョロ　designed by Tani-Yan（Two three）

まいど！　今回は10回記念ということで、まさに『大阪プロレスファン通信』の名にふさわしい、中島らもさんの登場です！　第二次ＵＷＦに傾倒し、前田日明と親交を深め、数年前にはミスター・ヒトさんと共著で"早すぎた高橋本"と呼ばれた『クマと闘ったヒト』をリリースしたらもさん。そしてこの秋に小説『お父さんのバックドロップ』が映画化されるということで、さっそくお話を聞きに行ってまいりましたよ！　ちなみにらもさんは喋るのが異常に遅いので、三倍遅くして黙読していただくとちょうどよいです。

――（テーブルの上を見て）うわぁ！　なんでこんなに武器があるんですか!?

らも　これは〜、あの〜、自己防衛。最近、バンドでやばい歌を歌っているのでね。……プロレスの好きな鈴木さんとかいてはるでしょ？

――す、鈴木さん？

らも　ほら、右の。

――ああ、鈴木邦男さん（笑）。

らも　ああいう人に襲ってこられたら困るでしょ？　だからいろんな武器を用意しています。

――いったい何を言い出すんですか（笑）。

らも　（無言でテーブルの上から武器を取り出す）。

――なんですか、このあからさまに物騒なモノは（笑）。

らも　通販で売ってるんです。これは刃が2枚あるので、こうしてもディフェンスできる、こうしてもディフェンスできる……（と武器を手に実演する、らもさん）。

――（小声で）おい、チョロ！　らもさん、手ぇ震えてるがな。

チョロ　た、確かに……。

――まあ、らもさん、自分でも言うてるけどアル中やからねえ……。

らも　（気にせず説明を続ける）ほんで、ディフェンスをしながら同時にオフェンスにもなるんです。（また別の武器を取り出し）これはね、「マチェーテ」というヤツです。これはアマゾンの人がジャングルに入る時、草を刈って道なき道を進むためのもんです。買った時点では草を叩き折るためのものですから刃が非常に鈍磨してたんですよ。ほんで丸一日がかりで研ぎあげて、なおかつこの辺は包丁砥ぎのおっちゃんが回ってくるものですから、これ見せたらおっちゃん、ビックリしはって（笑）。

本番では役立たんけど……

3方向に刃が開き手裏剣を思わせるフォルムのナイフ。その名はサイクロン。ジッと見つめる、らもさんです

ミスター・ボーゴを彷彿とさせる物騒な武器を取り出し実演を始める、らもさん。ビビって、たじろぎました

――そらビックリするでしょうねえ（笑）。

らも　フフフ。こんなもんは要するに、相手に見せて、相手がひるんでいる間に逃げるとかね。僕は闘うつもりはないんです。過剰防衛になりますからね。

――どえらい過剰ですよ（笑）。

らも　こんなもんでパンと首を刈ったら頭がポロンと落ちますよ（と震える手で武器を振り回す）。

――ホンマですねえ……（冷や汗）。でも威嚇するためなら、カバンの中に入れとかんとダメですよね。

らも　でもカバンの中には入らないので、テーブルの下に隠してます。

美代子夫人　テーブルの下に武器を隠す棚を作らされました（笑）。

――（テーブルの下を見て）あ、ホンマや（笑）。

らも　暴漢は、まず玄関から入って襲ってきよるやろうから、すぐ取り出せるように、棚の角度も計算してます。

――用意周到なんですね（笑）。

らも　……やっぱり先手必勝やからねえ。（また別の武器を取り出して）これも首を掻っ切る用ですね。首を刈る用やから非常に危ない……。大阪でもね、まったく何も武装もせず歩ける地域と、「ここらあたりはちょっと何か持っていたほうがえぇで」という地域とあるんですよ。

美代子夫人　でも大阪は刃物を持って歩いたらダメですよね。

――ダメでしょうねえ。

らも　センチによるんや。6センチくらいなら大丈夫や。

――へえ。でも明らかにこれ、6センチ超えてますけど……。

らも　（無視して別の武器を取り出し）これだと2人で来られた時、こうしてこうして倒せますね。4人で来たとしても、2人を倒すと、残った人間はやられた仲間を担いで帰らなアカンでしょ。だから全員と闘う必要はないのです。……きれいでしょ、形が。

――きれいですよね（笑）。でも、らもさんがこうして武器を手に取っていると、そのうち足にポロッと落として怪我するんじゃないかと思って、ヒヤヒヤしてるんですけど（笑）。

らも　いまのところそれはないですけど。（奥さんに向かって）……これ、どうやって仕舞うんや？

美代子夫人　これはこうして……。

――らもさん、全然使いこなせてないじゃないですか！（笑）。

らも　（無視してまた別の武器を取り出して）これはタイヤのパーツです。これでガーンといかれたらたまらんでしょ？

――たまりませんねえ（笑）。

らも　（また別の武器を取り出して）これはメリケン・サック。

――それはオーソドックスですね。

らも　（また別の武器を取り出して）これは両刃になっているんです。こうきたらこうして……。まあ両刃なので非常に便利です。ステンレス製なんです。ステンレスの包丁って非常によく切れるでしょ？（ポツリと）武器を集めるのはもう趣味ですね。

――これってホンマに実戦で役に立つんですかねえ？

らも　……これは本番では役立たんですね（ゆっくりとキッパリ）。

――ダメじゃないですか！（笑）。

らも　だからこういうのがあります。（別の武器を取り出して）催涙スプレーとスタンガンを用意してます。これは外出する時用に。

――へえ。催涙スプレーは万年筆型

記事が6月

もさん、手ぇ震えてるがな。

で、スタンガンは携帯電話型になってるんですね。

らも　催涙スプレーは5分くらい激しい咳、くしゃみが出て目が見えなくなります。唐辛子のカプサイシンが入っているので、目に入るとメチャクチャ痛いんですよ。

――（スタンガンを手にとって）というか、こんなデカイ携帯、いまどき誰も持ってませんよ（笑）。

マネージャー　言うてるんですけどね。絶対不自然やって（笑）。

らも　小料理屋さんでね、6人くらいで座敷で飲んでたんですよ。ほんで「催涙ガス、ちょっと外に向けてやってみるからね」ってシュッとしたんですよ。ほんなら外の空気がエアコンから入ってきてしもて、みんな目がしばしばするし、咳、くしゃみ出るし、えらいことなって。これ、本気で目に向けてバシュッとやったらどうなんねやろうと思って。

――それはヤバイでしょう（笑）。

らも　で、スタンガンは、放電されたら約30分身動きできないそうです。意識はあるらしいけど。いま、ムチャクチャなもんが出ててね、100万ボルトとかあるらしい。……それはさすがに死んじゃうと思って買ってないですけど。

――これだけで十分物騒ですけど（笑）。

らも　一応ね、建前としては非常時の家族および自分の護身のためと称して武器を買っているんですけど、実際には武器というのは凄い機能美があるんですよね。危険な分だけ面白いんですよね。

――男ならわかりますよね。

美代子夫人　でも私は絶対らもには守ってもらえないと思って、自分で忍者刀を買ってます（笑）。

武器を集めるのは趣味ですね。　本

「マチェーテ」と言われる草刈り用の刀を振り上げ、恍惚の表情で眺める、らもさん。怖くて近づけません！

これが携帯電話型スタンガン。いまどき見かけないほどのゴツいボディーなので怪しさ満点だが威力は抜群だ

――夫婦で何やってんですか（笑）。で、今回は『紙のプロレス』という雑誌の取材なんですけど。

らも　はい、よく拝見しています。

――あ、ありがとうございます！　まず、らもさんがプロレスを好きになったきっかけからお聞きしたいんですけど。

らも　……なに兄弟でしたかね、いっちゃん最初に日本に来たの？

――シャープ兄弟ですか？

らも　シャープ兄弟。そのあとくらいから見始めて。俺、本質的にはB級のモノが好きなんですよ。テクニシャンでね、かっこいいヤツよりは、ヒールタイプで卑怯なヤツのほうがいい。グレート東郷なんていうのはいつも流血して、「血はリングに咲く花だ」なんていう名言を残してて。彼は9人の老人視聴者をショック死させてるんですよね。額から血を出して、顔中真っ赤にしながら、ニタニタと笑ろて。技いうたらパチキとか下駄でどつくくらいしかない、典型的な日系ヒールでしたね。あれを見てて、「コイツは面白いヤツやな」と思ってました。

――力道山はどうだったんですか？

らも　力道山も好きでしたよ。あの頃の試合っていうのは、バックドロップが入ったらそれで試合は終わりやという暗黙の了解がありましたよね。それでそこに至るまでの攻防を手に汗握って見ていたわけですよ。でも当時は三本勝負が多かったんですけど、小学4年の俺でも結果が見えちゃってましたね。

――一本ずつ取って終わりみたいな（笑）。周りの友達はどうやったんですか？

らも　周りの友達はみんな真剣勝負やと思ってましたね。じいちゃん、ばあちゃんも真剣勝負と思ってた。だからショック死したりしてたのね。

――何人も死んでましたからね。

らも　当時、ナイロン袋に鶏の血を入れてたのがリング下で発見されたというのがありましてね。それ、置いていったヤツは力道山にムチャクチャどつかれたという話を聞きました。あと、子供心におかしいなと思ったのは時間通りに終わるということですね。

――生放送やのに時間内にピタッと終わると。

らも　放送終了の2分半前になったら力道山は怒り出して、アナウンサーも「リキ、怒りました！　チョップチョップの嵐!!」って言うて。でもそれやったら最初から怒っといたらええのにと思って。だからこれはショーやとすぐわかりました。何回観ても予想通りやし。ただ、裏読みをする楽しみみたいなのがあってね。本気でやったら本当はこっちが強いやろうとかね。そういう楽しみ方をしてましたね。

――それからずっとプロレスは観てたんですか？

らも　途中でいっぺんやめたんですよ。僕が12～3歳くらいの頃で、力道山が亡くなった後で、いわゆるBI砲の頃。で、ワールドリーグの時にザ・マミーというのがきよって。

――はいはい、いましたね。

らも　これはミイラ男なんですけど、メリケン粉かなんかを包帯の中に仕込んでおいて、ジャイアント馬場がチョップすると粉がパーッと舞って、馬場が苦しがって。

――ハハハ。平和ですねえ（笑）。

らも　それで「あ、こんなもん観てたらアカンわ」と思って一時やめましたね。ギミックにしてもレベルが低いなと思って。

――また観るようになったのは？

らも　国際プロレスをたまたま観てたら、ストロング小林と若手の黒人が試合をしてて、これが非常にいい試合だったんですよ。技の掛け合いでね。で、スポーツ的に観てて非常に面白かった。「あ、こういう試合もあるんや」と思って、また観るようになりました。まあでも、真剣勝負じゃないということはもう重々わかってましたけどね。ジャイアント馬場なんていうのは、チョップするでしょ。音が大きく出るようにパチンと叩くけど、ホンマは掌の側面で打つほうが痛いはずやのにそうしないと。自分の大きさを強調して、客

猪木は人間性があんまり好きになれなかった。だいぶ後からヒトさんに聞いたんですけど……

にアピールすると。それはそれで逆に、なかなか頭のいい人だなと思っていました。あと日本人ではラッシャー木村が好きでしたね。

――ラッシャー木村はどういうところが好きやったんですか？

らも　哀愁ですねぇ。おでこがギザギザでしょ。毎日切られるからね。治療するのに一番ええのは、豚の生皮を額に貼り付けておくんですって。そうすると皮膚に薄い膜ができて、その上をうまいこと蹴ってもらうと、また盛大に血が出ると。

――盛大に（笑）。らもさんは猪木さんはどうだったんですか？

らも　人間性があんまり好きになれなかった。だいぶ後からミスター・ヒトから聞いたんですけど、猪木というのはある人に依頼して、日本にピストルを30丁持ってきてくれって言うたらしい。そんなもん税関通るわけないでしょ。それでその人、5年間収監されて。ほんで出てきた時にその人は「猪木を殺す」って言うたんですね。で、その人は殺すと言うたら間違いなく殺す人なんですね。で、猪木は組織を作ってアメリカへ逃げたと。

――そういう噂はありましたね。

らも　でも、現役時代もピンとこなかったですね。卍固めとかね。コブラツイストまではなんとかわかるけど、卍固めというのは相手の協力なしには絶対成立しないでしょ。ほんで、体力が落ちていったら延髄斬り一本になってしもて。ある時、観てたらね、延髄斬りやったんだけど、相手の頭に当たってないんですよ。なのに相手は倒れる。「おかしいなあ」と思ってたら、さすがにアナウンサーも「小鉄さん、猪木の足は当たってないように見えたんですが」って言うたんですよ。ほんなら小鉄さんが「いや、右足は当たってませんが、左足は当たってるんですよ」って言うて、プレイバックしたらホンマに左足は当たってたんですよ。「小鉄は凄いな」と思いましたね。

――ナイスフォローですね（笑）。

らも　バチッと当たったわけではなくて、当たってしもたって感じなんですけどね。でもちゃんと小鉄は見とるなあと思って。まあ、猪木も強かったらしいですけどね。あの～、ミスター・ヒトにざっくばらんに時代も何も関係なしに、誰が一番強いレスラーか聞いたんですよ。ほんならジョージ・ゴーディエンコやって言うてました。あれは強かったと。

――ゴーディエンコはみんな言いますね。らもさんはプロレスのB級なところを愛しながらも、誰が一番強いんだという求心力にも引かれていきましたよね。ということで、らもさんといえばUWFなんですけど。

らも　UWFの試合というのは面白くないでしょ。それがリアルやったというか。町のケンカとか見てもそうですよね。16秒とかで決まりますもんね。

――刻みますね（笑）。前田さんとトークショーをしたりしてましたが、どんな方でしたか？

らも　ジェントルマンですね。酒さえ飲まなければ（笑）。

――ハハハハ。

らも　よくレスラーに技かけてくれっていう人いるじゃないですか、飲み屋とかで。あれって困るらしいですね。関節技かけるにしてもホンマに折っちゃうわけにもいかんし、緩めたらこんなもんかと言われるし。その境目はごっついファジーなんですよね。一番ええ方法は上田馬之助

なんかがやってた、ビール瓶をパシャーンと割って、血まみれの顔でニターッと笑うと。ほんならスジ者でも寄ってこないという。
――馬之助さんはコップかじったと言いますもんね。
らも　その話を尼崎のトークイベントで前田さんと話して、「それはそうと、こういうこと言うといてなんですが、なんか技かけてもらえませんか？」と言うたんですよ。
――完全に素人じゃないですか（笑）。
らも　ほんなら寝技はスーツが汚れるからということで、立ったままのフロントフェースロックをしてもらったんですよ。まったく力を入れてないから、痛くもなんともないんですけど、感じとしてね、ここでもし力を入れられたら、これはもうどうしようもないなというのはヒシヒシと感じましたね。
――嬉しかったでしょうねえ、らもさん（笑）。
らも　（唐突に）あの～、俺の友達でフリーライターがいて、インドとかネパールとかしょっちゅう行ってて、そいつがパキスタンで身長2メートル50センチのヤツを見つけて日本に連れてきて、テレビ朝日で紹介したんですよ。アンドレより30センチ近くデカくてね。
――それは凄いですね。
らも　ガリガリでもなくデブでもなく、ほんで若い。その晩に新日本プロレスから電話が掛かってきたらしいですよ（笑）。もう10年も20年も前ですけど。ジャイアント・シルバとかでも2メートル30とかでしょ。その2メートル50の人は母国では公務員なんですよ。
――2メートル50の公務員！（笑）。
らも　で、それを蹴ってまでプロレスしたくないと。そのテレビの出演料だけで10年くらい食べていけるって言うて。
――それじゃあプロレスなんてしませんよねえ。
らも　その時にある人が冨家ドクターに聞いたんですって。あの男と猪木が闘ったらどうなるかって。ほんなら冨家ドクターは、「あなたに10歳の息子がいて空手の道場に通っていると。その子供とケンカして怖いですか？　怖いわけないですよね。それと一緒ですよ」と。
――身も蓋もないですね（笑）。ズバリ、らもさんはUWFはガチンコだと思ってたんですか？
らも　思ってましたね。でもミスター・ヒトは不信感を持ってましたけど。あんなもん、普段練習していることをやってるだけだと。
――どの辺で「おや？」っと思ったんですか？
らも　う～ん、シャムロックとか出だしてからかな。あとヴォルク・ハンとか。
――ハンはリングスですね。
らも　ハンは向こうではコマンド・サンボの先生でしょ。普段訓練していることは、どうやって素手で人を殺すかってことですよね。いろいろあるけど、首の2センチ下に頸動脈があって、歯で食いちぎる。ほんなら16秒で死ぬと。
――やっぱり16秒ですよね（笑）。
らも　そんな殺人の稽古をしているヤツが、日本に来て、全部禁じ手にして、それでもあんなに強かったんやから、ガチンコでやってたらみんな死んでたんちゃいますか？
――まあ相当強かったでしょうねえ。
らも　セメントについて物凄い興味

UWFがセメントでないと知った時は……そうですね、落胆しましたね

があったから、ミスター・ヒトに聞いたんですわ。
――なんでもヒトさんですね（笑）。
らも　「なんでセメントは起こるの？」と。ほんなら、女、金って言うたんですよ。で、セメントになった時にどうやって対処するか聞いたら、そんなん簡単やと。目の中に指突っ込んだり、口の中に指突っ込んでギューッと引っ張る。その後、金的に蹴りを入れて、胸に大きい頭突きをドーンと入れたら、それで立てるヤツはいないと。それがどのくらいの頻度であるか聞いたら、「そうだなあ、2ヶ月に一回くらいかな」と。そんなにあるんやと思ってビックリしましたね。
――UWFがセメントでないと知った時は落胆しましたか？
らも　……そうですね。まあ、志としてはセメントでやっていこうというのはあったと思うんですよ。でも一番怖いのは怪我ですよね。怪我を恐れていると、セメントなんかでけへんと。ほんなら受けたほうがええやないかとなったんちゃいますか。ミスター・ヒトはハッキリ言うてるんですけど、プロレスは受けてナンボやと。毎日何時間も練習するけど、それは強くなるためじゃなくて、怪我せんために練習するんやと。
――それは、よく言うてはりますよね。
らも　でもやっぱり好きでしたよ、UWFは。東京ドームの一回目の時は会場に観に行きましたけど、非常に興奮しましたね。全部面白かったですね、殺気に溢れてて。鈴木とチャンプアとか感心しましたね。で、K-1も最近、余裕があれば観るんですけど、以前、ミスター・ヒトと観に行ったことがありまして……。
――完全にヒトさんとニコイチですね（笑）。
らも　ヒトさんが言うにはK-1にも受けがあると。そう言われればアンディ・フグのかかと落としは、ちょっとスウェーすればすっと避けられる技ですよね。それがことごとく当たるのはおかしい。やっぱり受けがあるんですね。
――しかし、ヒトさんの影響は大きいですねえ（笑）。
らも　ヒトさんの話は面白かったですね。何回会っても同じ話が出ないんですよ。今日は女の話とかね。レスラー同士のふざけあいっていうのはムチャクチャでね、道路を200キロくらいでビャーっと走ると。2台で分乗してね。ヒールもベビーもごっちゃになって。それで誰かが車の中でウンコして、もう一台に投げつけて。そしたらフロントガラスがクソまみれ（笑）。ほんでセメントになったりするんだって。
――セメントは女、金、ウンコで起こる（笑）。
らも　一番ショックだったのは、世界で一番強いのは誰やと聞いたら、それは大相撲の横綱やと。普通、人間の体というのは、タックルされたり攻撃されるとぐらつくものなんですが、横綱というのは磐石なんだって。
――でも、いまとなってはヒトさんの理論も『PRIDE』とかでは通用してないですよね。そのヒトさんとの本は〝早すぎたミスター高橋本〟と見られてますけど。
らも　あの～、暴露するという気持ちはなかったからね。「こういう見方で観たほうが面白いよ」というサジェッションだったただけで、八百長やと言いたいわけやなかったですから。

チョロ　馳さんがよく言ってましたよ。「ヒトさんの話は面白いけど、話半分に聞いたほうがいい」って（笑）。

らも　フフフ。

――ヒトさんの作業は検証に見えて、実は幻想を膨らませていただけなんですよね（笑）。

らも　レスリング・ベアーって生まれた時から調教されてるんですよね。だからヘタなレスラーよりよっぽど上手いんですって。口にはクツワみたいなのはめて、爪も切って。熊に横からバチーンとはたかれると、人間は死んじゃいますよね。ヒトさんと闘った熊はそんなことしないように調教されていて、試合前にキャンディーをやるんだって。それで凄い喜ぶんだって。で、試合が終わればウイスキーを飲ませる。凄い喜ぶ。それがウイリー・ウイリアムスと闘ったヤツで、小鹿さんが呼ぼうと思って動物愛護団体からクレームが来て呼べなかったヤツも同じ熊だったらしいですよ。

――あ、その熊はそんなに長く活躍していたんですか？

らも　うん。熊の寿命はけっこう長いそうですよ。

――最近、らもさんはプロレスは観てますか？

らも　観るというより、友達から裏話を聞いて楽しんでることが多いですね。ストロング小林はなんでオカマになったか知ってますか？

――なんでかは知りませんけど（笑）。

らも　あの～、アメリカ修行に行った時、パット・パターソンが師匠やったんですよ。ほんで二人で組んで巡業に出るんですけど、パターソンがコレやったんですね。ある時、グラウンドを教えてもらっている時にプスッと入れられてしまった。それから毎日プスッと入れられて、すっかり癖になってしもて。日本に帰って国際でトップになったでしょ。2年後にパターソンが来日したんですよ。一対一の優勝決定戦で、グラウンドになった時、押さえつけたら、国際プロレスの若手が明らかに小林がボッキしてたのを見たらしいね。

――どえらい情報ですね（笑）。

らも　だからそうやって話ばかりで。あ、K-1、『PRIDE』はわりとよく観ます。プロレスは最近、中継が遅いでしょ？　わざわざビデオ録って観ようというほどの熱意はないですね。なぜそうなったかというと、サムソン冬木が悪いんですよ（ゆっくりキッパリ）。

――サムソン冬木！（笑）。残念ながら冬木さんはお亡くなりになられたわけですけど、またなぜなんですか？

らも　ブリーフ軍団というのを作ったでしょ？　ここまでプロレスをバカにしやがってと思って、こんなもん、アカンわと。なんかもう、それからイヤになっちゃったんですよ。

――ザ・マミーの時と同じですね（笑）。冬木さんのせいでプロレス熱が冷め気味のらもさんですが、今度、『お父さんのバックドロップ』が映画になるんですよね。自分の原作が映画になるというのはどういう気持ちなんですか？

らも　まあ、自分の娘を嫁にやるようなもんですわ。だから原作と全然違うようになったとしても、それはしょうがない。（主演の）宇梶剛士くんというのは190くらいあるのかな？　で、試合シーンのビデオを見せてもらったんですけど、ちょっと腕が細いかなと思ったんですが、でもちゃんとしたプロレスになってましたよ。あの映画に関してはね、15年くらい前かな？　三つの会社から映画化させてくれと言われてて、三つともポシャッたんですよ。今回のが四つ目でようやく実現して。イメージはラッシャー木村なんですよね。腹がボテッと出てて。いまで言うたら永源とか。上田さんはえらい事故に遭ってしまったし。

――いまは、そういう哀愁がある人っていないですからね。

らも　なんとかスーパー裏駐車場でお客が20人くらいで、そういうイメージで原作を書いたんですけどね。

――でも宇梶さんは元ブラック・エンペラーの総長だし、キャラクターがあるから、いまからプロレスラーになってもおかしくないですね（笑）。『ハッスル』に出ても面白いですよ。

らも　映画は大日本プロレスの全面的協力を頂いていて、プロレスの講師は新日本にいたAKIRAがやってます。

――そうみたいですね。

らも　……まあ映画ってね、物凄い邪魔くさいものですからね。カット割りして編集して、根気の要る作業ですわ。俺は映画だけは手は出さないようにしてます。借金せなアカンし。

――確かに映画は大変ですよねえ。でも、らもさんはB級映画が大好きなんですよね。

らも　俺が好きなB級映画というのは、お金がない、お金がないからアイディアを注ぎ込む、それしか道がないと。そういうのが好きなんですよ。レスラーにしてもタッパもあんまりない。別にオリンピック出たわけでもない。でも例えばジェーク・ロバーツやったらアナコンダで相手の首を絞めるとか、とにかくアイデアを一生懸命考えて、見た目も工夫して、そういうプロレスラーが好きなんですよ。

――要するに、らもさんは、B級に甘んじているんじゃなくて、そのB級から飛び出そう、あるいは生き残ってやろうという気概のあるヤツが好きなんですね。だから、らもさんの中ではUWFにのめり込むことも矛盾しないんですね。

らも　そうかもしれませんねえ。

――WWEは観たりします？

らも　平面媒体で見ただけなんですけど、面白そうやなとは思いました。ただ、いろんなギミックがありますけど、サージェント・スローターをフセインにしてた時があったでしょ？　アイツ、殺されかけたらしいですよ。あれはイカンと思った。ミスター・ヒトだってね、アメリカからオファーがあった時、ミスター・ヒロヒトでやれって言われて、「それはあんまりや」っていうて、ヒトだけにしてもらったらしい。

――最近では鈴木健想がWWEでヒロヒトギミックを要請されたらしいですよ。

らも　（WWEは）いろんなギミックが絡むでしょ。不倫とか。なんかあれ、アホを相手にしているような気がしてしょうがないんですよ（笑）。

クマと闘ったヒト
中島らも　ミスター・ヒト
ダ・ヴィンチブックス　定価 本体1300円（税別）
伝説のレスラー、ミスター・ヒトが中島らもと出会い、今、プロレスの裏の裏までしゃべり倒す
このおしゃべりっ！

早過ぎたミスター高橋本と言われるだけあってプロレス界の隠語も大放出の、らもさんとミスター・ヒトの共著『クマと闘ったヒト』（メディアファクトリー刊）。あまりの過激な内容に、注釈を担当した吉田豪も「注釈担当者は本文の内容に一切関知しておりません。念のため」と思わず入れたほど。『紙プロ』読者なら必読の一冊です！

どんなドラッグでも全面解禁したらいいんです。死にたいヤツは死ねと。

ブルーカラーというか。……アメリカ人というのは最終的にはマッチョですから。逆三角形の。どうしてもステロイドに行っちゃいますよね。ステロイドは脳に来るらしいからね。自滅行為とは思うけど、難しい問題ですよね。

——そっから他のドラッグに手を出したりしますもんね。

らも　エリック一家は悲惨ですね。呪われてるとしか言い様がないな。ケリーが義足やと知った時はホンマにビックリした。どうしても精神状態がバッドになるというか、ハイになるドラッグを求めるんでしょうね。

——プロレスラーがプロレスラーを演じるためにドラッグに逃げることもあるんでしょうね。やっぱり、らもさんも人前に出る時と、いまこうしてお話している時と、やっぱり二面性というか、演じ分けていらっしゃいますよね？

らも　いや、別にスイッチはありません。自己演出するほどの技術を持ってないからね。

——でもね、去年、大麻取締法違反で逮捕されて、保釈された時、記者の前でパフォーマンスしたじゃないですか？（出所時「日本全国民、ことに読者の皆様、出版社、知人、飼っている犬、猫、ハムスター……。伏してお詫び申し上げます。〈中略〉自分をアメリカ式に56億7000万年の禁固刑に処します」と土下座し、さらに報道陣にもらったタバコを一服吸い「やっぱりタバコのほうが大麻よりうまい」とコメントするなど話題となった）。あれはスイッチが入ったんじゃないですか？　他人を喜ばせたい、笑わせたいというふうに。

らも　フフフ。どうなんですかねえ。……保釈や言われて、出たらドワーッとマスコミが来てたから、とっさに「誰かタバコ持ってますかね」って言うてしもただけで。……アメリカのレスラーはそうやねえ、ヘロインやってるヤツはいないね。ヘロインやっててプロレスはできないです。コカインやったらできますけど。コカインはハイになる薬ですから。コカインをすれば闘いはよりアグレッシブになるでしょうけど、あれは15分から20分くらいしかもたないんですよ。

——そういうもんなんですか。

らも　試合の途中で切れたら、さっきまで強かったのに、急に電池切れたようになるのもねえ（笑）。で、マリファナも試合前は吸わないと思いますよ。和やかな気分になるから。

——和やかな気分でプロレスはできないでしょうね（笑）。

らも　シャブはやってるかもわからんですね。あの〜、ルチャ・リブレの選手はなんにもドラッグはやってないですよ（ゆっくりとキッパリ）。

——そらまたなんでですか？

らも　メキシコは首相が代わってね、物凄い取締りがきつくなって。そのせいでギャングと警察の撃ち合いもあって、現段階で1500人死亡してるのね。去年メキシコ行った時、「ハッパあるか」って聞いたら、「いまは全然ない」と。その代わりアンフェタミン、要するに覚せい剤渡されたけど、なんにも感じない。

——メキシコではアンフェタミンは合法なんですか？

らも　違法です。

——アカンがな！（笑）。

らも　フィリピンかどっかで、ヨーロッパ人がマリファナ持ってて死刑になったらしい。日本でもね、大麻所持で捕まって、拘置されているドイツ人が抗議の自殺をやったらしい。今年ですわ。ドイツはムチャクチャ、オープンですからね。……自分の中でドラッグに対する意見は変転したんですよね。最初はマリファナは解放すべきやと。医薬品として非常に効果があるんですよ。末期がん患者とか多発性硬化症とか緑内障とか、そういう人たちの鎮痛に凄く効果があると。アメリカは13州が事実上解禁となっていて、で、25州が解禁となったら国会に提出せなアカンねんね。そしたらブッシュはそんな大きな票田を失うわけにはいかないでしょ？

——まあ、そうでしょうね。

らも　ほんなら一気に解禁になる可能性がある。ほんなら日本はどうするねんと。牢屋にぶち込んで、氏名まで新聞で公表しておいて、職にも就けなくしておいて、他人の人生を踏みにじっておいて、そのお詫びはどうするんやと言いたいですね。

——日本も大麻を解禁すべきだと？

らも　だから大麻はJTが扱ったらええねんと。600億円産業やからええねんとかね。それを厚生年金に回したらええやんかね。最近はもう、どんなハードなドラッグでも全部解禁したらええんやないかと思ってます。

——また極端な（笑）。

らも　で、死にたいヤツは勝手に死

んだらええんやと。で、65歳以上のご老人には国がハードドラッグを支給して早めに死んでもらったらええやないかと。ほんなら厚生年金いらんやないかとね。それなら暴力団の資金源も絶てるでしょ。

――もうこうなったら大阪から大麻を解放しましょう！（笑）。

らも　こないだも新世界のじゃんじゃん横丁歩いてたんですよ。ほんでノド渇いて喫茶店入ったんですよ。で、トイレに行ったら大きな張り紙がしてあって、「トイレに注射器を捨てないで下さいや」って。

――さすが大阪やなぁ（笑）。

らも　あの～、俺自身はひれ伏す必要は何もないと思うんですよね。ただ、自宅のリビングに座って大麻吸って、法に抵触したと。それは捕まって当然やと。ただ、個人的に罪悪を働いたという感覚はまったくないですね（ゆっくりとキッパリ）。誰に迷惑かけたわけでもないし、誰かに吸え吸えって勧めたわけでもないし、誰かに売ったわけでもない。ただ、ここでスパーッと吸ってただけやからね。

――……プロレスの話に戻りますけど、今後どんなことをマット界に望みますか？

らも　そうですねえ……。あの～、猪木とマサ斎藤の巌流島の闘いがあったでしょ？　あんなふうに空間の制限がないところで、出口は一つだけで、そっから出られた者を勝者とすると。ルールはないと。そういうのを観てみたい。

――究極のノールールですね。

らも　バーリ・トゥードでもなんか不満が残る。金網を背にして闘うなんて現実にはそんなことはないわけやからね。これからは野原で衣服着用で闘ってほしいね。客はお弁当とビール持参で観ると。

――それはいいですね（笑）。最近気になる選手とかいますか？

らも　う～ん……。ボブ・サップがね、蹴りの練習してるでしょ？　あれがどのように実ってくるかということと、あとやっぱり、ジャイアント・シルバね。

――ジャイアント・シルバが気になってますか？（笑）。

らも　アイツが実践的訓練を重ねて、どのくらい強くなれるかということね。器としては凄いものを持っているわけやから、あとはソフトやね。

――まあサップなんて練習を重ねて明らかに弱くなってますからね（笑）。

らも　うんうん。

――ただのデカイ三流キックボクサーになっちゃってるという。

らも　うんうん。小説を書くのだって一緒でね、昔の文学論なら必ず起承転結って言うてたでしょ。いまの時代にそんなことしてたら読んでくれない。たとえばいきなり転で始めて読者を引き込ませて一気に読ませる、ねじ伏せる。それが必要になってると思いますね。

――なるほど。原稿を書く時に気をつけることって他にありますか？

らも　ボキャブラリーが多い人っているでしょ？　でもボキャブラリーを出すのを抑えることって大事やと思うんですよ。そやないとひけらかしになるからね。プロレスでもそうでしょ？　技をたくさん出せばいいってもんじゃない。俺もこれ、一応商売なので、常に内容的には打率8割はキープできるようにしてます。7割になったら発表しないという気ではいるんですけど、たまに12割になる時があるんですよ（笑）。それは嬉しいですね。

――へえ。その12割っていうのは部数に比例しますか？

らも　いや、あまり比例しない。特にね、いまの不況で出版界はひどい状況です。俺の本も結果的に8万部で文庫化とかもあったんですけど、いまは初版1万部。

――えっ、らもさんでもですか？

らも　だってサラリーマンの人のお小遣いが3万という人がたくさんいるんですよ。だからね、図書館利用する人が凄い増えてるの。図書館で読まれるくらいなら、俺は万引きしてもらったほうがいいです。お金が入ってくるからね。

美代子夫人　保険がきくからね（笑）。

――「図書館で読むくらいなら万引きしろ」と（笑）。いやあ、今日はプロレス以外のお話もいっぱい聞けて、僕はとても嬉しかったです！　それでは最後に映画の見所を。

らも　あるプロレスラーが父親の面子と子供からの尊敬を得るために極真空手のチャンピオンと異種格闘技戦で闘うと。勝てるわけないんやけど闘うと。そんな内容です。プロレスとしてはひなびた匂いのするプロレスというか、ヘッドロックしながら「今晩一杯どうや？」というような世界でね。

マネージャー　今秋に渋谷シネアミューズにて公開予定です。

――ぜひ観に行きたいと思います。今日は長い時間ありがとうございました。

らも　……あ。

――どないしたんですか？

らも　ずっとチャック開いてたわ……。

――んあ～。

【5月25日／動物だらけの中島らも邸にて収録】

原稿書く時、ボキャブラリーを抑えることって大事やと思うんです。プロレスもそうでしょ？

【中島らもプロフィール】　1952年兵庫県尼崎市生まれ。小学生の頃、ＩＱが185と測定され周囲を驚かせる。65年、かの超進学校、灘中学に学年で８番の成績で入学。その後、酒、シンナー、睡眠薬に溺れ、学力は順調に低下し、72年、大阪芸術大学放送学科になんとか入学。その後、広告代理店を経て、コピーライター、小説家、エッセイストとして活躍。92年『今夜すべてのバーで』で第13回吉川英治文学新人賞、94年『ガダラの豚』で第47回日本推理作家協会賞を受賞。主な著書に『明るい悩みの相談室』『僕に踏まれた町と僕が踏まれた町』『頭の中がカユいんだ』『こどもの一生』など多数。最近ではロックバンド「MOTHER'S BOYS」のヴォーカル・サイドギターを担当する、まさに“プロレス、ドラッグ、ロックンロール”な52歳。

いつ何時でも感情大・爆・発!!

「アルティメット・クラッシュをやったのは、僕たちが弱いというのを認めた上で懺悔」

新日本プロレスの革命執行役員

上井文彦とは何か?

構成/ジャン斉藤　designed by matsu (Two Three)

とにかく熱い！　無闇やたらに熱い男だよ、上井さんは！

新日本プロレスの上井文彦執行役員といえば、ブレーキの壊れたダンプカーごときの行動力と、誰にも負けないプロレスに対する情熱で、新日本プロレスに幾多の改革をもたらしてきた実質的な責任者である。

それは、『PRIDE』やK―1に奪われた「強さ」の象徴を取り戻すために、なんとプロレスのリングでVT（『アルティメット・クラッシュ』）を実施したことからもわかるはず。VTを導入する際には、所属選手の意識を問うため「あなた達はいまのままで良いのですか？」「会社の方針として（VTを拒否することは）許しません！」とまで言い放った。プロレスラーの本来あるべき姿を追求しているようで、よくよく考えると、かなり常軌を逸した過激な言葉ではある。だって天山なんて、いまのままで十分いいし、永田もいい加減許してあげたほうがいいに決まってるよ！

最近、推し進められているK―1との交流にしても、上井さんが導こうとする方向性、方法論に賛否はあるのはたしかだが、その情熱から吐き出される言葉はそれが気にならないほどパワフル。何しろU―STYLEの「クラフターMは、円の動きが素晴らしい!!」と大絶賛するのだから、その視点のユニークさ、感情移入の仕方は、毒を吐いてるようで薄っぺらい最近のプロレスラーのコメントよりもよっぽど興味深いのだ。

ルール紛糾で騒がれた柴田vs武蔵戦のゲスト解説を務めたときなどは、寝技時間限定ルールに大真面目に「こんなルールじゃやってらんないですよ!!」と怒り心頭でそう吐き捨てた。プロレス内異種格闘技戦という虚構的世界に身を委ねても、まったく照れずにその情熱をガチンコで投げ込む。上井さんは〝過激な仕掛け人〟こと新間寿氏によくたとえられるが、そこには〝ミスター・ガチンコ〟川村社長的な爆発力がある。人間力を試されるプロレスにおいて、上井さんのそれは設置されたハードルを軽々とクリアしているのだ。

109ページの辻よしなりインタビューで、辻アナは上井氏を「博打打ち」と評した。上井さんに博才はあるのか、盆に暗いかはわからない。上井さん自身や周りも、その勝敗の行方がまったく見えてない部分があるかもしれないが、これからもその情熱はすべて、プロレスに賭けられていくことだろう。勢いあまって前のめり突っ伏すことは玉にキズだが、新日本の眠たいストロングスタイルよりも、見続けたいのはそんな上井さんの闘う姿なのだ。

最近ね、健介の夢をよく見るんだよ

【04年1月29日／文・安田拡了】

「健介はWJに行ってから一皮向けた！　最高でしょ」「健介はいいねえ。今年は僕の感覚として健介の当たり年だよ。奥さん（北斗晶）もいいじゃない！　光り輝いてるよぉ」。ターザン山本&吉田豪『格闘2人祭り』では「健介はどのツラ下げて帰ってくるか見たい」とまで言い放っていたが、新日本復帰後の大活躍には大絶賛!!　これは手の平を返してるのではない。健介が新日本を辞めたときは本気で怒っていたし、いまの健介の活躍には本気で喜んでいる。いつ何時全力投球で自分の感情をさらけ出す。健介の夢を見るなんてカワイイ話ではないか。

藤田選手、バンザ～イ!! バンザ～イッ!!

【04年5月22日『ROMANEX』／TBS『格闘王』・新日本勢の控室映像】

サップに激勝した藤田が控室に戻るやいなや、両手を挙げながら腹の底から大声を出して藤田を祝福。素面であそこまで弾けられるのは上井さんだけだ！

俺だったら棺桶まで口をつぐむぞ!!

自分自身 村から離れたら、皆殺しにしていいのか？

【03年12月4日／ターザン山本&吉田豪『格闘2人祭り』】

『泣き虫』出版を糾弾すべく新間寿氏が上井さんとなぜか安田忠夫を引き連れてターザン&吉田豪イベントに登場したが、一番面白かったのは上井さんだ。不快感丸出しで高田に怒りをブチまけるそのエネルギーに、観客は言葉を失った。

アルティメット・クラッシュをやったのは、僕たちが弱いというのを認めた上で懺悔

【『週刊ゴング』No.1021】

「僕たちが弱いというのを認めた上で懺悔じゃないですけども、開き直るわけじゃないけども、さらけ出してもう弱いからって。もう一回やり直すから見てろと」。こんな凄い懺悔は見たことない!!

クラフターMは、あの円の動きが素晴らしい!!

【03年4月2日／U-STYLE記者会見】

世界で一番、クラフターMに注目する男、それが上井文彦である。まさか新日本首脳部の人間がクラフターMに熱視線を送っていたとは。「円の動き」という言葉の響きも素晴らしい！

成瀬VS武蔵は見たい

【『週刊ゴング』No.1021】

宇宙で一番、成瀬昌由を評価する男、それが上井文彦である。その願望は、得てしてファンの希望からは外れることもあるが、上井さんが見たいんだからしょうがないよ！

矢野通は塩の撒き方が立派ですよ

【『週刊ゴング』No.1021】

上井アイは塩の撒き方までチェックしていた!!「キンジ・シブヤまで戻ってる」とまで誉められるから、ガチンコでは新日本最強と噂される矢野は、上田馬之助キャラに変身した甲斐があったというものだ

木戸（修）さんは絶対に強かったよ

【『プロレスの逆襲！』／芸文社】

「木戸さんは喧嘩が強かったから。一回だけ彼が蔵前国技館でマイクを持ったことがあってね。『ふざけんな、コノヤロー』と言ったことがあって、凄いカッコイイとしびれましたよ」。VTを導入したり、ガチプロ志向だったり、木戸修を絶賛したりと、もしかしたらＩ編集長と話が合ったりするのかもしれない。

ボクの前であまりWJの話をしないでくれます？

【03年12月4日／ターザン山本&吉田豪『格闘2人祭り』】

「あそこはボクが嫌いなんじゃなくて、ボクのことが嫌いな人たちの集まりだから」。"ボクは嫌ってない"という意味にはまったく聞こえるわけがない。上井さんがWJというか永島というか長州を嫌ってるかんじがよく伝わってくる。

（VTで）トップレスラーが負けて、力が抜けた部分もあるでしょ？

【『プロレスの逆襲！』／芸文社】

「充分さらけ出したから、これからは何もないじゃないですか。失うものはね。あとは上がるだけですから」。永田や中西は違った意味で脱力してしまったわけだが、トップレスラーの敗戦に、悟りの境地に達したかのようなコメント。熱狂するだけではなく、冷静さも兼ね備えているわけだ。

（5・3ドームは）観客動員という面では最低ですよね

【『週刊ゴング』No.1021】

「ハッキリ言いますけど、格好つけてるというのがありますから。実数の売り上げとしては、下手したら史上最低かもしれない」。前号の『ゴング』巻頭記事でGKが「前売りの数字が乏しくない」が「当日売りが予想以上に伸びた」とのフォローも空しく、とっても素直な告白。業界関係者はこの姿勢を見習うように!!

（ハッスルは）新日本プロレスのいまいる立場からは肯定できない。

【『週刊ゴング』No.1022】

時や場所、状況が違えば、「最近ね、『ハッスル』の夢を見るんだよ」と、夢心地に語っても不思議ではない。

猪木さんはたとえ97点であっても、残りの3点をつかまえてダメだという人なんです

【『週刊ファイト』No.1841】

100点満点だったら「俺が切符を売ったから!!」と猪木さんは言うに決まっているが、上井さんの猪木評は間違いではない。「それがわかっていてもやっぱりボクらは腹が立つんです」という闘志の剥き出し方もグッドだ！

中邑は和製ヒクソンになれる

【『Dynamite!!』アレクセイ・イグナショフ戦決定】

この発言はどうかと思う。

（アルティメット・クラッシュをやるとき）あるトップレスラーが「上井さん、あれプロレスでやるんでしょ」みたいなことを言ってきたことがある。

【『SRS・DX』No.95】

「だからボクは叱り飛ばした」。下衆の勘ぐりには、トップレスラーだろうと上井さんは激怒するのだ。

上井語録

ブルー・ウルフはいつの間にか、ドルゴルスレン・セルジブデになっているんですよ

【『週刊プロレス』No.1205】

「いまは誰が誰についていくか、無政府状態なんですよ。誰も信用できない。下手したら、新日本全体がバトルロイヤル状態」のために、いつの間にかブルー・ウルフがドルゴルスレン・セルジブデに!! 本名に戻した（それも一試合）だけなのに、上井さんが語るとやけにミステリアスに聞こえてしまう。

（中邑はサップに）負ける要素はない!! （柴田vs武蔵は）こんなルールじゃやってられないですよ!!

【5・2新日本プロレス／実況席にて】

とにかく大真面目に吠える上井さん。これだけ情報公開が進んだプロレス界において、マッチメイカーがここまで迫真に迫るのは滑稽さが浮き彫りになってしまいがちだが、それでも前のめりに突っ込むのが上井さん足る由縁なのだろう。

（K-1という）暗黒の世界に飲み込まれそうな感じ

【『週刊プロレス』No.1205】

誰もが危惧している不安は上井さん自身も抱いているが、「新日本の中だけで闘って、それで永田に勝ちました、高山に勝ちましたってやって、何が残るんです？ プロレス内プロレスをやってて」「僕は他に方法論が見当たらない。賛否両論いろいろあるでしょうけど、他にどんな方法があるんだっていうこと」だから、何と言われようがK－1を利用するわけだ。

（K―1MASKは）ブロック・レスナーの可能性もある！

【5・3東京ドーム大会 新日本vsK-1カード発表】

棚橋弘至の相手・K―1MASKの正体を、元WWEの大物と予想した。なぜレスナーがマスクを被ってまで新日本に登場するのかはサッパリわからないし、きっとリップサービスなんだろうけど、上井さんには、本当にレスナーだと思い込んでしまいかねない熱がある。

（中嶋君は）純な少年らしさをも持ち合わせている。猪木さんと対面したときも同じでしたね。

【『週刊ゴング』No.1020】

猪木さんの場合、子供が平気で昆虫を握り殺すような、純粋過ぎるがゆえの邪悪さだよ!! 中嶋君は「本当にマット界の財産だと思うから、大事に育ててやらないと」とも言ってるので安心だけど。

谷川プロデューサーに無効試合にしてもらいます

【03年12月31日『Dynamite!!』／中邑vsイグナショフ戦後の会見】

「（平直行レフェリーは）『アクション、アクション』って言うけどアクションしてるじゃないですか！ たった一発の蹴りでKO？ ふざけんじゃねえ!! だったら後頭部への蹴りにはレッドカードを出すべきでしょ！」。よくありがちな試合後の抗議だが、無効試合を申しつけて、本当に認めさせてしまったこのパワー!! 上井さんが血相を変えて詰め寄り、「んあ～！ 無効試合にしま～す！」と謝る谷川さんの絵が容易に想像できる。

谷川さん、ありがとう！

【『週刊プロレス』No.1200】

何を感謝してるかと思ったら、武蔵の新日本出陣が決定した喜び。「関係者やファンが、まさか武蔵が新日本のリングに出てくれることになるとは思いも寄らないだろう。凄いことになった！」とまで感激する上井さんは、なんて微笑ましいんだろう。

猪木、藤波、坂口のギクシャクした関係をさらけ出すべき!!

【03年9月22日／成田空港】

ビッグサカ人気に猪木復帰も囁かれ、「いまこそ（藤波）社長が一肌脱ぐとき」とドラゴン出陣を呼び掛けたが、それにしてもこの口説き文句は、人間関係を赤裸々にし過ぎだって！ 上井さんらしく非常にストレート。

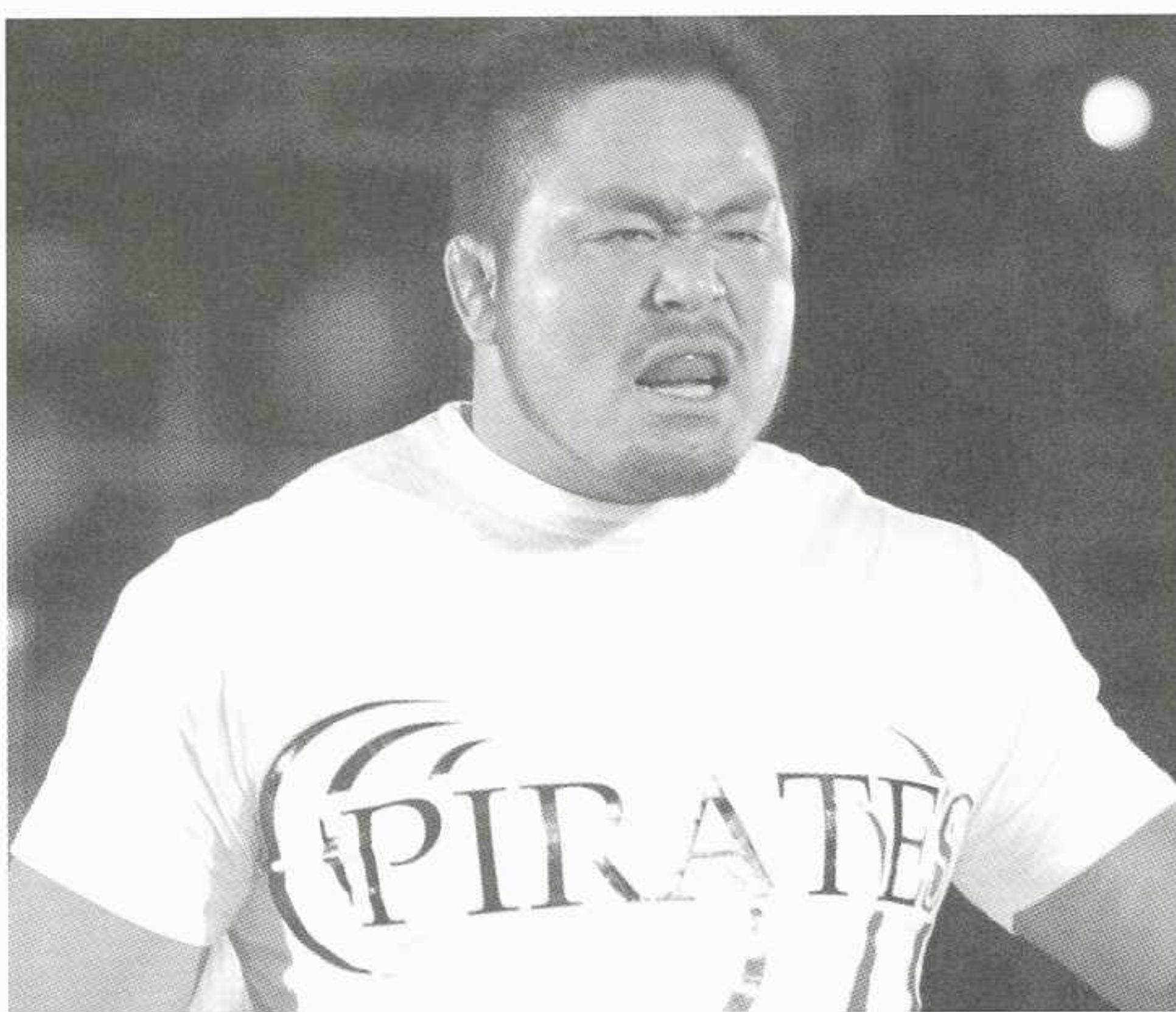
（藤波の引退発言は）コンビニの新聞で初めて知った

【03年11月6日／藤波緊急会見】

世の中の動きをすべて『東スポ』で知る社長といえば我らがドラゴンだが、まさか上井さんも!? 勝手に暴走するドラゴンに皮肉を込めている説も。

サップにプロレスができるなら、曙さんもできるというところを見せるべき

【5月3日ドーム大会に曙をラブコール】

サップをナメてるのか、プロレスをナメてるのか、疑問は尽きない言葉であるが、とにかく「サップの向こうを張りたいなら、プロレスの3本ロープでやってみたらどうだ」「開始ゴングまであきらめない」と、上井さんは曙・待望論を展開していた。

何も喋らない中西の強さ

【2月4日／文・安田拡了】

「一切、何も話さないで帰っていきましたよね。中西学の真骨頂はあれなんですよ」。いかに口を開いていたことがマイナス（『紙プロ』にとっては大歓迎）だったことがわかるし、上井さんがこう言うと、中西が武骨な戦士に思えてしまうから不思議だ!!

辻よしなりが語る

今後の新日本

上井さんは座標軸をつくるために、最大限のチャレンジしている

——『ワールドプロレスリング』中継の実況を務められており、新日本と深い関わり合いを持つ辻さんですが、まずは簡単な上井評をお聞かせください。

辻　博打打ちですよね、上井さんは。麻雀もやるし。振るか？　和了するか！的なところはありますよ。

——最近のマット界では珍しく、全開フルスイングする方ですよね（笑）。上井さんとはよくお話しされるわけですか？

辻　突っ込んだ深い話をしたのはかなり昔ですね。上井さんは麻雀は大好きだけどお酒は飲まないですから、それほど喋る機会はないんですよ。でも、上井さんが新日本の陣頭指揮を執っていくとなったときは、個人的には上井さんがやりたいことは大歓迎だったし、応援したい気持ちはありましたね。

——応援したい気持ちというと？

辻　やっぱり上井さんはプロレスがすごい好きですから。その情熱に対してですよね。いまは新日本内部の状況の変化によって、上井さん自身がプロレスをつくることになりましたけど、たとえば、B取締役とかY取締役とか、蝶野（正洋）もそうだけど、他の人間とイニシアチブに取り合いになって、それで悶々としていた時期もあったと思うんですよね。

——VTの導入しても、周りの猛反対はあったでしょうからね。

辻　いまは上井さんが全面に出てきて、選手のブッキングというか、マッチメイクを任されることになって、上井さんのプロレスへの思いが鉄砲水のように吹き出していると思うんです。そのエネルギーがどこに向かって発射されてるのか？　そこが一番、重要な問題だと思うんですけど。最初に結論言っちゃうけど、「上井さんは間違っているのか？　間違ってないのか？」……それはまだわからないし、どうでもいい！

——どうでもいいですか！

辻　失礼な言い方かもしれないですけど、いまは座標軸をつくるために、とりあえず上井さんがやりたいことを一生懸命やってるんだと思いますよ。最大限の背伸びをして、どこまで持続していけるかということにチャレンジしてるんじゃないですか。

——そのためにはK—1とも絡むし。

辻　賛否両論あるんでしょうけどね。で、マッチメイカーというのものは、ピュアな部分と、したたかな部分を持ち合わせていないとダメだと思うんですよ。ピュアな部分が先行しちゃったりするとファンが興ざめしちゃう。たとえば、谷川さんには飄々としたところがありますよね？　谷川さんがK—1を好きなのはわかるけど、本当は何を考えているのか見えない。

——あの疑わしさが谷川さんの魅力ではありますね（笑）。

辻　そこが上井さんには感じられない部分かもしれないですね。何を出してくるかはわからないところに、ファンがドキドキするわけだから。情熱に関しては谷川さんより上だし、上井さんのキャラクターを否定するわけじゃないですけどね。K—1とやることになったときに、上井さんに「これから大変ですね」って言ったら、「まぁ見ててくださいよ」と笑いながら言ってくれたんですよ。あの笑顔を大事にしてほしいです。破顔一笑な上井さん。いまのK—1に比べれば、新日本には余裕がないところもあるんでしょうけど、あの笑顔のままグサリと突き刺すようなことをやってほしいですね。極端なことを言えば、真っ当な方法じゃなくても、勝つためにもっとズル賢くやってほしいんですよ。

——そういうズル賢さに関しては、谷川さんは一枚も二枚も上に見えますよね。

辻　谷川さんが卑怯だとは言わないよ（笑）。でもそういう雰囲気は醸し出している。昔からプロレス界は政治の世界に例えられてたり、政治家がコミッショナーを務めたことがあったけど、通じる部分があるんですよ。どっちもドロドロした世界。上井さんはいわば政党の幹事長の地位にいるわけですから、もっと老かいにやってほしいというか。博打は打つだけじゃなくて、勝たないといけないものでもありますからね。

——『ROMANEX』では新日本勢が全勝でしたし、上井路線の成果がやっと出てきたところはありますよね。

辻　今後がさらに重要になってきますよ。社会現象になりえるためにK—1を抱き込んだわけですから、この成果がどう出るか。昔の新日本は、猪木さんが社会現象になることを目指してやっていたわけですから、いつ何時、世間を意識していて、言うならば「闘魂イズム＝社会現象」。その志をファンが認めていたわけです。一番、目に見える成果は、猪木さんが乗ってくることですね。うまくいったら猪木さんが割り込んできますよ。美味しい匂いを嗅ぎつけて。

——猪木さんに「俺のおかげで新日本は良くなったというか」ぐらい言わせないとダメですよね（笑）。

辻　もっと美味しくつくらないといけない。いまの新日本って料理にたとえると、男の料理ばかりというか。バーベキューで高級な肉を焼いてさ、さぁ喰え！　え、ソース？　忘れちゃった！　みたいなところはありますから。

——大味も大味すぎる、と（笑）。

辻　特上の松阪牛を持ってくるのは得意だと思うんですよ。でもファンは、一週間煮込んだシチューや、ダシの効いた鯖のミソ煮が食べたいものですから。それは女の料理であって、そんな愛情がこもった料理をもうちょっと狙ってもいいかなって。

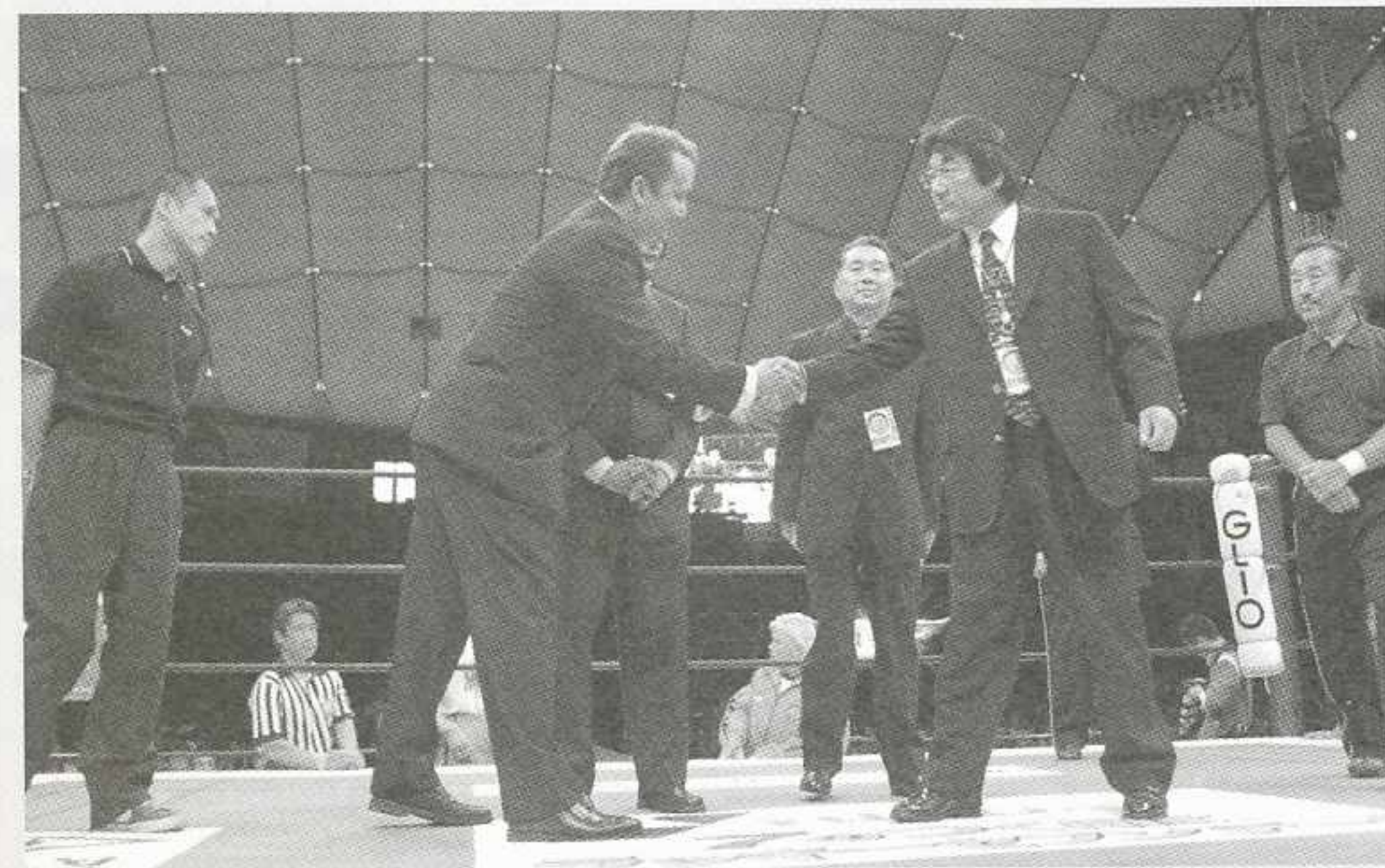
——男の料理的な打ち出しを否定するわけじゃないんですよね。

辻　というか、毎月バーベキューやらない（笑）。せいぜい夏にやって2回でいつも食べたいのは、女が手間暇かけてつくり込んでくれた料理。「じつは、3日前から仕込んであるの」とか言われて、男はバカだからウルっときちゃうんでしょ（笑）。ベクトルの部分がバーベキューに向かうことも大事ですけど、逆に男料理のバーベキューばっかじゃなくて、他団体の選手に頼らずに内部の選手だけで面白くできるはずですからね、いまの新日本は。

——他の団体に比べたら、人材は豊富なわけですからね。

辻　プロレスはそれぐらい枠が広いものだし、狙うのはドラマチックや、サプライズじゃダメ。やっぱりドラスティックじゃないと反響は出ないですから！

——サップのIWGP返上問題なんて、ベルトの価値を下げてるだけで、話題性の意味合いが違いますからね。

辻　ボクは『PRIDE』もK—1も好きだけど、やっぱり新日本に一番頑張ってもらいたい気持ちがありますからね。そのためには陣頭指揮を執ってる上井さんに期待したいです。

『ROMANEX』で藤田和之に心を折られたサップは、IWGPのベルトを返上し、予定されていた6・5新日本大阪大会の防衛戦をキャンセル。この欠場騒動は新日本とK-1の交流にどういう影響を及ぼすのか？

本誌 Back Number

no.08 '94.01
特集 さらば新日本プロレス
仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが「紙プロ」初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！
700yen⇒350yen 50%OFF

no.16 '96.06
特集 新日本凸凹大学校
『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！
780yen⇒390yen 50%OFF

"燃える情念"石川雄規、初の自叙伝!! '00.04
情念〜夢一途なり〜石川雄規
『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長・石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！ 自称"世界一の猪木信者"石川社長が、あまねく全ての人に捧げる珠玉の一冊！ 情念とは何かが分かる本である。
1700yen⇒900yen 50%OFF

no.13 '95.03
特集 道場破りとは何か？
安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／「平成ファミコン・プロレス」馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦
780yen⇒390yen 50%OFF

no.17 '95.07
特集 実況パワフル北朝鮮
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」
780yen⇒390yen 50%OFF

みんなで遊べる付録付き!! '01.04 完売間近
さくぼん
「PRIDE」の会場でも大人気!! サクのすべてがよくわかる桜庭和志初のインタビュー集！ 花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやポスター、動く必殺技「炎のコマ」「炎の人力車」、サクマシン立体組お面など付録がこれでもか！とばかりに付いています！
総238ページ
1000yen

no.14 '95.04
特集 神秘とは何か？
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF

no.19 '95.09
特集 さようなら紙のプロレス
「紙プロ」を偲んで… ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会
780yen⇒390yen 50%OFF

インタビューという名の鉄拳史 完売間近
紙の前田日明
「紙プロ」、「リンタマ」、「紙プロRADICAL」誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！
プロレス、UWF、そしてリングスとは何か？／大山倍達とは何か？／激白！ブライドとは何か？／特別対談 撃墜王・坂井三郎×前田「勝負師とは何か？」／特別対談 イエローキャブ社長・野田義治×前田「巨乳とは何か？」／「バカの壁」著者・養老孟司×前田「脳みそとは何か？」／大和魂徹談・エンセン井上×前田 他、珠玉のインタビュー＆対談が多数収録!!
1575yen

no.15 '95.05
特集 インディペンデントの逆襲
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Ｋ－とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのＫ－１三兄弟（当時）インタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF

極真魂溢れる16人を直撃! 完売間近
極真とは何か？
松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏
1530yen⇒800yen 50%OFF

---

no.58 表紙 武藤&船木 '03.01/880yen
新春特大号!!「明日、また生きるぞ!」な対談の大連発!!
- 夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
- Uスタイル対談 田村潔司×高阪剛
- Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健
- カルガリー師弟対談 ミスターヒト×ハシフ・カーン

no.59 表紙 ヒョードル '03.02/880yen
吹けよ!呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!
- いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
- アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
- 爆発!! WJマグマ語録
- 吉田道場の秘密兵器 中村和裕
- UWFの再興と再考 田村潔司

no.60 表紙 ヒョードル '03.03/880yen
英雄、変貌好む!!『PRIDE』RE・BORN!!
- ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル
- 驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
- あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
- 全日本中継の真実!! 倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04/880yen
5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!
- 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也
- 1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
- プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
- リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05/880yen
誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!
- ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
- 現役復帰間近!? 船木誠勝
- 藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル
- 新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲(イラスト) '03.06/880yen
吉田秀彦が大英断! ミドル級GP出陣!
- 「お前は男だ」劇場炸裂! 高田延彦
- 『PRIDE』REBORNを大総括!!
- 憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー
- 芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

no.65 表紙 ミルコ '03.08/880yen
ヒョードル×ミルコ、闘争本能世界一決定戦!!
- "最後の皇帝"燃え上がる! ヒョードル
- "反逆の鉄刃"、遂に皇帝へ!! ミルコ
- 吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司
- 闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ '03.09/880yen
ミルコ、『武士道』電撃出陣! もはや誰にも止められない!!
- 緊急独占インタビュー! ミルコ
- マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮
- "天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦
- 『東スポ』とは何か? 柴田惣一

no.67 表紙 シウバ&吉田 '03.10/880yen
吉田とシウバ、いざ激突!! 衣(ギ)は赤く染まるか!?
- ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ
- "柔術超獣"復活へ!! ノゲイラ
- 『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー
- アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

no.68 表紙 高田&桜庭&曙&猪木 他 '03.11/880yen
人類史上稀にみる"大晦日・格闘技大戦"!! 白黒ハッキリ決めようやーッ!!
- 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 高田延彦
- 横綱がK-1に殴り込み 曙とは何者か!?
- 一年ぶりの勝利で ニコニコインタビュー 桜庭和志
- "野良犬"『紙プロ』初登場! 小林聡

no.69 表紙 OH砲 '03.12/900yen
大晦日・格闘技大戦&1・4プロレス戦争直前!! 年末年始もドゥ・ザ・ハッスル!!
- 出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也
- 『泣き虫』著者登場! 金子達仁
- 大晦日直前インタビュー! 田村潔司
- アイ アム リアルプロレスラー 美濃輪育久

no.70 表紙 ミルコ '04.01/880yen
年末格闘技大戦&1・4プロレス戦争大総括!! OH,ゴーバー登場!『ハッスル』とは何か!?
- PRIDE征服宣言! ミルコ
- シウバに宣戦布告! 近藤有己
- ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶
- 発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

no.71 表紙 OH砲&高田 '04.02/880yen
プロレスよ、踊れ! 3・7『ハッスル2』は大フィーバー!!
- 『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ
- 待望の『紙プロ』初登場! 川田利明
- 理想のプロレスを追い求める! AKIRA
- スクープ! 幻の猪木vsアミン戦の真実!!

no.72 表紙 ミルコ&ヒョードル&ノゲイラ '04.03/840yen
最強への求道者たち全員集合!! PRIDE・GPに格闘ロマンを見よ!!
- GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル
- 第二のミルコとなるか!? ステファン・レコ
- K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁
- 全て見せます!!『突撃! 佐々木健介邸』

no.73 表紙 小川直也 '04.04/880yen
暴走王が忘れたころにやってきた! PRIDE・GPでハッスルするぞ!!
- GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也
- PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド
- キックの名伯楽登場! 伊原信一
- 魔界のニューリーダー 村上和成

no.74 表紙 小川直也 '04.05/880yen
シュート? ワーク? くだらねえ、次元が違うよ! いつ何時、どこでもハッスルするぞ!!
- PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也
- リベンジロード発進!! 桜庭和志
- "ハードコアのカリスマ" ミック・フォーリー本誌初登場!
- 掣圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

通販申し込み方法

▼バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません。

★電話注文 03-3403-5142
★メール注文(代引きになります) kapra@kamipro.com
★郵便振替 00130-3-769154 (株)ダブルクロス
★携帯サイトからも購入できます
★代引きについてはP160を参照してください。

▼郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記して下さい。
※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

▼送料
1冊＝310円、2冊＝380円、3冊〜4冊＝450円
5冊＝520円、6冊以上＝700円

紙のプロレスRadical 常備店

- アイドール新宿店
- 新宿ファイター
- 大山アメリカン
- プロレスマニア館
- チャンピオン
- リングスパレス
- バディスラム
- タコシェ
- レッスル池袋
- 書泉ブックマート
- 書泉ブックタワー
- 書泉グランデ
- グレートアントニオ
- 東京イサミ

Radical Back Number

宇宙一サクがわかる本！『さくぼん』は売り切れ間近ですよ！

『さくぼん』の詳細は右ページをご覧ください

バックナンバーは電話で注文できます!!

03-3403-5142

【平日PM15：00～22：00 （株）ダブルクロス】

『さくぼん』と併せてどうぞ!!

no.43 サクと『PRIDE』のケツに火がついた!! シウバとの再戦の意気込みを語りまくる!
- PRIDEとプロレスに咆哮三昧！ 小川直也
- 金原×サスケの新日本プロレス学校・爆笑同窓会
- 野武士が見た内側からのUWF 中野巽耀
- トリックスター初登場！ 須藤元気

'01.10 / 880yen

no.50 サクが笑えば、世界が笑う! 50号突破記念・桜庭和志特別インタビュー!!
- OH砲が本格発進！ 小川直也&橋本真也
- 無敵のヒョードルとリングスロシアの軌跡
- 問題のアレク戦を独占激白!! 菊田早苗
- 邪道議員が暴露本に答弁！ 大仁田厚

'02.05 / 880yen

no.53 伝説の『Dynamite!』直前号! 僕らのサクがミルコ征伐に立ち上がった!!
- 『LEGEND』で圧勝！ 小川直也
- 激談、プロレス馬鹿一代 高山善廣×美濃輪育久
- クレイジーMAX全員集合インタビュー！
- 新日本プロレス出場の真意とは!? 高坂剛

'02.08 / 880yen

no.64 灼熱の『PRIDEミドル級GP』直前号! 3度目のシウバ戦に臨むサクの覚悟を読み解け!!
- 『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー
- “異次元格闘技戦”田村×吉田を大展望!!
- ミスター高橋の盟友が“猪木の裏側”を激白！
- スマックガール・ビキニ特写!!

'03.07 / 900yen

---

no.15 表紙 小川直也 '99.02 / 840yen
リアル・アルティメット・クラッシュ!! 小川 vs 橋本“1・4事変”勃発!!
- あの“1・4事変”を徹底大検証!!
- “前田日明・最後の相手” アレキサンダー・カレリン
- 引退記念雑談会「語ろうマサ・サイトー！」
- S多重アリバイ 佐野雄飛

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03 / 780yen
格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!
- 環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
- 完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
- 相撲多重アリバイ 石川孝志
- マーク・コールマン

no.29 表紙 秋山準 '00.07 / 840yen
「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!
- 三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- プロレススーパースター列伝 仲野信市
- 本誌独占ジャンボ鶴田夫人 最愛の夫の真実を語る!!
- TKおかん

no.30 表紙 小川&村上&アントン '00.08 / 840yen
サク vs ヘンゾー戦直前! 燃えよ! 闘魂の火種!!
- 平成のテロリスト 村上一成
- ケンドー・カシン暴言ファイル
- プロレススーパースター列伝 永源遙【前編】
- 長州力座談会

売り切れ寸前!!

no.32 表紙 小川直也 '00.10 / 840yen
針はどちらに向くのか!? 新プロレス vs 純プロレス開戦!
- 田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ドラゴンの大爆笑10 藤波語録
- プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
- “和製カレリン”本田多聞

no.34 表紙 小川直也 '01.01 / 840yen
『猪木祭り』開幕ーッ!! プロレスは「闘い」を忘れたときに老いていく!
- UFCミドル級王者 ティト・オーティズ
- プロレススーパースター列伝 ミスターヒト
- 修斗から『猪木祭り』へ！ 宇野薫
- ボブチャンチン&オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン（イラスト） '01.02 / 840yen
「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号
- ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- “ノアの怪物”杉浦貴
- UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也（イラスト） '01.02 / 840yen
新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!
- ノアから独立！ 高山善廣を確認せよ!!
- ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言
- W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
- 吉田豪に“ドラゴンの呪い”が襲う!!

no.37 表紙 小川直也（イラスト） '01.04 / 840yen
小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
- 安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る！
- アブダビコンバット2001一大探検記！
- シュート活字×ファンタジー活字
- 他に比類なきプロレスがWWFにはある！

no.38 表紙 高田（イラスト） '01.05 / 840yen
小川と長州、どちらが孤独だったのか!?
- 忘れ物の正体は――。高田延彦
- ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- プロレススーパースター列伝 阿修羅原
- 死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明 '01.06 / 840yen
どうなるんだ、リングス! 前田 is デッド!?
- 前田道場新エース・金原弘光
- 怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会
- 壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07 / 880yen
猪木軍 vs K-1に見たいものは“地上最強のプロレス”
- 蘇れ！Uインター&キングダム伝説！ 高山善廣×金原弘光
- 熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎
- プロレススーパースター列伝 グラン浜田
- グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08 / 880yen
Can you カミングアウト? “最後の黒船”WWF襲来!
- リングス10周年！ ヴォルク・ハンが振り返る
- 真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現！
- W☆INGの真実・茨城清志
- 毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09 / 880yen
猪木なら何をやっても許されるのか!?
- ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- “ヒャッホーの真実”辻よしなり
- 蘇れ！UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- 誇り高きルチャ戦士 カト・クン・リー

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11 / 880yen
サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か？
- その修羅場の数々！ シーザー武志
- 怪物伝承対談！ 高山善廣&杉浦貴
- ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- 闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12 / 880yen
「K-1 vs 猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!
- 悪魔の書、現る！ ミスター高橋
- ジェラルド・ゴルドー人生相談
- プロレススパースター列伝 グレート小鹿
- 語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen
WWE日本侵攻5秒前!
- “天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！
- 噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る！
- 第一次リングス閉幕特集
- プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03 / 880yen
見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
- 奇跡のメガトン対談！ 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー
- 和田最強伝説が遂に現実に！ 語り部・金原弘光
- 伝説の男が笑撃の登場！ ジョー・サン
- WWEを知る男 ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン&小川&桜庭 '02.04 / 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!
- 和田さん快勝記念対談！ 高山&金原&和田
- アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
- 破壊王も火のヤリ特訓！ 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行！
- ビッシビシいくわよ!! 小畑千代

no.51 表紙 橋本真也 '02.06 / 880yen
ZERO-ONEに願いを!
- 両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也
- 『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子
- 天才が悩みに答える！ 武藤敬司人生相談
- 新・超獣 ザ・プレデター

no.52 表紙 OH砲 '02.07 / 880yen
見えない鎖を引きちぎれ! 小川直也リング外での暗闘!!
- 全身プロレスラー・高山善廣
- USAの渡世人ドン・フライ
- 『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
- 戦慄の『LEGEND』前夜！

売り切れ寸前!!

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08 / 880yen
不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!
- “首の皮一枚”ホイス&エリオグレイシー
- “青い目のケンシロウ”ジョシュ・バーネット
- 純プロ頂上対談！ 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
- 猪木とは何か？ アントン実兄・猪木快守

売り切れ寸前!!

no.55 表紙 高田延彦&田村潔司 '02.09 / 880yen
高田×田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!
- 「真剣勝負」発言から7年!! 田村潔司
- 実力者、遂に『PRIDE』登場！ 金原弘光
- メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
- 靖国神社で興行開催!! 佐山聡

売り切れ寸前!!

no.56 表紙 Uインター '02.10 / 840yen
愛すべき若気の至り!! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!
- 田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け！ 高田延彦
- 蘇れ！Uインター伝説!! 安生&金原&高山
- 高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド
- 『紙プロ』に風がふくぜぇ～！ 鈴木みのる

売り切れ寸前!!

no.57 表紙 高山善廣 '02.11 / 840yen
一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!
- サップと地球規模のタイマン勝負!! 高山善廣
- 新たなる“U”が始動!! 田村潔司
- 悪魔の書、再び！ ミスター高橋×大槻ケンヂ
- “北尾戦・セメントマッチの真実” ジョン・テンタ

ビンス・マクマホン徹底研究連載

KISS MY ASS CLUB Vol.5

ここ最近、すっかり画面に登場する機会が減った我らがビンスは「悪のオーナー」キャラから善悪を超越した「WWEのオーナー」に姿を変えつつある。本誌はビンスの微妙な変化も捉えながら、「悪」の部分にもこだわり続けます!

僕らが愛するビンスの悪行をプレイバック!!

あの素晴らしいビンスをもう一度

第1回

「世間知らず！ クソ野郎！ 死ね！」狂乱ビンスがストーンコールド潰しを画策!!

1998年9月27日PPV「BREAK DOWN」～28日「RAW is WAR」より

文／阿部タケシ

98年の『レッスルマニア14』以降、ストーンコールド（以下SCSA）の姿を見るたびに「吐き気がする！」と言い続けるビンスは、「マスタープラン」なる計画を練った。「SCSAからベルトを奪える最良の方法」だとビンスは得意げに語るが、アンダーテイカーとケインの破壊兄弟を結託させ、SCSAからベルトを強奪するという実に安易なもの。さらにビンスは「SCSAから俺を守れ！　そして兄弟喧嘩は厳禁！　これを守ったらベルトをくれてやる」と、実に自分に有利な事項を追加し、破壊兄弟の懐柔に成功。そしてPPV『BREAKDOWN』をむかえた。

SCSAを叩きのめし、計画完遂寸前だった破壊兄弟とビンスだったが、SCSAを羽交い絞めするケインに、テイカーのパンチが誤爆。ここから「マスタープラン」が音を立てて崩れ始め、テイカーとケインは仲間割れに。最後はグロッキーのSCSAに破壊兄弟は、ツープラトンのチョークスラムを炸裂させ、兄弟同時にSCSAに覆いかぶさった。レフェリーはカウント3を数え、試合はうやむやのまま終了。とにかくSCSAの敗北に喜んだビンスは、ベルトを強奪し、「マスタープラン」大成功を喜んだ。サディステックに「欲しいか！　欲しいか！」とSCSAに絶叫するビンスは、リムジンの煙を残し、会場を後にした。

翌日の『RAW』でビンスは、見事にベルトを強奪したことをファンに報告。さらにSCSAが勝手に作って保持していたスカルベルトを回収し、新たにベルトを発注していた。そして肝心の王座の行方だが、兄弟同時フォールという裁定は無効とし、王座は空位という、都合のいい結論を発表した。

番組中盤、再びリングに上がったビンスの目に飛び込んだのは、パイロンやガードレール、さらには撮影用の照明も轢き壊し、会場内を徘徊する巨大な製氷車。ドライバーはSCSA！　製氷車はリングめがけて突進し激突！　座席から飛び出したSCSAは、リング上のビンスに飛びかかってパンチ連射！しかし、すぐさま数十人の警察官に取り押さえられたSCSAは、ブタ箱入りの憂き目となった。ビンスはヘロヘロになりながらも「世間知らず！　クソ野郎！　死ね！」と大絶叫！　SCSAの乱入で王座戴冠式は一旦お開きとなった。

番組終盤、昨日の功労者であるアンダーテイカーとケインを呼びつけたビンスは、「マスタープラン」の最重要事項である「ビンスをSCSAから守る」という部分を指摘し炎上！「次回PPVで兄弟の勝った方を王者にしてやる！」と一方的に言い放った。さらに腹の虫が収まらないビンスは、兄弟への制裁とばかりに、ケン・シャムロック&マンカインド&ロックとのハンデ戦をこの日のメインに決定した。ビンスは兄弟に「ハンデ戦は余裕で勝てるだろ？　ケインは肉体的ハンデの持ち主、テイカーは精神的ハンデの持ち主だからな！」と人格差別とも取れる発言！　この発言にテイカーはビンスの首を掴み凄んでみせたが、王座を手中に収めたい為にグッとこらえた。ここで帰ればいいものをテイカーが視線を反らした隙に、ビンスは両手の中指をおっ立てる暴挙！　テイカーが踵を返しビンスに視線を戻すと、ビンスは中指を立てたまま硬直！　そのポーズを見たテイカーはビンスに飛び掛りマウントを取り、顔面パンチを浴びせ、なんとアキレス腱固めを敢行！　ビンスの足はグシャグシャに破壊され、救急車に運びこまれた。

結局、「マスタープラン」はビンスの身勝手な行動の連続で、早々に空中分解。SCSAはおろか、破壊兄弟との確執を生む最悪の計画となってしまった。

「いい子ぶってる」とHPに書き込みされたくらいで同級生を殺めてしまう小学生がいる時代。冗談だけど、その程度でいちいちマジギレしてたらトーリー・ウィルソンなんてどうなっちゃうの、なんて思う。しかし子供には洒落が分からない。洒落が分かる大人で良かったなあと実感。そういう人がWWEをこよなく愛するのだろう。

　長らくプロレス界はベビーフェイスvsヒールの図式で対立構造が作られていた。

「しかし今は違う。グッドvsバッドではなく、グッドvsグッドなのだ。我が社のレスラーの魅力はそこだ」

　ビンス・マクマホンはそう胸を張る。従来のでっぷりした体型の悪役は、もういない。全員がグッドシェイプ、まあまあイケメン。90年代後半の「アティテュード」路線以降のWWEは、ベビーにもヒールにもなれるスーパースターを多数輩出してきた。トリプルHなどは、その典型。役柄次第で英雄も悪漢もOK。客はその時々のストーリーを楽しめばいいのだが、時折物足りなさも残るのも事実。心から嫌いたくなるヒールが、なかなかいない。立派すぎて直情が沸かない夜もある。

　久しぶりに嫌な奴が出たなあと感じるのが『SMACK!』のジョン・ブラッドショー・レイフィールド（JBL、元APAの一員）。いわゆるWASPのアメリカ移民で、カラードの移民を徹底的に嘲笑する差別主義者。本業は証券アナリスト（しかも事実）。こいつの発言がいちいち、生来反権威主義の筆者の気に障る。

　標的にされるのが、ついつい不法入国の問題が取りざたされるメキシコ人の英雄、エディ・ゲレロ。自由の女神をバックに、JBLはのたまう。

「合法的な移民が最初に目にしたもの、それが自由の女神。エディの民族の光景とは違う。彼らは夢を追って来たのでなく、この国から搾取するために不正入国を果たした。ところがどうだ。今や学校ではスペイン語を教える始末。不正入国者は英語を学ぼうとしない。我らの血税が、やつらの懐に転がり込む。今こそアメリカを奪回する時だ。JBLをWWE王者に！　君達にサポートしてほしい。米国が誇る資本主義を取り戻そう。アメリカ的な生活を守るんだ！」

　ネオコン支持派が狂喜しそうな大馬鹿発言。アメプロの伝統＝差別ネタが盛大に復活し、ビンスもこのプロットに大乗り気と聞く。寸前で中止されたが、鈴木健想の最初の役名は何と日本からの侵略者＝ヒロヒトだった。そんなもの、右翼の攻撃が危ない。区別と差別の一線を分けなく越境してしまうビンスの想像力は相も変わらず、キ○ガイだなあ、と感心するというか大（苦）笑いするのである。

　世界で最初にバンプを取ったプロモーター＝ビンスはプロレスを知り尽くしている。レスリングの技術的な秘密さえ、取材の場で解説してみせる。

「例えばリキシが金網の上から君にダイブするとしよう。君を壊さないようにするのはリキシの責任だ。こういう時は、君は自分を相手にギブする。俺の命をギブするよ、と念じるのだ。ボディスラム一発だって君は命を預けないといけない。万が一、顔からマットに落ちたとしたら体がマヒするか死んでしまうからね」

　藤圭子「命預けます」が聞こえてきそうな、何とも『キル・ビル』的風景が似合う発言。さらに解説は続く。

「レスリングにトリックはあるか？　トリックじゃない、ハードな訓練だ。WWEは〝バックヤード・レスリング〟とは違う。身体学を考えてみたまえ。君がエルボードロップを打つ時に全体重をヒジにかけたら、ヒジはグシャグシャになるだろう。マットに落ちる時、背中から、できたら脚も同時に着地する。すると衝撃を散らすことができるし、ケガもしない。君は立ち上がり闘いは続くのだ」

　ビンスはレスリングの先生でもあった。馳浩並みにフィーリング・グッドである。

「プロレスってルールがあるようでない。自分の判断でルールを解釈する。しかも相手を思いやりながら。受けの美学って、相手の技がきれいに見えるという思いやりも手伝ってこその美学だよ。だからプロレスは、自分の中の〝善〟なる部分を互いに出し合うものだと思うよ」

　武藤敬司のこのプロレス観が、個人的には非常に好きだ。「善なる部分」という言語感覚がいい。そうして互いに命を預けあうスペクタクルを、例えば2時間のTV番組に詰め込んだのが『RAW』であり『SMACK!』なのだ。ザ・ロックはWWEの世界を、こんな風に形容する。

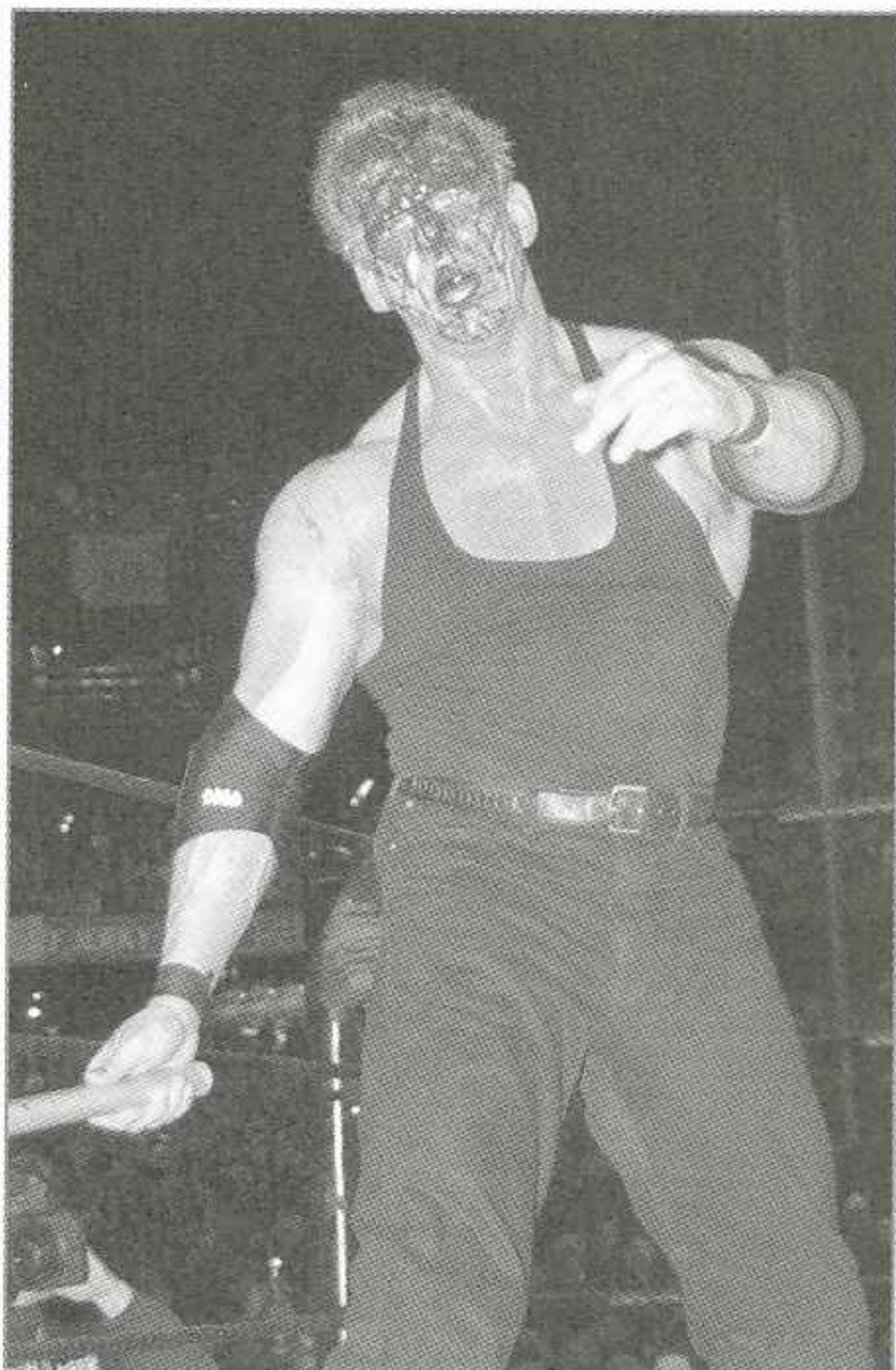
「WWEはエンドロールのない2時間の映画だよ。作品の中で僕は究極のベストを尽くし、人々を感情的なローラーコースターに乗せてしまいたいのさ」

　『RAW』に移り見事な活躍を見せるTAJIRIも『週プロ』インタビュー（NO.1206）で**「ビンスはレスリングを映画のように見ている。僕らが大事とするのは表情であり、しぐさであり、試合の中のストーリー」**と話している。

　グッドvsバッドがアメプロの始まり。ビジネスマン＝ビンスとリング上のキャラ＝ミスター・マクマホンの対比を持ち出すまでもなく、元々彼の中にベビーとヒールの要素が混在している。ゆえにWWEは今日も〝ラブ、チート&ファイト〟の人間劇場を増幅していけるのだろう。アスレチックな競技で、カリスマがあって、ソープオペラのようで、ユーモラスで、アクション・アドベンチャーでもあると自己紹介をするWWE。頭の中でパンクすることはないか、という質問について、ビンスは答える。

「我々が目指す場所に限界はない。あらゆる要素を20フィート四方のリングの上に吐き出し、個性を発揮してみせる！」

　ビンス・マクマホンはこの8月、満59才を迎える。まだまだロッキングチェアで余生を送る気はないらしい。ビンビン。

Photo／George Napolitano

映画みたいなプロレスとは何なのか？　たとえば、このビンスのたたずまい。『レッスルマニア19』でハルク・ホーガンと対戦、頭をカチ割られ大流血。フラフラになりながらも目の奥は爛々と輝き、手に持った鉄パイプに殺意を宿す。理想のプロレスというものを身をもって体現し続ける男、それがビンス・マクマホンの凄さなのだ。

ビンス・マクマホン徹底考察 第5回

技術論からアングルのさじ加減まで ビンスが語るプロレスの秘密

文／長谷川博一

ビンス・マクマホン目撃証言集

私は見た!!

ジョージ・ナポリターノ氏はアメリカのプロレスマスコミにおけるリビング・レジェンドだ。生粋のニューヨーカーで、WWE時代からリングサイドでバリバリ撮影するカメラマンである。当然、NYを本拠地とするWWE、つまりビンスとも関係が深いんです! というわけでビンスの話をeメールにてうかがいました。

文/長谷川博一

――「レッスルマニア20」以降、次々に新人を紹介し、新たな攻めに出たWWEのビジネスが上がっていると聞きました。

「それは事実だよ。今年の『レッスルマニア』以降、動員が増えている。多くのファンはエディ・ゲレロやクリス・ベノワが新しい王者であることを喜んでる。TVでは今の好調ぶりが分かりにくいかもね」

――現在のWWEをどう思います?

「ちゃんとしたライバル団体がないのはアメリカではデメリットになる。でもファンは時折、他の団体を見て、やっぱりWWEの方がいいと思ってるみたいだ」

――ナポリターノさんは71年に日本のニコンのカメラを買ってプロレスリングを撮り始めたんですよね。

「そう。年齢は内緒(笑)。ビンスより、ちょっと下かな。僕はブルックリン生まれで今もそこに住んでる。だからレスリングの写真を撮り始めたのもMSGの試合だった」

――羨ましい!! WWEのオフィシャル・カメラマンを長らく務めるにあたって、仕事上の取り決めとか制限はありますか。

「今はカメラマンはバックステージやドレッシングルームの写真を撮ることを禁じられてる。中に入れるのはWWEのスタッフだけ。以前は、そうした制限はなかった。70年代や80年代は仲良しのレスラーと一緒に旅をしたり、ドレッシングルームで話し込んだりもできたけど。なので今時の新しいレスラーと知り合える機会がなかなかないんだよ」

――ビンスについて聞きます。初めて会った時の印象はどうでした?

「もう30年以上前になるかな。彼がWWFのTVアナウンサーを務めていた時さ。ビンス・シニアの息子さんだし、いずれは父親のビジネスを受け継ぐのだろうと思ってた。70年代前半は必死に働いて、レスリング・ビジネスの全てを学ぼうとしていた。アナウンサーから始まって、父のマッチメイクを手伝うようになって、ボストンとその近郊の大会のプロモーターを務めるようになって」

――ビンスがレスリング・ビジネスのトップに君臨する理由は何でしょう。

「だってこのスポーツに全人生を賭けてるんだから。プロモート、マーケティング、ありとあらゆる業務に長けている。どんな質問をされても、ビンス自身が答えられる。他の団体は往々にして、誰かスポークスマンを雇うものだけど。ビンスは自分に全ての決定権があるから、親会社にお伺いを立てる必要がないしね」

――言われてみるとそうだ。他のプロモーターとの違いも、そこでしょうか。

「だろうね。例えばエリック・ビショフがWCWのブッカーをやってた時だって、彼はテッド・ターナーに雇われている訳だし、逐一親会社のTBSに報告をしなくちゃならなかった。ビンスは自分で好きなことができる。WWEのファイナルワードは彼が握っているのさ!」

――彼の"怖さ"って何でしょう。

「そうだな、畏(おそ)れを知らないことが彼の怖さかな。やりたいことをやるし、決定を下した後は滅多に後悔しない男だし」

――畏れを知らないのがビンスの怖さ。頂きます! この頃リング上に登場しないけれど、裏で何をしてるんでしょう。

「新しいタレントが続々登場してる最中だから、彼は後ろに引っ込んでる。でかいアングルに参加したら、エディもベノワも霞んじゃうじゃないか(笑)。でもスポットライトを浴びるのが元々好きだし、今だと思ったら、また絶対に出てくるよ」

――マクマホン一家で特に仲の良い人は誰?

「誰とでも気さくに話すよ。ビンスとだって会場の外では談笑するし。シェーンは赤ちゃんの時から知ってる。何か聞きたいことがあったら、シェーンに尋ねることが多いかも知れないね」

――NYのレスリングを愛し続けて、この道30年余り。歴史上、貴方が最も優れたレスラーと感じる人は誰ですか。

「難しい。難しすぎる(笑)。時代時代でさまざまなスーパースターが君臨したからね。僕のアイドルはブルーノ・サンマルチノだった。スーパースター・ビリー・グラハムもカリスマがあってサイキックな魅力があった。ミル・マスカラスは、それまでのどのレスラーとも違う印象だった。82年には日本で初代タイガーマスクを見た。体は小さいのに今まで見たことのない動きをする選手だった。ハルク・ホーガンはプロレスリングの認知度を、これほどまでに高めた大立て役者。ザ・ロックも素晴らしい。しかし歴史の先はミステリーだ。きっとこれからも思いがけないスーパースターが現れるはずだよ」

ビンスの怖さ? 畏(おそ)れを知らないことが彼の怖さだろうね やりたいことをやるし、決定を下した後は滅多に後悔しない

今月の目撃者

リングサイドでカメラを構え続けて30年以上!!

ジョージ・ナポリターノ

「MSGにニコンのカメラを持って行ったら、リング・レスリング・マガジンのライターに声をかけられたんだ。その翌月、編集者に紹介されてオフィシャル・カメラマンにならないか? と持ちかけられたんだ」といった経緯でプロレスのカメラマン兼編集者に。いままで10冊の本を書き、昔から『ゴング』『ファイト』の海外通信員として本場のプロレスを日本に紹介してきたナポリターノ氏(写真左)。(『ファイト』で現在も活躍中)。大リーグ・NYメッツの撮影も行っている。写真は友人のスタン・ハンセン(右)と共に。

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

じめじめした梅雨をぶっとばす仰天情報てんこ盛り!!

リングスオランダ万歳！『一撃』に出場し、極真ルールにも関わらず、顔面パンチ連発の無法ファイトのナイマン。多分に踏み台チックな扱いに対し「そうはいかん」と時代に抗わんとするオランダ魂にシビレました。担当はサイノです。押忍!!

Close UP!

今月はK-1とパンクラスの韓国大会をClose Up!

韓国VTは『グラジエーター』だけじゃない！K-1とパンクラスがソウルで興行戦争！

K-1とパンクラスが、韓国に同時進出を果たす！

K-1は7月17日、韓国で『K-1 WORLD GP 2004 in SEOUL』を開催し、アジア最強の座と、9月25日のGP開幕戦出場権を賭けた8選手によるワンデイ・トーナメントを行う。1日3試合という過酷なトーナメントの出場を決めた曙は「100%とは言えないが、98%優勝する」という、どこからくるか分からない自信をみなぎらせV宣言。曙の1回戦の相手は"朝青龍の兄"ドルゴルスレン・スミヤバザル。"元・横綱"vs"現・横綱の兄"という夢の対決が実現する。谷川K-1イベントプロデューサーはテコンドー、ムエタイ、散打などアジア各地から強豪選手が出場することを発表し、更には身長2m18cmの韓国相撲シルム王者チェ・ホンマンの獲得も視野に入れていることも示唆。K-1にまたしてもモンスターが登場するのか!?

一方パンクラスも後楽園大会の試合後、尾崎社長がパンクラスが韓国へ進出することを発表した。K-1韓国大会と同日の7月17日、ソウルのオリンピック体操競技場で開催し、パンクラス無差別級選手権が行われ、王者ジョシュ・バーネットにティム・レイシックが挑戦する。ロン・ウォーターマン、ハー・スン・ジン、韓国VT大会『ネオファイト』のトーナメントで勝ち上がっている渡辺大介らが出場予定。

美濃輪育久、滑川康仁、松井大二郎ら出場する6月末の『Gladiator Fighting Championship 2004』、7月17日にK-1とパンクラス。この夏、韓国の格闘技界が熱い!!

『K-1 WORLD GP 2004 in SEOUL』
■日時　7月17日（土）　15:00試合開始（14:00開場）
■会場　韓国ソウル・ジャンシル体育館
■出場予定選手
【アジアGP】曙、ドルゴルスレン・スミヤバザル 他
【スーパーファイト】レミー・ボンヤスキー、ピーター・アーツ、TOA他

K-1が静岡に上陸JAPANトーナメント開催！『K-1 BEAST 2004』
■日時　6月26日（土）　試合開始16:30
■会場　静岡・エコパアリーナ
■チケット　SRS席 20000円／S席 12000円／A席 6000円
■出場予定選手
ボブ・サップ、武蔵、中迫剛、富平辰文、天田ヒロミ、藤本祐介、堀啓、子安慎悟、ノブ・ハヤシ、モンターニャ・シウバ、バタービーン、マイク・ベルナルド他

パンクラス韓国大会　■日時　7月17日（土）　■会場　韓国ソウル・オリンピック体操競技場
■決定対戦カード
【キング・オブ・パンクラス無差別級選手権】【王者】ジョシュ・バーネットvsティム・レイシック【挑戦者】
■出場予定選手　ロン・ウォーターマン、ハー・スン・ジン、渡辺大介他

近藤有己出場！シウバ戦の前哨戦は誰に!?『PANCRASE 2004 BRAVE TOUR』
■日時　2004年6月22日（火）　試合開始18:30（17:30開場）　■会場　東京・後楽園ホール
■チケット（当日500円up）　SS席 12000円／A席 9000円／B席 6500円／C席 5000円／D席 4000円／立見 3500円
■対戦カード
【ミドル級戦　5分3ラウンド】◎ネイサン・マーコート（コロラド・スターズ）vs 石川英司（パンクラスGARABAKA）
【ライトヘビー級戦　5分2ラウンド】◎郷野聡寛（パンクラスGARABAKA）vs 栗原強（team ROKEN）
【ミドル級戦　5分3ラウンド】◎竹内出（SKアブソリュート）vs 渋谷修身（パンクラスism）
【ミドル級戦　5分2ラウンド】◎佐藤光留（パンクラスism）vs 井上克也（RJW/CENTRAL）
【ウェルター級戦　5分2ラウンド】◎大石幸史（パンクラスism）vs 倉持昌和（フリー）
【フェザー級戦　5分2ラウンド】
◎砂辺光久（HYBRID WRESTLING武∞限）vs 亀田雅史（総合格闘技道場コブラ会）
【無差別級戦　5分2ラウンド】◎IRO関（パンクラスMEGATON）vs 折橋謙（フリー）
※現ライトヘビー級王者・近藤有己（パンクラスism）が出場予定！
■問　パンクラス　03-5792-0815　■HP　http://www.pancrase.co.jp/

Fight & Ticket

試合・大会情報

ZERO-ONE新シリーズ開幕! 髙田モンスター軍がシリーズ参戦!!

ZERO－ONE次期シリーズの25日後楽園大会から髙田モンスター軍が参戦！ ダン・ボビッシュは過去WJに参戦しながら、財政困難に陥ったWJに一方的に解雇された外人選手をモンスター軍に加入。ボビッシュは長州を“無責任男”となじり、その長州と組んでいる橋本も同罪とみなし、恨みパワーで両者に襲いかかる。果たして長州と橋本は、ZERO－ONEに乗り込んできた髙田モンスター軍を撃退することができるか!?

■次期シリーズ日程　◎6月　17日(木)宮城・宮城県スポーツセンター(18:30)／25日(金)東京・後楽園ホール(18:30)／26日(土)長野・駒ヶ根市体育館(18:00)／27日(日)栃木・矢板市農業者トレーニングセンター(18:30)　◎7月　1日(木)福井・福井市体育館(18:30)／2日(金)福岡・ツインメッセ静岡(18:30)／3日(土)群馬・安中市総合体育館(18:30)／6日(火)長野・長野運動公園総合体育館(19:00)／9日(金)東京・後楽園ホール(18:30)／10日(日)新潟・新潟市体育館(18:30)

■問　ZERO－ONE　03-5730-3401　■HP　http://www.zero-one.to/

辻ちゃん凱旋! スマックガール大阪大会!! 『SMACKGIRL 2004～GO WEST～』

スマックガールが大阪に初進出を果たす。地元に凱旋する辻結花の相手は、ネクストシンデレラトーナメント決勝を控えている川畑千秋。女子格界の現エースに、次代のエース候補が挑む。新婚さんの近藤有希（旧姓・久保田）は、昨年の柔術青帯パンアメリカン王者サラ・ボイドとの対戦が決定。Red Devil KIS'Sの3姉妹も揃い踏みだ!!

■日時　6月19日(土)試合開始17:00(16:00開場)

■会場　大阪・アゼリア大正
(大阪市大正区小林東3-3-25／06-6552-9713)

■チケット(当日500円up) SRS指定 7000円／RS指定 5000円

■対戦カード　◎近藤有希(PUREBRED京都) vs サラ・ボイド(サンタフェ・アカデミー)
◎辻結花(総合格闘技闇愚羅) vs 川畑千秋(Red Devil KIS'S)　◎菊川夏子(ライルーツコナン) vs たま☆ちゃん(SOD女子格闘技道場)
◎松本裕美(PUREBRED京都) vs 石山絵理(Red Devil KIS'S)　◎おっさん(総合格闘技闇愚羅) vs バッカス羽鳥(BBdoll)
◎井上明子(総合格闘技道場コブラ会) vs 坂本奈緒子(Red Devil KIS'S)　◎吉田正子(NATIVE SPIRIT) vs 羽柴まゆみ(BBdoll)

■問　スマックガール実行委員会　03-3324-8790　■HP　http://www.smackgirl.com/

東北Jrヘビー級選手権 サスケ vs 藤田ミノル決定!

常々サスケをバカ社長（現在は会長）呼ばわりしてきた藤田と、藤田に鉄拳制裁の機会を窺ってきたサスケ。因縁の二人が遂にシングル一騎打ち！　そして健介が中嶋クンと健心を率いて山形に上陸。スーパーJrを経験した中嶋クンが“東北の鉄人”ディック東郷に挑む一戦は要チェック！

■日時　6月13日(日)試合開始15:00

■会場　山形・山形市総合スポーツセンター

■チケット(当日500円up)　特別リングサイド 5000円／リングサイド 4000円／指定席 3000円／小中高生／自由席 1500円(当日のみ販売)
※未就学児・65歳以上入場無料(要身分証明書)

■対戦カード
東北Jrヘビー級選手権　【王者】ザ・グレート・サスケ vs 藤田ミノル【挑戦者】
◎新崎人生 & 湯浅和也 vs 佐々木健介 & 健心　◎ディック東郷 vs 中嶋勝彦

■出場予定選手　折原昌夫、マッチョ★パンプ、日高郁人、気仙沼二郎、はやて、つぼ原人、北海珍念、池田誠志、守部宣孝、井上治

■問　みちのくプロレス　019-626-1333

■HP　http://www.michipro.net/www/

全日本プロレス愛知大会 三大タイトルマッチ決定!!

『ハッスル3』でミック・フォーリー相手に三冠を死守した川田利明に新たな刺客！『チャンピオンカーニバル』では武藤敬司から金星を奪ったジャマールが川田の三冠に挑戦する。川田は全日No1ガイジンに登りつめたジャマールを相手に王道を守ることができるか!?　アジアタッグには歴代最年少挑戦者として中嶋勝彦クンが、世界タッグには過去、IWGPタッグ、GHCタッグを巻いた永田裕志が挑戦する。

『CROSSOVER'04』最終戦

■日時　6月12日(土)試合開始18:30　■会場　愛知・愛知県体育館

■チケット　特別リングサイド 10000円／1階指定席 7000円／2階指定S席 6000円／2階指定A席 5000円／2階指定B席 4000円

■対戦カード　❼三冠ヘビー級選手権試合　【王者】川田利明 vs ジャマール【挑戦者】
❻世界タッグ選手権試合　【王者】小島聡 & カズ・ハヤシ vs ケンドー・カシン & 永田裕志【挑戦者】
❺嵐 vs 太陽ケア　❹アジアタッグ選手権試合　【王者】天龍源一郎 & 渕正信 vs 佐々木健介 & 中嶋勝彦【挑戦者】
❸武藤敬司 & AKIRA & 本間朋晃 vs TAKAみちのく & ディー・ロウ・ブラウン & ブキャナン
❷荒谷望誉 & 保坂秀樹 vs NOSAWA & MAZADA　❶土方隆司 & 石狩太一 vs 平井伸和&グラン浜田

■問　全日本プロレス　03-3288-0610　■HP　http://www.oudou.co.jp/

DEEPがトーナメント開催!! しなしは強豪キックボクサーと激突!

DEEPがウェルター級トーナメント開催。修斗ランカーの中尾受太郎が初参戦を果たす。組み合わせは当日のガチンコ抽選で決定。なお準決勝、決勝は10月大会で行われる。第6試合のしなしのはキックボクシング10戦9勝、国際格闘技ジュニアチャンピオンにも輝いたことのあるシム・スーチョンと激突。しなしは強豪を相手に連勝記録を伸ばすことができるか!

『DEEP 15th IMPACT』

■日時　7月3日（土）　試合開始18:00（17:00開場）■会場　東京・ディファ有明

■チケット　SRS席 10000円／指定A席 8000円／指定B席 6000円／指定C席 5000円

■対戦カード【ウェルター級トーナメント】出場選手／池本誠知（ライルーツコナン)、長岡弘樹(総合格闘技DOBUITA)、小野瀬哲也(FIGHTING SPIRIT)、村浜天晴(グレイシー・バッハ)、星野勇二(和術慧舟會GODS)、アライケンジ(パンクラスism)、中尾受太郎(フリー)、中村大介(U-FILE CAMP)
❻しなしさとこ(フリー) vs シム・スーチョン(韓国)　❺青木真也(Team-ROKEN) vs キム・イルナム(韓国)
❹今村雄介(高田道場) vs 大場貴(AO/DC)　❸MAX宮沢(荒武者総合格闘術) vs 濱田順平(CMA誠ジム)
❷百瀬善規(禅道会) vs 藤沼弘秀(荒武者総合格闘術)
❶鬼木貴典(TEAM-ROKEN) vs ホス・バヤル(モンゴル)

■問　DEEP事務局　052-339-0303　■HP http://www.deep2001.com/

全日本キック最強決定トーナメント 最強のムエタイ戦士サムゴーが緊急参戦!

前年度覇者・大月晴明の負傷欠場を受け、代打選手としてサムゴー・ギャットモンテープが緊急参戦！“ムエタイの帝王”サムゴーは小林聡、金沢久幸、加藤督明らを破り、未だ日本で無敗を誇る。大月という大本命の不在で混沌としてきた今年のトーナメント。最強の称号と優勝賞金400万円を手に入れるのは一体誰だ!?

『全日本ライト級最強決定トーナメント2004　FINAL STAGE／決勝戦』

■日時　2004年6月18日(金)　18:30本戦開始(17:00開場)　■会場　東京・後楽園ホール

■チケット（当日は1000円up）RS席 15000円／S席 7000円／A席 5000円

■対戦カード　❼【最強決定トーナメント決勝】準決勝Aの勝者 vs 準決勝Bの勝者　❻藤原あらし(S.V.G) vs 辻直樹(山木ジム)　❺山本真弘(藤原ジム) vs ラスカル・タカ(月心会)　❹【最強決定トーナメント準決勝B】サムゴー・ギャットモンテープ(タイ) vs サトルヴァシコバ(勇心館)　❸【最強決定トーナメント準決勝A】白鳥忍(高橋道場) vs 吉本光志(AJジム)　❷石川直生(青春塾) vs 竹村健二(名古屋J.K.ファクトリー)　❶飯島浩二(健成會) vs 森田礼王(建武館)　【オープニングファイト❷】森卓(勇心館) vs 小宮隆司(TEAM-1)　【オープニングファイト❶】水落洋祐(はまっこムエタイジム) vs 村山トモキ(AJジム)

■問　全日本キック事務局　03-3365-1171　■HP　http://www.aj-kick.com/

闘龍門、夏の沖縄ふれあいツアー実施!!

闘龍門JAPANの5周年を記念して「沖縄ふれあいツアー」を開催される。闘龍門初上陸となる7・10日沖縄大会の観戦はもちろん、選手と楽しむディナー・パーティーやビーチでのふれあいイベント、ツアー参加者だけの特典・限定グッズのプレゼントなど、内容も盛りだくさん！

■日程　7月9日(金)～11日(日)、10日(土)～12日(月)

■ツアー参加料金　◎東京発 79800円～　◎名古屋発 75800円～
◎大阪発 74800円～　◎福岡発 68800円～

■問　闘龍門JAPANツアー事務局コールセンター　03-5348-3786
(営業時間　平日10:30～17:00、祝日は除く)

■沖縄ツアー公式HP http://www.j-yado.com/okinawa/

■携帯電話専用サイト　http:// www.j-yado.com/okinawa/i/
※携帯サイトからの申し込みは出来ません。電話&公式HPをご利用下さい。

WWS4周年記念大会 ポーゴvsサスケ　因縁のシングルマッチ決定!

ミスター・ポーゴとザ・グレート・サスケが一騎打ち！　約1年前、ポーゴは伊勢崎市議選に落選ポーゴは「サスケのせい　で落ちた」と岩手県議にトップ当選したサスケを逆恨み。2003年9月、東京駅八重洲北口で襲いマスクを強奪して「オレ様がサスケになって、岩手も埼玉も群馬も乗っ取ってやる」と暗黒街拡大計画を宣言した。そこから二人の抗争は小康状態にあったが、なぜかここに来てシングル戦が実現。会場は暗黒街・伊勢崎だけに、サスケの不利は必至だが、サスケは降りかかる火の粉を振り払うことができるか!?

『WWS設立4周年記念興行』

■日時　6月14日(月)試合開始18:30　■会場　群馬・伊勢崎市民第2体育館

■チケット(当日500円up)　特別リングサイド ¥6000／リングサイド ¥5000／立見席 ¥3000

■対戦カード　ミスター・ポーゴ vs ザ・グレート・サスケ　※ルール及びその他カードは後日発表

■問　WWS　0495-24-6900

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■猪木事務所
03-5468-5656
〒150-0001　東京都渋谷区東1-25-2　丸橋ビル4F
http://www.inokiism.com/

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002　大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025　東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011　東京都目黒区青葉台4丁目4番5号渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp/

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org/

■掣圏道
042-544-6979
〒196-0013　東京都昭島市大神町1-2-22
http://www.seiken-do.com/

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073　東京都千代田区九段北1-5-10　九段有楽ビル6F　http://oudou.co.jp

■全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒153-0064　東京都目黒区下目黒2-17-17
http://www.zenjo.com

■大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053　神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/

■髙田道場　03-5749-5030
〒142-0062　東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

■高山堂　03-5464-2806
〒150-0011　東京都渋谷区東2-17-12-501号
http://www.Takayama-do.com

■闘龍門JAPAN
078-333-9797
〒650-0004　兵庫県神戸市中央区中山手通2-3-18 メープル中山手201
http://www.gaora.co.jp/dragon/index.html

■ドリームステージエンターテインメント（PRIDE）
03-5464-1531
〒107-0061　東京都港区北青山3-12-9　花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807　埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

■パンクラス 03-5792-0815
〒106-0047　東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063　東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■冬木軍プロモーション
045-241-6381
〒231-0048　神奈川県横浜市中区蓬莱町2－247　SSビル310

■みちのくプロレス
019-626-1333
〒020-0063　岩手県盛岡市材木町9-8
http://thegreatsasuke.com

■A to Z　03-3678-7777
〒132-0013　東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp

■DDT　03-5360-6653
〒112-0002　東京都渋谷区千駄ヶ谷5-26-5 代々木シティホームズ1005
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071　愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■GAEA JAPAN
03-5459-3101
〒150-0036　東京都渋谷区南平台6-7　MAISON南平台1F
http://www.gaea-inc.com

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061　東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

■IWAジャパン 03-3352-3366
〒160-0004　東京都新宿区新宿2-15-13　第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp/

■JDスター 03-5524-2339
〒107-0052　東京都港区銀座1-8-21　第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP　03-5849-2341
〒121-0052　東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001　千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW　03-5228-4331
〒112-0014　東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号
http://www.llpw.co.jp/

■NEO　044-422-8344
〒211-0011　神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■PWCプロモーション
03-3312-0328
〒166-0011　東京都杉並区梅里2-35-14 マイキャッスル新高円寺701
http://pwc.ne.jp/

■SMACK GIRL実行委員会
090-1773-5647（担当・勝井）
〒156-0041　東京都世田谷区大原1-63-9　恒心ビル801　株式会社プロテック内
http://www.smackgirl.com/
info@smack girl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014　神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO　0467-82-2034
〒253-0053　神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.K.R　044-833-7042
〒213-0027
神奈川県川崎市高津区野川2193－11
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■UNW　03-3362-3014
〒164-0003　東京都中野区東中野4-4-5-311

■U.W.F. スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002　東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WJプロレス
03-3751-4546
〒146-0085　東京都大田区久が原3-31-1 いずみハイツ
http://www.wj-pro.net/

■WMF　049-239-3520
〒350-0812　埼玉県川越市下小坂536-18
http://www.e-rain.co.jp/wmf

■WWS　0495-24-6900
〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106

■ZERO-ONE
03-5730-3401
〒105-0014　東京都港区芝2-30-11　寿ビル601
http://www.zero-one.to/top.html

■ZST　03-5321-9595
〒106-0023　東京都新宿区西新宿3-1-2 廣川ビル4F
http://www.zst.jp/

And Others その他情報

『いかレスラー』前売りで、“いか臭いウチワ”を手に入れろ！

西村修、AKIRA出演の『いかレスラー』が2004年夏、遂にロードショー！　下記の劇場窓口で特別鑑賞券（￥1500、一般当日は￥1800）を購入された方に“扇ぐといか臭いウチワ”をプレゼント！　四角いジャングルに現れた10本足の凄い奴、いかレスラーのファイトを見逃すな！　いかだ、いかだ、いかになるんだ!!

■シネセゾン渋谷（渋谷道玄坂 ザ・プライム6F／03-3770-1721）
■池袋テアトルダイヤ
（池袋駅東口 サンシャイン60通り／03-3983-9793）

真樹先生 vs ジョニー大倉の“ガチンコ組み手”実現！

マス大山空手スクールBOX発売を記念して、真樹日佐夫先生とジョニー大倉が組み手で激突！　ステゴロとロックンロールの“男の中の男”対決に注目だ！　なおイベントは『紙プロ』No75発売の次の日。とにかく急げ！

■日時　6月12日（土）
■場所　クラブ49（JR渋谷新南口から1分／渋谷区渋谷3-26-25／03-5485-4011）
■第一部／17:30〜／無料
❶真樹先生のサイン即売会　❷真樹先生のトークショー
■第二部／19:00〜／2500円（第一部のサイン即売で本購入の方は無料）
❶真樹先生 vs ジョニー大倉の組み手　❷真剣白刃取り演武
❸真樹先生 & ジョニー大倉トークショー

健介ファミリーと行くハワイツアー開催！

KENSUKEのHCW王座タイトルマッチを観戦ツアーが決定！　試合後の記念撮影、ハワイアンディナーショー、バーベキュー・ランチ、ショッピング等々、健介ファミリーと夢のような時間をハワイで過ごせる超マグマ級のツアーだ。ツアーに同行するスペシャルゲストは、正直そっくりなあの選手だ！

「健介ファミリーwith○○さんと行くハワイ珍道中 〜HCWヘビーウェイトチャンピオンKENSUKEタイトルマッチ観戦ツアー〜」
■日時　7月20日（火）出発
■定員　40名（最小催行人数15名）
■料金　※（ ）内は子供料金
3泊5日コース　￥130,000（￥116,000）
4泊6日コース　￥140,000（￥123,700）
5泊7日コース　￥150,000（￥131,200）

料金に含まれるもの
◎往復航空券　◎宿泊費　◎空港／ホテル間の往復送迎
◎日程表記載の食事　◎日程表記載のイベント参加費
◎HCWヘビー級選手権の観戦チケット（往復送迎付）
※現地航空税及び成田空港施設利用料（計￥8,600）は別途請求。
ホテルは2名1室、1人部屋を使用すると追加料金。

■申込締切　6月21日（月）
■企画　健介OFFICE
■旅行主催会社　NAVI TOUR/株式会社ボーダレス
■申し込み&問い合わせ　アイズクルー　03-5405-2479（担当 高崎）

DVD 話題＆最新作情報

プロ柔術 GI-03

￥5,880／6月発売予定／クエスト／200分予定

早川光由 vs カゼカ・ムニエス、中井祐樹 vs アルバート・クレーン、和道 vs TAISHO、アマゾン vs 弘中、上西 vs 鶴屋、横山 vs 朝倉、植松 vs 小野瀬、福住 vs 大賀など、ハイレベルな攻防が連発したプロ柔術の大会。

■問　クエスト　03-3360-3810

SMACK GIRL4（仮）

￥5,880／6月発売予定／クエスト／220分予定

女子による総合格闘技の大会として着実な活動を続けるスマックガールのDVD第4弾が発売。2003年7月から2004年3月までの5大会に加えて、各種特典映像もたっぷり！　6月19日、初進出となる大阪大会の会場でも発売！

■問　クエスト　03-3360-3810

PRIDE GP 2004 開幕戦

￥5040／6月25日発売／メディアファクトリー／135分

4月25日、遂に開幕したPRIDE GPの全8試合を完全収録。ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ、小川直也ら16選手が創り上げた、PRIDE史上最高との呼び声も高いベスト興行だ。絶対見逃すな！

■問　メディアファクトリー　03-5469-4880
（10:00〜18:00土日、祝日は除く）

ターザン山本トークライブ日時変更のお知らせ

前号で6月26日と紹介したターザン山本トークライブ『静岡一揆塾』が、6月27日に変更。前日開催の『K-1 BEAST 2004静岡大会』をブッタ斬ること間違いなし！　昼っぱらから大炎上だ！

『ターザン山本★トークライブ　静岡炎上！　昼の宴』
■日時　6月27日（日）開始12:00（開場11:30）　■料金 ￥2500
■場所　静岡市常磐町2-3-4
村上パーキングビル5Fレンタルルーム
■問　一揆塾静岡事務局（担当・鈴木暁光）　0547-22-0875

紙プロHand 更新・最新情報

宇宙一面白い携帯サイト『紙のプロレスHand』では、リニューアル完了記念およびユーザーへの感謝の気持ちを形にして、特製“紙プロHand・Tシャツ”を販売開始!!　花くま先生のイラスト入りTシャツが、特別価格2,625円（税込）で買えるぞ！　携帯サイト上でしか買えない数量限定品を、いますぐ入会して購入しよう!!　また、6月1日には「過去の名作シリーズ」と題して、中川画伯の名作「金原魚」を待画としてアップ！　このほか、カレンダーは毎月2枚配信、着メロも毎月3曲更新!!　速報もスピードアップ強化中、試合結果や会見の模様を即アップ！『ハッスル4』チケット先行予約もあるぞ!!

金原魚

Docomo ▶ i Menu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲
au/TU-KA ▶ トップメニュー ▶ 遊ぶ・楽しむ or インターネット ▶ スポーツ ▶ 格闘技
vodafone ▶ メインメニュー ▶ ボーダフォン・ライブ ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技
▶ 紙プロHand

ハッスルする読者ページ

紙プロ元気大学

暑かったり寒かったり気候が不安定ですねぇ。まるでマット界のようです。……書くことがないからって、意味のありそうなことを思いつきで書くような大人にはなりたくないですね。読者ページ担当のささきぃです。本業は電気部です。年末に激太りした体重は、半年で4キロというスローなペースで減りました。理想体重になるころ、私はいくつになっているんでしょうか。仕事とダイエットさえ両立出来ていない私は、プロレスと総合を両立しようとする横井宏考選手の姿に感動しました。私も頑張ります。それでは、はじまりはじまり。

（大阪府・英加直純）
➡何コラタココラでおなじみの長州選手。今一番ハッスルしているのはこの人のような気がしてなりません。女性では杉本彩さんですね。いつもながら切り絵の英加画伯、今月はお絵かきロジックもありがとうございます。来月もよろしくです。

校内巡回

『紙プロ』74号 面白かった記事

【小川直也独占インタビュー】
★小川さんのまじめで、ユーモアを交えたロングインタビューを読めたので。
（千葉県・今泉光裕・29歳・会社員）
⬇インタビューだけじゃなく、実際の小川さんもまじめでユーモアのセンスを兼ね備えた人ですよ。……こう書くとすごくつまんない人みたいに思えてくるなぁ。ハッスルしまくった今月号インタビューもお楽しみに。前々号に続き、面白かった記事アンケートナンバーワンはブッチギリで小川直也インタビュー。プレゼントの小川直也スパッツも、もちろん競争率ナンバーワン！以下、順不同でお送りします。

【元気まる出し『ハッスル3』】
★総統が好きになりました。おもしろ劇場ですね。思わず、スーパーファミコンソフト『最強 高田延彦』を買ってきてしまった。中古で280円。
（埼玉県・小林克弘・28歳・会社員）
⬇総統が好きになったということは、モンスター軍入り決定ですね。それにしても、愛の表現方法はもうちょっと違う手段があってもいいと思う。

【佐山サトルの近況報告】
★インタビューもメールもバッグン！
（東京都・久保幸嗣・26歳・フリーター）
⬇先月号の面白かった記事トップ3は小川直也インタビュー、佐山サトルの近況報告、ボビー・オロゴンインタビュー。どれを面白いと思うかで、その人の『紙プロ』＆プロレス・格闘技観がわかるように思います。

【桜庭和志インタビュー】
★桜庭を男にしてやりたいと思った。
（大阪府・平龍門・27歳・会社員）
⬇昨年、大晦日出陣が決まった時の「サク、俺も男だ！」という言葉を思い出しました。男にしてやるための具体的な方法が非常に気になります。

【ボビー・オロゴンインタビュー】
★まさかバラエティー番組の外人が『紙プロ』に出るなんて思ってもいなかったから。
（東京都・浦崎賢人・16歳・学生）
★TVを見て気になっていたから『紙プロ』ならインタビューしてくれると思っていました。
（新潟県・相馬龍吾・24歳・フリーター）
⬇まったく反対の意見2つを並べてみました。両方とも面白い記事にあげてくれたんですが、『紙プロ』観は人それぞれですね。

『紙プロ』74号 つまらなかった記事

★つまらなかった記事はありません。ありません。おめでとう。
（大阪府・千本一博・21歳）
⬇ありがとう、ありがとう。もっとブーイングをくれたまえ。

【ウルティモ・ドラゴン×ターザン山本対談】
★ターザンがうざいから。
（福岡県・山本陽介・27歳・自営業）
⬇他の雑誌でも、つまらない理由はこういうのが当たり前なんでしょうか？

【いかレスラーの全貌公開】
★ゼブラーマンは良いとしても、これはねぇ～！　いかレスラーは〝いか〟さないと思うけど……（笑）。
（東京都・江本和隆・44歳・会社員）
⬇『ハッスル』ネタを織り込みつつ、44歳会社員のダジャレも積極的に採用する紙プロ元気大学です。ダジャレ言う人が嫌いなわけじゃないんですが、反応に困るんだ。ノーリアクションっていうのが冷たくていいと思ってたんですが、もっと気の利いた反応はないかと悩んでいます。

【プレゼントコーナー】
★スパッツ当たった人は、送られてきてもどうしたらいいかわからず、絶対固まるはず。
（埼玉県・石山雄紀・13歳・中学生）
⬇そういう君の希望プレゼントもオーちゃんスパッツ。どう使うかなんて決まってるじゃないか。ふふふ。

その他のおたより

★子供が怖がるので、表紙はイラストにしてください。
（兵庫県・大竹竜次・27歳・会社員）
⬇子供ビターン！（ビターンは「びびったか、たじろいだか」の略です）大人が読む本だということで、ビビらせておいたほうが私はいいと思います。大人になってから楽しみが増えますしね。

★オーチャンのためにハッスルのPPVみようと思ったけど、島田が嫌いなので無理です。ごめんなさい。何か別の方法でオーチャンに貢献します。
（紙プロHand投稿・れな）
⬇あやまらなくてもいいんですよ。すべて島田さんが悪いんですね。でも『ハッスル』に出ているのは島田裕三という別人なので、ぜひ一度ご覧になってください。

★夢見る頃はいつも『紙プロ』！　アリガトウ！
（神奈川県・三塚貫治・30歳・フリーター）
⬇言葉の意味はよくわからないけど、アリガトウ！　いい夢見ろよ！

（埼玉県・宮田浩司）
➡宮田くんがリクエストに応じてくれるとは思ってませんでした。びっくり＆嬉しかったので掲載しちゃいます。

紙プロ74号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 小川直也 インタビュー
2位 佐山サトルの近況報告
3位 ボビー・オロゴン インタビュー
4位 桜庭和志 インタビュー
5位 元気丸出し『ハッスル3』

1位は前号に続いてブッチギリ“ハッスルを背負う男”小川直也インタビュー！　藤井軍鶏侍に対するはげましの声も多数寄せられました。続いてはインタビューと同じくらい後記の人気が高かった佐山サトル皇帝。3位は「読んでいて頭が痛くなった」という声も多かったボビー・オロゴンインタビュー。パンクラスに行くと、グラバカ勢をものすごい大声で応援するボビーがいます。それぞれ特殊な3人に続いて4位は桜庭和志インタビュー。5位は『ハッスル3』大特集、僅差6位にノゲイラインタビュー、座談会、組長ラブのランデルマンインタビューと続きました。

（北海道・アカツキ）
➡先月からこんにちはのアカツキさん。追い風、シルバ戦でも吹くといいなぁ。どきどき。

（愛知県・たっつぁん）「74号には間に合いませんが送ります。私はコールマンの負けっぷり（ボー然とする所）が大好きです。ノゲイラ戦もそうでしたがこんかいのヒョードル戦も完璧でした。がんばれコールマン（モンスター軍として）」➡ノゲイラ戦を見てショックを受けてから、息子の試合は見ていなかったというコールマンのお父さんが、今回久々の来日。そして……。がんばれコールマン（＆お父さん）!!

お絵かきロジック第2弾

（大阪府・英加直純）➡前回に続き、英加画伯がお絵かきロジックを送ってきてくれました。ありがとうございます。ルールは前回と同じです（ふたたび投げっぱなし）。正解は次号で発表します。レッツ・チャレンジ。

みんなで歌おう「ハッスル数え唄」

原案・週プロ野郎　詞・目ガ覚メタロウ

一つ、人よりハッスル、ハッスル!!
二つ、再びハッスル、ハッスル!!
三つ、みんなでハッスル、ハッスル!!
四つ、横でもハッスル、ハッスル!!
五つ、いつでもハッスル、ハッスル!!
六つ、向こうでハッスル、ハッスル!!
七つ、なお、レコはノーコメント。
八つ、やっぱりハッスル、ハッスル!!
九つ、ここでもハッスル、ハッスル!!
十で頭部にパンチが当たった模様。
脳が揺れたのか!?
※嗚呼〜、ハッスル数え唄

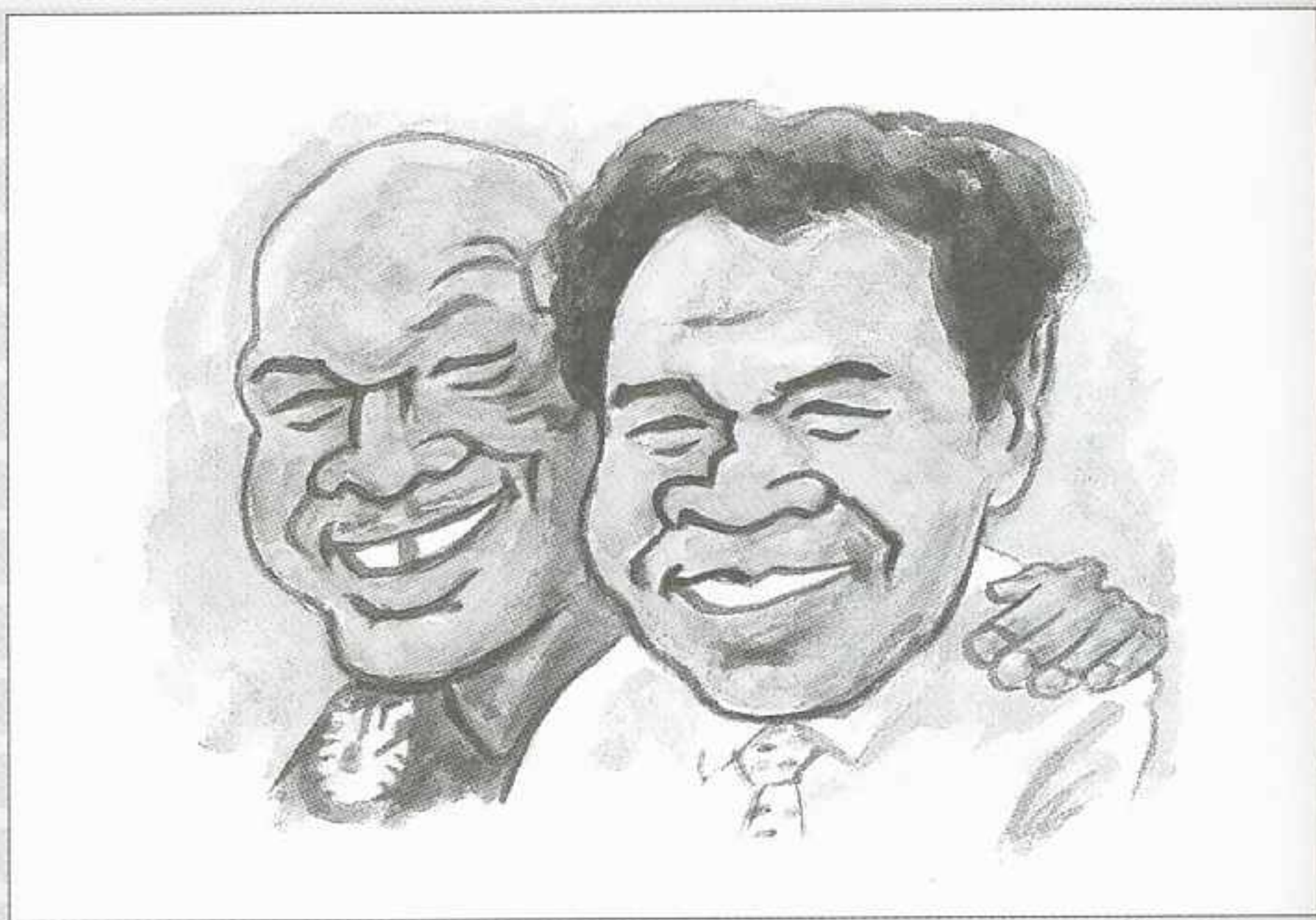
※マイクで七回、コメントで十二回繰り返し

（静岡県・目が覚メタロウ）➡元ネタについては前号の座談会を読んでください。わけがわからない人、わからないままにしておかないでどうぞ読んでください。そしてこの面白さを共感してください。言うまでもなく七と十がこの唄のポイントですね。こんなの作られちゃうんだなぁと、文章を人前に発表するということの重さを実感しております。ハッスル、ハッスル!!

（埼玉県・稲葉聡）
「ハッスルして小川直也選手、描かせていただきました」
➡おぉ〜、こりゃハッスルしてますね。パワーに敬意を表して、どでかく掲載させていただきました。カラーで載せられなくて残念です。

（石川県・シーザー孝志）「『武士道』の2Rは辞めて欲しい。判定が微妙になりがちの気がするから……。試合数、減らすべきでしょう!?」➡『武士道』の中でプロ意識を強烈に見せてくれた金ちゃん。試合数は私も多いと思います。

（埼玉県・中川雅博）➡5・16スマックガール大森大会で、辻ちゃん本人に献上されていたイラストです。次は地元・大阪大会、頑張ってください辻ちゃん！　埼玉育ち都内通勤の私は、地元意識や田舎がある人がうらやましかったりします。

（北海道・アカツキ）➡桜庭…ですよね。夏の前、久々に咲く桜が見られそう。シウバ戦へ執着していた姿を断固支持したい私です。

（埼玉県・中川雅博）「面白いアイデアは全く浮かびませんが、絵を描いていると楽しくて仕方ありません」
➡仕事でもあるのに、楽しくて仕方ないなんて素敵。タイソン選手がK-1ラスベガス大会のリングに上がってきた時は、その強烈なオーラに仰天させられましたが、画伯のフィルターを通すといい笑顔ですね。

（神奈川県・葉チャン）
「総統はハッスルしてますね、楽しそう」
➡やってるほうが楽しそうなのは大事ですよね。なんかお客さんも仲間に入りたくなるから。葉チャンさんも夏休み前に一勝負、頑張れー。ファイッ。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

いまさらと思いつつハッスルイズム全開でお送りした読者ページです。いかがだったでしょうか。今月はプレゼントのおかげでハガキもイラストも多くて迷いました。毎月私を迷わせてください！　……おかしなプロポーズのようになってしまいました。さて、『紙プロ元気大学』では皆様のお便りを常時募集しております。次号も発売日が早いので、20日ごろまでに送っていただけると嬉しいです。今月号掲載選手のイラストやインタビューの感想などよろしくです！『紙プロ』を読んで感じたこと、ご意見、大会の感想、お便りの他、イラスト、その他すべての宛先は

メールは radical@kamipro.com
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702
(株)ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「気がつけばいつも再起戦」係まで。
★☆★携帯サイト『紙プロHand』からの投稿も出来ます!★☆★

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！　プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第36回

今月イチバンおもしろかった作品とその作者

北海道札幌市　**虹伝説**

★虹伝説さん、採用おめでとうございま〜す!!　「キラー猪木」Tシャツ（XL）。お楽しみに!!
★『ほんとにジョーク』Tシャツの発送がほんとに遅くてゴメンナサイ。すべて自分の怠惰です。夏までにはオマケを付けてお送りしますので、どうかお許しください。しばしお待ちあれ。
★犬のことばかり考えています。頭の中のほとんどが犬、中川画伯の『ほんとにジョーク』にハガキを書こう!!　抽選で5名様に「手づくり缶バッヂ」、採用された方には「手づくりTシャツ」をプレゼント!!　希望Tシャツはプロレスラーじゃなくてもノー問題です。大変遅くなってしまいゴメンナサイ。皆さん、ハガキをビッシビシ送ってください。
★IT革命です。毎日更新。今、時代はレネ・ローゼ！　『中吉』http://chu-kichi.jp/

➡前号のTシャツ　伊原信一

応募方法　プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ（S・M・L・XL）をハガキに書いて下さい。〈例〉レネ・ローゼのL

担当が代わって更にパワーアップ!!

スーパーコラムMEGATON

相撲幻想、続行ーッ！
次はこの男・若翔洋だ!!

6・22パンクラス
後楽園大会に
“メガトンの秘密兵器”
IRO関が遂に出陣!!

GRAPPLE

　ビビッたか？　たじろいだか!!　見てみぃこの面がまえ。パンクラスMEGATONに元関脇の若翔洋が正式入団！　現在38歳とはいえ、ロン・ウォーターマンだって38歳なんだから、年齢なんかノー問題！　戦闘竜、玉海力と元関取VT戦士は敗戦続きだが、何て言ったって若翔洋は元三役。きっと一味違うところを見せてくれるはずだ（元横綱 曙の連敗には目をつぶって）。今回からコラム担当となったサイノは、全面的に若翔洋を、そしてパンクラスMEGATONを断固支持します！　将来の日本の重量級を背負うであろうMEGATONにあやかって、コラムコーナーも『スーパーコラムMEGATON』と改名しました！　そしていずれは『武士道』あたりで「MEGATON対グレイシー・5vs5」なんてマッチメイクが組まれる日を夢見て、MEGATONを応援し続けます！　いくぞー！　3、2、1、メガトン!!!

やっぱり走るゾンビは嫌っ

花くまゆうさく

リングの汁 RADICAL

www.HANAKUMA.com

衝撃!!

魔裟斗

映画『いかレスラー』を見た。映画自体の感想は「微妙……」と言葉をにごしたい。しかし、映画を見るというより西村を見ると思えば面白い。どこででも西村はいつだって西村だという、現実のファンタジーが見れます。昔、西村が気になり好きになったことは間違いではなかったとしみじみ思った。

映画といえば、いまんとこ今年ベスト3の中に入るのが韓国映画『殺人の追憶』。マット界的に語るとこは、「怒った刑事がドロップキックするとこ」、「その刑事（ソン・ガンホ）の顔がバンバンビガロ社長・池上さんそっくり」この2点ぐらいですが、映画自体かなり面白くピリピリと2時間緊張感維持させてくれる良質な映画なのでおススメ。昭和の匂いもするしね。

あの映画を見て改めて痛感したのが、「韓国の人は日本人より絶対に噛む力が強いだろう。握力も」。これは絶対、まちがいない！ と確信させるほど、スクリーンの中にいる彼らの人間力はみなぎっていた。おそらく、一見優男なペ・ヨンジュンだって喧嘩でキレたら、相手の指を食いちぎるぐらいできるだろう。

そんなこと思った1～2カ月後、『PRIDE武士道』に韓国人ファイターが2名出場したのでウオッチング。まずは藤井軍鶏侍と対戦するキム・ジン・オー。当然試合では使えないが、やはり見るからに噛む力は凄そうだ。そんで、ロープ際では堂々とロープ掴み。そして観客へ謎のアピール。レフェリーから、イエローカード出されても、両手あげてまた謎のアピール。自分が悪いことした自覚ゼロ。その図太さは、日本人にない人間力の強さを感じる。攻撃はパンチに見えるけど、たぶんひっかきだ。あれが『PRIDE』でなく、素手による路

なぜ？

男道コーチ屋稼業

掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

業☆勝ちます

【だまってジャガーについてこい！】の巻

「ジャガー横田から重大な発表があるそうなんで、掟さん、会見場に行ってきて下さいよ」

いつの間にか『紙プロ』の女子プロ番記者・ニセ原正英化してきた俺に、ジャガーの取材に行くよう呼び出しがかかった。これまでもなんか知らんがジャガー横田プロデュースの格闘キャバクラ（現在絶賛閉店中）の開店祝いにノー面識で駆けつけたり（開店時間の夜7時に入ったら、既にベロンベロンに泥酔中のジョニー大倉がキャバ嬢相手にトクトクと説教中。ジョニーさん、ライフスタイルがロックンロール過ぎです！）なんちゃらかんちゃらジャガー横田づいている俺。あまりにジャガーづきすぎて、もしかしてこのままいったら、ジャガーの兄嫁と俺の母ちゃんがママさんヨガ教室で一緒になって汗だくになるかもしれないし、引っ越した先がジャガーの実家のパーマ屋の隣とかで（ジャガーの実家がパーマ屋かどうかはまったく未確認だが、多分やってない）、気分転換にアイパーあてに行ったら、ジャガーの親が細いロッドで丁寧に巻いてくれることになるかもしれない。万が一間違って俺とジャガーが結婚するなんてことにもならないとは言い切れない！ そのぐらい俺のジャガーとの遭遇率は高く、普段からなにげにシンクロしまくっている。

東京に住んでいるとは言っても武蔵小山とか目黒近辺ではないので、あまり女子プロレスラーを見かける機会はないが、なぜかジャガー横田だけはとにかくよく見かけるのである。ソフト・オン・デマンドの自動ドアから誰か出てきたので、AV女優だったら「たいそう重たそうなお乳ですね。肩が凝って大変でしょう。う～ん、片方だけでもお持ちしましょうか」と声をかけて合法的に乳を揉ませてもらおうとダッシュで駆け寄ったら、ジャガー横田だったので延髄に手刀を喰らってみたり、カラオケBOXでBerryz工房の『ピリリと行こう！』を入れたつもりで、ソーキンバを食いながら自分の歌う順番を待っていると、間違って入力していて、ジャガーの歌う名曲『愛のジャガー』がフルボリュームで流れてとりあえず歌ってみたりと、とにかく俺の人生の至るところでジャガーを見かけ、そのたびにあの鋭い眼光で心の臓を射抜かれているのだ。

「目で殺す」……ジャガー横田を一言で言い表す言葉だ。ジャガーの眼差しは獲物を狙う猛禽類の如く鋭く、目線のあった者は石に変えられてしまう。ジャガーに会うたびあの眼に震え上がり、「すいません！ 俺が神社の賽銭箱からお金を盗んで『アニメージュ』とガリガリ君を買った張本人です！」とか、やってもいない犯罪について謝ったりしてしまう。ジャガーに見つめられるともう感情が高ぶりすぎて、自分で自分がわからなくなってしまう。目があっただけで自分がジャ

上の喧嘩だったら、藤井の顔は悲惨なひっかき傷でいっぱいだったろう。しかし、これはルールある『PRIDE』のリング。総合のテクの違いは歴然で、藤井の完勝。でもただでは負けず、藤井の顔に闘いの足跡を残し、キムは根性というか人間としての強さを垣間見せた。同じ負けでも、笑いと不思議さ（なぜこの人がこのリングに?）しか見せなかった玉海力との違いは、そこでしょう。みんなの記憶に残ったのは玉海力だけど、『PRIDE』にひっかき傷を残したのはキムだ。

次は、山本と闘ったチェ・ム・ベ。噛む力・握力、やはり凄そう。そしてこちらはキムと違いクリーンな闘いぶり。むしろロープ掴みで堂々とズルいのは、元祖ロープ掴み男・山本の方。それでも、総合テクのないチェが、レスリングテクと人間力で勝った。総合のテクはないが、人間力で『PRIDE』のリングに上がる無謀な彼らを、今後もひっそり見ていこうと思う。おしまい。

Hanakuma Yuusaku

小川vsノゲイラおあずけか……。小川vsノゲイラと小川vsヒョードルは、消耗した状態でやるトーナメントより、お互いピンピンのコンディションでタイマン勝負するワンマッチで見たかった。

ガーに対してなんか好意を持っているんじゃないかという気すら激しくしてくる。……いや、もうこれはいずれジャガー横田と結婚するしかないんじゃないか、いやするしかない、するに決まってる!

二人が結婚したらジャガーとポルシェでジャガーポルシェ!? 一夜にしてやたら高級感のある外車ディーラーになったみたいな妙な気持ちだが、二人が結婚すれば、そういう今までやったことのない事業さえ不可能ではないと思えてくるから不思議。外車でも中古車販売でもカルメ焼き販売でも、ジャガーと二人ならば出来ないことなど何もないと断言する!

そういうことなのだと一人で決心し、おそらく重大発表とは俺との結婚会見なのだろうと、一方的に理解して会場へと向かったのだった。チャップリンに見えない程度にギリギリに正装し、チョビ髭をはずしてステッキだけを片手に会見場の後方の席に陣取った。ジャガーに呼ばれるまでは出ていかないで、彼女の紹介に委ねる算段だ。

ジャガーはいつも通りのジャージ姿で登場。俺に比べて随分とラフな格好……いや、これこそプロレスラーの正装というものだろう。しかもジャージがジャガーはでなくプーマなのがちょっとばかりヒネリが利いているではないか。会見が始まった。

「えーとですね、このたび皆さんにお集まりいただいたのは他でもありません。……実は私、ジャガー横田は、結婚することになりました」

やっぱりそうか! そうだったのか! 俺とジャガーは結婚するのか……。

「相手の方は、『私の目に殺された』といってましたね」

そりゃそうだよジャガー。君の眼力ならニラんだだけでスペースシャトルぐらい余裕で撃ち落とせるよ。俺も何度あの目で死んだことか……。

「大人しい感じの方なんですが、『ボクに出来ないことはなにもない』『あなたのワガママを受け入れられるのはボクしかいない』と言ってくれまして……ずっと言われ続けているんで、どれがプロポーズの言葉なのかわからないんですよね」

うっそ! 俺、もうプロポーズまでしてたっけ? 最近物忘れが激しいしションベンからも甘い匂いがしてくるし……歳とったのかなぁ、俺も。

「ハイ? 相手の方ですか? 言っちゃっていいのかなぁ〜……」

イイよ、イイよ利美! （ジャガーの本名） 俺の名前を言った途端にダダダと駆け寄って、持ってきたココ山岡のV字リングを利美の左手薬指にサックリさしちゃる! ……あれ? もう指輪してるじゃん! どういうことだ一体!?

「えー、紹介します。彼は木下といいまして、36歳の東大病院の外科の先生です。ある格闘技団体でリングドクターをしていた時に私と出会いました。デートではいつもケンカばかりしてますけど、腕力ならどうやっても私が勝っちゃいますから、殴らないようにはしてますよ! ダハハハハ!」

結論から言えば、あの目に殺されたのは俺だけではなかったようだ……。そういわれてみれば、今まで俺はジャガーと取材以外で会ったことがなかった。コメント取っただけで結婚なんて……と俺も結構躊躇していたが、全然躊躇損だったようだ。

これからリングネームが〝ジャガー木下〟になるのかどうか知りませんが、ジャガーさん、木下さん、どうぞ末永くお幸せに!

「先生」「リー」（ジャガーの本名は利美）と呼び合う仲睦まじいお二人。ジャガーの次はデビルの番か!?

Okite Porushe

6／19（土）PM10：00〜、宇都宮PLANETでロマンポルシェ。ライブ&握手会付き不気味オールナイトDJイベント開催! 詳細はhttp://moushiwakesite.at.infoseek.co.jp/まで。あとは7／25（日）PM7：00〜新宿ロフト。こちらの出演はロマンポルシェ。、漁港、そしてL.L.COOL.J太郎! こちらは（問）新宿ロフト03・5272・0382まで。

第2回
"偽造王"一宮章一の

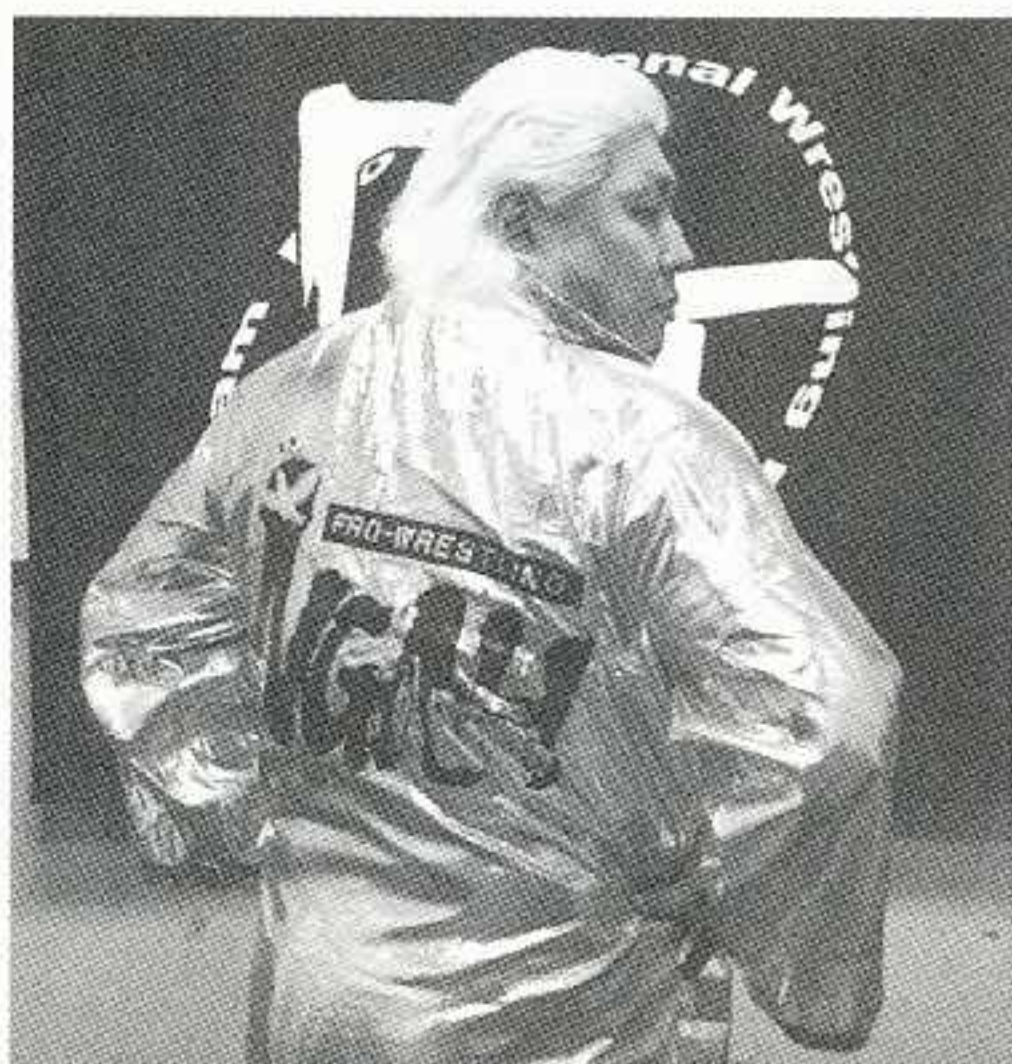
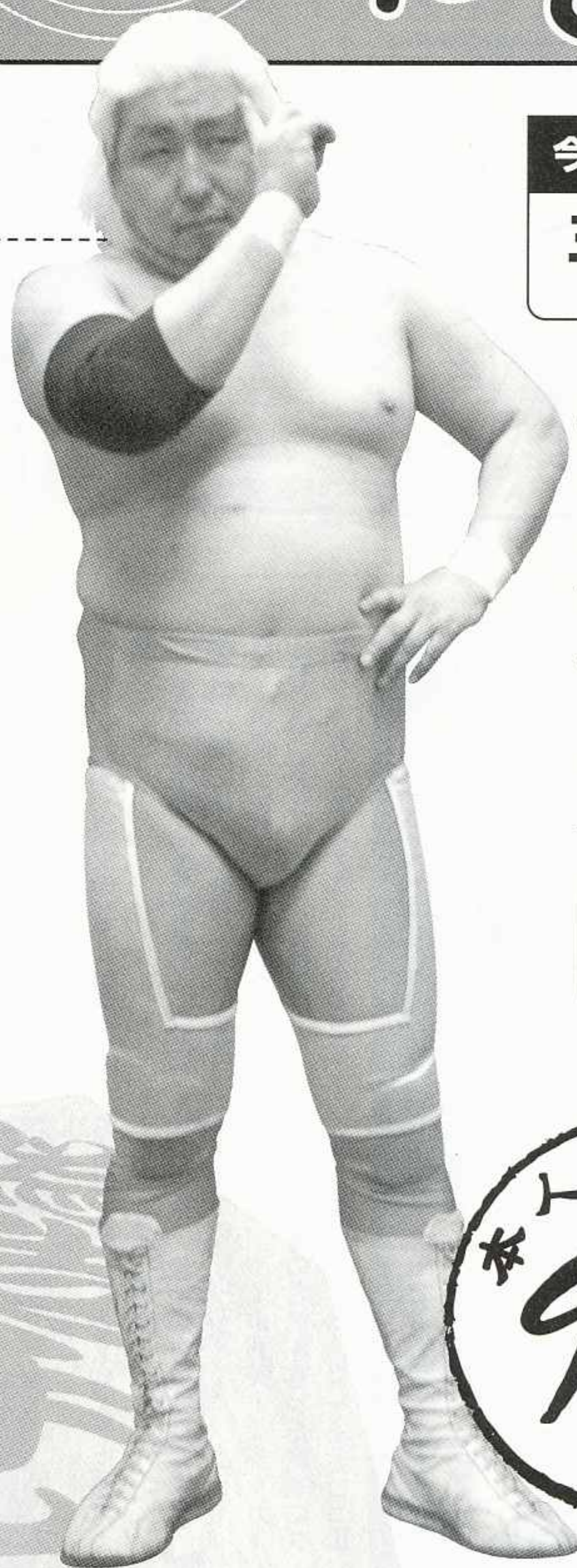
偽造だもの

武藤敬司からYAWARAちゃんまで偽造の限りを尽くす一宮章一。自他共に認める"偽造王"一宮の偽造コレクションを御開帳！　今月は、方舟を先導する緑色のあの人だ！

今回の偽造ネタ
三沢光晴
（NOAH）

その名は……
偽沢光晴

ヒゲは眉ペンで。照明の具合や会場の大きさで、ヒゲの濃さを微妙に描き分ける職人技。芸が細かい！

ガウンも完全再現……と思いきや「NOAH」ならぬ「NGAH」。三沢との直接対決を目論む一宮だが、果たしてこのガウンを着て、三沢と偽沢が対峙する日はやってくるのか!?

5月31日、北沢タウンホール。この日、偽沢は田上もどきの石川修司とタッグ。三沢が憑依した偽沢は断崖タイガースープレックスを狙うが、逆に奈落喉輪落としを喰らうはめに……。

本人評価点
95点

こんにちは偽沢光晴です！　先月は記念すべき第一回目にも関わらず、「昭偽」子というしょっぱい偽造をお見せしてしまいました。今回はもう30回以上はやってる自信作です。

周りの評判はもの凄くいいんですけど、正直言ってやるまでは勇気が必要でしたね。三沢さん御本人にも噂は届いてるらしくて、「やってるらしいね」って三沢スマイルで答えてくれたと人を介して聞いてますけど、いいのか悪いのかは不明なんですよね（笑）。

これは三沢さんに限らずなんですけど、偽造って、ただ技を出せばいいってもんじゃなくて、独特の間とかリズムがポイントなんです。技の後の一呼吸が大事なんですよ。三沢さんで言うと、分かり易く言えば、汗とばしとかパンツ直し（笑）。その辺の微妙な動きをどういうタイミングで出すか、そこを大事にすることによって技の偽造も生きてくるんですよね。あと、僕はまだエメラルド・フロージョンは出してないんです。あの技を出すまでの相手とはまだ闘ってないですし、三沢さんと同じように技を大事にしていると。そういう技を大事にする部分の三沢イズムも継いでいきたいんです。偽造してると気持ちも三沢さんになってしまって、受けも強くなってるような気がしますからね（笑）。お陰で奈落ノド輪落としまで喰らっちゃいました（苦笑）。でも偽造してる人の気持ちが乗り移るということが偽造の根本的なことですから。

偽沢光晴は作品として納得してるんで95点ですね。でも満点を出すと進化が止まっちゃうんで100点ではないです。残すは三沢さんとの直接対決ですね。いろんな意味でNOAHさんという牙城を崩すのは大変なことですけど（笑）、いつか、お金を貯めて自分の興行に三沢さんを呼んで闘えたらなって思ってます。それに、いまはNOAH勢のレパートリーを増やそうと思って、丸藤選手の偽造を特訓してるんですよ。丸藤選手は意外と感情を表に出さずに試合を淡々と進めるので、その部分で手こずってますね。そこを克服しないと技を出しても似ないんですよ。まあ不知火も途中で止まっちゃって回転できない有様なんですけど（笑）。本田多聞選手と斎藤彰俊選手は自信があるんで、いつでも披露できる状態です。いつ出るか分からないので楽しみにしててください。

“歌うシュート活字王”狂気の連載!!

タダシ☆タナカの『シュート活字劇場』

マット界舞台裏の裏（ウラ）

第8回

テレビ局との思惑違いと格闘技コンテンツの将来像

かつて初代タイガーマスクらの活躍で「金曜夜8時」の視聴率が常時20%台だった時期もあるテレビ朝日系『ワールドプロレスリング』が、4月から30分番組となってしまった。

新日本プロレスと言えば、80年代は日本マット界どころか世界のリーダーだったのに、現在は視聴率のためにボブ・サップをIWGP王者にして（サップ王座返上により、現在は藤田和之が王者）、東京ドーム大会のTV解説は曙にさせるなど、K-1の子会社と揶揄されるまでになってしまった。一体何が新日本をここまで没落させたのか？

K-1や『PRIDE』に興行市場のパイを奪われている現状は説明するまでもないが、純プロレスの内容でもノアに後塵を拝し、エンターテインメントの完成度ではWWEに大差をつけられてしまった。創立から32年目の老舗団体が危機にあることに変わらない。3月の決算報告によると売上高は30億7300万円。45億円を記録したピークからは無残な落ち込みで、前年度からだけでも7億円の減収と、1億5千万円の赤字が報告されている。

昨年は『アルティメット・クラッシュ』と称し総合格闘技に進出して、プロレス試合とのブレンド興行を開催するなど、新基軸を打ち出そうとしてはいる。しかし武藤敬司が全日本、橋本真也がZERO-ONEと、スターたちが分散してしまった印象からいまだ抜け出せてない。

5・3『NEXESS』東京ドーム大会は、K-1との〝全面対抗戦〟企画となり、お約束の2勝2敗となった。メインは米国から戻ったばかりの王者ボブ・サップが中邑真輔の挑戦を退けて初防衛に成功している。ただし前宣伝を含めて注目された柴田勝頼の〝異種格闘技戦〟は、「K-1側とルールで紛糾」という古典的なスポーツ紙のあおりが復活し、寝技20秒制限で立ち技系が有利という言い訳にして、武蔵のプロレス・デビュー戦勝利が演出されていた。当日深夜0時16分からテレ朝の一時間番組は視聴率9%と、通常の『ワールド・プロレスリング』では考えられない高視聴率を記録したが、前日夜10時半から12時までのフジテレビは、二日前のK-1ラスベガス大会からサップの凡戦で15%を記録していることを忘れてはならない。

5・22さいたまスーパーアリーナの『ROMANEX』もまた、「異種格闘技世界一決定戦」というお題目が使われた。旗揚げ戦は皮肉にも、その元祖である新日&猪木軍の5戦全勝で〝プロレスの逆襲〟となっている。エースのサップに藤田和之が挑戦する〝野獣〟対決は、消化不良ばかりの6連勝だったCM王サップを、藤田が顔面へのサッカーボールキックなどで戦意喪失に追い込んでいた。〝K-1ルールではなかなか本領発揮できないが、総合ではトップクラス〟という幻想は、〝ボブ・タップ〟と書かれることで崩壊。本職はTVタレントであったことになる。

サップは強いエンタテイナーだから支持されてきた。02年4月の日本初上陸以来、昨年はミルコ・クロコップにKOされ、大晦日の対戦相手・曙のギャラを聞いて怒り狂ったあたりから、すでに歯車は狂っていた。日本人にも弱々しい「泣き顔」姿をさらして完敗したことでキャリアの転換点になっている。

それでも視聴率は13・7%。NHKの北朝鮮番組が24・9%で、テレ朝の報道特番が17・9%だから、相変わらず凄い数字だ。ただし観客動員は芳しくなく、会場には熱気がないまま。当初のイベント名『K-1 MMA ロマネクス』も対抗団体DSEが『MMA THE BEST』開催時に「MMA」を商標登録していたことから、開催3日前になって内容証明付きでイベント名から「MMA」表記を外すよう求められ、テロップや看板の書き換えなどてんてこ舞いだったそうだ。企業戦争とはいえ、馬鹿げた足の引っ張り合い次元で情けない。

失ったものの大きさでは、K-1の信用もある。IWGPのベルトを賭ける、賭けないという時代錯誤な仕掛けを始めたのだから驚いた。この新聞ネタ騒動の最中に、谷川貞治社長のFEGが極真とK-1の対抗戦企画である『一撃』（5・30日本武道館）をテレ朝にすることを発表したのだからたまらない。フジ、日テレ、そしてTBSに続いて、ついにテレ朝までもが「K-1ブランド」に陥落した形となる。

ただし、エースのフランシスコ・フィリオが昨年末のGP王者であるレミー・ボヤヤスキーに勝利したにもかかわらず、その視聴率は3・3%と惨敗している。何を血迷ったか『Get Sports』枠内での中継で、番組欄に書いてあった深夜12時からではなく、30分付き合ってからではそもそも興味が持続しない。まして深夜ならメインから見せる構成もあったのに、極真勢の全勝にもかかわらず、ダラダラした前座が続いたので呆れた。肝心の大将戦は、わざわざラウンドごとに長いCMを入れて引き伸ばし、すっかりフィリオ復活の興奮を画面から逃がした製作班の責任は重い。

一進一退の激戦ならともかく、名勝負ではなかった以上、一気に3Rつなげたほうがインパクトがある。日テレが大晦日の『イノキボンバイエ』でケイコンフィデンスから2億円の未払いを訴えられているが、低視聴率だったのはカードが悪いからではなく、番組作りにも非があることは否定できないだろう。民放局にとって魅惑の格闘技コンテンツだが、各社が反省を迫られる5月であった。

「ボブ・サップをエースにした総合格闘技団体」のはずだった『ROMANEX』だが、K-1系テレビ番組全体のエースであったサップの商品価値を著しく暴落させる皮肉な展開に。サップ頼みだったK-1も転換期を迎えたと言えよう。

ザ・検証

今月から正式にコラム担当になった斎野です。今号でせき詩郎さんがコラムで紹介した性格占いを、おのれで試してみたところ、「協調性に乏しく、自分の殻に閉じこもってます。それに少し見栄っ張り。女性にあまり慣れてません」との診断結果が。あまりにも当たってるので、ビビってたじろぎました。

【今月の検証　椎名基樹】

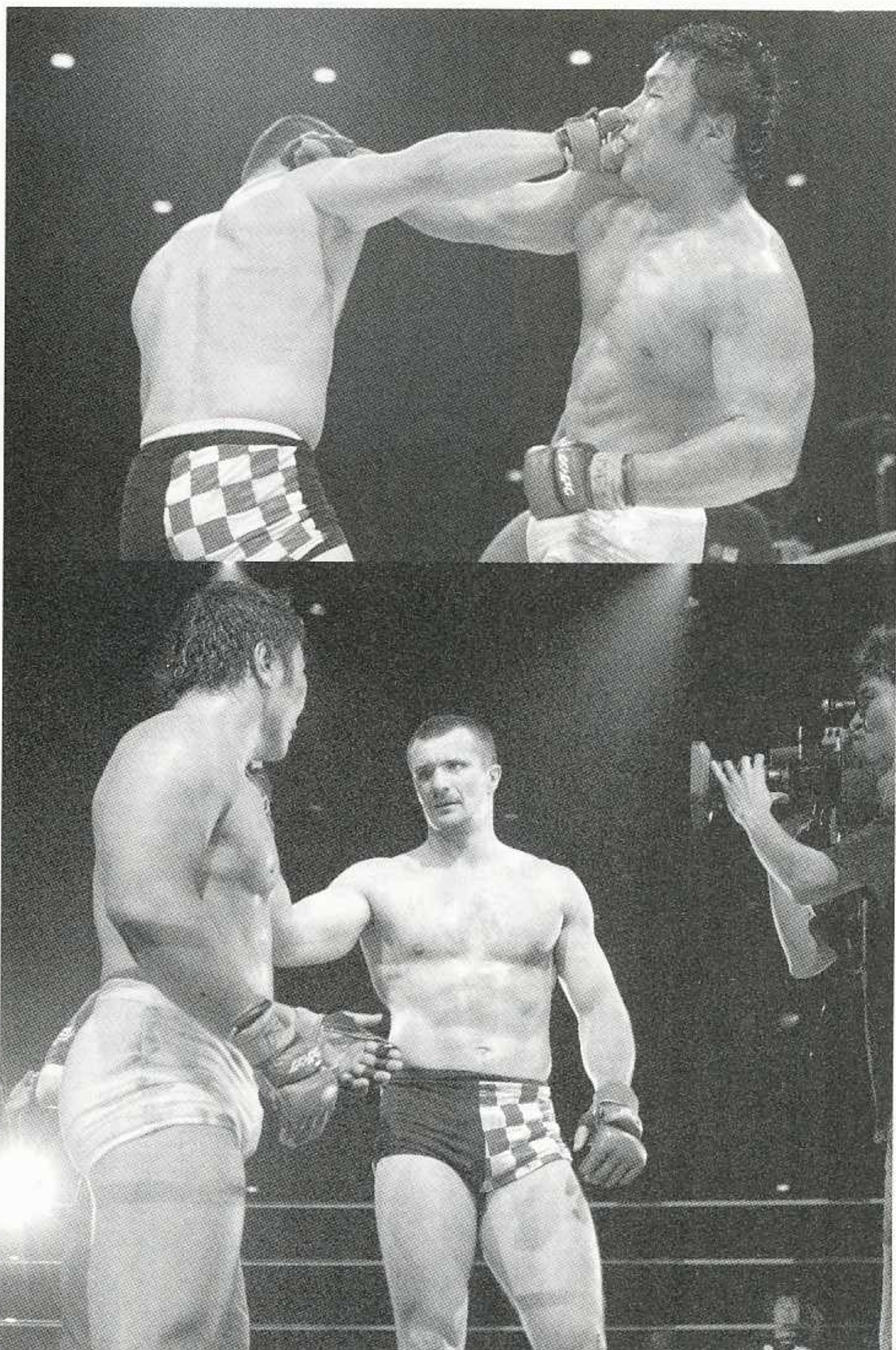
がんばれ金原

金原vsミルコ。今、運気低下中のミルコということもあって、「もしや」という思いで、応援して観たのだが、まるっきり歯が立たなくてガッカリ。ミルコ相手に打撃で対抗して、フラフラになりながら最後まで立っていたのだから、立派なのかもしれないが、あの戦い方では勝てる見込みを見いだせず、観ていて歯がゆい。

プロレスラーvs打撃系ファイターの典型のように、何が何でもグラウンドに引きずり込んで、ボロボロになりながら、極める。そんなカタルシスがある試合を望んでいただけに、金原の戦術は一体何がしたかったんだろう？と感じずにはいられなかった。

足へのタックルは難しいだろうが、ランデルマンのように、脇を差す展開を予想していた。しかし、実際はレスリングでも、歯が立たないようで、最後は数回、ミルコの大外刈りで倒され、逆に、ミルコにグラウンドの展開を選択される始末だった。大外刈りといっても、そこにフラフラの棒立ちの男がいたから、足を掛けて倒したというだけで、イジメられっこが、いたぶられているような印象を受けた。

金原は、プロレスラーということにアイデンティティーを持ち、それを公言する選手。ファンはそこの部分に、応援する理由や醍醐味を感じているはずだ。それなのに、プロレスラーがキックボクサーに、ああいう倒され方をされると、少なからず観ていてショックである。

金原には、今後、例えば郷野戦であるとか、次世代の若い日本人選手との戦いを望む。それに勝とうが、負けようが、金原が輝くには、それしかないと思う。突然出てきて、外人トップファイターとやったって、もう意味がない。Uインターというブランドを、勝って輝かせるか、負けて相手をそのブランドで輝かしてあげるか、そういう試合が、意味があるように思う。以上。

1年半ぶりに復活した金原は、頭部と右肘の裂傷というダメージを負いながらも、ミルコの猛攻を凌ぎきり判定まで持ち込んだ。互いに健闘を称え合ったが、KOで勝利できなかったミルコは浮かない表情だ。

おまけ

コラム担当・斎野が独断で選ぶ

金原と闘って欲しい日本人選手

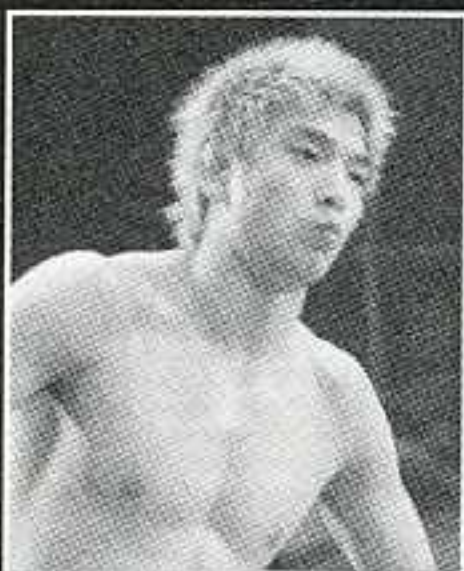
スペースが余ったため、金原弘光選手と闘ったら面白そうな日本人選手を勝手にピックアップしてみました。みんなも一緒に考えよう!

元関脇・現MEGATON

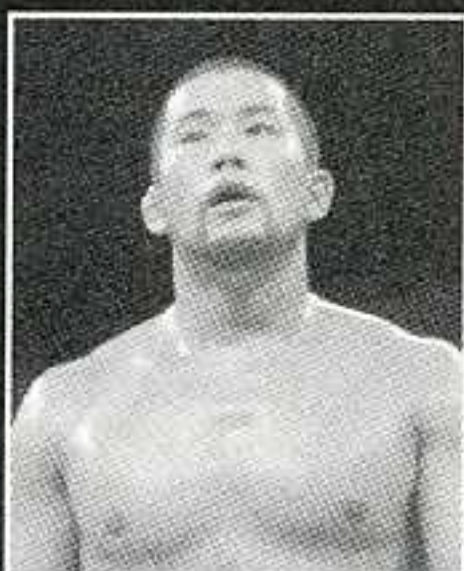
若翔洋俊一

もし金原と対戦しても、デビュー前なので断然不利なのは当たり前。しかし金原は、盟友・天山をホーフツとさせる若翔洋の髪型に、攻撃の手が一瞬止まるはず。「今でごわす!」とばかりに組み付いて、現役時代の得意技・小手投げで勝機を掴む……のか?

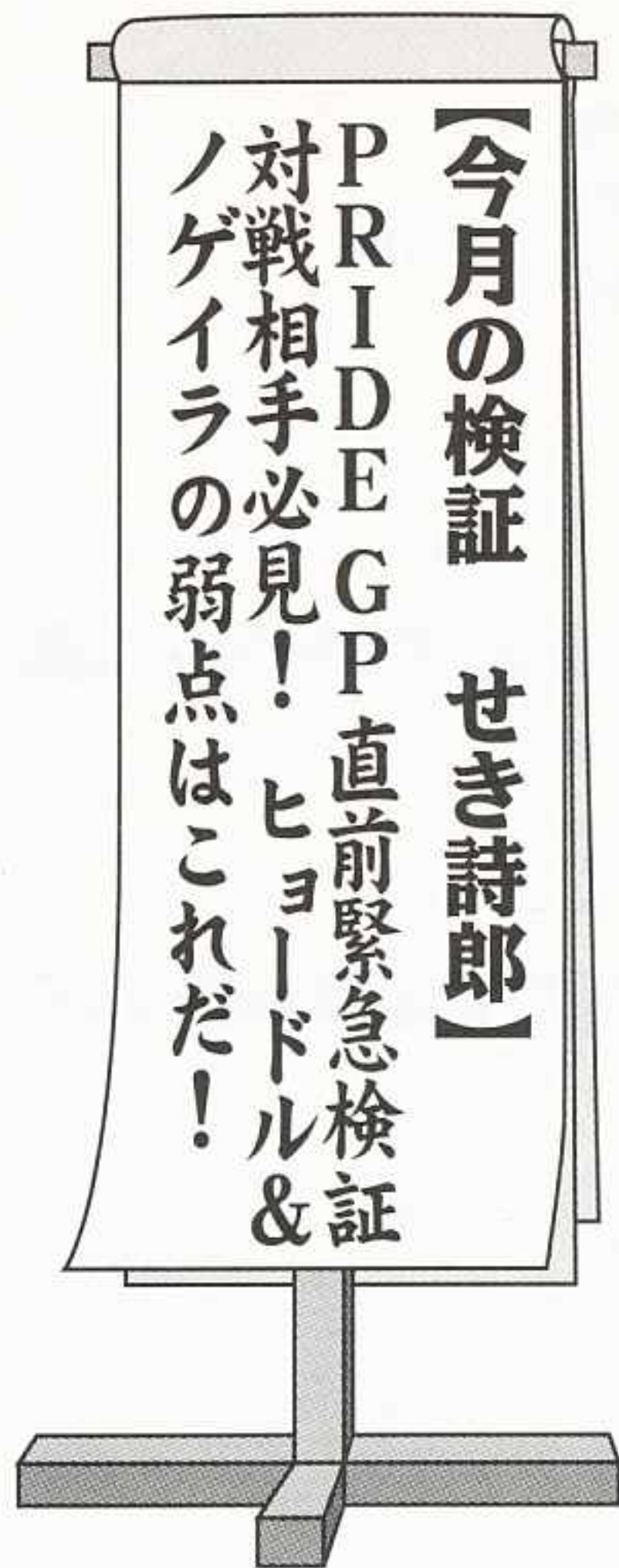
ZSTのプリンス

所英男

7月のZSTで、所とリングスルールで闘う相手はぜひ金原に。ミルコに負けた金原に対し、"小さなミルコ"モリカビュチスに一本勝ちした所。明暗クッキリの両者だが、金原には一日の長があるリングスルールで憂さを晴らしてもらいたい。

GRABAKAの火薬庫

郷野聡寛

検証にも名前の上がっている郷野は、金原同様、スタンドとグラウンドの両方に秀でた選手。金原との闘いは、玄人好みの最高の技術戦になることは間違いないだろう。更に試合後の"ボヤキング"と"火薬庫"のコメントにも注目だ。

【今月の検証　せき詩郎】

PRIDE GP直前緊急検証 対戦相手必見！ ヒョードル＆ノゲイラの弱点はこれだ！

『PRIDE』ヘビー級四天王と呼ばれている、ヒョードル、ノゲイラ、ミルコ、そしてコロッケ。今回のトーナメントはこの4人の争いになると予想された。

しかし、一回戦でミルコがまさかの敗退。コロッケにいたっては、四天王を抜け、『PRIDE』から日本テレビのモノマネ番組へと電撃移籍。残ったのはヒョードル、そしてノゲイラの2人だった。

4人が2人になった。だからといって何かトーナメントに変化が起きたかといえばそうではない。四天王が二強になっただけのこと。我々観客は、より優勝者の予想がしやすくなったことを喜ぶべきだろう。

しかし、喜んでいられない者もいる。それはこの「二強」と対戦しなければならない格闘家たちだ。ヒョードル、ノゲイラには隙があるようには思えない。勝てる要素が見つからない。もし対戦相手が二強になってしまったならば、己の不運を呪うことしかできないだろう。

だが、ヒョードルとノゲイラには本当に隙は見当たらないのか？

この疑問を解決するために私はインターネット（セガサターンで）で調べまくった。出会い系、ライブチャット、ヤフオク等、おおよそ無関係なところをひたすら見ているうちに目が疲れた。ベッドに行って、漫画を読みながらいつの間にか眠りたい衝動にかられた。

その時だった。『狙った男の落とし方』という占いサイトを見つけたのは。狙った男の落とし方、つまりは対戦相手の落とし方ということだ。ヒョードルとノゲイラの落とし方、二強の弱点がこのサイトでわかるのだ。

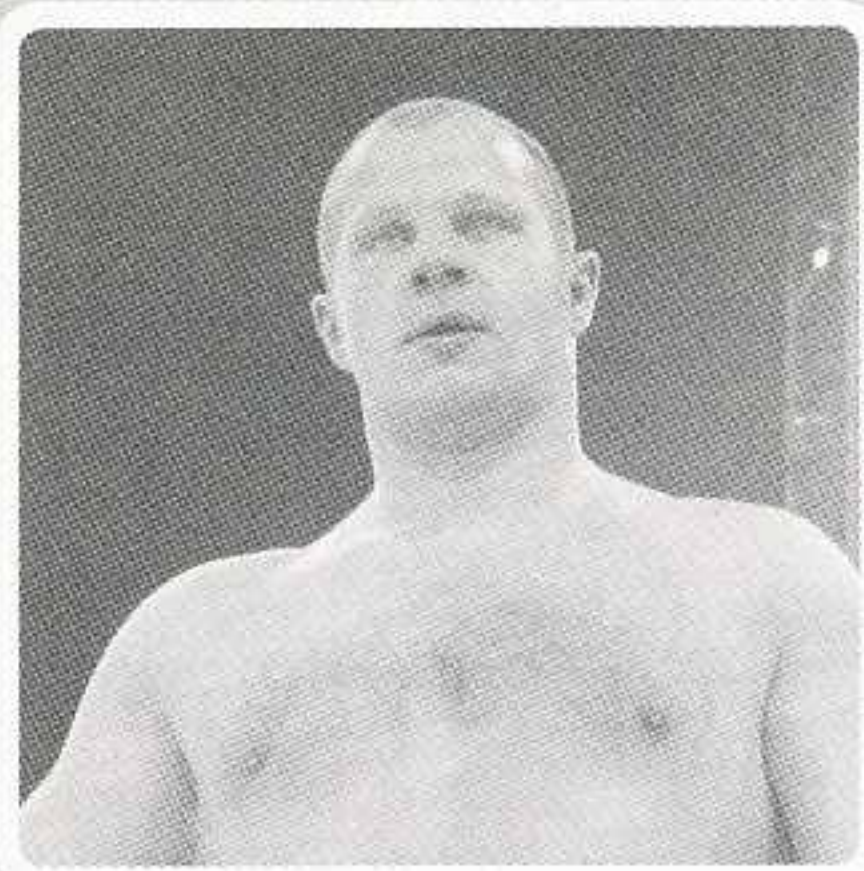
方法は簡単だった。落としたい相手の生年月日を記入し、ボタンを押すだけだ。幸い二人の生年月日はわかっていた。ならばもう二人の弱点を手にしたと同じだった。

まずはヒョードルの生年月日を入れた。なかなか本性をあらわさない不思議な男であるヒョードルは、人見知りが激しいらしい。ということは、初対戦の相手に弱い可能性がある。対戦前にプレゼント（ペアもの）を贈り、「あなたの魅力を知っているのは私だけ」というリップサービスを忘れずに行う。これでヒョードルの心はくすぐられる。また何を言っても表情を変えないヒョードルには、忍耐が必要であるらしい。短期決戦ではなくフルラウンド戦に、判定に持ち込むのが良いかもしれない。間合いを詰めさせず、ちょっと距離を置きながら効果的に攻めれば勝利は目前であろう。

続いてノゲイラ。かなりのあわてんぼうであるらしいノゲイラはドジをする可能性がある。つまり自滅を待てば勝てるのだ。しかし純粋な心を持った素直なノゲイラに、そんな勝ち方はしたくないだろう。海外旅行が大好きなノゲイラであるから時差ボケになることは考えにくい。コンディションはいつも最高。そんなノゲイラにもヒョードル同様リップサービスが有効的である。いざ闘う場合は強気に攻めずに、トリッキーな動きが良いらしい。彼から謝ってきたら（タップしてきたら）もうこっちのものである。

以上、ヒョードルとノゲイラの攻略法を簡単に述べてみたが、詳しくは今回見つけたサイトの文を抜粋して作った表を参照して欲しい。特に彼らの対戦相手になってしまった格闘家には、ぜひとも参考にしてもらいたい。試してみたい方はコチラのサイトまで
http://www5a.biglobe.ne.jp/~uranaiya/

そして「あなたの魅力を知っているのは私だけ」とリップサービスを本当に実践しているセーム・シュルトの姿を想像しながら、今回の検証は終わりにしよう。

エメリヤーエンコ・ヒョードル
1976年9月28日生

■ **彼の性格は？**
彼は、なかなか本性をあらわさない不思議な人。親密になった人とはとても楽しく付き合いますが、初めての人には警戒心を表します。人見知りが激しい人と思ったほうが良いのかも。

■ **彼の心をくすぐる方法**
ものや金額よりもプレゼントに込められた気持ちを大切にします。だから、品物は何でも良いのですがペアものなどには大喜びしそうです。感情を表に出さない彼をホメるなら、「あなたの魅力を知っているのは私だけ」という特別扱いが効果的。また、Hも大好きな彼には、ご褒美Hも心をくすぐります。

■ **彼の心を揺さぶる方法**
なにを言っても表情を変えない彼には、忍耐が必要なときも。その場合には、ちょっと距離を置いてみるのも効果的。でも、あまり距離を置きすぎるのも破局の原因になりますのでホドホドにしましょう。

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
1976年6月2日生

■ **彼の性格は？**
彼は、かなりのあわてものです。はやとちりや、口が滑って失敗することも。でも、純粋な心を持った素直な人です。

■ **彼の心をくすぐる方法**
彼は海外旅行が大好き。だから、海外に関するプレゼントが喜ばれます。地図やガイドブック等のほかに新しい旅行プランなどを提案してあげるだけでも喜びそう。悩んでいるときや、喜んでいるときに聞き役に徹してあげると、彼にとってあなたはかけがえのない人になっていきます。「一緒にいるとすごく楽しい」、「勘がいいね」などのホメ言葉も効果があります。

■ **彼の心を揺さぶる方法**
単純で短気な彼には、強気に攻めるとケンカになることも。ムッときても、ジョークでかえしたり、さらっと流す大人の態度が、彼には新鮮に移るかも。彼から謝ってきたらもうこっちのもの。

RADICAL CALENDAR

06 Jun

11 FRI.
新日本■兵庫・高砂市総合体育館(18:30)
NOAH■東京・後楽園ホール(18:30)
北都プロ■北海道・北村農業者トレーニングセンター(17:30)

12 SAT.
新日本■三重・四日市市体育館(18:00)
全日本■愛知・愛知県体育館(18:30)
みちプロ■宮城・仙台市ニューワールドテニスクラブ(18:30)
闘龍門■三重・ゆめドームうえの(18:30)
大阪プロ■大阪・IMPホール(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

13 SUN.
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
みちプロ■山形・山形市総合スポーツセンター(15:00)
闘龍門■長野・佐久市総合体育館(17:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
ニュージェネレーション興行■東京・新木場1st RING(18:00)
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館 第3競技場(13:15)
北都プロ■北海道・三笠市スポーツセンター(14:00)
JDスター■東京・新木場1st RING(12:30)
NEO■東京・東京キネマ倶楽部(13:00)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(17:00)
女闘美X■東京・バトルスフィア東京(16:00)
新日本キック■東京・ディファ有明(16:00)

14 MON.
WWS■群馬・伊勢崎市第二市民体育館(18:30)

15 TUE.
北都プロ■北海道・別海町コミュニティーセンター(19:30)

16 WED.
DDT■東京・北沢タウンホール(18:30)
AtoZ■東京・後楽園ホール (18:30)

17 THU.
ZERO-ONE■宮城・宮城県スポーツセンター(18:30)
WJ■滋賀・滋賀県立文化産業交流会館(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

18 FRI.
闘龍門■愛知・小牧パークアリーナ(18:30)
みちプロ■北海道・北見市立東地区トレーニングセンター(18:30)
全日本キック■東京・後楽園ホール(18:30)

19 SAT.
みちプロ■北海道・札幌テイセンホール(18:30)
闘龍門■東京・八王子市民会館(18:30)
WJ■長崎・長崎市平和会館ホール(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
北都プロ■北海道・美瑛町民センター(17:30)
NEO■東京・北沢タウンホール(18:30)
LLPW■山口・海峡メッセ下関(18:30)
いとなべ興行■東京・クラブeX(19:00)
U-FILE CAMP■東京・西調布格闘技アリーナ(18:30)
SMACK GIRL■大阪・アゼリア大正(17:00)

20 SUN.
闘龍門■東京・ディファ有明(16:00)
WJ■佐賀・ウェルサンピア伊万里(17:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
K-DOJO■埼玉・桂スタジオ(17:00)
ナイトメア■東京・バトルスフィア東京
GAEA■東京・後楽園ホール(13:00)&(18:00)
JWP■東京・八王子市民会館(13:00)
LLPW■福岡・地場産くるめ(18:00)
PRIDE・GP■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(15:00)

21 MON.
闘龍門■静岡・キラメッセ沼津(18:30)
WJ■熊本・興南会館(18:30)

22 TUE.
パンクラス■東京・後楽園ホール(18:30)

23 WED.
NOAH■大阪・大阪府立体育会館第二競技場(18:00)

24 THU.
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

25 FRI.
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(18:30)
NOAH■広島・広島県立総合体育館 小ホール(18:00)
K-DOJO■神奈川・横浜赤レンガ倉庫(19:00)
AtoZ■東京・アメージングスクエア(19:30)

26 SAT.
ZERO-ONE■長野・駒ヶ根市体育館(18:00)
NOAH■京都・KBSホール(18:00)
闘龍門■愛媛・テクスポート今治(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
全女■静岡・富士川町総合体育館(18:30)
JDスター■東京・新木場1st RING(18:00)
NEO■東京・赤塚公会堂(18:30)
K-1 JAPAN■静岡・エコパアリーナ(16:30)
グラジエーター■ソウル・オリンピック公園第1体育館(17:00)

27 SUN.
ZERO-ONE■栃木・矢板市農業トレーニングセンター(16:00)
NOAH■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■福岡・博多スターレーン(18:00)
大日本■東京・後楽園ホール(12:00)
DDT■愛知・名古屋中スポーツセンター(15:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
K-DOJO■千葉・多古町町民体育館(15:00)
T.A.M.A.■広島・福山蚕業交流館 ビッグローズ(14:00)
AtoZ■東京・AtoZ江戸川道場(15:00)
グラジエーター■ソウル・オリンピック公園第1体育館(17:00)
修斗■千葉・BlueField(17:00)
Girls SHOCK■東京・ニューピアホール(15:00)

28 MON.
ハッスル・ハウス■東京・後楽園ホール(19:00)
PWC■東京・北沢タウンホール(18:45)

29 TUE.
NOAH■盛岡・岩手県営体育館(18:30)
闘龍門■鳥取・鳥取産業体育館(18:30)
PWC■東京・北沢タウンホール(18:45)
K-DOJO■栃木・小山市立文化センター(19:00)

30 WED.
NOAH■宮城・塩釜市体育館サブアリーナ(18:30)

07 July

01 THU.
ZERO-ONE■福井・福井市体育館(18:30)
NOAH■福島・福島市国体記念体育館サブアリーナ(18:30)
DDT■東京・後楽園ホール(19:00)

02 FRI.
ZERO-ONE■静岡・ツインメッセ静岡(18:30)

03 SAT.
ZERO-ONE■群馬・安中市総合体育館(18:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
全女■静岡・焼津市民体育館(18:30)
JDスター■東京・新木場1st RING(18:00)
DEEP■東京・ディファ有明(18:30)

04 SUN.
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■兵庫・神戸ワールド記念ホール(16:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
LLPW■東京・東京キネマ倶楽部(18:30)
JDスター■東京・新木場1st RING(18:00)
ZST■東京・Zepp TOKYO(16:40)
修斗■東京・北沢タウンホール(18:00)

05 MON.
NEO■東京・渋谷CLUB ATOM(19:30)

06 TUE.
新日本■東京・後楽園ホール (18:30)
ZERO-ONE■長野・長野運動公園総合体育館(19:00)

07 WED.
新日本■埼玉・富士見市民総合体育館(18:30)
LLPW■東京・後楽園ホール(18:00)
K-1 WORLD MAX■東京・代々木第1体育館(17:30)

09 FRI.
新日本■三重・三重県立ゆめドームうえの(18:30)
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(18:30)
DDT■千葉・船橋アリーナ(18:30)

10 SAT.
新日本■滋賀・滋賀県立体育館(18:00)
ZERO-ONE■新潟・新潟市体育館(18:30)
NOAH■東京・東京ドーム(18:00)
闘龍門■沖縄・北谷公園屋内体育館(18:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
全女■新潟・新潟フェイズ(18:30)

11 SUN.
新日本■岐阜・岐阜産業会館(16:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
ジャガー横田興行■東京・新木場1st RING(13:00)&(18:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(12:00)
新日本キック■東京・後楽園ホール(17:00)

14 WED.
新日本■山形・山形市総合スポーツセンターサブアリーナ(18:30)
DDT■東京・新木場1st RING(19:00)

15 THU.
新日本■秋田・秋田県立体育館(18:30)

16 FRI.
WWE■東京・日本武道館(18:00)
新日本■秋田・大館市民体育館(18:30)
闘龍門■福岡・小倉北体育館(18:30)
修斗■東京・後楽園ホール(18:30)

17 SAT.
WWE■東京・日本武道館(18:00)
みちプロ■宮城・仙台市ニューワールドテニスクラブ(18:30)
闘龍門■宮崎・延岡市民体育館(18:30)
全女■岐阜・飛騨高山ビッグアリーナ サブアリーナ(18:30)
IWA■神奈川・茅ヶ崎青果地方卸売市場(17:00)
NEO■東京・北沢タウンホール(18:30)
K-1■ソウル・ジャンシル体育館(15:00)
パンクラス■ソウル・オリンピック体操競技場

18 SUN.
新日本■北海道・札幌テイセンホール(15:00)
みちプロ■岩手・矢巾町民総合体育館(15:00)
闘龍門■長崎・長崎ncc&スタジオ(18:00)
K-DOJO■愛知・名古屋西区ワンダーシティー
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場(13:15)
GAEA■大阪・大阪ドーム スカイホール(15:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)

19 MON.
新日本■北海道・月寒グリーンドーム(15:00)
みちプロ■秋田・秋田市内予定
闘龍門■長崎・佐世保市民体育館(16:00)
IWA■関東地区予定
AtoZ■神奈川・横浜文化体育館(15:00)
GAEA■愛知・昭和スポーツセンター(13:30)
JDスター■東京・後楽園ホール(12:00)
PRIDE武士道-其の四-■愛知・名古屋レインボーホール(15:00)
シュートボクシング■宮城・宮城県スポーツセンター

20 TUE.
新日本■北海道・旭川地場産業振興センター(18:30)
みちプロ■福島・塩川町民体育館(19:00)
IWA■群馬・渋川市総合公園体育館(18:30)

21 WED.
新日本■北海道・釧路市厚生年金体育館(18:30)
みちプロ■秋田・戸沢村中央公民館体育館(19:00)
闘龍門■大分・大分イベントホール(18:30)
IWA■東京・後楽園ホール(18:30)

22 THU.
闘龍門■熊本・熊本興南会館(18:30)
AtoZ■北海道・八雲町総合体育館(18:30)

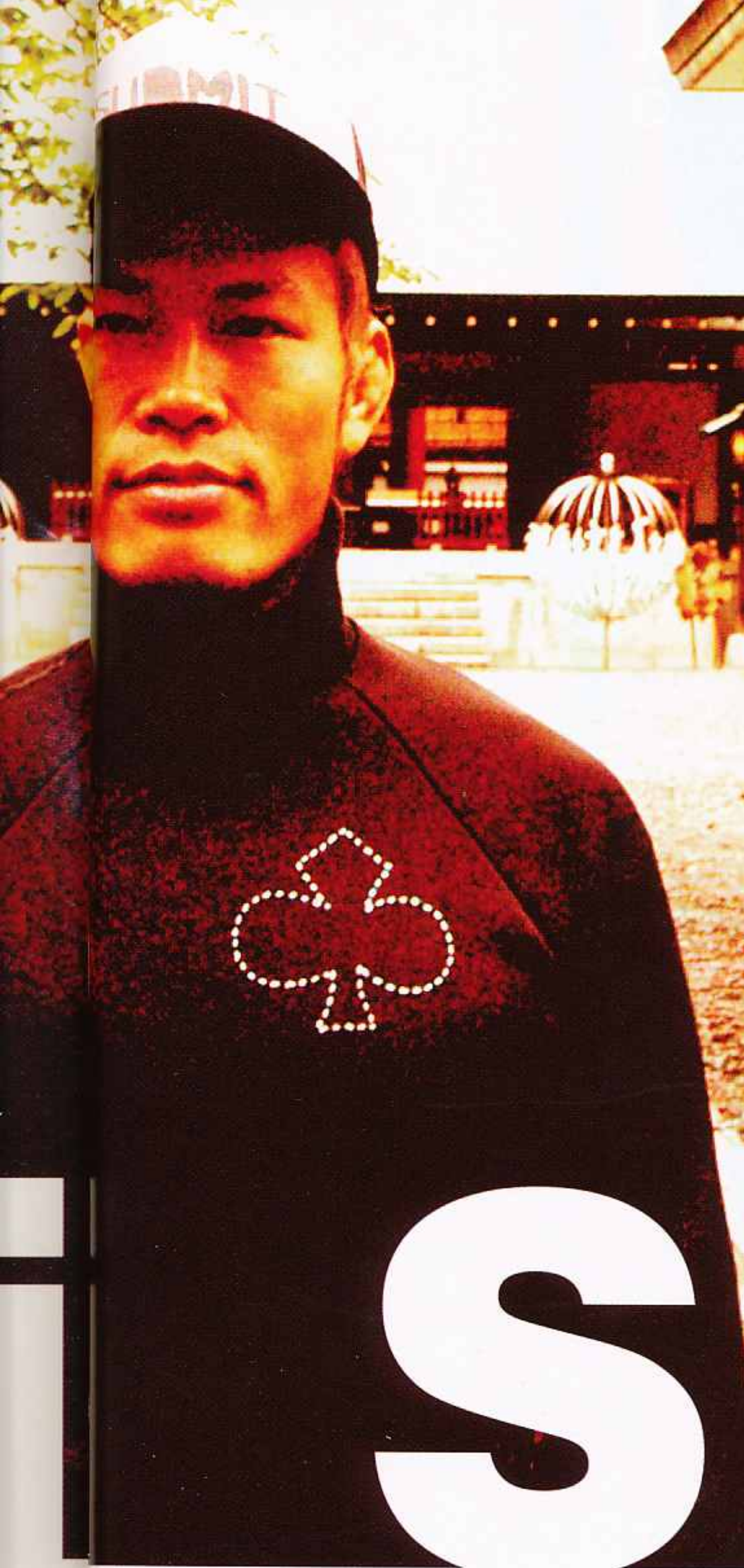
23 FRI.
新日本■青森・青森市民体育館(18:30)
みちプロ■秋田・仁賀保町民体育館(19:00)
闘龍門■福岡・久留米リサーチパーク(18:30)
AtoZ■北海道・北檜山町民体育館(18:30)

24 SAT.
新日本■岩手・一ノ関文化センター体育館(18:30)
みちプロ■宮城・中田町勤労者体育センター(19:00)
NOAH■東京・ディファ有明(18:00)
闘龍門■佐賀・諸富町文化体育館(18:30)
JDスター■宮城・石巻市総合体育館(18:30)
AtoZ■北海道・札幌テイセンホール(18:30)

自分が相手なら
〝あの人〟も
受けてくれそうな
気がするんですよね。

Genki Sudo

Mind is defined.

解禁

Sudo

野望

須藤元気

「ホイスも倒して僕がヒクソンとやります」

須藤元気、デビュー前の野望達成！　5･22『ROMANEX』旗揚げ戦で、元気はホイラー･グレイシーと対戦。グレイシー一族随一の寝技を完封し、衝撃の失神KO勝ちを奪った。実は元気にとって、ホイラーはプロ格闘家になる前から目標にしていた選手。そのホイラーを倒したことで、元気がいよいよ、これまで暖めていた本当の野望を口にした。元気がどうしても倒したい相手。その男の名は……ヒクソン･グレイシーだ！

聞き手&文／橋本宗洋　構成／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫
designed by matsu（Two Three）

Genki

――『ROMANEX』でのホイラー戦はホントにお見事でした。

須藤　いや～、無事勝ててよかったです。

――試合前には「ホイラーはなかなかタップしない相手だから、打撃で失神させるか絞め落とすしかない」って言ってましたけど、その通りになりましたね。

須藤　UFCでは関節技、日本のスタイルで勝つことにこだわってるんですけど、今回は逆に日本でUFCスタイルをやったんですよ。日本ではあんまりパウンドでKOってないなと思って。

――ホイラーはテイクダウンより引き込んできましたが、その辺は？

須藤　というより、倒せないから引き込んできたんでしょうね。勝ちにつながったのは、四つ（差し合い）からのヒザが思いっきり入ったんですよ。

――最後のじゃなくて、ボディに入ったやつですね。

須藤　あれは絶対効きましたね。あれでホイラーの動きが遅くなって。その後引き込んできたんですけど、「これは引き込んだんじゃなくてダウンだな」って。四つからのヒザって凄く入るんですよ。

――そこで勝利を確信したと。

須藤　実はそのヒザって、UFCで（ドゥエイン・）ラドウィックにやられた技なんですよ。それからずっと研究して。こないだのUFC用にずっと練習してたんです。あと顔面に横から入れるヒザも決まってましたね。横からだと見えないんでビックリするんですよ。

――ただじゃ転ばないっていうか、敗北もきっちり活かしてるわけですね。ホイラーの寝技はいかがでした？

須藤　けっこう対応できましたね。完全に寝技vs打撃っていう図式にはしたくなかったんですよ。みんなそう思ってるんだろうなと思って。寝技の攻防になっても、その中での打撃っていうのを意識する感じでしたね。

――フィニッシュにつながったヒザの場面では、もう完全に動きが見えてたみたいですね。

須藤　ボディへのヒザで動きが遅くなってたんで。バックに回ろうと思えばそれもできましたね。全然動きにキレがなかったんで。

――じゃあホイラー戦が決まったときから「これでいける」みたいな気持ちはありました？

須藤　イメージはできてましたね。「勝たなきゃいけない」っていうプレッシャーは大きかったんですけど、母親の一言が効きましたね。「相手はあんたよりオジサンでしょ」って（笑）。

――シンプルかつ的確な（笑）。

須藤　素人の意見って案外的確なんですよ。「あんたの方が若いし勢いがあるんだ

○須藤元気vs ホイラー・グレイシー×

[1R 3分40秒 KO]

須藤元気がついにグレイシー一族と対戦。しかも、「PRIDE武士道」等に頻繁に出場する"ヘンゾ派"ではなく、グレイシーの中でも特別なエリオ直系のホイラー・グレイシーが相手だ。ホイラーは一族でも随一の寝技の使い手だが、元気は常に立ち技もしくは上を取り有利に試合を進め、3分過ぎ不用意にタックルに来たホイラーにヒザ蹴り！　さらに倒れたところにパウンドを落とし、なんと失神KOでグレイシー越えを果たしてしまった！　しかも、試合後はホイスに対戦をアピール。『ROMANEX』で本当に英雄が生まれた！

Genki Sudo

Mind is defined.

から」って。凄くツボを突いてるんですよね。

──で、「若さと勢いだ」と。

須藤　熟練した選手っていうのは、やっぱり冒険しないんですよ。ゴング直後に走ってきて飛びヒザとかやらないじゃないですか。熟練してるだけに後手に回ってくるんですよね。

──ましてグレイシーですしね。

須藤　それに対して自分も様子を見てしまうと、熟練してる分向こうが有利になってしまうんですよ。だからこっちは先手先手でいかないと。1Rは常に攻め切ろうって考えてました。止まらずに動き続けようって。そうすることで若さとか勢いが出てくるんで。

──今回は試合のタイミングというか、流れも完璧でしたよね。ホイラー戦は自分から希望したんですか？

須藤　いろいろ相手候補がある中に、ホイラーの名前もあったんで、やらせてくださいと。ちょっと準備期間が短かったんで、そこはちょっと懸念してたんですけど。でもチャンスですからね。躊躇しないで決めました。

──K─1MMAの立ち上げ段階から元気さんの出場は噂されてて、でも「バラエティ路線のカードに組み込まれるのはなぁ……」っていう気持ちもあったと思うんですよ。そんな中でホイラーが出てきたときはどう思いました？

須藤　もう、あんまり興行単位で考えないようにしてたんですよ。自分の試合に集中してクオリティを高めれば、見てる人は分かるだろうし。結果としてそれが興行の成功にもつながるだろうっていう。K─1と新日本の闘いを望んでいるファンの人もいるでしょうし。

──それはまぁ、どうなんでしょうね（笑）。

須藤　そういう中で、自分の試合のクオリティを見てもらえればいいんじゃないかなと。

──周りじゃなくて、オレはオレで勝負するんだと。

須藤　そうですね。どんな興行かとか考えるのはやめにしようと。それは興行主が考えればいいことであって。

──ましてホイラーとやれるんならクオリティで勝負できますしね。

須藤　そうですね。B・J・ペンとかも出てきましたし。

──元気選手って、これまでのK─1MAXとかでは放送の初っ端の盛り上げ役みたいなところがありましたけど、そういう役割もきちっと飲み込んでやってた感じですか？

須藤　そうですね、やっぱり掴みは大切ですからね。今回もテレビでは最初でしたし。でも、もう順番がどうとかはいいですね。テレビはテレビで数字取るための戦略があると思いますし、そこに自分が口を挟むこともないなと。テレビなんて出られるだけでありがたいっすよ。

──そりゃそうですよね（笑）。

須藤　みんな、試合したって地上波なんてなかなか出られないじゃないですか。そこで「もっといいポジションで」とか考えてたら足元すくわれちゃいますよね。自分の軸だけしっかりして、あとのことはこだわらずにいこうと。昔こだわりすぎた部分があるんで、逆にいまはなくなってきたというか。

──昔はオンエアの順番とか気にしてたんですか？

須藤　試合順とかも気にしてましたね。いかに自分がいいポジション、立ち位置にいけるかをかなり考えてました。隙間産業として（笑）。そういう時期があったからこそ、いまの位置に来れたんだと思うんで、

アメリカ留学時代に「ホイラーとやる」って紙に書いたら、6年後本当に実現しましたね。

全否定はしないですけど。

—いまは隙間どころか、どんな立場でも光れるんじゃないですか。

須藤　自分自身がちゃんとしてればいいんだと。ただ、そこのステージに立つまでは、いろいろ考えるのは必要だと思うんですよ。どうやったら上に行けるか、どう絡んだらおいしいか。そういうのをまったく考えない人もいるし、それはそれで純粋でいいなとは思うんですけど。自分の場合は上に行こうっていう貪欲さが凄くあったので。むしろ練習よりそっちを大事にしてましたね（笑）。

僕はプロセスより先にゴールを決めるんです。ゴールは信念ですから到達できるんですよ。

—ダハハハハ！　でも、いまや実力もしっかり認知されてますからね。

須藤　MAXに出たときが分岐点でしたね。出られることになったのはいいけど、K—1なんてやったことないじゃないですか。総合でも打撃なんて使ってなかったし。さすがに「やべぇ！」って（笑）。そこでホントに死ぬ気で練習しましたね。やっぱり大舞台に出ても、中身がなければ一過性で終わってしまうんで。「格闘技なんだから強くなきゃいけない」ってあらためて思うようになりましたね。そうなってくると、だんだん立ち位置とか考えなくなるんですよ。

—で、今回のホイラー戦のように、盛り上げるより何より結果が重視される試合で最高の結果を出したというのが非凡ですよねぇ。

須藤　いや〜、ありがとうございます（笑）。

—グレイシーっていうのも、前から頭にはあったんですよね？

須藤　そうですね。グレイシーがいたからこそ、日本の格闘技界も盛り上がりましたからね。ペリー来航ですよね。デビュー前、アメリカに留学するときに、目標として「ホイラーと試合する」って紙に書いてたんですよ。やっぱり紙に書くと実現するんですよね。

—そういうもんですか。

須藤　最近ビジネス本をよく読むんですけど、大半の人が「メモを取れ」って。人間を形成するのって思考・言葉・行為の3つなんですよ。かくありたい自分を考えて、しゃべって、行動すれば、そういう人間になれるんだなって最近あらためて気付いたっていうか。今回も6年前に書いてたことが実現したんで「まんざら嘘じゃないな」って。

—デビュー前から考えてたことってのが凄いですよねぇ。

須藤　その前、高校生のときからプロの格闘家になるっていうのは決めてたんですけどね。

—高校、大学でレスリングをやったのも、プロになるためで。

須藤　そうですね。ボクの場合、プロセスよりも先にゴールを決めるんですよ。ゴールがはっきりしてないと、プロセスもあやふやになっちゃうんですよね。ゴールっていうのは信念で、信念が現実に投影されるんで。ゴールがしっかり見えていれば、

挫折とかつまづきとかがあっても乗り越えられるんですよ。

―何がしたいか、そうなりたいかを決めて、そこへ向かうにはどうすればいいかを考えるという。

須藤　最初はプロになるってゴールを作って、そのためには何がてっとり早いか考えたんですよ。で、プロでもどの団体にしようか考えて、ある団体に決めました。その団体に出るにはどんなパターンがあるかも考えて、いろいろ紙に書いて。

―そこでもしっかり書いて（笑）。

須藤　普通に新弟子になるっていうのもあるけど、それよりいい方法はないかなって考えたときに、渡米を思いついて。しかもただ渡米するんじゃなくて、その団体に出るならシャムロックのライオンズ・デンかバス・ルッテンのビバリーヒルズ柔術クラブのどっちかだろうなって。

―デビュー前からそこまで考えてたんですか！

須藤　で、日本からのアクセスはロスの方がいいなと思って（笑）、ビバリーヒルズにしたんですよ。で、ルッテンに認めてもらえば逆輸入でデビューできるじゃないですか。

―単に修行に行ったんじゃないわけですね。

須藤　「この団体でデビューする」っていう最初のゴールがあったんで、そういうプロセスを決めたんですよ。

―で、実際にデビューしてからは、次のゴールを描いてたんですよね？

須藤　そのときは貪欲だったんで、後楽園より上のステージに行くぞと。

―普通、後楽園で人気が出ると満足しちゃう選手が多いんですけどね。やっぱり上にいく選手っていうのは意識が高いですね。

須藤　ただ、ちょっと打算的なことばっかり考えてた時期もあったんで、そうすると交通事故にあったりしてしまうんですよ。そういうことがあると、人も離れていったし。そこからですね、自分が変わったのは、あんまり欲丸出しでも人はついてこないなって。頭じゃなく心で動かないと。で、K―1に出ることになって死にもの狂いで練習して。

―頭と心と体と全部使って。で、K―1というビッグステージでも活躍して、と。ホイラーとやることが決まった段階で「勝ったらホイス」って考えはあったんですか？

須藤　試合前、誰がセコンドにつくのか調べたんですよ（笑）。

―ぬかりがないですねぇ（笑）。

須藤　そしたらホイスが来るっていうんで、これはもうホイスに対戦アピールしようと。そうやって自分で絵を描いていかないとダメなんですよね。ホイラーに勝っても、それだけだったら「いい試合だったね」で終わりじゃないですか。次につながるものを残さないと。そういう面ではプロレスが勉強になるっていうか、WWEにしても一回の試合じゃ終わらないですよね。常に次の絵を描いてる。

―あらゆる試合が予告編ですからね（笑）。

須藤　格闘技もそういうところを見習って、ストーリーを作っていかなきゃいけないなって。格闘家であると同時に構成作家でもないといけないなと。自分がホイスに「やろう」って言ったときに、ホイスは気軽に「プロモーターがOKすればいいよ」って言ったと思うんですよ。

―それを元気さんが、一気に大ごとにしちゃって（笑）。

須藤　そういう部分で、絵を描けたかなって思いますね。

―また勝ち方がよかったから、みんな期待したくなりますよね。

須藤　そういう意味で、しっかり練習しとかないといけないんですよね。言うだけじゃダメですからね。

―元気さんのやりたいことと、お客さんの期待が完璧に噛み合ってるからいいんですよね。物語を共有してるというか。桜庭選手がスターになっていった流れもそうですからね。結局やれてないですけど、ヒクソン戦が最も期待された選手になったわけですし。

須藤　ヒクソン、自分だったらやってくれるんじゃないかと思うんですけどね（笑）。ヒクソンがどうして試合しないかっていうと、認知度と実力が噛み合わないからだと思うんですよ。強くても人気がないとビジネスにならないし、人気があっても強くて体がデカかったりするとヒクソンも躊躇するし。

―そうなると……、と。

須藤　ボクならヒクソンより小さいし「コイツなら勝てる」って考えてくれるんじゃないかと（笑）。そのためにも芸能の仕事をさせてもらったり、試合のクオリティも上げて両方で自分の価値を高めていけば、ヒクソンもOKするんじゃないかって。

―考えてますねぇ（笑）。

須藤　なんか導かれてるような気がするんですよね。ホイラーに勝って、そのセコンドにホイスがいてっていう流れみたいなものがあって。そこで自分の軸をしっかり持って、きっちり勝っていけばヒクソンにたどり着けるんじゃないかと。そこまで勝っていく自信もありますし。

―桜庭選手の〝打倒グレイシー〟の流れっていうのは意識したりします？

須藤　いや、昔は人のことを気にしてたんですけど、いまは意識しなくなりましたね。人が何をしたかっていうよりも、自分のストーリーを描いていきたいなって。

―次の試合はいつぐらいになりそうですか？

須藤　どうですかねぇ。4月、5月と連続で試合したんで、ちょっと間隔をおきたいなって気もあるんですよ。

―じゃあホイス戦は秋とか。

須藤　あと大晦日もありますしね。でもなんか、大晦日は曙さんとやったりして（笑）。

―去年に続いて体重差対決を（笑）。流れとしてはあるなぁ。曙選手の相手が尽きて、サップも沈んでって状況で。それはそれで見たいですよ（笑）。

須藤　バタービーンより重いんで大変ですけどね。面白いなって思うんですけど、「やるのオレじゃん」って（笑）。

―じゃあ今後はホイス戦、ヒクソン戦から曙戦まで、期待が高まるばかりということで（笑）。期待してます！

【04年6月1日／乃木坂『スピリットジム』にて収録】

Genki Sudo

Mind is defined.

すどうげんき■1978年3月8日、東京都江東区出身。総合、寝技、K-1、なんでもござれの天才格闘家。そのファイトスタイル、入場パフォーマンスすべてが独創的。ホイス戦、ヒクソン戦実現なるか？ 177cm、73kg。

記憶に残る闘いの歴史
須藤元気
BOUT HISTORY

**いまや格闘技界きってのスター選手となった元気だが、これまでの道のりは決して平坦ではなかった。
パンクラス、アブダビ、K-1、さらにはUFCにリングスまで。
様々な舞台で常にインパクトを残し続けてきたその闘いぶりを、今あらためて振り返る!**

文／橋本宗洋　designed by matsu（Two Three）

#01

**“パンクラチオンマッチ”で
元気がその実力を見せつける!**

○vsネイサン・マーコート

**［13:31　腕ひしぎ十字固め］
1999.12.18　PANCRASE
横浜文化体育館**

この年7月の『ネオブラッド・トーナメント』で日本逆輸入デビューを果たした元気。やけに厳粛だった（当時の）パンクラスのムードをブチ壊す入場パフォーマンスが話題となっていたが、この試合では後のKOPミドル級王者マーコートに一本勝ちを収め、実力者ぶりを発揮。ガードからじっくりとチャンスをうかがいっての腕十字だったが、動きのない展開には不満げだった。この時点から、それだけの志を持っていたわけだ。

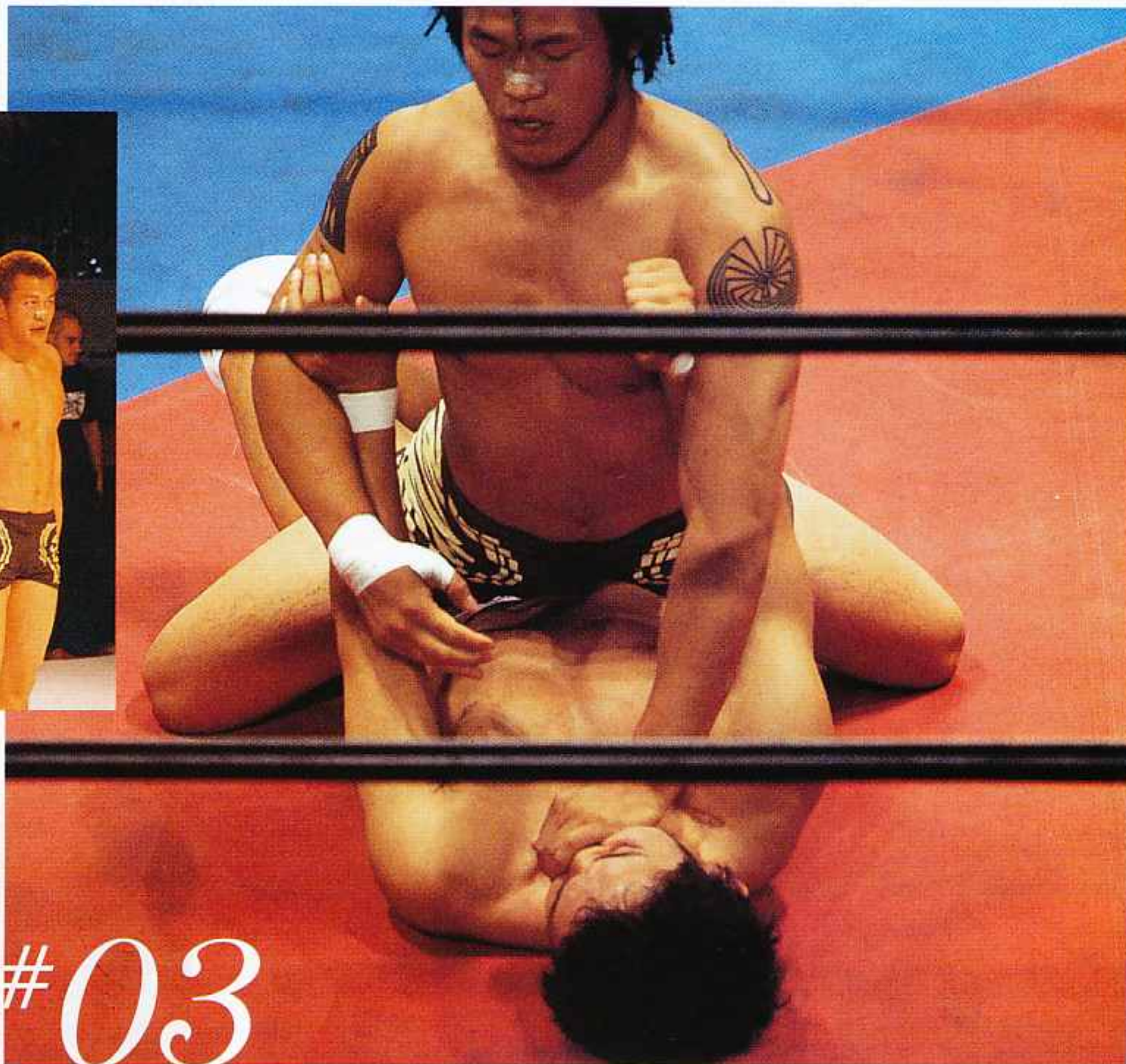
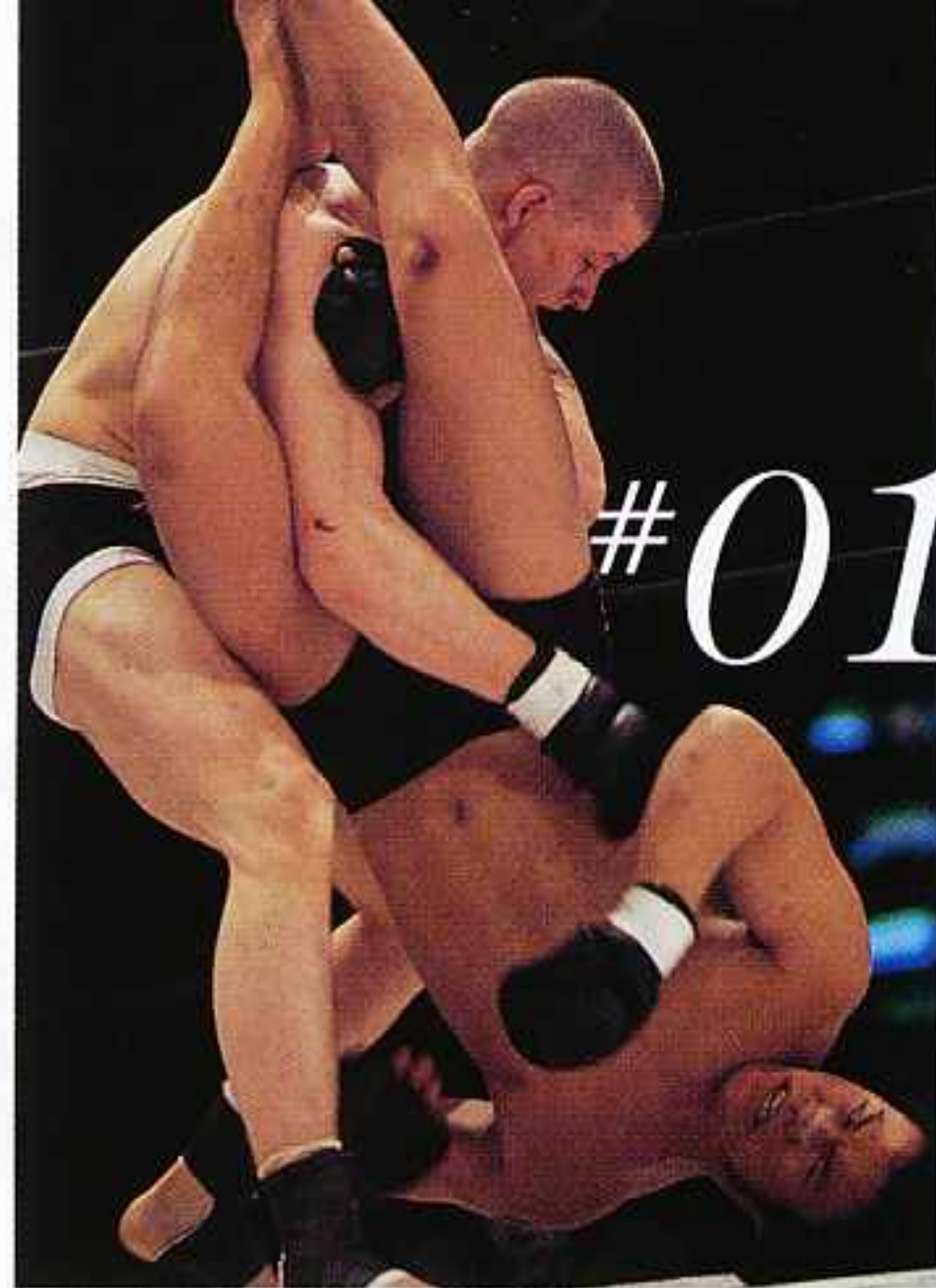
#02

デビュー2年目で『コロシアム2000』に大抜擢!

△vsアンドレ・ペデネイラス

**［時間切れ　ドロー］
2000.5.26　コロシアム2000
東京ドーム**

パンクラスになくてはならない存在となった元気は、船木vsヒクソンが行なわれた『コロシアム2000』にも出場。相手は佐藤ルミナも下している重鎮ペデネイラスだった。試合は差し合い、ポジショニングの攻防が中心のこってりした展開。結果的に時間切れドローとなったが、デビュー2年目でここまでやれるんだからたいしたものではある。差し合いの最中にカメラ目線で“ピース”と余裕をかますいかにもなシーンもあった。

#03

**ジャイアント・スイング爆発!
あの宇野薫に見事判定勝ち!!**

○vs宇野薫

**［判定 60-54］
2000.7.1　CONTENDERS 2000
Zeep Tokyo**

入場パフォーマンス、トリッキーな動きが代名詞となっていた元気だが、組み技限定の『コンテンダーズ』では宇野薫とレスリングで真っ向勝負を展開し、文句なしの勝利を収めてみせる。下からは三角絞めにトライし、あわやのチャンス、さらに上になるとジャイアントスイングでブン回す弾けっぷり。ちなみに2000年10月のクレイグ・オックスレー戦では、ジャイアントスイングからのアキレス腱固めで一本勝ちを収めてもいる。

#04

**『アブダビ』にも出場!
ビクトーと夢の一戦が実現!!**

vsビクトー・ベウフォート

**［判定 7-0］
2001.4.11～13　ADCC〈無差別級〉
アブダビ**

フリーになった元気の最初の舞台はアブダビ・コンバットだった。その実力がマークされたか、76キロ級では一回戦でいきなりホドリゴ・グレイシーと対戦。ひたすら抑え込む手堅い戦法に屈するも、めげずに無差別級にエントリー、今度はビクトーと対戦することに。やはり判定で敗れてしまうのだが、その敢闘精神は光った。盟友・五味隆典と出会ったのもこのアブダビで、以後2人は練習を共にし、揃って出世街道を突き進むことになる。

#05

リングス初登場、オランダの喧嘩屋を飛びつき三角で一蹴!

○vsブライアン・ロアニュー

**［1R 2:17　三角絞め］
2001.9.21　リングス
後楽園ホール**

パンクラスを離れ、日本再登場となったのはなんとリングス。相手は黒覆面に鎖の手枷という姿で入場するオランダのケンカファイター、ブライアン・ロアニューだったが、ゴングが鳴ると完全に元気が圧倒。大技・飛びつき三角を見事に極めてタップアウト勝利を奪い、リングスファンの大喝采を浴びる。この大会では、他にタノタク参戦、第1試合で小谷vs所が行なわれるなど、現在の『ZST』につながるものとしても忘れがたい。

#07

元気のバックブローでMAXは幕を開けた!

●vs小比類巻貴之

[3R 1:27　KO]
2002.2.11　K-1 WORLD MAX～日本代表決定トーナメント
代々木第2体育館

打撃ルール初挑戦にして世界タイトルを持つ小比類巻との対戦。しかし元気はトリッキーなステップワークからバックブローを連発し、小比類巻を翻弄。さらにはカウンターのバックブローでダウンまで奪ってしまったから会場は騒然。最後はローキックによる2ノックダウンで敗れたが、元気の大健闘が他の選手に火をつけ、大会がまれに見る大激闘の連続となったのは事実である。K-1 MAXを軌道に乗せたのは元気だったのだ!

#09

テコンドーよりトリッキー
バックブローでKO勝ち!

○vs金珍優

[2R 0:16　KO]
2002.10.11
K-1 WORLD MAX 2002
～世界王者対抗戦～
有明コロシアム

2度目のMAX参戦ではワンマッチで韓国のテコンドー戦士と対戦。映画『狂気の桜』で共演した窪塚洋介、RIKIYAと共に入場した元気は、「一番派手な試合をする」という予告通りバックキックなど回転系の技を繰り出していく。対するキムもカカト落としで応戦したのだが、勝負勘では元気が何枚も上手。2Rに入るとバックブローを放ち、これをキムがかわした瞬間にもう一発!　絵に描いたような完全KOで元気がK-1初勝利を飾った。

#11

K-1で四次元殺法炸裂!
MAX世界王者に堂々渡り合う

●vsアルバート・クラウス

[3R 判定3-0]
2003.11.18　K-1 WORLD MAX200
日本武道館

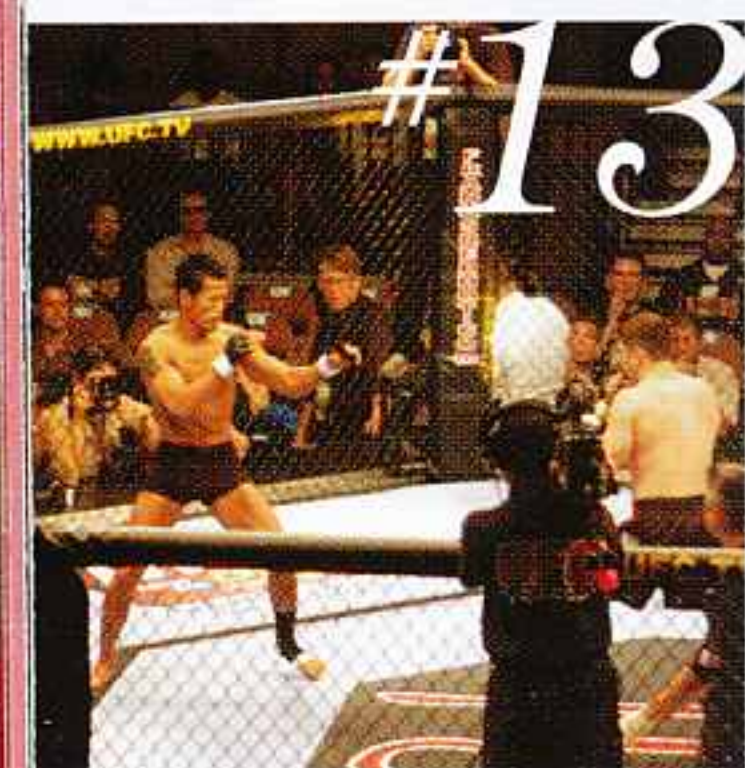
昨年秋にはついにアルバート・クラウスとも対戦。これで元気はコヒ、魔裟斗、クラウスとMAX優勝経験者全員と対戦したことになる。もちろん誰が相手でも元気が臆するはずもなく、いつものように回転系の大技を連発、さらに両手でコーナーによじ上っての後ろ足蹴り（ラビットキック）まで見せる。が、これを角田レフェリーは「ロープを掴まない」と注意……。持ち味を殺されながらも奮闘した元気だが、判定はクラウスに上がった。

#12

蝶のように舞い、
ハチのように豚を刺す!

○vs バタービーン

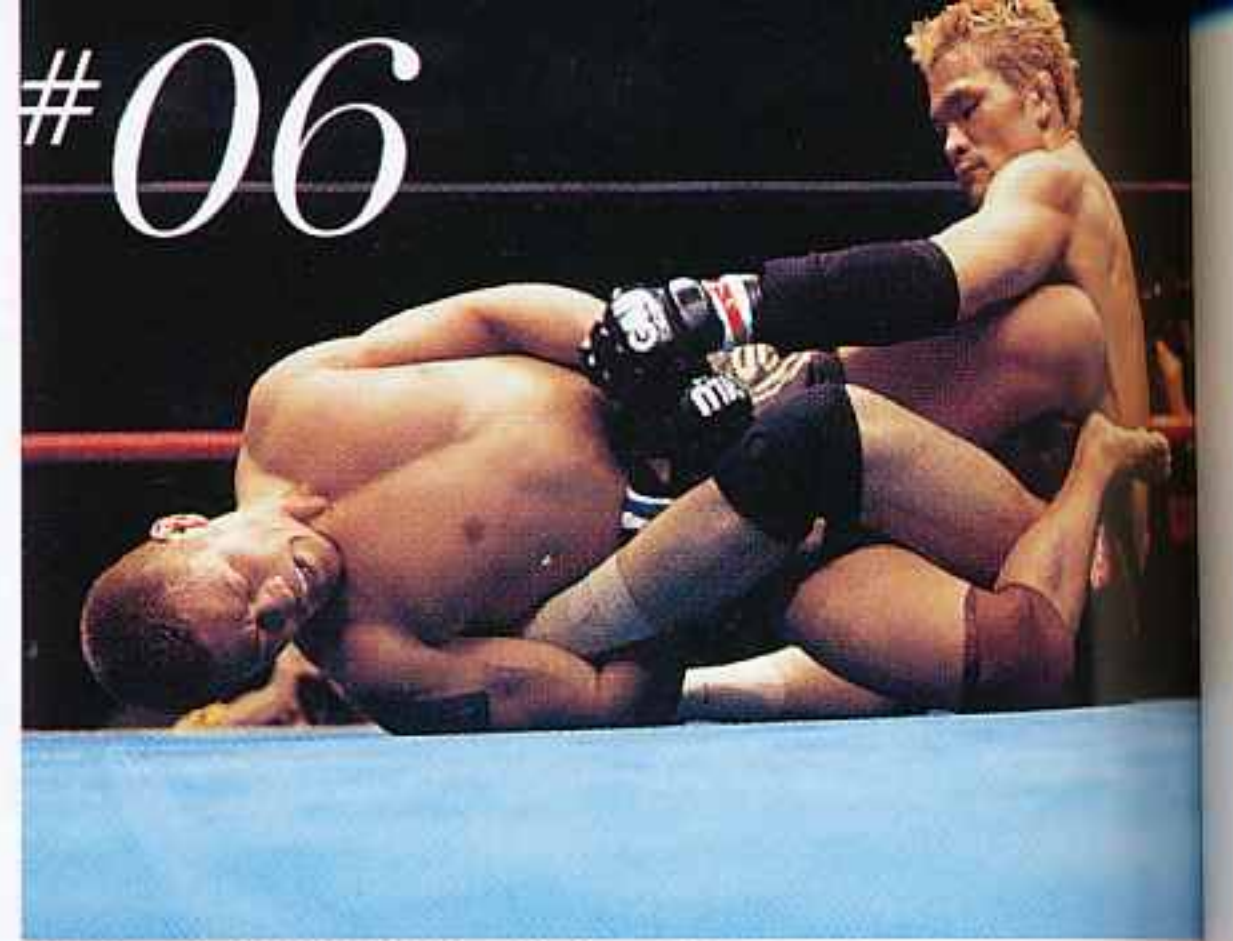
[2R 0:41　ヒールホールド]
2003.12.31　Dynamite!!
ナゴヤドーム

体重差110キロ、いかにも谷川モンスター軍総統が考えそうな異色マッチメイクだったが、これを完全に活かしきってしまうんだからさすがは元気。巧みなステップで距離を取り、ヒザ関節へサイドキック。相手が突進してくれば前転しながらヒラリとかわす。最後は飛びヒザを押し潰されながら、体を潜り込ませるように足を取り、ヒールホールドを極めてみせた。大会ベストバウトともいえる内容で、元気の名は一般層にも轟くことになる。

#13

UFCで快勝、新生・"格闘家" 須藤元気をアピール!

○vsマイク・ブラウン

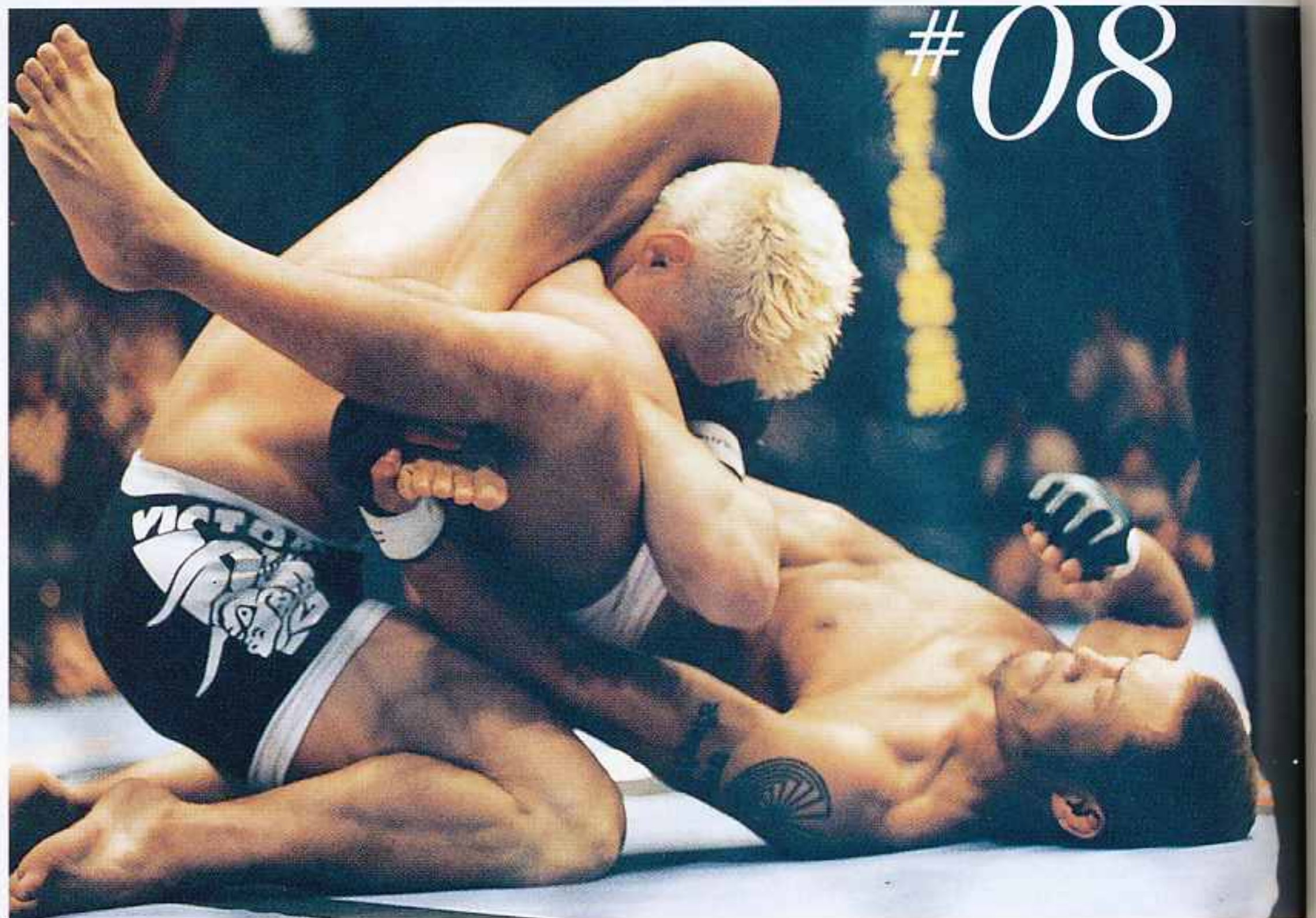
[1R 3:31　腕ひしぎ三角固め]
2004.4.2　UFC47　ラスベガス・マンダレイベイ

「軸をしっかりしておきたい」という元気は、MAX出場要請を蹴ってUFCに参戦。厳しい減量、細かすぎるラスベガスの仕切りなどに苦しんだものの、下から三角、さらに腕を極めて鮮やかに一本勝ち。前年4月、同じUFCでドゥエイン・ラドウィックに敗れた屈辱を払拭し、一般的には"K-1の"と思われがちなイメージから"本籍・総合"をアピール。一時の人気に囚われない芯の強さが『ROMANEX』でのホイラー戦を呼び込むことになる。

#06

ヤマケンを制し、UFC-Jベルトは元気の腰に!

○vs山本喧一

[2R 2:46　チョークスリーパー]
2001.12.21　リングス　横浜文化体育館

リングス2戦目はUFC-J優勝を引っさげて出戻ったヤマケンとの対戦。ヤマケンからの対戦表明を受けてのもので、元気は「UFC-Jのベルトをかけてほしい」と要求。試合はパスガードからマウント、バックを取ってチョークと完璧な流れで一本勝ち。正式にタイトル戦と認定されてはいなかったが（この時点でUFC-Jという組織そのものがなかった）ヤマケンは素直にベルトを譲り渡した。試合後の元気は「K-1中量級に出たい」と注目発言も。

#08

日本から来た天狗、ロンドンで華麗なる一本勝ち!

○vsレイ・レメディオス

[2R 1:38　スリーパーホールド]
2002.7.13　UFC38　英・ロンドン　ロイヤル・アルバート・ホール

MAXで認知度を飛躍的に上げた元気だが、本職での活動も怠ることなくUFCイギリス大会に出陣。和服に天狗のお面というコスチュームで観客の目をさらうと、試合では飛びつき三角や後ろ回し蹴りで驚嘆させる。そして最後は目にも止まらぬグラウンド・ムーブからスリーパーで一本勝ち。地元選手が相手だったにもかかわらず大喝采を浴び、『タップアウト賞』も受賞する。試合後に国連の旗を広げるのもこの試合から。

#10

元気ワールド、魔裟斗相手でも揺るがず!

●vs魔裟斗

[3R 判定3-0]
2003.3.1　K-1 WORLD MAX 2003～日本代表決定トーナメント　有明コロシアム

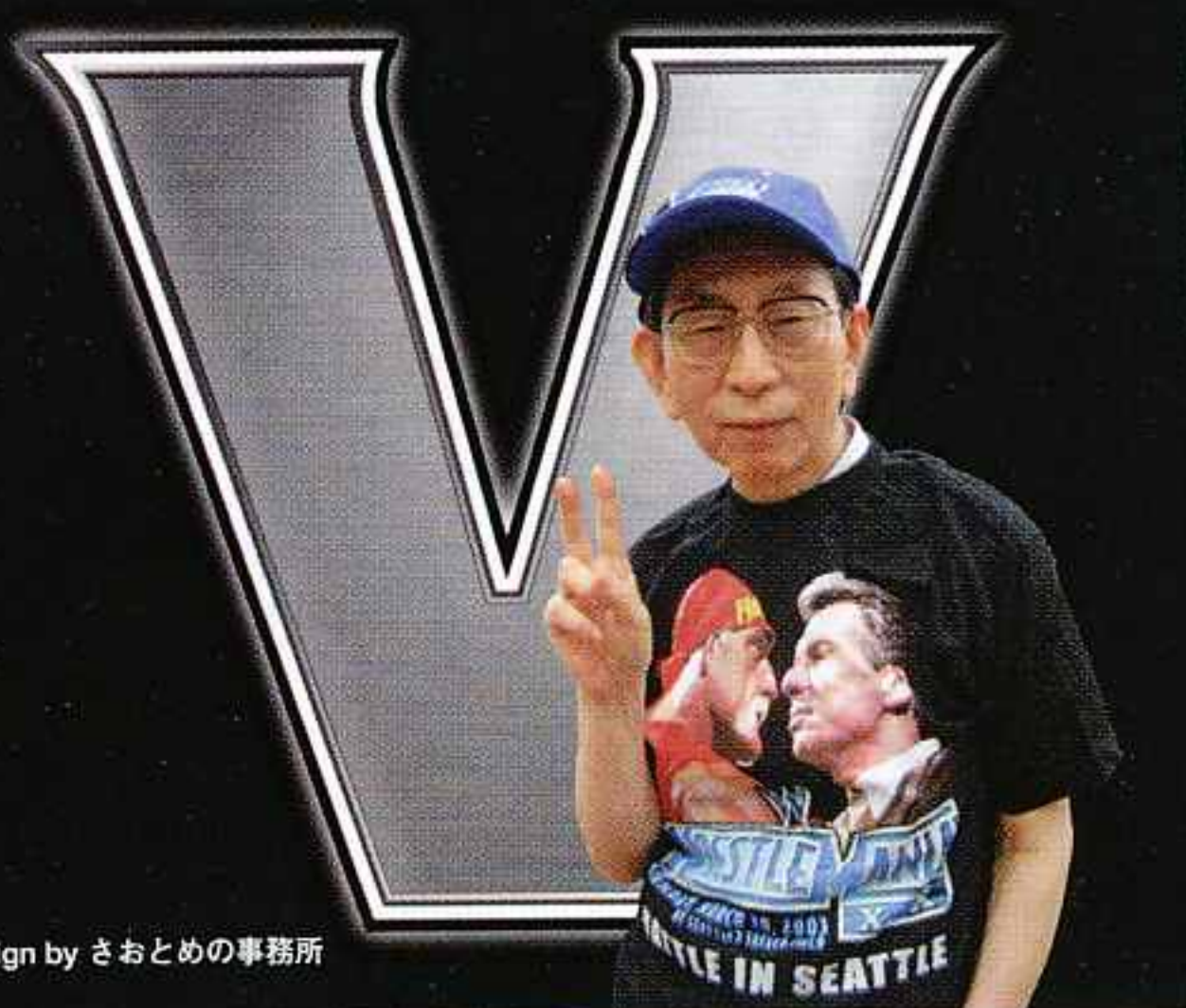
もはやMAXになくてはならない存在となった元気。2年目のトーナメントでは1回戦で魔裟斗と対戦することに。さすがに苦戦は免れないかと思いきや、相手に背中を向けたり、よそ見をしながらパンチを放ったりで魔裟斗を幻惑してみせる。あからさまに不機嫌な魔裟斗は、胴回し回転蹴りで倒れた元気を蹴る場面も。結局、ローキックなど魔裟斗の正攻法が評価されて判定負けとなったが、試合は"元気ワールド"そのものだった。

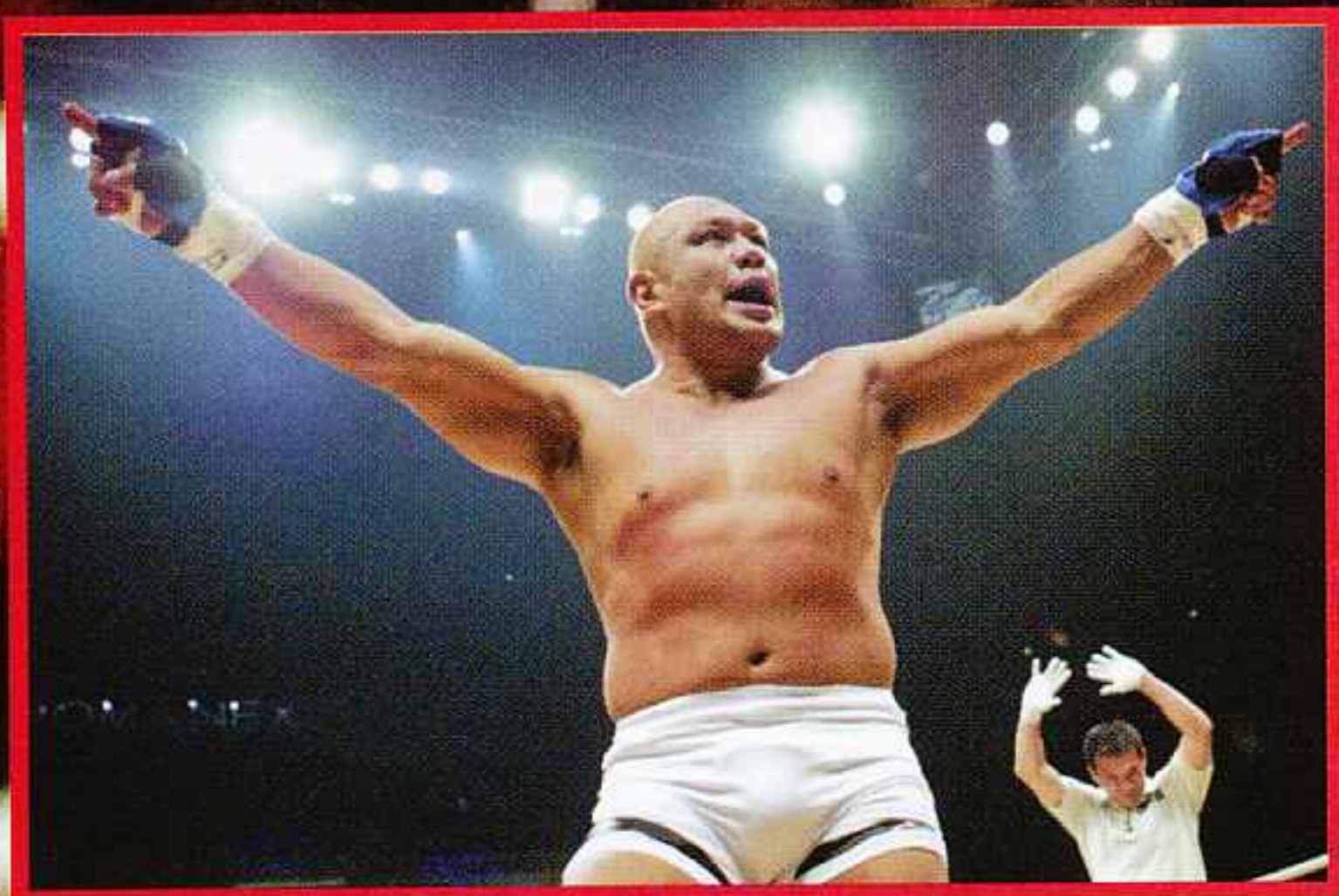
こんなもんでプロレス復権と言ってたらダメなんだよな!!

言うちゃ悪いけどI編集長がROMANEXをブった斬る！

ついにスタートした『ROMANEX』だが、I編集長が語らずに、K―1MMA&新日本バード路線の真実を誰も語れない!!言うちゃ悪いけど今月も大放談。脳内にWBCヘビー級王者ビタリ・クリチコを飼っている井上さんの言葉を聞け!!

プロレスマスコミの哲人・I編集長の

喫茶店トーク V（バード）

聞き手／堀江ガンツ　本文構成／ジャン斉藤　試合写真／乾晋也　design by さおとめの事務所

中邑vsイグナショフは、ただのスパーリングですよ、あんなもん！

——さて、井上さん。今回は、K—1 MMAの旗揚げ戦となった5・22『ROMANEX』についてお聞きしたいんですけど。まずはイグナショフの敗戦なん……。

井上　（たまらず遮って）も〜〜う、話にならんわ！　イグナショフには、とにかくガッカリ!!（ドン）。

——あらら。かなりオカンムリですね（笑）。

井上　当たり前ですよ、アンタ！　俺は、この一戦は壮絶な死闘になると思ってたからね。おそらく中邑はイグナショフに血ダルマも血ダルマにされて、もうヘトヘトで虫の息。そしてイグナショフの身体は中邑の返り血を浴びて真っ赤!!　誰もが「中邑、もういいから、やめろ〜！」とワーワー騒ぐ中、それでも中邑は立ち上がる……そんな試合を想像してたんだよな！

——それであんな試合内容だったら、落胆するのは無理ないですね（笑）。

井上　今年のベストバウトになると思ってたんや。『東スポ』のプロレス大賞あたりなんか目やないで。そんなもんを遥かに超越したIワールドプロレス&格闘技大賞を受賞するはずだったんだよ！

——Iワールドのプロレス&格闘技大賞！　そんな崇高なものを受賞する予定でしたか（笑）。

井上　とにかくイグナショフは体調不良でしょ、あれ。ナンボなんでも、試合当日に日本に来たらダメですよ。

——イグナショフは試合当日の昼頃に、ようやく日本に着いたそうです（笑）。

井上　こんなもん、北海道から飛行機で来たんと違うからね。ヨーロッパからだと時差があるわけだよ。そんな体調じゃ調整できるわけない。だったら最初から来なくていい！　俺が谷川の旦那だったら「もうあかん！」言うて成田空港で追い返してたわ!!

——ガハハハ！　強制欠場させるわけですね（笑）。

井上　殴ってでも帰らせる！　そもそも2日前にオランダで（セーム・）シュルト相手に試合をすること自体、とんでもない話なんですよ。プロレスの試合をするっていうんだったらまだ黙ってるわ。そうじゃないでしょうが、これ!!

——ムエタイルールの試合でしたからね（イグナショフの1RKO勝ち）。

井上　シュルトが相手だったらどんな大ケガを負わされるかわからんでしょうが。谷川の旦那も黙っとったらダメや。「サップのことだけはやかましくする」って言うとるけど、サップなんかにガタガタ言うな。それよりもイグナショフを何とかせえ！　あんな試合やらして……イグナショフのギャラを半分、取り上げるべきですよ！

——怠慢仕事の罰を下すわけですね。

井上　あんなこと許したら、K—1自体の尊厳や権威を落とすだけだからね。ああいった試合をすると「中邑をわざと勝たせたんだろう」と、そう言うヤツもおるからね！

——またしてもプロ格者から電話が来ちゃうわけですね（笑）。

井上　だから直前の試合はもちろん、当日の来日なんてもってのほか！　イグナショフは体質的にスロースターターだからね。あの男はもともとボーっとした顔つきだから、そんなに寝ぼけとったわけじゃないと思うけども、いずれにしてもそんなスロースターターが試合当日にやって来たらダメだわな。

——スロースタータージゃなくても問題はありますけどね（笑）。

井上　ソ連系とかウクライナあたりの人間というのは、もの凄く自信過剰なんだな。彼らは非常にストイックだから「絶対勝てるんだ！　ウガー」って自信満々なんだ。『PRIDE・GP』でミルコ（・クロコップ）が負けたんもそうだし、今回のイグナショフもそう。大晦日（『Dynamite!!』）で闘ってみて、中邑なんか目じゃないと。そんな進化するはずがない。またヒザを喰らわしてやるぐらいの気持ちでボーっと来とったわけですよ。

——イグナショフは、特に対策を練ってるようにも見えなかったですよね。

井上　中邑がもの凄く進化したとか、いきなりうしろから延髄蹴りをかましたり、「え！」と思うような戦法を使ったならまだしも。中邑もこの5ヶ月間でいろいろ練習は積んどったろうけど、進化があったとはほとんど思えない。特別に新しい技を使ったところもなかったからね。ましてやギロチンチョークなんていうのは誰でもできる技なんですよ、あんなの。もちろん俺だってできますよ!!（ドン）。

——時差ボケのイグナショフなら、井上さんでも倒せるわけですね（笑）。

井上　イグナショフはサブミッションの練習もずっとやってきたはずだし、ギロチンチョークとか初歩的な技は耐えられるはずなんだ。俺が観とっても全然効いてないと思とったのよ。決め手にならんような試合をやってるなと思っとったら、あっさり終わったからね、あれ！

——驚くほどあっけなくタップしちゃいましたよね。

井上　あの程度のギロチンチョークでやられるんだったら、そんなもんね、

○中邑真輔
［2R1分51秒／ギロチンチョーク］
×アレクセイ・イグナショフ

大晦日『Dynamite!!』での屈辱を晴らした中邑真輔。今回のテーマは笑顔だったらしく、笑みを浮かべながら入場、試合後には「プロレスラーは強いんです!!」の台詞を口にした。

プロレスが八百長だとかそんなこと騒がれないっていうんだ！

――ガハハハ！　そこまで説得力がなかったわけですか（笑）。

井上　八百長だとは言わんけどもやね、中邑も大して進歩してないことを考えると、いかにイグナショフの体調が悪かったんかわかるわな。実際、中邑とイグナショフの再戦は早過ぎたんだよ。もう少し時間をおけば、あの2人は必ず横綱になるからね。やるのはそれからで良かったんだよ。

――井上さんが以前から、そう力説されてましたね。

井上　そうすれば、ミルコ、（エメリヤーエンコ・）ヒョードル、（アントニオ・ホドリコ・）ノゲイラらと同じ感覚で、あの2人を眺めるようになるわけですよ。大相撲でいうと、白鵬とか琴欧州とか強いのがおるでしょうが。あれらは横綱になってからぶつけるべきであって、いま十両でワイワイやったところで興味もないわ。

――いまだと注目をそれほど浴びないわけですね。

井上　谷川先生へのお願いとしては、3回目の対戦は、あの2人が横綱になってからにしてくださいよ、と。それまでジ～ッと見守って、横綱になるまでジ～ッと待ってください。俺も声も出さないで静かに、ジ～～～ッと黙って2人のことを見守るわ!!（大・絶・叫）。

――こ、鼓膜が破れそうです、井上さん。ところで『ROMANEX』の大会自体にはどんな感想を持ちましたか？

井上　言うちゃ悪いけど、勝った方が全～然、凄くない！（ドン）。

――ガハハハ！　勝った方が凄くない大会（笑）。

井上　これは中邑だけじゃない。『ROMANEX』の大きな特徴ですよ。も～～～う、負けた選手は全員モロイ！　だらしがなくて淡白で、ギャラだけ貰ってエエ加減に負けてるとしか思えないような淡白度ですよ。

――プロ格者がまた疑ってしまうような淡泊さだったんですね（笑）。

井上　その典型的がイグナショフ。そんな選手に中邑がしょ～もない勝ち方をしても勲章になるはずがない。「中邑時代」が来たことにもならないし、プロレスがリベンジを果たしたことにもならない。ただ勝ったというだけでイグナショフがあまりにもだらしがないだけや。これをもってプロレスの権威を取り戻したとか、ワーワー言うとる奴はアホですよ。あれはハッキリ言って論外のスパーリング！

――中邑 vs イグナショフはスパーリングでしたか！（笑）。

井上　スパーリングですよ、あんなもん。藤田（和之）が新日の道場でマスコミ集めて（マルコ・）ファスとやったやろ。あれと同じじゃ。

――一度タップしたら「じゃあ、次」みたいな（笑）。

井上　ま、プロレスの権威を取り戻したことにはならないけど、中邑もこれからバード（I用語でバーリ・トゥード）を何回もやるだろうし、いずれは横綱になっていくでしょうな。とにかく『ROMANEX』の大きなテーマとしては、結果的に負けたほうはだらしがなくて、勝ったほうが凄かったんじゃないと。

『ROMANEX』は勝った方が全～然、凄くないんだよな！

――井上さんの戦前の予想では「K―1MMAは、プロレス技が飛び出すんじゃないか」ということでしたけど。

井上　バーネットも「プロレス技で倒す！」って言っとったからね。バックドロップでやっつけておいて、最後は逆エビだと。プロレスの技で相手を倒すのがテーマだったわけですよ。じゃあ、なぜプロレス技を出せなかったかといえば、頭の中でいくら考えとったところで、そうそう実戦で使えるはずがないってことだよな。

――プロレス技は実戦には不向きでしたか（笑）。

井上　特にバーネットあたりは、プロレスが八百長だ何だ言われてることに関してもの凄く腹が立ってるんだと思うんだわ。プロレス技で倒せるんだということをK―1MMAで実証してやるから見とれぐらい思うてたはずなんだよ。いくら頭の中でそう考えていても、それが血となり肉となってなかったんだよな。

――要は身体に染みついてなかったわけですね。

井上　そのむかし藤山一郎という大御所の歌手がおってね。『青い山脈』や『長崎の鐘』の歌でヒットを飛ばした人ですけど、本当の練習とは「さぁ藤山一郎さんです」って紹介されて出てきて、それで一曲だけ歌うことだって。

――ほう。一曲だけしか歌わないのが練習ですか。

井上　歌手なんだから発声練習は無論しますよ。間違ってもなんでもいいから、とにかく一曲だけ歌うのが大事。

――いかに本番の経験を積むかってことですね。

井上　それを何百回も重ねると、いずれ血となり肉となって、寝言でも歌詞を間違わないと言うとったわ。藤山一郎の取材に行ったことあるんだ、俺は。

――あ、そうなんですか（笑）。

▶▶▶ 5.22 ROMANEX DIGEST

○ ブルー・ウルフ　2R 4分45秒 タオル投入　トム・ハワード ×

横綱・朝青龍の実兄ブルー・ウルフのMMAデビュー戦。決め手に欠ける試合展開も、怪力にまかせてハワードを攻め立てる。防戦一方のハワードにしつこくヒザ蹴りを打ち込み勝利をもぎ取った。

○ LYOTO　3R 2-1判定　サム・グレコ ×

幾度となく寝技で関節を取りかけたLYOTOだが、そのたびにグレコが劣勢を跳ね返す。MMAファイターとして貫禄すら漂わせたグレコだったが、際どい判定でLYOTOに敗れた。勝ったLYOTOはこれでデビュー以来5連勝。

○ ゲーリー・グッドリッジ　1R 1分22秒 KO　ザ・プレデター ×

ローで牽制しながらスタンドで圧力をかけたプレデター。勝利の期待を抱かせたが、百戦錬磨のゲーリーは狙いすました右フックを炸裂！　よろめく超獣に続けざまにパンチを叩き込んでの圧勝劇。

○ BJペン　1R 1分45秒 肩固め　ドゥエイン・ラドウィック ×

中量級・最強の呼び声も高い現UFCウェルター級王者、BJペンの日本デビュー戦。開始早々、電光石火のタックルからの流れで、K-1MAX、UFCでも活躍するドゥエインをまったく寄せ付けず。

▲ ドン・フライ　1R ノーコンテスト　中尾芳広 ▲

試合開始早々、中尾がタックルを仕掛けところに両者の頭がバッティング!!　ドン・フライは額からは出血。そのキズは骨まで見えている状態のため無効試合となった。

V 喫茶店トーク

井上　何でもやっとったからね。お笑いの取材もやっとったし、東洋の魔女（東京オリンピック、女子バレー代表）にも行きましたよ。

——バレーボールもですか！

井上　練習も何回も観に行きましたけど本当に凄かったな！　取材が来とったから、激しい特訓をしたんじゃない。聞いてみたら毎日、同じ練習をやってると。大松（博文、監督）はこれでもかとボールを次から次へとぶつけてたからね。最初のうちは選手もレシーブできるんだけども、次から次へとぶつけるから間に合わんわけですよ。しまいには、ボンボンぶつけられてもうどうにもならない。手で払いのけることもできなくてワンワン泣き出すわけだ！　それでも選手は泣きながら大松にジリジリ寄って行くんだよ。

——伝説の特訓を井上さんは直に見たわけですね（笑）。

井上　最後は、選手が大松の足にすがりついてワンワンワンワン泣くんだよな！　そしたら大松は投げるのをやめるわけだ。そんな練習を続けることで身体に染みつくていくわけですよ。

——ヒントは、藤井一郎と東洋の魔女にあったわけですね（笑）。

井上　だから何回かやることで、いずれプロレス技も出るでしょう。頭の中でいくら考えてもダメ。ファスに言われたから藤田はサップの頭を蹴ったとか言うとるけど、アホかと言うんだよ!!　あの体勢になったらファスに言われなくって、誰だってうしろに回って蹴るわ！

——もちろん井上さんでも蹴りますよね？（笑）。

井上　そりゃ俺だって蹴って蹴って蹴って、も〜〜〜う、これでもかとばかりに蹴りまくりますよ！（ドンドン）。教えられたから蹴ったんじゃない。猪木の延髄蹴りとは違うぜよ！　猪木の延髄蹴りだったらね、相手はとにかく延髄蹴りが来るとわかっていても、技を受けるために突っ立っとるんだから。

——ガハハハハ！　延髄斬りを待ってましたか（笑）。

井上　ハンセンがロープに飛んで来たらね、必ずラリアートをやるんだよ。マスカラスがロープに飛んだら、フライングハイとかで飛んで来るんだから！　それが来るのをわかっていて受けるんであってやね。そんなもん、格闘技の生きるか死ぬかの闘いで、誰がボーっと立ってるんだって話だよ！

——サップも本能だけで、必死に頭を抱えて藤田の蹴りを防いでました。

井上　サップには伊原（信一）の会長がいろいろ教えてるそうだけども、サップに染みついてるのはアメリカンフットボールのタックルだけですよ。ハイキックがどうのとか騒いでるけど、そうそうできるもんじゃない。

——活かすべきは突進力になるわけですよね。

井上　とにかく原始的な攻撃をやった初期のサップに戻れと。最初にバンバン攻撃して倒せなかったら、そのまま普通に試合をしてもダメなんだよな。相手を放ったらかしにして、コーナーにドーンと走って戻って、セコンドが「GO！」と叫んだらまた突進すればいい。フライング・ビーストがどうのとか言うてるけども、これからは技を繰り返す〝リーピーティング・ビースト〟になればいいんですよ。それでダメだったらハッキリ言ってサップはオシマイだわ。

——技のリピートが最後の手段（笑）。

井上　浮上するチャンスはもうないで。中邑やイグナショフと違って、進歩とか進化という言葉はサップには当てはまらないからね。いま持ってるもの自体が大きな武器なんですよ。

——エースのサップがそんなスランプ状態で、『ROMANEX』の今後はどうしたらいいでしょうか？

井上　俺が本当に言いたいことは、K—1のMMAというのはDSEの総合マッチと同じことやってもしょうがない。やる以上は別のことをやらないとプロじゃないですよ。谷川の旦那にしろ、石井（元・館長）さんにしろ、その点に触れずにこのまま変わらんかったら俺は文句をつけるよ。「バードで銭儲けをするためにやってるのか？　テーマをわかってんのか！」ってワー言うたるわ！

——井上さんが前から言ってるように、ロープブレイク有りのルールはもちろん、場外乱闘有り、セコンドの助っ人有りのうえで、ガッチガチに闘うべきなんですね！

井上　おう！　やる以上はK—1らしくみんなが「ドッヒャ〜！」と驚くことをやらなかったら、まったく『武士道』

DSE総合マッチと同じことやるのはそりゃシャバ荒らしやからね！

○藤田和之 vs ボブ・サップ×
［1R2分15秒／グラウンドパンチ］
猪木アリ状態でスタンドの藤田は、上手くサイドに回り込んでサップの後頭部にサッカーボールキック!!　サップは頭を抱えて防御するだけで、スキルのなさを露呈。追撃のパンチを喰らってタップアウト。

ジョシュ・バーネットはK-1の悪漢レネ・ローゼに快勝。日本オタクで有名なジョシュだが、バードでプロレス技を狙うために、これからは藤山一郎、東洋の魔女の学習が必要となる。

金原はそんじょそこらのプロレスラーとは違うんだよな！

と変わらんやないか、あんなもん！　だったら次のK―1MMAのタイトルは『武士道・其の四』に変えろいうんや！

―ガハハハ！　K―1が次回の『武士道』を引き継ぐわけですか（笑）。

井上　同じことやるんやったら、そりゃシャバ荒らしやからね。

―『ROMANEX』はシャバ荒らし（笑）。

井上　まぁ、キツイことを言うたかもしれんけど、それだけ谷川の旦那には期待してるってことですよ。K―1にはクリチコと闘ったレイ・マーサーも来るって言うじゃないか。

―この号が発売される前に試合は終わってますが、6・6K―1に参戦しますね。

井上　レイ・マーサーは「K―1の選手になります！」っていうんで練習しとったんとちゃうからね。あそこに出て来るのは全員、現役のボクサーと言ってもいいんですよ。

―つまり、単なるロートルではない。

井上　そして、レイ・マーサーが出て来るということは、あの（ビタリ・）クリチコがいずれ出て来る可能性もあるってことですよ！（ドン）。

―井上さん待望のクリチコがついにやって来ますか！

井上　Iワールドの中ではクリチコは大暴れしてるからね。ミルコとガッチガチのボクシングマッチをやるんだよな！

―井上さんの脳内では、すでに熱いバトルが行われてるんですね（笑）。ところで、『ROMANEX』の翌日には『武士道・其の参』が開催されましたが、そのミルコの闘い振りはいかがでしたか？

井上　ミルコvs金原にして言えば、金原はリッパでしたよ。

―ミルコの猛攻に耐えて、粘り強く闘ってましたよね。

井上　あの男は打たれ強いし、ミルコを知ってるわけだよな。というのは、ケガで休んでいた1年6ヶ月の間に、ミルコの研究をしてたわけですよ。何もミルコと闘おうと思ってたわけじゃないだろうけども、ミルコと闘う場合を想定してる人間はドシロウトでもおるわけですよ。その連中が金原に聞いてくるわけだ。「金原さん、ミルコと闘ったらどうでしょうか？」とか、あるいは同じ仲間と酒を飲みながら「ミルコ対策はこうだ」とか言ってるはずなんだよ。それが活きたんだと思う。

―ミルコのハイキックをまともに喰らわなかったですからね。

井上　じゃあ、あのハイキックがヘナチョコで、いままでのハイが100としたら、25～30ぐらいだったかと言ったらそうじゃないからね。あのハイキックをジ～ッと見てみるとやね、ドス・カラスJr.に放ったハイキックと同じ破壊力ですよ、あれ！　それでJr.のほうは死んでるし、金原のほうは生き残った。どういうことかと言ったら金原がヘナチョコじゃなかったということだよ。あの男の良さは何かと言ったらタフなところで、リングスでバードをやってきてかなり揉まれてますからね。そんじょそこらのプロレスラーとは違うんだよな！　それが貯金となって、それがミルコ戦で活きたんだよ。ミルコがだらしがなくて敗軍の将みたいな書き方をしてるアホがいるけど、一体どこを見とるんだってことですよ！

Uインターで“殺し”（I用語で寝技の意）を学んだ金原は、Iワールドではクリチコとボクシングマッチで対戦予定のミルコの猛攻を凌いだ。この粘りはもっと評価されていい

―金原は決定打は喰らわず最後まで闘ってましたからね。中邑vsイグナショフもそんな展開になると思ったんですけど。

井上　ホントにそう思ってたんだよ、俺は！　あんな不消化試合に終わったんだから、中邑は「因縁に終止符」なんて言ってる場合じゃないんだよ！「次回が本当の決着戦だ！」ぐらいのことを、周囲の人間が中邑に言わせなきゃダメですよ。

―そうすれば中邑の株を上がるし、次回の対戦に期待も高まりますよね。

井上　勝てばいいのかよって話だわな。

―きっと、勝って浮かれちゃったんでしょうね。

井上　朝青龍がやね、逆転優勝したことが嬉しくて120万の懸賞金で飲んだのとわけが違うだろうと言ってるんだよ。朝青龍はあれでいいんですよ。大盤振る舞いで飲んでね、一銭も残らなかったというのは。むしろそうすべき。「貯金した」って言うたら怒るで！

―たしかに、横綱にしたら夢がない話ですよね（笑）。

井上　それともう一つ言いたいのは、繰り返すことになるけども、ヘナチョコな負け方はしたら絶対にイカン。俺の「負けの哲学」では、ヘナチョコな負け方をした者は最下層なんですよ。「負けの哲学」といってもいろいろな負け方があるからね。最上級の負け方から最低の負け方まで五段階がある。その最低の負け方をしたのがイグナショフですよ。負けるんだったら凄い負け方で負けろと。それが最上級の負け方ですよ。ホントはダメージを被ってないような負け方をするとね、プロ格者から「編集長、あれは八百長でっか？」って電話があるわけだよ！

―内容が悪いと、勝った方の評価も上がらないですしね。

井上　イグナショフはハッキリ言って赤点の1ですよ。俺が高等学校の時にもらっとった赤点と同じだわ、あれ！

―井上さんは赤点をもらってたんですか（笑）。

井上　体育、数学、理科はもうひどくてやね、歴史とか世界史、日本史、古文、国語、漢文とかはオール5ですよ。言うちゃ悪いけど。

―文系のほうは完璧。

井上　ま、そういうくだらん話で今日は終わりだな。

―ありがとうございました（笑）。

井上　はい、どうも～。

【04年5月某日／電話取材にて収録】

HISAE WATANABE

渡邊久江

「他の子が何をしようと構わない。この業界、アタシが一人で突き抜けます」

TBS『黄金筋肉』トーナメント優勝！他の“女子”とは次元が違う！

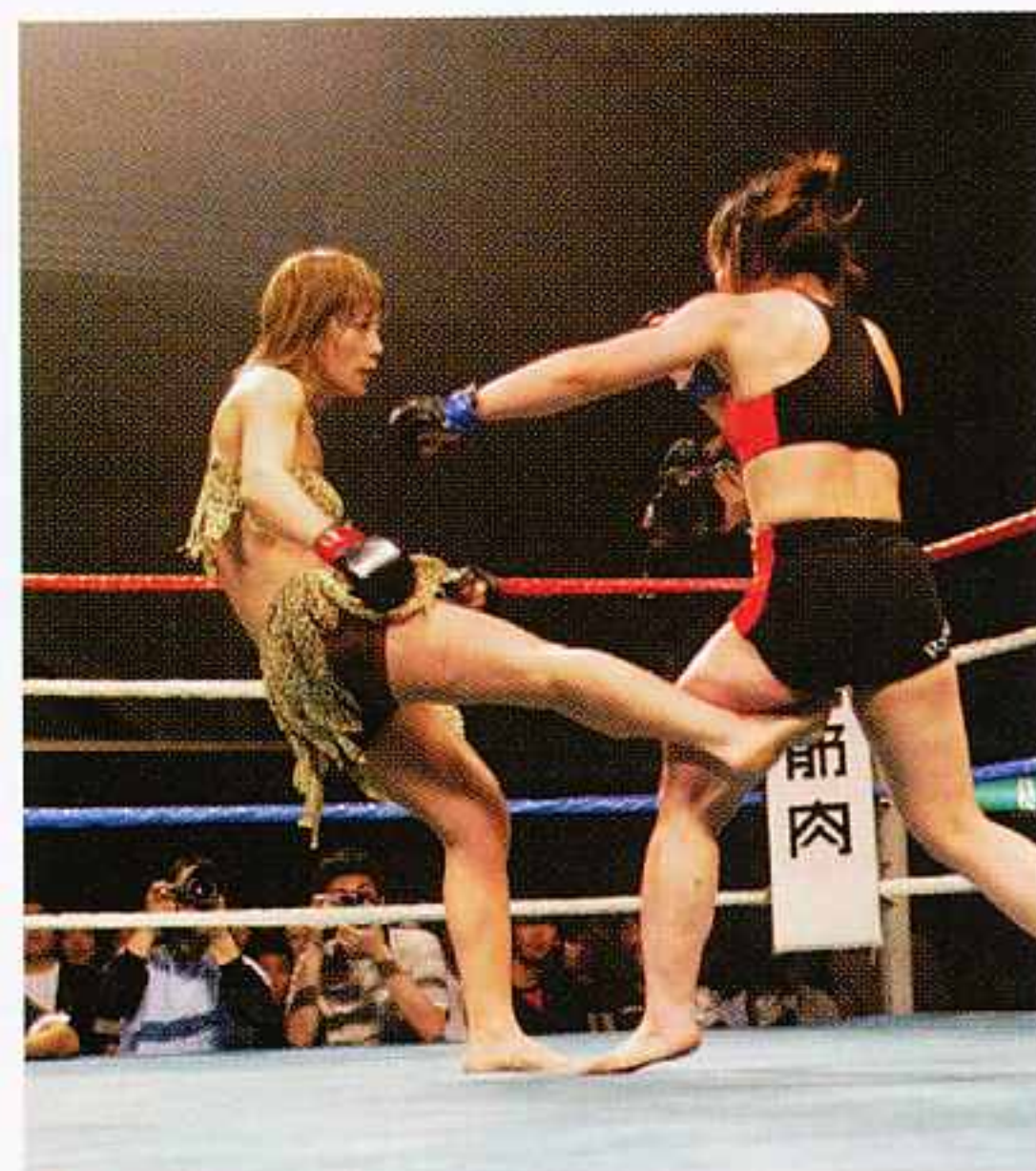
文／橋本宗洋　撮影／丸山剛史　構成／松澤チョロ

designed by Tani-Yan (Two three)

5・7『黄金筋肉』
女子総合格闘技
最強女王決定トーナメント
東京・ディファ有明

渡邊久江 優勝までの歩み

一回戦では禅道会の酒井真紀と対戦した渡邊。組み付きにくる酒井を巧みなステップでかわし、パンチ、ロー、さらには強烈な左ハイキックと自信満々で打撃を浴びせ放題。一度はテイクダウンされるもののすぐに立ち上がり、ローを効かせたところでパンチによるダウンを奪う。立ち上がったところへラッシュをかけ、最後も右ストレートを完璧にヒットさせ、1R1分7秒でKO勝ち。

準決勝の相手は渡邊と同じく『ガールズ・ショック』で活躍する新空手出身の星野久子（勇心館）。かつて総合を学び、アマチュア・スマックに出場したこともある星野は寝技狙いでテイクダウンするが、渡邊はここでも下から蹴りで突き放し、脱出に成功。二度目の寝技の攻防では、なんとガードポジションから鮮やかに十字を極めて一本勝ちを収め決勝進出を決めた（1R2分7秒）。

決勝は連続一本勝ちで勝ち上がった金子真理（禅道会）との対戦。1Rはミドルをキャッチされてテイクダウンを許し、十字を仕掛けられるなどピンチを迎えた渡邊だが、2Rからはローキック中心に修正。タックルも完璧に見切るなど、まるでミルコばりの闘いを見せる。本戦2Rはドローとなったが、延長戦でもローとパンチで圧倒した渡邊が判定3－0で優勝を決め、賞金100万円をゲット!!

いま、女子格闘技の世界で最も勢いがあるのは間違いなく渡邊久江である。ここ半年、大きな動きがなかった女子総合に対し、渡邊は目覚しい活躍ぶり。立ち技イベント『ガールズ・ショック』に定期出場、昨年末にはタイ遠征でインターナショナル女子ムエタイ・ライトフライ級のベルトを獲得し、さらには5月7日に開催された、TBS『黄金筋肉』主催の『女子総合格闘技最強女王決定トーナメント』で優勝を果たした。

昨年秋に全日本キック・AJジムに移籍した渡邊にとって、総合の試合は9ヶ月ぶり。総合の練習は、試合直前にグラバカで3回ほど「寝技の筋肉を起こした」程度だった。それでも、渡邊は抜群のポテンシャルを発揮する。1回戦は酒井真紀から2度のダウンを奪って文句なしのKO勝ち。準決勝・星野久子戦では下からの腕十字で一本勝ちしてみせた。そして決勝。相手はオールラウンドな能力を持つ禅道会の金子真理だったのだが、完璧な判定勝ちを収める。

1Rはタックルでテイクダウンを奪われるも自力で脱出。2Rに入るとタックルを完封し、的確にローキックを効かせてペースを奪取。延長戦でもタックル封じとロー、パンチで圧倒し、最後はワンサイドゲームとなった。1Rはミドルキックをキャッチされてグラウンドに持ち込まれる場面が目立ったのだが、2Rにはそれも修正、ローキック一本で勝負をかけた。この落ち着き、対応力は見事というほかない。大会名である〝最強女王〟にふさわしい闘いぶりだった。

今回の出場メンバーで〝最強〟を謳うのはおかしいんじゃないか。そんな意見もあることだろう。確かに、この大会にオファーされながら出場を見合わせたトップ選手もいる。急に立ち上げられた企画だったから、充分な準備期間は取れない。他の試合予定があってスケジュールの都合がつきにくいという事情があったのかもしれない。そんな状況で闘って、万が一負けでもしたら……と考えてしまうかもしれない。

でも、それがどうしたというのだ。ゴールデンタイムに地上波で自分の試合が流れる。現時点で、それ以上の条件なんて、他のどこにもないはずだ。出なかった段階で、もうそれまで。チャンスを捨てた選手をおもんばかっているほど、女子格闘技は余裕のある世界ではないのだ。だから渡邊が〝最強〟と呼ばれることに、なんら異論はない。そこにエクスキューズをつけてしまうと、業界を矮小化させるだけだ。

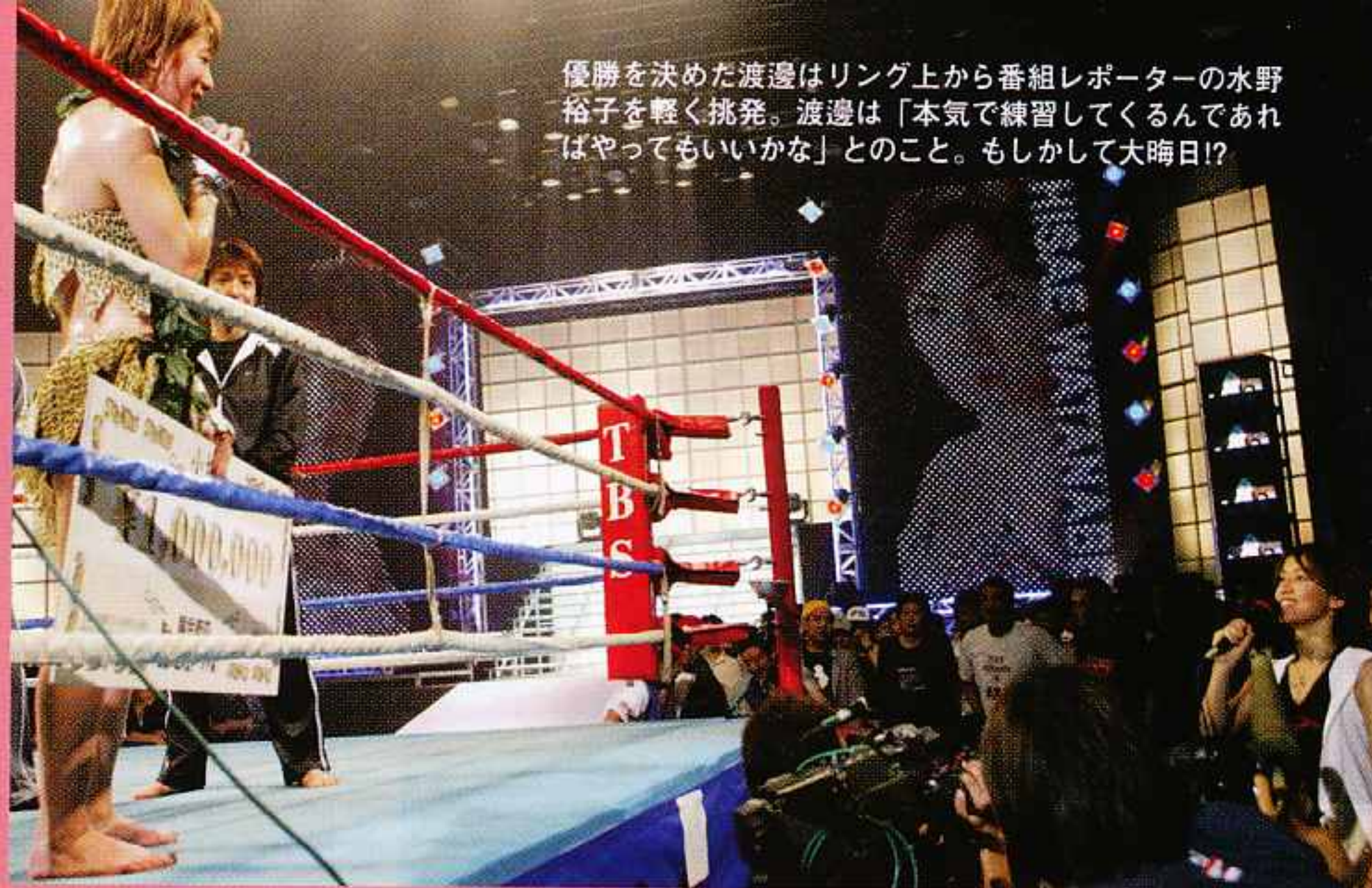
いまの女子格闘技界、女子格闘家に守るべきものなんてありはしない。順調に成長しているのは立ち技の『ガールズ・ショック』ぐらいのもので、総合はお世辞にもうまくいっているとは言えない状況だ。新団体の旗揚げはあったが〝縮小再生産〟のイメージは拭えなかったし、老舗の『スマックガール』は大森ゴールドジムでのアマチュア合同大会にスケールダウン。『スマック』の篠代表は先日「8月、ついに後楽園ホール進出が決定しました」と誇らしげに発表していたが、一昨年はディファ、昨年はヴェルファーレで開催してたんだから、そんなの当たり前にやってくれるぐらいじゃないと困るというものだ。

小さい。あまりにも小さい世界。しかもそこでの陣地取りやメンツの張り合いが、やたらと目に付く(だから団体が分裂したりするわけだ)。「そんなことしてる場合じゃないだろ！」と何度も思わされるのだが、そこに住んでる人たちにとっては、その世界が全てなのだ。

選手・関係者間の噂や陰口も多い。酒を飲みながらそういう話をするのが嫌いだとは言わないし、男子の世界にもあることだけど、あまりにもスケールが小さくて辟易するときもある。和田良覚レフェリーは「〝タップしてないのになんで止めるんですか〟とか〝あれはダウンじゃない〟とか、選手からのクレームは女子の方が格段に多いです」という。そういう〝女の子〟ならではの意地の張り合いが魅力だとも言えるのだが、「あの子とやる予定で練習も始めてたのに、最後の最後で逃げた」なんて話を前座の選手からされちゃうと、どうも……。

テレビ番組『銭金』にナナチャンチンが出演した際にバラされていたことだが、『スマック』の前座のギャラは1万円。そんなレベルで、タップしてないの相手が逃げたの言ってる場合じゃないだろう。ま、言うのはいいけど聞いてる場合じゃない。上を見るしかない世界なのに、選手も関係者も（自戒を込めて言うならマスコミも）上を見てない人間が多すぎるのだ。くだらねぇ、次元が違うよ！

そんな小さな世界の小さなプライドに、渡邊は敢然と決別した。TBSが大会をやるとなれば、すぐに食いつく。『ガールズ・ショック』のエースだけに、負けた場合のリスクは大きい。まして久々の総合ルールで、『スマック』と違い寝技の時間は無制限。出場メンバーにはかつて一本負けした金子もいる。周囲では反対する声も多かったようだ。だが、渡邊はまったく意に介さなかった。

ファイトマネーも今の10倍は欲しい。それだけのことをやってる自信もあるんで

優勝を決めた渡邊はリング上から番組レポーターの水野裕子を軽く挑発。渡邊は「本気で練習してくるんであればやってもいいかな」とのこと。もしかして大晦日!?

「『ガールズ・ショック』のことをもっとたくさんの人に知ってもらいたかったし、チャンスがあるのにそれを自分から蹴るのはヤだなって。それに絶対に勝てると思ってたから。もし負けたって、次にいい勝ち方をすれば払拭できるんですよ。女子格闘技はこれからどんどん伸びる世界だから、コケるなら、いまのうちにコケといた方がいいじゃないですか」

これからの世界だから、いまの段階での負けなんてたいしたことじゃない、というわけだ。渡邊久江という選手に可能性を感じるのは、この飛びぬけた〝守らなさ〟と大舞台での強さである。北沢タウンホールでの試合では負けても、タイでのタイトルマッチや地上波で流れる試合では抜群のインパクトを残してみせるのだ。

噂話や陰口とも無縁で、まさに〝次元が違うよ〟といった感じ。

「私はなじめないですね。もともと感性が女の子っぽくないっていうか、男の子と遊んでる方が合うタイプだし。そういう女の子の噂とかって、ホントくだらない。とりあえずほっといてほしいです（笑）」

〝元コギャルで、その後、引きこもり〟という経歴がやたらとクローズアップされる渡邊。本人の話を聞くと、単になんにもしないで遊んでる時期があったとか、寝てる時間以外はずっと飲んでるかと思えばそれからしばらくは家から出ないとか、要するにフラフラ、ダラダラしてたということらしい（それでも格闘家としては充分に異色だが）。そんな〝どこにも属していない〟生活を知っているから、現状だけに目を奪われることがないのかもしれない。この業界に染まりきっていないから、つまらない常識に囚われず、ずっと上を見続けていられるんだろう。

「女子格闘技の現状が分かってきたりすると、自分の中で疑問符も出てきたんですよ」と、小さい業界の窮屈さに悩んだ時期もあったが、今は違う。

「『ガールズ・ショック』では周りが盛り立ててくれるんで、素直に頑張れますね」

一昨年末に敗れたしなしさとことのリマッチも、いまは興味が薄いようだ。

「リベンジ云々より、いまはいまですからね。やれば必ず勝つ自信はあるけど、いまそれをやって盛り上がるのは、過去から知ってる人たちだけだと思うし。もちろん、そういう人たちは大事な存在なんですけど、それよりここから先の渡邊久江というか、女子格闘技の飛躍の方を見てほしいんですよ」

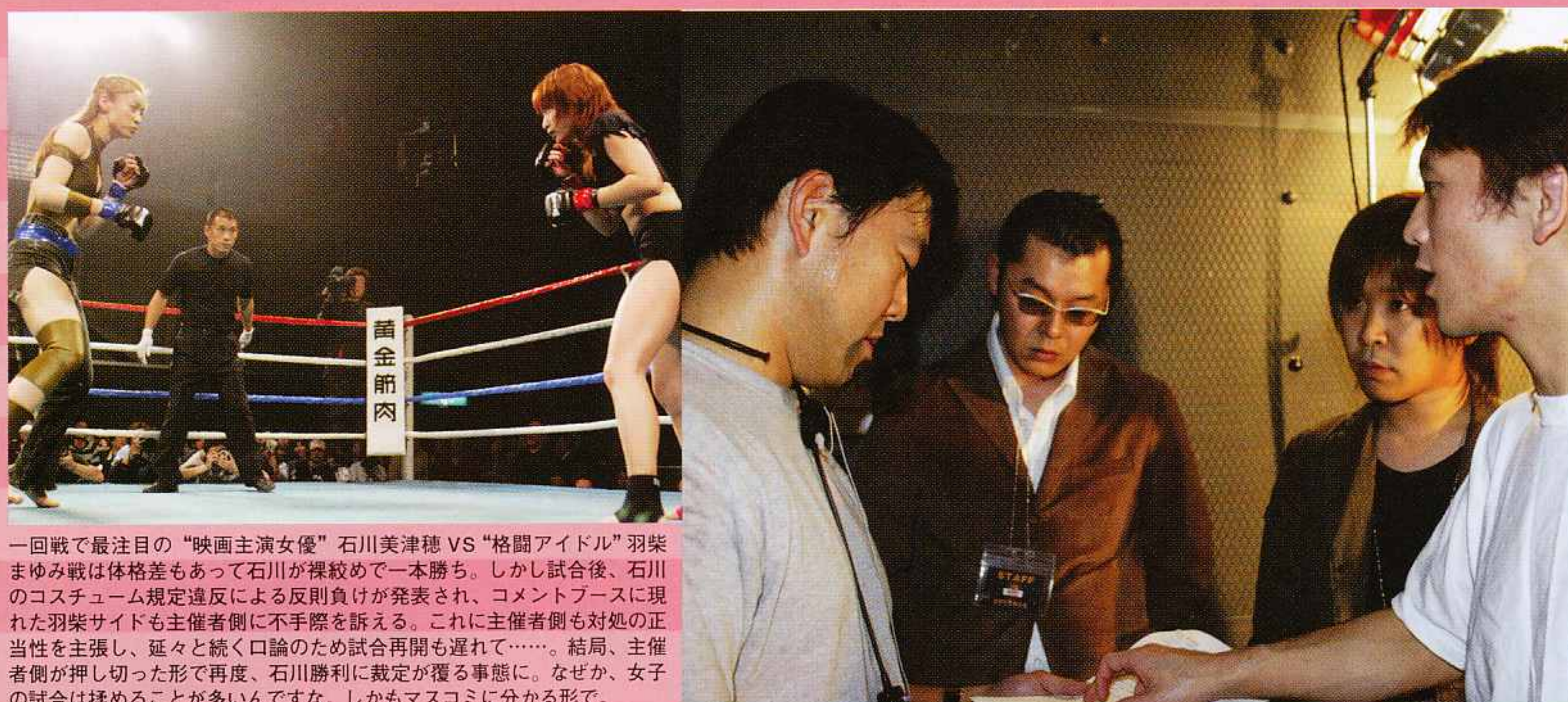
こういう意識を持った選手なら、女子格闘技の世界を引っ張っていけるだろう。そのために何をすればいいのかも、ほかならぬ本人が一番よく分かっている。4月に続いて、6月もタイ修行を敢行した。

「（トーナメントの賞金は100万円だったが）もっともっと欲しい（笑）。ファイトマネーもいまの10倍は欲しい。そうなるためにも頑張らなきゃって思うし、それだけのことをやってる自信もあるんで。いま貰ってるお金は自分を磨くために使いたいです。タイで練習するのはもちろんだけど、エステに行ったりとか、そういう部分でもグレードを上げていきたい。格闘技やってるからって、オシャレしなくなるのなんてありえないですよ。見られる仕事なんだから。他の子が何をしようと構わないけど、誰かが突き抜けなきゃいけないんで、この業界、私が一人で抜きん出ようと思ってます（笑）」

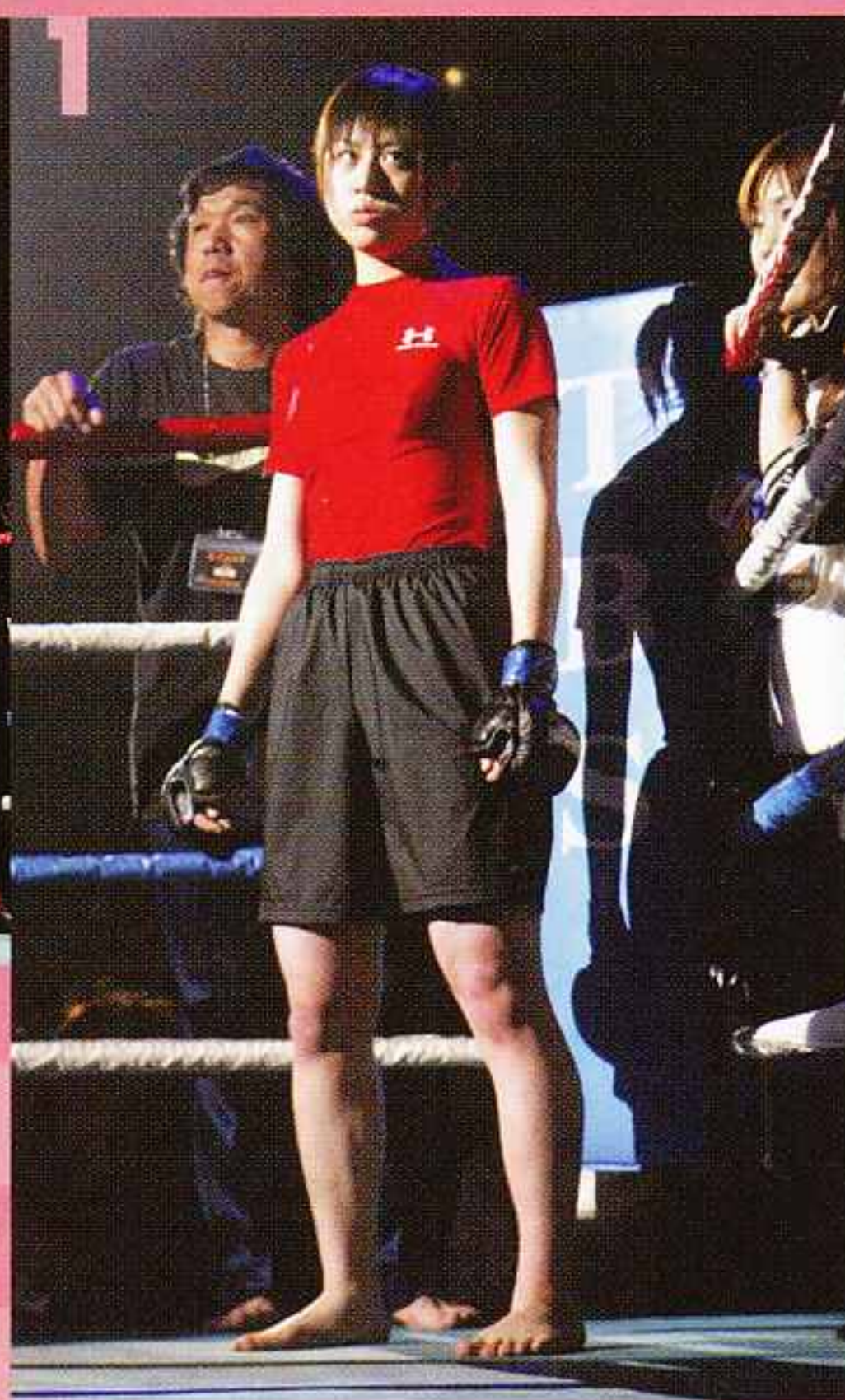
渡邊の次戦は6月27日の『ガールズ・ショック』。そこでは渡邊が〝抜きん出て〟いく様、女子格闘技の歴史が更新されていく様が存分に味わえることだろう。

Profile

【わたなべ・ひさえ】1980年10月21日、栃木県鹿沼市出身。AJパブリックジム所属。中学時代はテニス部に所属。02年4月、SMACK GIRLの大門まい子戦でデビュー。同年12月のSMACK GIRLジャパンカップ・ライト級トーナメントでは、しなしさとこに敗れ準優勝。03年9月に全日本キックボクシング連盟に入団。現在は『ガールズ・ショック』のエースとして活躍中。03年12月26日、アイドルムエタイ戦士、ナムワーンノーイを敗り、インターナショナル女子ムエタイ・ライトフライ級王者に輝く。160cm、49kg

バックステージも、やっぱりガチンコ！ TBS「女子総合格闘技トーナメント」一部始終!!

一回戦で最注目の“映画主演女優”石川美津穂VS“格闘アイドル”羽柴まゆみ戦は体格差もあって石川が裸絞めで一本勝ち。しかし試合後、石川のコスチューム規定違反による反則負けが発表され、コメントブースに現れた羽柴サイドも主催者側に不手際を訴える。これに主催者側も対処の正当性を主張し、延々と続く口論のため試合再開も遅れて……。結局、主催者側が押し切った形で再度、石川勝利に裁定が覆る事態に。なぜか、女子の試合は揉めることが多いんですな。しかもマスコミに分かる形で。

①一回戦で星野に敗れたものの、総合マッチ初参戦でファン＆関係者のハートをガッチリ掴んだのが上田朱理（『サイボーグ魂』に出場した上田美紅の妹）。日本拳法仕込みの直突き連打はド迫力、さらにこの可憐なルックス！　試合後、控室で大粒の涙をこぼす表情がまたいいんだ。まだ18歳、本格的に活動すればブレイク確実！

②リザーブマッチにはジェット・イズミが登場し、勝山舞子に腕十字で圧勝。実績的にはリザーブ扱いに疑問符もつくが、今回はケガからの復帰戦ということで……。今後に期待！
③人気、実力とも急上昇中のグレイシャア亜紀は立ち技ルールのワンマッチで杉貴美子と対戦。杉の突進力に苦戦したが、得意のバックブローなどを中心に追い上げ、判定勝利。
④今大会のスーパーバイザーと中継の解説を務めたのは、いまはＴＢＳの格闘技モノに欠かせない存在となった須藤元気。『黄金筋肉』ＭＣの川平慈英はゲスト解説とリングアナも。

5月11日、18日の2回にわたって放送されたＴＢＳ『黄金筋肉』女子総合格闘技最強女王決定トーナメントだが、なんと1回目が通常のオンエアよりも高い視聴率を記録、それを受けて2回目は放送枠のほとんどを大会の模様が占めるという“快挙”を達成した。やっぱり面白いものは、誰が見たって面白かったってことだ。

ただ、放送の中ではまったく触れられなかった“事件”もあった。まずは“リング上での渡邊ポロリ事件”。渡邊は今回、ストラップの細いセパレートのコスチュームで試合に臨んだのだが、攻防の最中にそれがズレて、見える人には見えてしまったらしい（しかも両方！）。それでも渡邊は「優勝できたんで、ポロリしたかいもあったかなと（笑）。表彰式でお客さんに冷やかされるかと思ったけど、それもなくて嬉しかったです」とサバサバしてるからさすがである。

もう一つの事件は1回戦の石川美津穂vs羽柴まゆみ戦でのこと。石川のコスチュームに金属の突起があり、それに羽柴サイドがクレームをつけたのだ。結局、突起部分をテーピングで覆う処置をして試合は行なわれ、石川が一本勝ちしたのだが、収まらない羽柴側は試合後も猛抗議。「ろくにアップもしないまま試合をさせられた」とも言う。

運営サイドは「ルールに見合う処置はしたし」と突っぱねたのだが、その間会場では予定の休憩時間を大幅にオーバー。しかも一度は「石川のルール違反による失格→羽柴は準備不足とコンディションの問題で準決勝棄権、石川繰り上がり」が発表されながら、最終的には「石川勝利」に再訂正という迷走ぶりであった。

なんだかんだで試合をしてしまった羽柴に落ち度がないとはいえないし、もちろん主催者側に運営のマズさもあった。どちらか一方だけを悪者にはできないんだが、ただ言いたいのは「一般公募の“収録観覧者”とはいえ客を待たせるのは良くないんじゃないの？」ということだ。あと、なるべくなら、揉め事はマスコミのいる前でやらない方がいいと思います。

TBS『黄金筋肉』女子総合格闘技 最強女王決定トーナメントその他の試合結果

★スーパーファイト	3分5R	グレイシャア亜紀【判定3-0】杉貴美子
★準決勝第2試合	3分2R	金子真理【1R0分47秒 腕十字】石川美津穂
★1回戦第3試合	3分2R	星野久子【1R2分38秒 腕十字】上田朱理
★1回戦第2試合	3分2R	金子真理【1R1分17秒 チョーク】GON! ASAMI
★1回戦第1試合	3分2R	石川美津穂【1R2分9秒 チョーク】羽柴まゆみ
★リザーブファイト	3分2R	ジェット・イズミ【1R1分5秒 腕十字】勝山舞子

世界最高のラウンドガールはZSTが決める!

リングのQueen of Queenが『紙プロ』初登場!!

小さなヴォルク・ハン

所英男×

ZST GIRL

尾藤ゆう

かつて前田総帥が直々にオーディションを行うほど、ラウンドガールにこだわっていた素晴らしき団体リングス。その遺伝子を受け継ぐZSTもまた、ラウンドガールには以上に力を入れているのはご存じであろうか？　群雄割拠の格闘技界の中でも、「ラウンドガールの質はナンバー1」との評価を不動のものにするZST。そんなZSTガールの中でも一番人気の尾藤ゆうちゃんが『紙プロ』初登場!　“ZSTガールのために闘う男”所英男との対談スタートです。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／丸山剛史

designed by matsu（Two Three）

［取材協力］
ゴールドジム　サウス東京
〒140-0011
東京都品川区東大井5-2-1　あおい元気館4F
TEL 03-5460-3535

――さて、今日はみんなのアイドルZSTガールとの対談ですけど、どうですか所選手！

所　いやぁ、ホントありがとうございます！　こういうのずっと待ってました（笑）。

――なんと言っても、ZSTと言えばZSTガールですからね。こんなにラウンドガールがファンから愛されてる団体も珍しいですよ。

ゆう　そうなんですか？

所　なんか選手よりも人気があるんですよ（笑）。

ゆう　ホントですかあ⁉　うれしいです。やり甲斐があります！

――尾藤さんは以前、所選手のヒザの上に座った写真が『ゴング格闘技』っていう素晴らしい雑誌にでっかく出てましたよね。あれなんか絶対、所選手の取材にかこつけて、ZSTガールを載せたかっただけだと思いますよ（笑）。

ゆう　私もあの写真見た時に、ビックリしちゃって、思わずマネージャーさんに電話しちゃいました。「いいんですか？　大丈夫なんですか?!」って（笑）。

――あれは『ゴン格』長谷川記者の情熱がびんびん伝わってきましたからね（笑）。所選手はあれが掲載されて以来、ファンから総スカン食ったんですよね？

ゆう　そうなんですか？

所　バッシングが、もう……。

――「所、ふざけんな！」って（笑）。

所　そうですね。メチャクチャ言われました（苦笑）。

――尾藤さんがZSTガールに加わったのは、今年になってからでしたよね？

ゆう　ホントは去年の11月からいまのみんなと2代目ZSTガールになるはずだったんですけど、私だけ1月からなんですよ。

所　1月というと、僕がTAISHOさんに53秒でKO負けしたときですね（笑）。

ゆう　はい。目撃しちゃいました（笑）。

――ZSTガールをやる前は、格闘技の知識ってどれぐらいあったんですか？

ゆう　K―1と『PRIDE』は観に行きました。

――それはお仕事とかでですか？

ゆう　じゃなくて、観に行きたくて、友達とみんなで。初めて行ったとき、お客さんが凄く応援してて、試合観てるよりも、みんなに圧倒されました。

――じゃあ、ラウンドガールのお仕事が来た時はどう思いしたか？

ゆう　私って身長低いし、いいのかなって思ったんです（笑）。最初はドキドキしましたけど、私たちがアピールできるのはリングに立った時なんで、一生懸命笑顔を振りまこうと思って頑張ってます。

私って身長低いし、ラウンドガール やっていいのかなって思ってました

YU BITO

――以前から所選手は「ZSTガールにいいとこを見せたいがために試合してる」って矢野選手に言われてましたよね（笑）。

ゆう　ホントですかあ？

所　それが延長線上にあるということも、なきにしもあらずで（笑）。

――「コイツは練習では大したことないのに、ZSTガールの前になると張り切る」って、よく言われてましたよね（笑）。

ゆう　そうなんだ、知らなかった（笑）。どっちかって言うとシャイな感じの人ですよね？

――いや、シャイっていうか、嘘つきと言うか……（笑）。

ゆう　シャイも嘘のうちなんですか？　あ、騙されてた（笑）。

所　そんなはずはない……。

<<< 所英男 ZST BOUT HISTORY

ZST.1 2002.11.23
○vs坪井淳浩
［2R 4:09　腕ひしぎ十字固め］
記念すべき第1回ZSTでは、"グラップリングシュートボクサー" 坪井淳浩と対戦。とことん極めにこだわる試合で一本勝ち！　"小さなV・ハン" の称号もこのときから。

ZST.2 2003.03.09
○vs松本秀彦
［延長R 判定2-1］
サンボ世界2位の実績を持つ松本と対戦した所は、松本のサンボ式のサブミッションに苦しめながらも粘りに粘り、延長戦に持ち込んで最後はスタミナの差で金星を奪った！

ZST.3 2003.06.01
×vsレミギウス・モリカビチュス
［1R 1:45　KO］
松本を破り大いに株を上げた所が、恐怖の打撃で注目され始めたモリカビチュスと対戦。寝技に持ち込もうとするが、モリカビチュスの嵐のような打撃の餌食となり、初の失神KO負けを喫した。

ZST.4 2003.09.07
○vs中原太陽
［1R 4:56　腕ひしぎ十字固め］
"和術慧舟會の超新星" との注目の一戦。下馬評では「太陽有利」との声が大半を占めたが、所は動き続けるグラウンドで堂々リードし、腕十字で捕獲！　場内は大爆発となった。

―それでZSTファンが一番心配してるのは、「所の野郎が試合後に、電話番号とか聞いたりしてるんじゃないか」っていうことなんですよ。

ゆう そういうのはないですね。

所 全くないです。これを機に聞こうかなとは密かに思ってるんですけど（笑）。

―所選手に限らず、選手からそういうのはないですか？

ゆう 他の女の子も多分ないと思います。

―選手じゃなくて、ジャッジからあったりとかは？（笑）。

所 ぷぷぷぷぷぷ（笑）。

ゆう 私だけないのかもしれないですけど、他の子は分からないです。影でコソコソやってるかも（笑）。

―心配だなぁ（笑）。ZSTガールの間で評判のいい選手、悪い選手とかってありますか？

ゆう 所選手が一番人気ですよ。お世辞じゃなくて。

所 政治的なものを感じるなあ。

ゆう でもホントですよ。いろんなところからインタビューされた時も、私が「所選手」って言ったら、他のみんなも所選手って言ってました。あと小谷選手もいたんですけど、所選手が一番人気が高かったですね。

所 それをプライベートで発揮したいですねえ（笑）。

―逆に選手から見たZSTガールってどうなんですか？

所 僕が周りからいつも言われるのは、「ZSTガールの電話番号、知ってるんじゃないの？　コノヤロウ」って。「いいなあ」ってよく言われます。

―選手間の一番人気は誰なんですか？

所 もちろん尾藤さんが。

ゆう これは政治の力ですよねえ（笑）。

所 途中参加なんで、余計インパクトがあるんじゃないですか？　それと「小さい人がいい」っていう話をよく聞きますね。

ゆう ありがとうございます。持ち上げられちゃた（笑）。

―そういえば、お二人は同じ岐阜県出身なんですよね？

ゆう そうなんですよぉ。プロフィール見て、岐阜出身だと知って凄くうれしかったです。

所 岐阜のどこ出身なんですか？

ゆう 山奥ですよ。郡上（ぐじょう）なんです。

所 あ、郡上なんですか。ボク、郡上北高校と野球の試合したことあるんですよ。

ゆう えっ！　わたし郡上北高校ですよ！

所 ウソでしょ？

HIDEO TOKORO

ゆう ホントですよ。ビックリしたぁ（笑）。

所 ボク、高二のときに野球やって、郡上北にコールド負けしましたよ。

ゆう でも、ウチの野球部、弱くないですか？

所 僕らは更に弱かったんですよ（笑）。

ゆう 揖斐（いび）って知ってます？

所 はい。揖斐出身なんですか？

ゆう 根っからの揖斐です。

―すっかり地元トークですね（笑）。でも、尾藤さんの実家はそんな山奥なんですか？

ゆう ホント山奥ですよ。猿とかでてきましたから。

―野猿ですか！　なんか地元にいたところは、よく鹿の肉とか食べてたって聞いたんですけど。

ゆう 鹿肉じゃなくて猪です。しし肉とか天

「ZSTガールの電話番号知ってんだろ、この野郎！」ってよく言われます（笑）

ZST.5　2004.05.05
○vsレミギウス・モリカビチュス
[1R 3:30　三角絞め]
イリホリがZST離脱を表明して一発目の大会。所にかかる負担は大きかったが、ライバル・モリカの打撃をかいくぐり、三角で激勝！　新エースへ名乗りを上げた。

GT-F 決勝戦　2004.03.07
○vs若林次郎
[2R 2:39　裸絞め]
ZSTが初めて開催した組技限定トーナメント。ここで所はノーマークながら、大石、松本とのリマッチを制し、最後は若林に一本勝ち！　強豪揃いの大会で見事優勝を飾った。

ZST GP 2回戦　2004.01.11
×vsTAISHO
[1R 0:53　KO]
好勝負の末の一本勝ち連発で勢いが止まらないと思われた所だが、GP2回戦で柔術家TAISHOとなぜか殴り合い、わずか53秒でKO負け。この脆さも所らしさか？

ZST GP 1回戦　2003.11.23
○vs大石"JACKAL"真丈
[1R 3:13　腕ひしぎ十字固め]
"ライト級KOKトーナメント"として開催された『ZST・GP』で所は一回戦からいきなり、元修斗王者と対戦。これまた圧倒的不利の下馬評を覆し、まさかの一本勝ち！

然の鮎とか獲れるんですよ。あと蜂の子ご飯とか食べます。

――蜂の子！　所選手もそうなんですか？

所　天然の鮎はありますけど、猪とかは食ったことないですね。やっぱ郡上は結構特別かもしれないですね（笑）。

ゆう　岐阜なのに雪が降るところですから（笑）。

所　岐阜の市街には遊びに行ったりしたんですか？　柳ヶ瀬とか。

ゆう　行きました。柳ヶ瀬ブルース（笑）。

所　美川憲一（笑）。

ゆう　でも高校生になってからは、岐阜に買い物に行くより、名古屋に行くことが多かったです。岐阜の街まで出るのにも、凄い時間が掛かるんですよ。今は高速があるんですけど、当時は車で1時間ぐらい。

所　電車だと何線ですか？

ゆう　電車で行ったことがないんです。乗り換えとかあるし、凄く時間がかかると思うんですよ。だから長距離バスで行ってました。

――街までいくのに長距離バスで行ってましたか（笑）。

ゆう　あとヒッチハイクで行きました。

所　ヒ、ヒッチハイク⁉

ゆう　高校生の時、ヒッチハイクがブームになって、3回ぐらいしましたね。岐阜と名古屋まで連れていってもらいました。

――所さん、ボクらとは年代が違いますけど、そんなブームなかったですよね？

所　郡上だけじゃないですか？

ゆう　ひどーい（笑）。

昔よくヒッチハイクしてたんですよ（ゆう）
僕が乗せたら絶対遠回りしますね（所）

――でも、こんな子にヒッチハイクされたら、絶対遠回りですよね。なるべく目的地に着かないように（笑）。

所　うれしくて、いろんなところ寄りますね（笑）。危ない思いとかなかったですか？

ゆう　一回もなかったです。みんないい人で。「俺、明日給料日だから」って1万円もらって、昼ご飯をおごってもらいました。

――1万円もらった⁉

所　それって、ちょっと危ないんじゃ……（笑）。

ゆう　友達と二人で1万円。コンビニのお弁当買って、お釣りは返しました。あと、全然方向が違うのに、遠回りして送ってくれたり。

所　その気持ちよくわかります（笑）。

ゆう　高校生の時は行動派で、月に1回は東京に来てたんですよ。

所　それもヒッチハイク？

J-SPORTSのラグビー情報番組『ラグビープラネット』のオープニングで、牛若丸に扮して、弁慶役の健介と共演したゆうちゃん。毎週木曜22時～、J-SPORTS3で放映中!!

ゆう　違いますよ（笑）。新幹線で来ました。

――どうしてそんなに東京に来たんですか？

ゆう　友達がこっちにいたのと、あとヘアモデルとかやってて。お買い物したり、遊びに来たりもしてました。

――この世界に入ったのは、レースクィーンからですか？

ゆう　いえ、名古屋でバラエティとCMやってから、東京に来てバラエティとか出てます。レースクィーンは去年、半年だけやりました。それも途中参加なんですよ。

――またおいしいところをさらったんですね（笑）。

ゆう　そのチームでレースクィーンを募集するっていうことになって、急にやることになりました。

――では名古屋の地元アイドルから東京進出して、これから全国区を目指すわけですね。

ゆう　まだまだですよ。これからもっと頑張らなくては。

所　名古屋のバラエティ番組って何ですか？

ゆう　キャイ～ンさんの番組とか。それは高3の終わりぐらいだったんで、何ヶ月かですぐ東京に来たんですよ。

所　凄いですねえ。

ゆう　凄くないです。もっと凄い子たちっていっぱいいますよ。所選手みたいにカッコイイとこ見せないと。

所　上手いですねえ（笑）。

ゆう　上手くないですよぉ。

――尾藤さんは、最初こそ所選手が惨敗した試合でしたけど、そのあと3月のグラップリング・トーナメント『GT-F』では、カッコイイとこ見てますよね？

ゆう　はい、見ました。優勝したとこ。凄

許せない！　寝技師・所英男が恥ずかしいゲームを強要！

インタビュー終了後、所がおもむろに取り出したのは、深夜番組で新人アイドルが水着で行う大定番ゲーム『ツイスター』。わざわざこんなものを用意してくるとは……。所英男の本性が現れた顔を見よ！

所英男の下心丸見えの提案にも、嫌な顔ひとつせず応じてくれたゆうちゃん。所は「ZSTガールの衣装でやってほしかった」と言ったとか言わなかったとか。

ゲームの妙か、神のいたずらか。時間がたつにつれ、ゆうちゃんがこんな大胆ポーズに！　所英男、てめぇ……でかした！

なるべく近づこうという所の思惑とは裏腹に、組んずほぐれつという状況にはならず。「尾藤さん、今度は僕の自宅でやりませんか?」。皆さん、所はこんな男です!

HIDEO TOKORO×YU BITO

くカッコよかったですよ。ああいう男の人の姿って、女の人には堪らないっていうか、ドキドキしますね。

――ちなみにカッコイイとこ見せたはずの『ZST・GP』優勝者のマーカス・アウレリロって、何でZSTガールに嫌われてるんですか？

ゆう　何ですかそれ？　何も聞いてないですよ。

所　梨本（千景）さんが嫌ってるんですよね（笑）。

ゆう　ホントですかぁ⁉

――パンフレットのZSTガールのプロフィールに、好きな選手と嫌いな選手っていう項目がありましたよね？　他の人は「いません」って答えてるのに、梨本さんだけ「マーカス・アウレリロ」って普通に答えてて、それがマーカス入場前の煽りビデオに使われてたんですよ（笑）。

ゆう　スゴーい！　そうなんだぁ。

関係者　フォローすると、梨本さんはわからないから、とりあえず書いただけで、「マーカスと一緒に写真撮ったときに、結構いい人だったから撤回する」って言ってましたけどね（笑）。

所　でも、パンフにそういうアンケートがあるのってZSTぐらいですよね。

ゆう　そういうの面白くっていいですよね。ちょっとでもファンの人との距離が縮まればいいなって思います。

――そういうZSTの痒いところに手が届く部分が好評なんですよね。ホームページなんか、ZSTガールのことがヘタしたら選手の紹介よりも詳しいですもんね（笑）。

ゆう　凄くうれしいです。私も見たら写真が大きくてビックリしました。

――では、次回のZSTは7月4日に開催されますけど、ここには尾藤さんもラウンドガールとして来るんですか？

ゆう　前回は体調が悪くてお休みしちゃったんですけど、次回は必ず応援に行きます！

――じゃあ、所選手もカッコイイとこ見せなきゃいけませんね。

所　いやぁ、次はリングスルールなんで、レガースつけてパンツは（コマネチポーズしながら）こんなのを履くかもしれないんで。

ゆう　エー⁉　ハイレグなんですか？

――ガハハハ、ハイレグ（笑）。

所　夏に向けて（笑）。

ゆう　露出大なんですね（笑）。

――所選手的にも次の見所はやっぱり初のショートタイツですか？（笑）。

所　違いますよ（笑）。歴史あるリングスのルールでやらせてもらうんで、自分がどこまでできるかっていう部分ですね。

――しかも前田日明総帥のレガースなんですよね？

所　お借りしたみたいで……凄いプレッシャーです。まぁ、前田さんのそのままだと大きすぎるんで、それを元に作ってもらうんですけど。

でも僕は15分1本勝負なので ZSTガールの出番が……

7月4日は頑張ってZSTを アピールしま～す!

HIDEO TOKORO

1977年8月22日、岐阜県出身 身長170cm、65kg。ZSTフェザー級グラップリング・トーナメント『GT-F』優勝、モリカビチュス撃破とただいま絶好調。

YU BITO

1982年11月22日、岐阜県出身。サイズ：T.157cm B.81cm W.58cm H.83cm S.23.5cm。血液型：A型／特技：書道（八段・ペン習字師範）・水墨画／趣味：映画鑑賞

――やっぱり所選手には、前田日明レガースをつけて、ZSTを広くアピールしてもらわないと。

所　いやぁ、それはZSTガールに任せます（笑）。

ゆう　はい。ZSTを頑張ってアピールしま～す（笑）。

――でも、次はリングスルールということは、ラウンド制じゃないんですよね？

所　15分1本勝負です。

――じゃあ、所選手の試合だけラウンドガールの出番はなし、と（笑）。

ゆう　でも、勝てば、勝利者賞を渡しに行きますから。

所　勝たないとダメですね（笑）。

ゆう　勝って下さい。大丈夫。岐阜だから勝ってくれますよ！

所　でも、郡上北にはコールド負けしてるからなぁ……。そういう因縁が。

――どんな因縁ですか（笑）。では、その因縁を氷解させるためにも、リング上で尾藤さんから、勝利者賞を手渡してもらって下さい！

【04年6月4日／『ゴールドジム・サウス東京』にて収録】

所英男、前田日明レガースを履いてリングスルールに挑戦!

通常のZSTルールではなく、いろんなルールの試合を組むZST主催7・4『BATTLE HAZARD 01』で、所はかねてからの念願通り、リングスルールで闘うことが決定した。しかも、あの前田日明がカレリン戦で使用したレガースを借りることが正式決定! 対戦相手は未定だが、所によってリングスルールと「R」の文字が入ったレガースが甦ることとなった。また、ZSTのエース小谷直之は、"小さなミルコ"レミギウス・モリカビチュスとバーリ・トゥードで対戦。その他にもアマチュアのジェネシスバウトに、かつて成瀬昌由を2度破った本間聡が参戦決定。リングスUK代表リー・ハスデルの引退式を行う可能性もあり、リングスファンには見逃せない大会になりそうだ。

「U系はスーツだから」と、所は上原広報にスーツを借りて会見に出席。「僕の理想はハンvsフライ。クロスヒールホールドで極めたい」と語った。

『BATTLE HAZARD 01』7/4（日）Zepp Tokyo　試合開始 17:00
VIP席（最前列/1ドリンク付）…15,000円　SRS席…8,000円　S席…6,000円　A席…4,000円
問:ZST事務局 03-5321-9595

〈尾藤ゆう近況〉

●CS TBS
「エンタチャンネル」
レギュラー出演

●'03～'04
「ZSTガール」

●CS J-SPORTS
「RUGBY PLANET」
オープニングに登場

［ファンレター宛先］
〒108-0071
東京都港区白金台5-4-7-502
ルノンプロモーションまで

I編集長の6·6 K-1 WORLD GP in 名古屋
スペシャル速報レポート

6·6 異種格闘技戦 その猪木的考察

井上義啓

撮影／乾晋也
designed by matsu（Two Three）

「イノーキ（A・猪木）には負けない。TV局（九州朝日テレビ＝当時）で、フィラデルフィアの試合を繰り返し見て、間違った点がいくつか分かった」

まるで他人事のように自嘲めいた笑いを唇の端に浮かべたモンスターマン。「チャボ・ゲレロからプロレスの技を教わったと聞いたが……」と水を向けたときも、鼻の先で侮ったように笑っただけだった。

昭和53年6月5日。東京・新宿、プラザホテルでのレセプションを兼ねた調印式。武蔵とレイ・マーサーの試合を見ながら、なぜか、あの時のモンスターマンが思い出された。

〈殺し屋を思わせる黒シャツに黒ズボン姿だった。そうそう。ベストから、金の鎖がチラッとのぞいていた……〉

「なぜ、そのような脈略のないシーンを思い出したのですか」と、おっしゃる。

いえいえ、脈略があったからこそ、〝大阪の馬鹿〟の〝黄色い脳細胞〟に、モンスターマンと同じ肌の色をしたアーサーとがダブルブッキングしたのですよ。Y・I流のICタグを、そんなに馬鹿にしてはいけません。

〈あの男に〝殺し〟は期待できない。殺気が武蔵のローで、いっぺんに消されてしまった。あの日のモンスターマンと同じだ。殺気が、体内から噴き出してきそうな〝殺し〟の気迫がまるで感じられない……〉

「異種格闘技戦はボクサーに不利である」

そう週刊ファイト紙上で論戦を繰り広げた私は大笑いされた。

「ボクサーのパンチが一発当たったら、それでおしまいじゃないか」

グローブを着けての打ち合いなら、その言い分が正しいだろう。だが、「異種格闘技戦には寝技と蹴りがありますから……」。猪木がそう言ったから、ボクサー不利論を展開したのではなかった。〝大阪の馬鹿〟の見方は、猪木vsモハメド・アリ戦以後に行われたチャック・ウェップナー戦（昭和52年10月25日）、カール・ミルデンバーガー戦（昭和53年11月9日）、レオン・スピンクス戦（昭和61年10月9日）などで実証された。

〈歴史は繰り返すとは、よく言ったものだ〉

この日、大阪も梅雨入りした。ジトジト降り続く雨が小休止という形でやんだ。

下駄の音が響かないように、私は考えをまとめるべく真夜中の散策へ出た。原稿の締め切りまで8時間しかない。他に原稿を2本抱えているのだ。出たとこ勝負だった。

〈いずれにせよ、テーマは『ボクサーにとって異種格闘技戦は地獄』ということだ。あの現役バリバリといったアーサー・ウィリアムスにしてもイグナショフのローでビシャッと沈められてしまった〉

5・22『ROMANEX』で、イグナショフは醜態をさらした。試合当日に来日するという〝大名来日〟。これでは中邑のギロチンチョークにタップという予想外のシーンも不思議ではない。完全な〝時差ボケ敗北〟であった。

しかし、〝大阪の馬鹿〟は「だからといって、イグナショフが横綱間違いなしであるとの期待は少しも曇ってはいない」とトークした。

〈今夜のイグナショフは、誰にだって読める展開だが、予想していた以上の〝殺し〟だった。『将来、K—1のエースにのし上がるイグナショフだからこそ無性に腹が立つんだ』との『ROMANEX』終了後の〝しゃべり〟は正解だ。今日の試合で（イグナショフが）無様にKOされたら立つ瀬がなかったはずだ〉

いつか、下駄の音が大きくなっていた。結論は一つであった。

〈ボクサーとK—1ファイターだの新日レスラーだの異種格闘技戦が格闘技の主流になることはないということだ。今夜の試合、あまりにもプロボクサーの弱点が露呈され過ぎている！〉

息を詰めて相手の隙をうかがう。

○アレクセイ・イグナショフvsキング・アーサー・ウィリアムス×
[1R1:48 KO]

元IBFクルーザー級王者のキング・アーサー・ウィリアムス、は今回出場したボクサーの中でも現役バリバリだったが、イグナショフのローに全く対処できず。ローで蹴られまくり、バランスを崩して転倒。最後は左ハイと右ローをモロに食らってダウン。「ロー対策は全くしていなかった」というキング・アーサーに対して、イグナショフは「ボクサーはボクシングだけをやるべき」。

○レミー・ボンヤスキーvsフランソワ“ザ・ホワイトバッファロー”ボタ×
[3R 判定3-0]

元IBFヘビー級世界王者でアグレッシブな試合で沸かせながら、K-1では未だ白星に恵まれないボタ。この試合でも1Rにボンヤのヒザがヒットしダウンを喫したボタだが、2Rからは積極的にパンチを打ち、K-1参戦以来、初めてのローキックまで繰り出した。しかし、ボンヤも左右のローキックでボタの動きを止めて左ハイ&左ミドルを叩き込む。他のボクサーとは違って意地を見せたが、ボタ自身も納得の判定負け。

○武蔵vsレイ“マーシレス”マーサー×

[3R 判定3-0]

ボクシング側の大将は、昨年の『猪木祭り』をドタキャンした元WBO世界ヘビー級王者、“絶倫王”マーサー。1R、武蔵の左ハイキックがマーサーの顔面にヒット!! これでダウンを奪うが武蔵は左足の甲を痛める。2Rはマーサーも積極的にパンチで前に出て圧力をかけるが、武蔵も左ローを打ち続け、一進一退の攻防に。3R、ローのダメージが大きいマーサーに武蔵がラッシュ。判定で勝利した。

結論は一つ。ボクサーとK-1ファイターだのの異種格闘技戦が格闘技の主流になることはないということだ。

それがケモノと化したボクサーの〝殺し〟。その〝息を詰める〟やり方が取れない。相手が蹴ってくるからだ。息を詰めようとするとたんに蹴りが飛んでくる。これでは、その度に息の詰め方を再構築しなければならない。

〈だからマーサーも手が出なかった。武蔵が相手だから、息の詰め方が出来ると見ていたが駄目だった。マーサーもウィリアムスも、キックの距離感と時間的空間が掴めないでいた。少なくとも4試合か5試合、キックの洗礼を浴びないことには、対等の闘いに自分を持って行けない……〉

それを実証しかけたのが、この夜のボタだったと言える。「ボンヤ（どういうわけかプロ格者はボンヤスキーをこう呼ぶ）の楽勝ですやろ」。Bさんは事もなげに言った。「そう思うね。あのボタの間の取り方のまずさとパンチの弱さね。しかもローに対するディフェンスがまるでなっていない」

それがどうだ。無論、大化けも進化もしてはいなかったが、ボンヤスキーの蹴りに対するディフェンスは80%といった感じで構築されていた。ローも出して見せたし、一歩、間を詰めてのパンチにも、わかってきたなとのうなづきがあった。

〈やはり場数が必要だ。しかし、それらしくなった時は、もうランクからはずれている。ボタにしても、もうメーンカード登場はない。あれがイグナショフだったら、ウィリアムスと同じ完敗のウキメに遭っていただろう……〉

◇

平成17年△月△日。

米ネバダ州ラスベガスの△△ホールは超満員の観客で埋め尽くされた。セミファイナルはK—1に舞い戻ったミルコ・クロコップが、マーサーら並いるヘビー級ボクサーをハイキック一発で蹴殺して、青い目のファンの目の前に突っ立っていた。対戦相手はなんとミルコの盟友、ウラディミール・クリチコ。無論、ノンタイトルマッチではあったが、れっきとしたプロボクシング・ヘビー級まがいの試合であった。

メーンイベントに登場してきたのはマイク・タイソンである。タイソンがエスコートしていたのは、あのモハメド・アリであった。タイソンの対戦相手であるレノックス・ルイスもタイソンと左右から挟むようにしてアリの体を支えていた。

リング上にビンス・マクマホン代表がマイク片手に上がった。

「一昨年4月。私はラスベガスから送られてきたビデオで、アリ氏とマイクのツーショット・シーンを見ました。この瞬間、これが私のライフワークの一つだと直感したのです」

リングサイドには猪木が、石井館長が、谷川氏がいた。

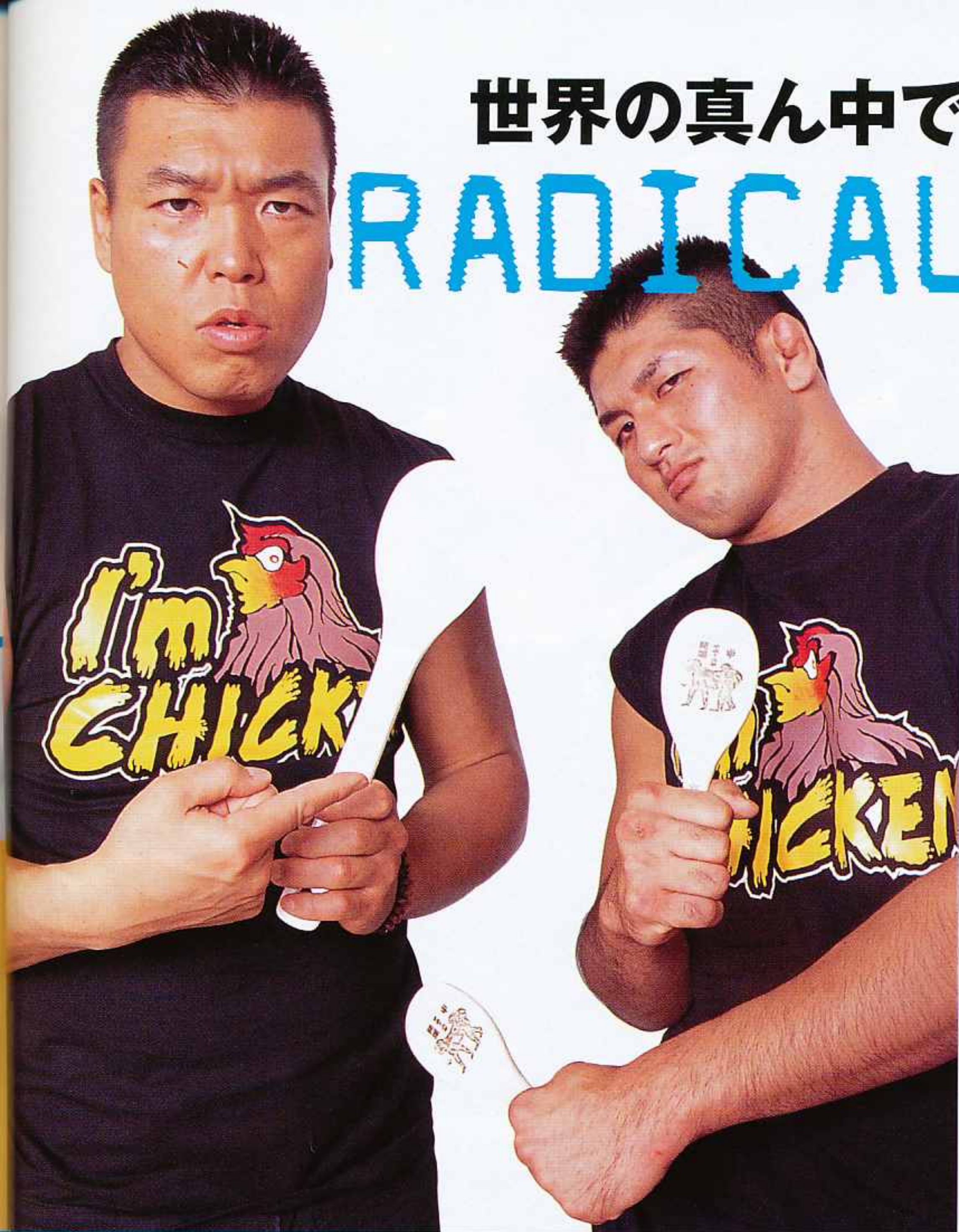
「日本で生まれた格闘技が、こうしてプロスポーツの大樹へと成長しました……」

マクマホン代表に〝いいかっこう〟をさせた猪木ら3人の顔には、ビッグプロジェクトを成し遂げた男の満足感と自負があった。〈了〉

世界の真ん中でハッスル、ハッスル!!

RADICAL PRESENT

サイン入り!! 開運! ハッスルしゃもじ

1名様 / 3名様

★小川サイン入りしゃもじ(大)
★軍鶏侍サイン入りしゃもじ(小)

6・20『PRIDE・GP』でジャイアント・シルバと激突する小川直也のサイン入りしゃもじを1名様、『PRIDE武士道』で一本勝ちした藤井軍鶏侍のサイン入りしゃもじを3名様に。UFO師弟コンビののハッスルパワーが詰まった逸品だ! でもこのプレゼントが届く頃には改名して藤井もみじになってるかもしれません。【小川&軍鶏侍提供】

DSE

ミルコ・ニューグッズが続々登場! 再起戦では更なる強さを身に付けたミルコが見れるはず。7月19日『武士道ー其の四ー』が名古屋に上陸。武士道Tシャツを着て会場にゴー!! 【DSE提供】
[TEL] 03-5464-1531 [URL] http://www.so-net.ne.jp/pride/

各1名様

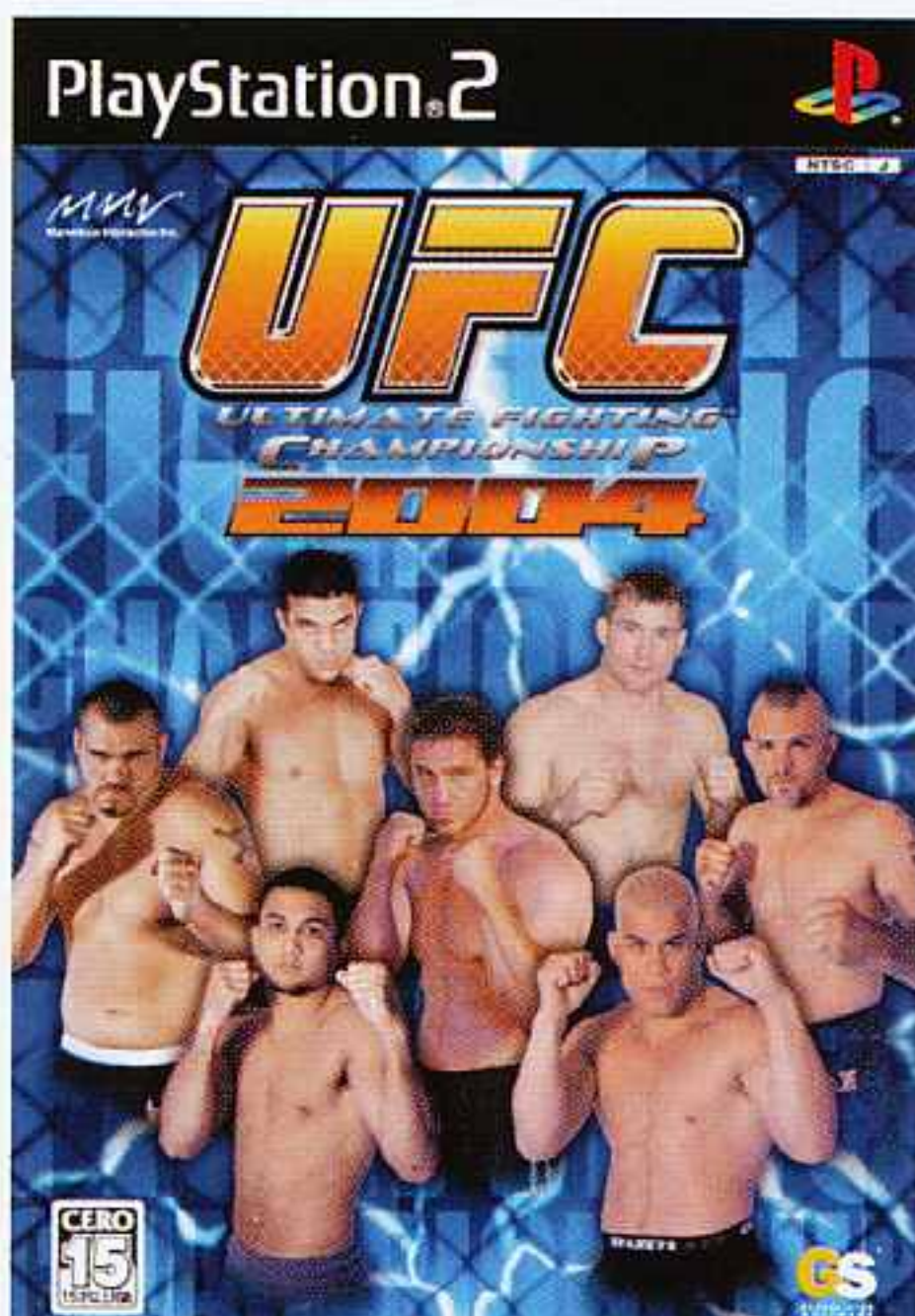
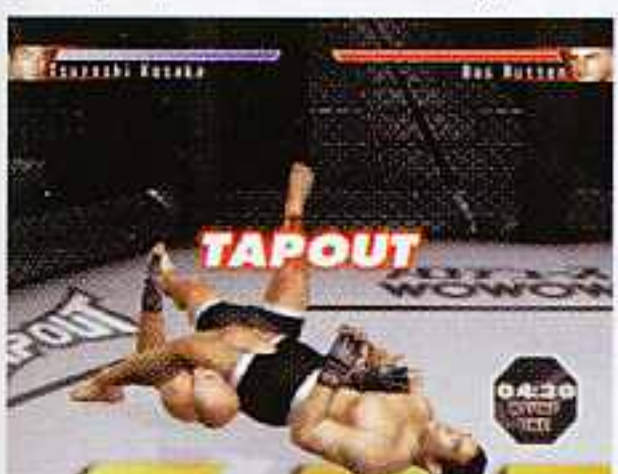
★武士道Tシャツ
¥4200/WHITEorBLACK
SIZE S / SIZE M / SIZE L / SIZE XL

★team CROCOPTシャツ
¥4200/WHITEorBLACK
SIZE S / SIZE M / SIZE L / SIZE XL

★team CROCOP スポーツタオル
¥3150

GAME

3名様

★UFC2004 ¥7140
ティト、リデル、ビクトー、ティム・シルビアら現在のトップ選手を始め、スバーン、ケンシャム、モーリスら古豪も登場。もちろんTKや宇野薫も参戦だ! そして最強レフェリー・ビッグジョンの猛タックルも完全再現!【マーベラスインタラクティブ提供】
[URL] http://www.mmv-i.co.jp/

DVD

1名様

★『DEMOLITION & CONTENDERS 2003』
(238分) ¥5880
CONTENDERSからは、宇野&五味を筆頭に強力な顔触れが揃ったタッグトーナメントと、宇野&雷暗vs三島&植松、小室vs戸井田、イリホリvs門脇&太陽など好カードを。そしてDEMOLITION-1〜12からは芹澤vs小谷、伊藤vs門馬、中村vs中台、岡見vs長谷川、井上vs港など厳選された全35試合を収録!
【クエスト提供】

1名様

★『U-STYLE 2nd』(234分) ¥5880
衝撃の結末を迎えた初対決・田村潔司vs冨宅飛駈や、聖地・後楽園ホールを大熱狂の渦に巻き込んだ田村と高阪剛の5年ぶりの激突など名勝負の数々を収録。他にも田村潔司挑戦者決定トーナメント全試合、田村vs藤井、上山vs三島、坂田vs佐々木などUWFファン必見の試合が目白押し! 【クエスト提供】
[TEL] 03-3360-3810
[URL] www.queststation.com

3名様

★『PRIDE武士道ー其の弐ー』
(120分) ¥5040
PRIDE武士道シリーズ第2弾登場! ヴァンダレイ・シウバ率いるシュートボクセ軍団と、美濃輪、五味、郷野の日本人チームの全面対抗戦は必見だ! 他にもミルコvs山本宜久、桜井マッハ速人vsホドリゴ・グレイシーなど注目カード満載!! 【メディアファクトリー提供】
[TEL] 03-5469-4880
《10:00〜18:00/土日、祝日は除く》
[URL] http://www.mediafactory.co.jp/

CHARAPRO

6 名様

★ジェロム・レ・バンナ
¥2000（+税）
“ハイパー・バトルサイボーグ”ジェロム・レ・バンナがフィギュアになって登場! K-1 No.1のハードパンチャーの復活はいつだ!? トランクスのデザインが2タイプありますが、どちらが届くかはお楽しみということで。
【キャラクタープロダクト提供】
［TEL］0424-39-7105 ［URL］http://www.shotguntoy.com/charapro.htm

MEDICOM TOY

3 名様

★Vinyl Collectible Dolls いかレスラー
¥2100 2004年7月発売予定
©2004「いかレスラー」製作委員会
10本足の凄いヤツが読プレコーナーに登場! 西村修出演の海洋スペクタクルロマン『いかレスラー』が完全フィギュア化。全高約180mm、両手がグルグル可動します。西村フィギュアを自腹で購入して並べて飾ろう! いかだ、いかになるんだ!【メディコムトイ提供】
（※『いかレスラー』が遂にロードショー。詳しくは情報ページで!!）
［URL］http://www.medicomtoy.co.jp/

BACK DROP

BACK

SIZE M ・ SIZE L ・ SIZE XL

1 名様

★WWE『WrestleMania20』ベースボールジャージ ¥12390
秋葉原のプロレスショップ・バックドロップがWWEベースボールシャツをプレゼント! WWEグッズはもちろん、WCW、ECW、NWA-TNAグッズも充実だ! 先月はテッド・デビアスとアニマル・ウォリアーがサイン会を開催。次は誰だ!? Who's Next!? 【バックドロップ提供】
［住所］東京都千代田区外神田1-11-9第2中栄ビル4F
（月～日・祝日:11:00～20:00） ［TEL］03-3255-8701
［URL］http://www.b-drop.com/

SHINJUKU FIGHTER

1 名様

★エセ骨法Tシャツ 金の堀辺虫限定バージョン
新宿ファイターが、またまた仰天商品を読者にプレゼント。ワンポイントの“金の堀辺虫”が素敵なエセ骨法Tシャツ・限定バージョンだ。イラストはもちろんヤノタク画伯。
【格闘技ショップ 新宿ファイター提供】
［TEL］03-3354-1903
［URL］http://www13.ocn.ne.jp/~fighter/

BAMBAM BIGELOW

ダイビング・ボディアタックを狙うトップロープの勇姿がカッコよすぎるマスカラスTシャツと、背中のワンポイントがいかしてる花くま先生スケバンTシャツをプレゼント。プレゼントはすべてL
【BAMBAM BIGELOW提供】
［TEL］03-3460-1145
［URL］http://www.bambam88.com

各 1 名様

BACK

★花くまゆうさく・スケバンTシャツ
（WHITE）¥4095

★マスカラスTシャツ
（Yellow）¥4095

PAMPHLET

各 2 名様

★『PRIDE・GP開幕戦』&『PRIDE 武士道―其の参―』パンフセット

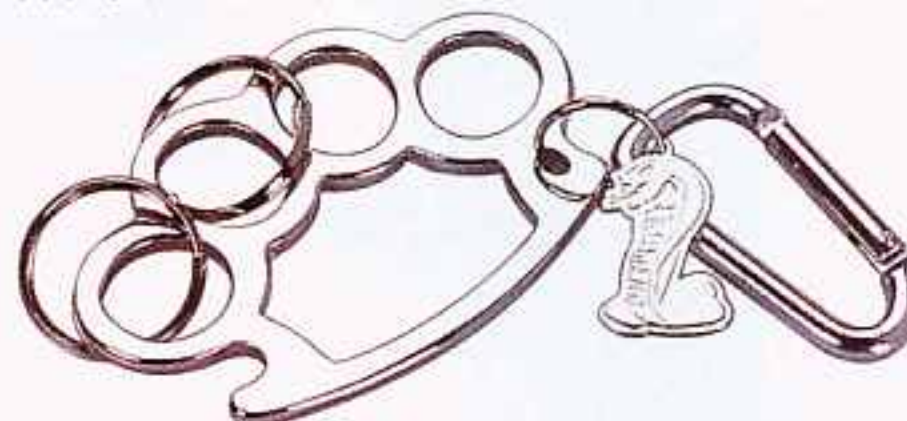
★『ハッスル』パンフセット

PRIDE史上最高の大会と呼び声の高い『PRIDE・GP開幕戦』と、日本人ファイター大挙出場の『武士道―其の参―』パンフをセットで。『ハッスル』パンフセットの『ハッスル3』はなんと高田総統責任編集。高田総統のお便りコーナー、高田総統の選手紹介、高田モンスター軍大百科など、モンスター軍フリークには堪らないナイスパンフだ! ビタ～～ン!!
【編集部提供】

HAOMING

各 1 名様

★Maskクッション ¥4725

★ナックルホルダー ¥5040

ナックルホルダーは凶器ではありません! キーホルダーをしてご使用下さい。クッションはトレーナー生地で肌触り抜群。なおハオミンではウェブサイト・リニューアル記念キャンペーン実施中。6月30日まで商品をお買い上げの方全員に、オリジナル缶バッチorライターをプレゼント! レッツ・アクセス!
【HAOMING提供】
［TEL］03-5489-5474 ［URL］http://www.haoming.jp

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦上半期MVP&ワーストMVP
⑧上半期ベストマッチ&ワーストマッチ

応募券

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「狂虎はサユリスト」係まで
※締切りは2004年7月6日（火）当日消印有効

BOOKS

2 名様

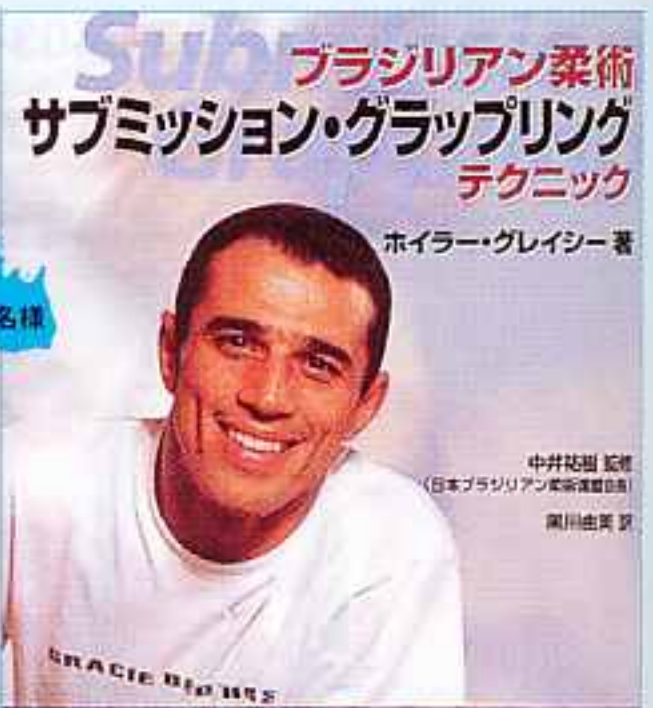
★『30歳を過ぎてから体を鍛える』
¥1575
高田、桜庭、菊田インタビューをはじめ、高田道場、GRABAKA、吉田道場、UWFスネークピット、U-FILE CAMPなど有名ジムのトレーニング状況をレポート。そして“鬼軍曹”山本小鉄が昭和新日流基礎トレーニング法を直伝!
【宝島社提供】

サイン入り!!

1 名様

★異人伝 中島らも
¥1300+税（KKベストセラーズ）
らもさんの最新刊をサイン入りでプレゼント。この男はどこから来て、どこへ行くのか。コデインの禁断症状と闘う著者が語るクスリ、女、家族、社会、そして己の未来。これは、野卑にして聖なるものを抱いたおっさんの手記である。
【中島らも提供】
［URL］http://www.age.ne.jp/x/ramo/

3 名様

★クマと闘ったヒト
¥1300+税（メディアファクトリー）
中島らも&ミスター・ヒトがプロレスの裏の裏を語りまくる衝撃本を、らもさんのサイン入りで。これを読めばプロレス幻想が爆発すること間違いなし! らもさんも絶賛する吉田豪担当の注釈も必読。らもさんインタビューはP97から。
【中島らも提供】

★ブラジリアン柔術 サブミッション・レスリングテクニック
柔術世界タイトルを4度獲得、アブダビコンバット3連覇など比類なき実績を誇るホイラー・グレイシーが、103にもおよぶテクニックを直伝! 読み漁ってサブミッション・レスリングのチャンピオンを目指せ!!
【新紀元社提供】

紙のプロレス RADICAL
No.75
2004年7月25日発行

No.76は
7月9日（金）発売!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（ヒクソン戦を断念して非番）

見習い
斉野政智

スーパーバイザー
吉田豪

助っ人
片山ボン
ジャイ子

電気部
ささきぃ
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）

デザイン
ヒサくん
マツくん
タニやん
ブンちゃん
ノグッチー
しらき（以上TwoThree）

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
福島勝儀
菊池茂夫

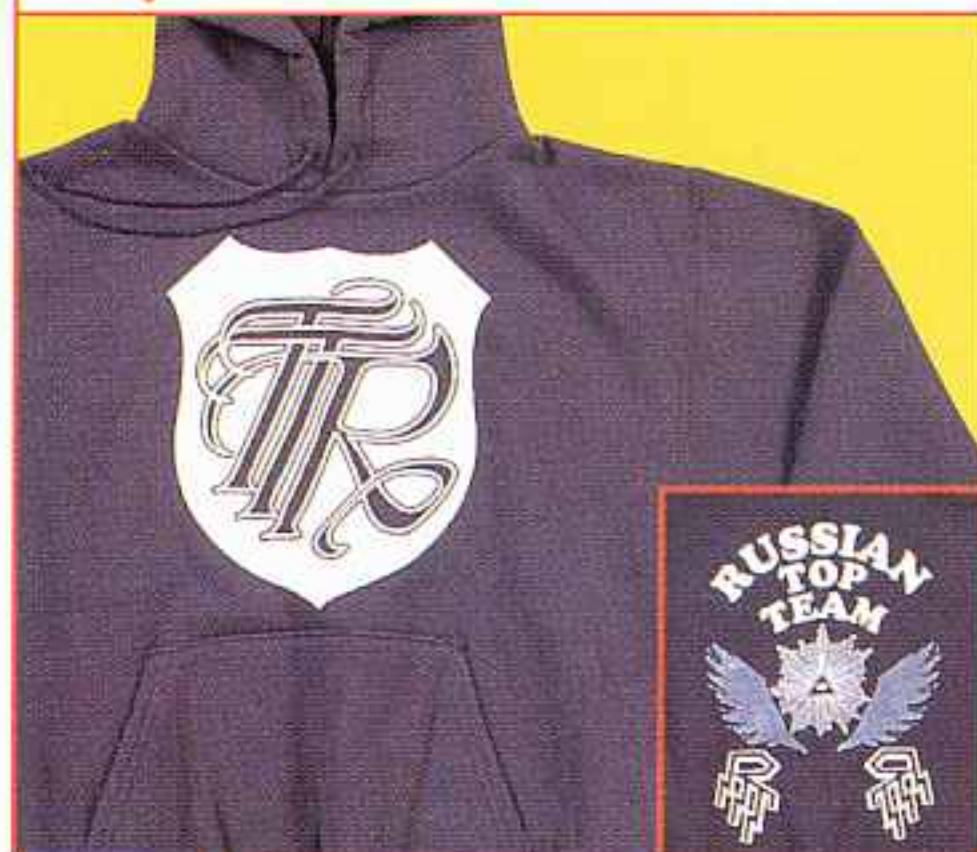
試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝

体調
プリン体・入江（TwoThree）

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

ロシア『RTT』パーカー〈チャコールグレー〉
¥6,000 M or L or XL

ロシア『RTT』Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 SOLD OUT or M or SOLD OUT or SOLD OUT
残りわずか!

ロシア『RTT』Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or SOLD OUT
残りわずか!

ロシア『RTT』Tシャツ〈グレー〉
¥3,800 S or M or L or XL
残りわずか!

エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or SOLD OUT
残りわずか!

エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or SOLD OUT or SOLD OUT or XL
残りわずか!

ロシアン・トップチームTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or SOLD OUT
残りわずか!

ロシアン・トップチームTシャツ〈レッド〉
¥3,800 SOLD OUT or SOLD OUT or L or XL
残りわずか!

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or XL
残りわずか!

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT
残りわずか!

赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL

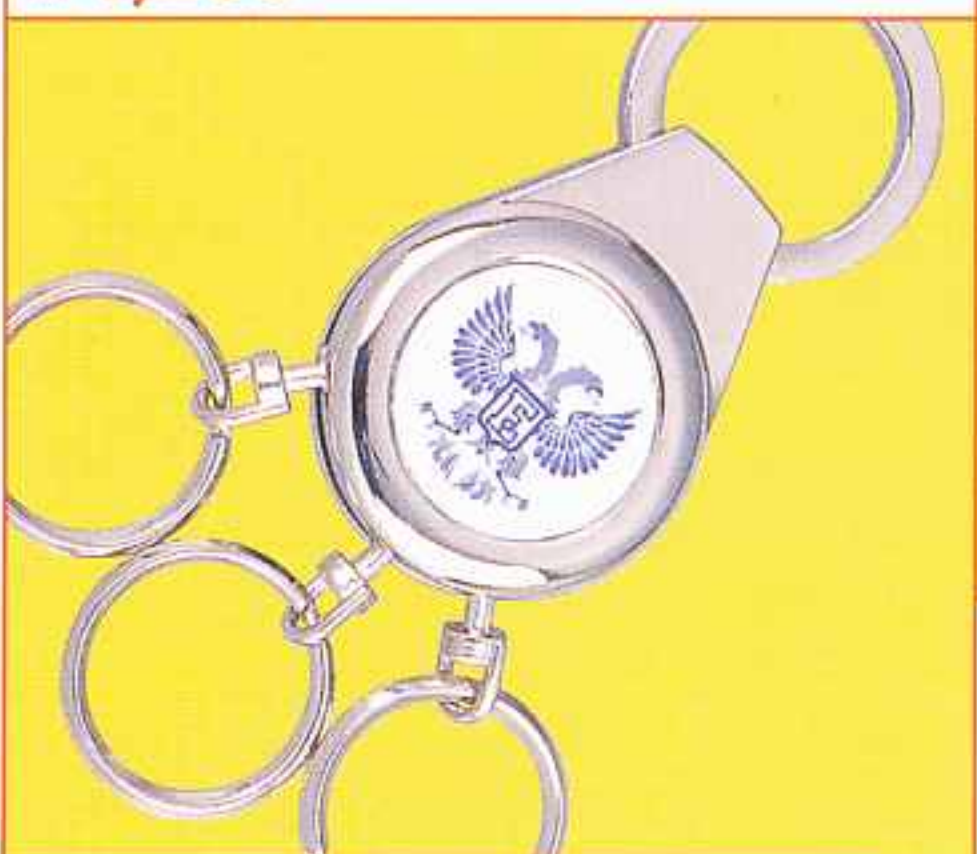
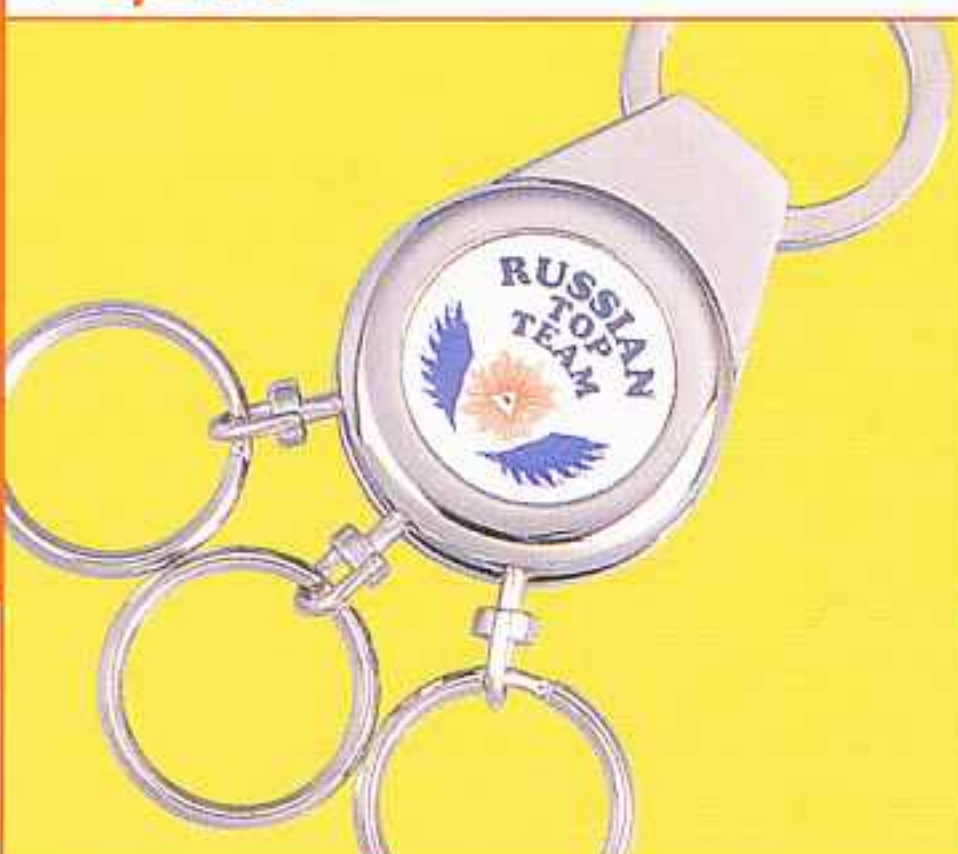
ヒョードルSARU Tシャツ
¥3,800 S or M or L or XL

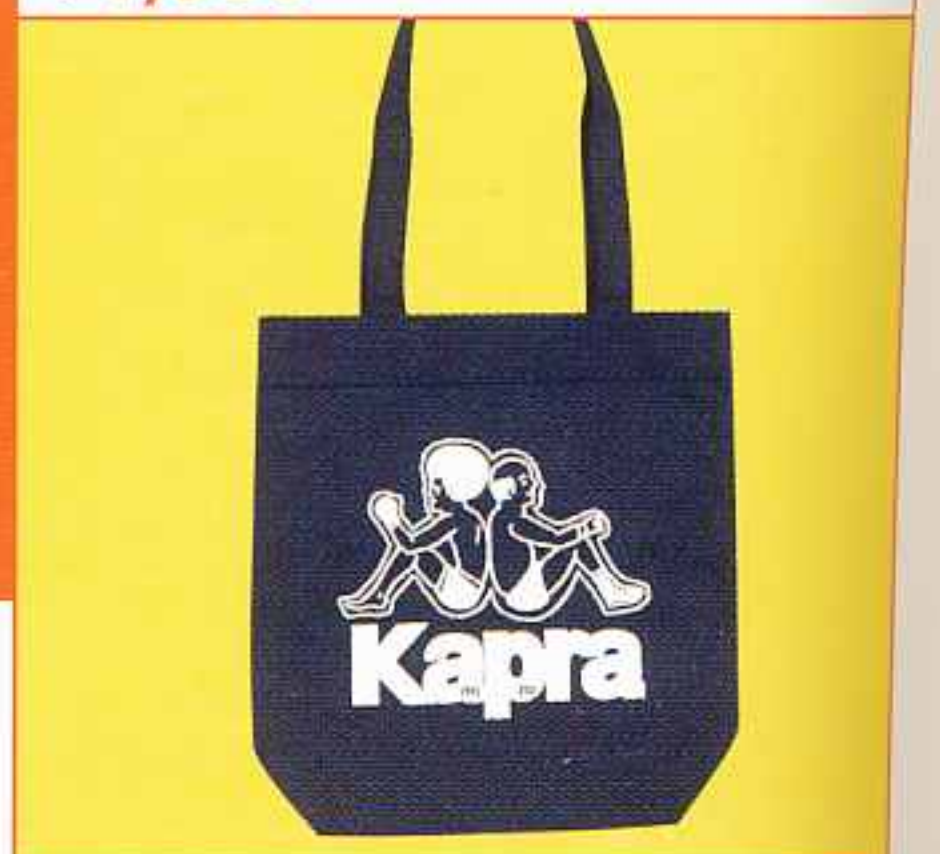
リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
¥~~4,500~~ ➡ SALE ¥2,500 S or M or SOLD OUT

ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥3,000 XS or S or M or L or XL

マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉
¥3,500 S or M or L or SOLD OUT

ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈ホワイト〉
¥~~3,800~~ ➡ SALE ¥2,000 SOLD OUT M or L or SOLD OUT

『ヒョードル』キーホルダー
¥1,200

『ロシアン・トップチーム』キーホルダー
¥1,200

ヒョードルマグカップ
¥1,200
残りわずか!

トートバック〈ネイビーorブラック〉
¥1,500

通販完売商品は直販店にある!?
【『紙プロ』ウェア常備ショップ】★チャンピオン(TEL.03-3221-6237) ★東京イサミ(TEL.03-3352-4083) ★リングソウルZ神戸(TEL.078-393-3514)
★宮城・スクワット(TEL.022-264-8160) ★大阪・少年ジェッター(TEL.06-6541-3551) ★福岡天神ビブレGROUND COBRA(TEL.092-711-1021)
★三恵格闘技SHOP長崎(TEL.095-824-8658) ★三恵格闘技SHOP諫早(TEL.0957-22-4646) ★浜松市・Buddy(TEL.053-450-7888)